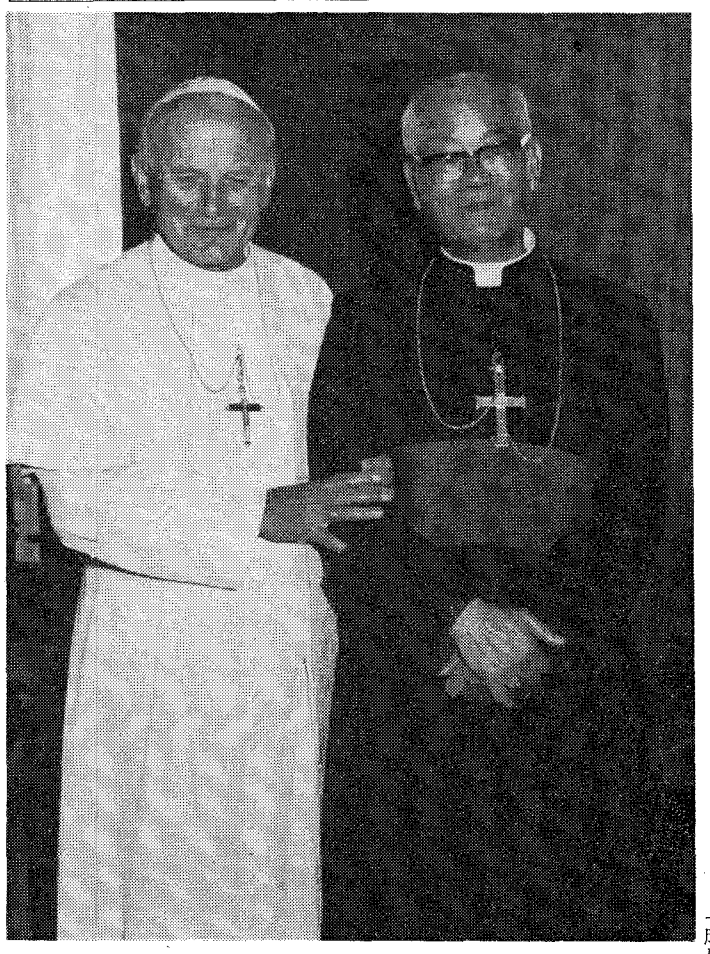
カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

年頭のあいさつ

感謝と希望

福岡教区長　平田三郎 司教



一九八六年の新春を迎え、幼子イエズス様と聖母マリア様の祝福が教区の司祭・修道者・信徒の上に豊かに注がれるよう祈ります。

福岡教区にとって、この新しい年は感謝と喜びと希望の年になると思います。

新司祭誕生に感謝

司祭召し出しの危機が叫ばれている今日、四名もの新しい司祭が今年の三月に誕生するということは、ここ三十年来なかったことで、神様の特別のお恵みです。神様は、ご自分の教会を愛し、必要な時に、必要な牧者を送って下さいます。み摂理に対してこぞって感謝したいと思います。牧者のいない教会は成り立たないとの確信から、召し出しのために祈り、将来の司祭の養成にご協力下さっている皆様にも深い感謝を捧げます。新司祭は教区民のこの喜びと感謝に応え、神の民のための奉献の生活に徹して下さるようお願いします。

新カテドラルと教区センターの誕生に感謝

今年は以上の喜びに加え、故深堀司教様のころから待たれていた新司教座聖堂と教区センターの誕生の年でもあります。三月末には工事はすべて終り、近代建築の姿を現わします。

十二使徒の後継者である司教の座のある教会、教区民の一致のシンボルであり、教区内の諸教会の母である教会は、装いを新たにして市の中心に姿を現わします。「司教座聖堂の建設は教区民の手で」の訴えに快く答えて協力してくださった教区民の一人ひとりに、また完成に導いて下さる神のみ手、および汗水を流して努力して下さった建築の諸関係者に心からの感謝をささげます。

昨年の八月、日本司教団が教皇様を訪問したついでに、ローマの福音宣教省長官トムコ枢機卿を訪れ、カテドラル・センターの建築状況を報告した際に言われたことを忘れることはできません。「福岡教区がおとなになったことを喜ぶ」と。子供の時は、自分では何もできず、両親や兄弟、隣人や社会の助けに頼って成長しますが、おとなになれば「自立」の道を切り開いて行きます。

日本の教会は今日にいたるまで、子供のように「人だのみ、人だより」で、司祭の養成にせよ、教会堂の建設にせよ、宣教活動にせよ、自分たちの力でやり抜こうとの気迫に欠けていたのではないかと思います。

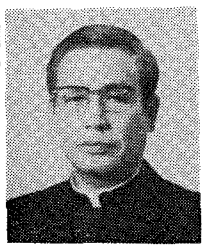
目に見える物への協力ではありますが、そこには、目に見えない信仰共同体と宣教共同体造りの意欲の芽があり、将来への大きな希望の種が宿っていると思います。

信仰共同体から宣教共同体に

昨年の六月に日本司教団が全信者に公布した「日本教会の基本方針と優先課題」は月日がたつにつれて信者に浸透し、来年に開かれる「福音宣教全国会議」に向けて準備が進んでいます。

四十年前の敗戦後の日本国民は、生きる目的を失い、キリストとその教会に救いを求める傾向を一時示しましたが、物質的に豊かになり、経済大国となって、政治的にも大きな発言力を持つようになった今日、経済に救いを求め、人間とその社会の根源的な救いには関心を払わないようになってきました。教皇様をはじめ世界の教会は、日本がアジアにおいて経済的、政治的指導力を発揮するばかりでなく、精神的、宗教的にもリーダーシップをとり、教会の光となるよう望んでいます。私たち日本の信者は夢からさめ、現代社会の動きに福音の光をあてて、これを浄化し高め、創造のみ旨に合ったような社会に変貌させ、人々を主の食卓に呼び集め、兄弟として一致のうたげにつらなるよう努力しなければならないのです。守る信仰から伝える信仰へ、受ける信仰から与える信仰へ、自分の救いから隣人の救いへ移っていかなければならないのです。そうするためには、キリストによる救いとは何であろうか、信仰によって救われるとはどういうことかを、よく理解し体験する必要がありましょう。キリスト教の中心である過越しの神秘は、十字架上の主の死と、死から永遠の生命への過越しであり、私たちは洗礼の秘跡によってこの神秘に与かることを信じ、喜びの源にしなければならないのです。宣教の力であるこの信仰と喜びが、教区民の中にみなぎるよう祈ります。

あなたとわたしの 福音宣教



福音宣教(べっ)見

山田　成章　神父

「福音宣教」これは、いまの日本の教会のコマーシャルであり、ビタミン剤であろう。各地の教会で、福音宣教の音量が高くなってきたのは結構だが、上すべりを警戒しなければなるまい。その上宣教関係書物も氾濫しているので、何を、どのように宣教するかをくどくど述べるつもりはない。ただ一言、福音＝キリストを宣教し、知らせ、受け入れさせることを念頭において、間接的ながら波及効果が決して小さくない公立図書館の福音化を提唱したい。日本司教団の福音宣教に関する基本方針の第二項に、社会・文化の福音化による日本教会の躍進と活性化を期待しているのは至言と思う。

豊かな情報を持つならば、人生も豊かになるとある有名人が言ったが、世はあげて情報文化時代に突入している。健全な深い知識があればある程、対人関係にも幅が出てくるような気がする。まして福音の受けいれ（信仰）には、知ることが前提である。信仰の素材を相手に与えることなくして、神のいつくしみに照らされた入信の喜びを会得させることは無理難題ではあるまいか。情報文化の一つの窓口に図書館の存在、特にその規模・蔵書数・入場者数などにおいて格段の優秀さを誇る公立図書館の利用が思い出される。福岡市民図書館の昭和五十八年度の蔵書数は、移動図書館の十二万四千三百九十五冊を含めると三十万七千四百七十二冊、個人貸出冊数は、館内の立読みを別にして二十三万五千百九十八冊であった。（昭和六十年福岡市勢要覧）

勿論、図書館通いをする人は、街の本屋に行く人数に比べると問題にならないかもしれない。しかし、その図書館にカトリック書籍が多く陳列されるならば、未来の神の子を期待できるのではあるまいか。先日、図書館に入場して、カトリックの書籍の余りにも少ないのに驚いた。福岡市民にもっとカトリックを知る機会と中味を与えようではないか。「公立図書館などにカトリックの書籍を送る友の会」を作って、会費を図書購入に当て寄付したら面白いだろう。

（司教館）

今月のみことば

「みくにのきたらんことを」

マタイ六・一〇

馬渡島　伊東誠二神父

謹んで主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます

昭和六十一年　元旦

福岡教区長　平田三郎司教

福岡地区

司教館　山田　成章
大名町　平田惣五郎　牧山　藤房　青木　保　浄水通　ラミーレス　西新　山川　辰幸　笹丘　堤　要吉　茶山　マホニドウィヤーヒルデン　高宮　石村　明　大楠　中田藤太郎　美野島　泰年　吉塚　畠山　七郎　箱崎　老司　光ケ丘　古賀　二日市　小郡　今村　本郷　久留米　大牟田　呼子　馬渡島　大神学院　小神学校　聖パウロ修道会　黙想の家　イエズス会

北九州地区

八王寺　ア・ベルトラン　ボンカズ　ジ・ベルトラン　徳山　登　モーゼ　門司港　ガイヤール　門司　バスチ　小倉　深堀　勝人　下町　豊重　浦　俊雄　湯川　戸畑　敬　平田　コース　若松　デシャンブ　天神町　ラバルタ　水巻　バイヨ　黒崎　キニユ　浦口　均　直方　飯塚　山頭原太郎　田川　グロージャン　新田原　平田　正喜　行橋　松井　忠之

佐賀地区

鳥栖　ディベロ　ガザルディ　佐賀　スカットロン　唐津　サルディ　武雄　パスカーレ　伊万里　アレグリーニ　多久　ルッチ　鹿島　ペンテリーニ

熊本地区

玉名　キルケニ　手取　ディキン　ジョー　オブライエン　カロル　ポール　健軍　ノーリス　島崎　マクナリ　コニリ　島崎修道院　オマホニ　荒尾　帯山　牧山　勝美　菊地　フォード　武蔵ケ丘　オカロール　八代　黒川　博　人吉　オーファレル　水俣　ベラス　本渡　モラハン　大江　ハンタ　崎津　ダイヤモンド　合志カトリックの家　ライル　在海外留学　山元　真悟　大山

みちくさ

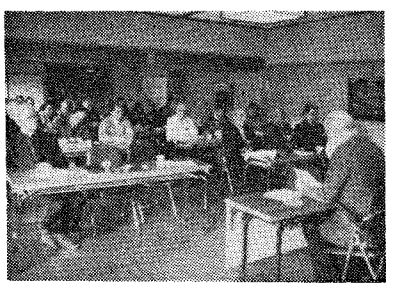
「みちくさ」はそもそも高尚な正論をのたまわる場ではないし、そのような力量もない。ただ落ちこぼれた真珠を拾っていこうとするだけである。気楽にしかも忍耐を持って今後一年間のおつきあいをお願いしたい。▼昭和60年の「カトリック」1月号には教区長の年頭の願いで、カテドラルとセンターの完成、宣教共同体の育成があげられていた。カテドラルとセンターについては、やがてその完成をみるだろうが、第2の宣教共同体の育成はどうだろうか。よくいえばかたつむりのように歩みは遅いが、確実に前進しているといえるし、悪くいえばかけ声だけである。

それにしてもどこかで60年度教区目標「私たちは宣教共同体」の総括が必要ではないだろうか。▼6月号には、信徒の使徒職について重要な記事がある。「司牧者にまかせきりの教会、司牧者と信徒との間に対話がなく、また司祭も信徒の使命を重視しない傾向が続く限り、教会の本当の姿は一向に実現しない。」さらに次のようにもいう。「司牧者は、教会における信徒の地位と責任を認め、またこれを向上させなければならない。信徒の賢明な助言をこころよく受入れ、教会の奉仕のために信頼をもってかれらに任務を委ね、行動の自由と余地をかれらに残し、さらにかれらが自発的に着手するように激励しなければならない。」これが実践できていれば、教会もこの一年間大きくかわっていたであろうに。▼ところがこのような立派な教えにかぎって全教区民の隅ずみには浸透していかないものである。はたしてどれだけの人がこの記事に目をとめたのか。広報担当者の努力はもちろんのことだが、教区報そのものに対する考え方の変革が始まってもいい時期にきているのではないだろうか。▼昭和61年を発想の転換の時にしたいものである。

教区の活性化をめざして
各地で研修会

【教区司祭研修会】

司祭と信徒の協働をめざして



11月25日から27日まで、阿蘇簡易保険保養センターで、福岡教区の司祭研修会が開かれた。講師にイエズス会のネメシェギ師を迎え、平田司教と34名の司祭が参加した。

第一日目は、テーマの「福音宣教」、二日目は「あかしと宣教」についての講演。宗教は実生活からかけ離れたエリート的なものではなく、キリストが中心であること。福音宣教の場としての幼稚園、学校、病院、市民運動が、キリストの福音に根ざしたものであるべきこと。さらに、これらの実現には絶え間ない祈りが不可欠であることなどが強調された。

分科会では次のような活発な意見が交わされた。教区レベルでの福音宣教のビジョンづくり、宣教の意識を高めるため年に二回程福音宣教の月を設けること、聖書研究、家庭集会の意義、信徒教師養成の必要性、若者の教会離れに対する対策、性教育の問題、司祭各自のタレントを生かした助け合いや共同司牧、教会を訪れる人々への気持ちよい対応、「鍵がかかっている教会」はやめよう、などなど。

分科会の発表後、平田司教は、最近始まったシノドスについて触れながら、福音宣教の重要性を述べ、各発表を基にして、今こそ、信徒の養成に力を入れ、信徒の使命を考えるべきだと説いた。

なお、すでに発表された福岡教区信徒使徒職協議会の「福音宣教活動指針（案）」について指導司祭の山田成章師から説明があり、司祭たちに理解と協力が求められた。

【佐賀地区】

家庭の福音化のために



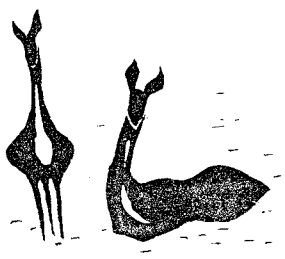
佐賀地区信徒協議会では、11月22日から23日にかけて、武雄温泉ハイツで研修会を開き、地区長アルベルト神父をはじめ、佐賀県下の7つの教会から、司祭・信徒40名が参加した。

「家庭生活の歩み」をテーマにし、熊本県合志カトリックの家のライル神父とシスター吉永を講師に招き、これから結婚しようとする若者、家庭を持った若いカップル、両親を対象に、ビデオやスライドをとり入れて研修が進められた。

ライル神父は「一九八〇年のシノドスで家庭がテーマに取り上げられ、日本の司教団も『生命・神の賜もの』を発表した。私たちは、教会共同体と共に、社会の中で、結婚の意味、夫婦のきずな、家庭の大切さを訴えていかなければならない」と説いた。

また、対話については字の組み合わせどおり心と耳で聴くことが大切だと力説し、早速この研修会で実践に移された。

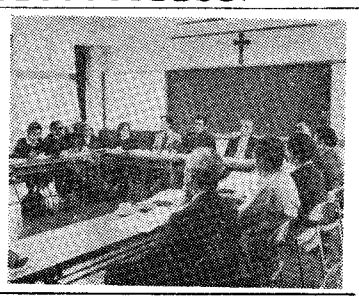
円陣に坐って、各自の生いたちを振り返って、感じたことを記録させ、番号で決められた相手と、それをもとに対話するという方法をとっていった。とまどいをみせていた組もしまいには、終わりの合図もきこえない程、熱が入った。



最後に、感謝ミサの奉献の中で、家庭と結びつく各自の祈りが捧げられ、意義深い研修を終わった。

【福岡地区】

宣教の具体化を検討



福岡地区信徒使徒職協議会では、代表者会を12月8日に司教館で開いた。

平田司教、指導司祭の山田神父をはじめ、17小教区から代表者、修女連から2名のシスターが参加した。

はじめに、司教はあいさつの中で、カテドラル建設に触れ、この自立の精神を福音宣教にも生かそうと話した。

また、11月25日～27日の司祭研修会においても、信徒協の福音宣教指針（案）が討議され、山田神父から、司祭たちの対応についての説明があり、司祭と信徒が一体となって実践する機運が熟しつつある、との発言があった。

出席した委員からは、福音宣教の具体的な実践報告もされた。

1、福岡教区の、福音宣教に関する共通の祈りを作っては……

2、司祭と信徒の話し合いが必要ではないか。

3、指針の「祈る教会」の項目に、ミサ典礼への積極的参加を入れ、信徒の自覚を促す。

4、リーダーの育成。

5、手話教育、小教区自身の共同祈願を実施。

6、地域の子供たちへ、リクレーションやクリスマスに、参加を呼びかけよう。

7、教会、家庭集会での聖書勉強会。

（その他の検討事項）

(1) 修女連より「アルコール中毒（殊に女性）矯正を目的とした体験発表会」を2月に実施したく、信徒協の協力を得たいとの申し出があり、修女連と信徒協の共催を決定。

(2) 4月13日10時30分から行われるカテドラル献堂式の当日、各小教区は、2番ミサを中止して、前夜と当日の早朝ミサでもって対処して欲しい。

【熊本地区】

福音宣教 私たちの課題

12月1日（日）正午から4時まで手取教会信徒会館で熊本信徒協理事会が開かれた。熊本地区長デイキン神父、指導司祭牧山勝美神父、会長高木慶治氏外県下14小教区から24名の理事が参加。

議題は「福音宣教に如何に取り組むか」で、去る9月29日福岡教区信徒協役員会で取り上げられた「福音宣教活動指針案」をたたき台に、討議が行われた。

熊本県としては、次のことに、重点的に取りくんでいくことになった。

1、信徒リーダー、カテキスタの養成

2、教会奉仕者の養成

3、青年壮年の人材養成

4、日曜学校教師の研修会、要理カリキュラムの指針づくり。

5、小教区間の交流、情報交換

キリスト教一致週間によせて

御受難会司祭　鈴木忠一



福岡市の都心に近い土居町にエルムという小さな喫茶店があります。ここで毎週月曜日の早朝、教会一致を目標にキリスト信徒の小さな祈りの集いがもう十年近く続いていることをご存知でしょうか。

朝食祈禱会（朝禱会）と呼ばれる超教派の信徒の集いは、今や全国に拡がり各地でプロテスタント、カトリックの枠を超えた交わりの中で祈り、生活の実践を通して同じ信仰に呼ばれた同志の絆（きずな）を強めています。

福岡朝禱会も、どちらかというとお年寄りのメンバーが多い集いです。主キリストへの篤い忠実な信仰を幹にして、お互いへの暖いやさしい心遣いや愛にみたされて教会の一致を真剣に祈り望むすばらしい祈りの集いです。

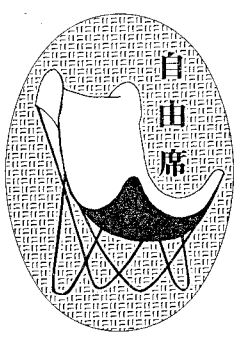
『主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ』と使徒パウロが平和の絆で結ばれた聖霊の一致を守るように期待されたのに、現実の教会は不完全な交わりに痛みを覚え、争い悩んで今日にいたりました。

20世紀の世界中の教会は、この分裂の痛みをのり越えて、『かれらが一つとなりますように』と御父に祈る主キリストに従おうと真剣な努力を積み重ねてきました。熱心に祈りました。

私たちが信じている主イエズスをゆがめたり否定したりする〝教会〟も少くはなく、多くの人びとを惑わせているのも今日の日本の状況です。善意の単純な若者をまき込む統一神霊協会（原理運動）やモルモン教、活発な戸別訪問で伝道するエホバの証人たち。今、真正な信仰を持つプロテスタント・カトリックの神学的な問題についての対話が進められ、真の一致を望む祈りもさかんです。

小さなパン種にすぎない日本のキリスト信者が心をひとつに力を合わせてイエズス様の福音に基づく価値観をうけとめ、生き、証しすることを今ほど求められている時はありません。1月20日（月）夜七時より大名町教会で開かれることしの教会一致祈禱集会のテーマは『我が証人となれ』です。ご参加ください。

自由席



目覚め

熊本・手取教会　福田節子

私たちは一人一人、神ご自身によって呼び集められた者です。なんと幸せな私たちでしょう。神さまに呼ばれ愛され永遠に生きる道へと導き出されたのですから。その喜びを独占しないで人々に伝えてまいりましょう。

この度、教区新聞が充実されると聞き、旧い殻が破られ新しい光の射したような喜びを感じます。これからの教会は、一人一人のタレントを掘り起しそれを生かして行くことが司祭やリーダーのカリスマでもあると聞きました。又各自が与えられたカリスマに目覚め、それに応え合う時、共同体は生き生きしてきますいつもキリストと共にいるということを意識し委ねるならば、それぞれに応じたように、イエズス様は私たちを動かして下さると確信します。

目覚めましょう　祈りのうちに
開きましょう　心の扉を
伝えましょう　神の愛を
神様に　讃美と感謝をささげながら

宣教努力は十分？

北九州　H・F

毎朝夕の新聞と共に家庭に侵入してくる折り込みチラシの量のすさまじさ。そのままチリ箱へ直行させても翌日また……。半額セール、〇割引大安売り、激安出血サービスなど。そしてお客様のお越しを待つのでなく電話一本で商品は即日お宅へとどきます。支払いは振り込みで、ローンで結構と……

翻って私たちの宣教活動はと問うてみる。この商業努力に匹敵する「宣教努力」をしているだろうか、智恵と熱情とより良い手段を商業活動の万分の一でも吸収するならば福音宣教も少しはみのりあるものと思うがどうだろう。

教区報「カトリック」が新年号から紙面刷新を企てた。量で太刀打ちできなければ、内容、質の向上で人々の心を捕えることができると思う。スタッフの努力と教区信徒の協力と理解のもと「カトリック」の充実を期待するものである。

青年大会を終えて

実行委員長　畠山真理男

11月10日、福岡教区の青年大会が終った。ふり返れば5月のこと、大会の準備は青年担当司祭から青年へと手渡された。準備期間は約半年、時間的余裕はあまりない。11月初旬の開催が決まったものの会場は一ケ所に絞ることはできそうにない。かなり広い地域から福岡に集めるのだが、参加者はどのくらいあるのだろうか。会場はわかるか。テーマは社会参加と決まったが今のカトリック青年にどうあてはまるのか、問題点はどこにあるのか。こういう課題をかかえながら、会期は二日間で二日目に主力を置き、テーマから主な問題点を拾いあげなるべく取り組みやすいように配慮したつもりである。しかし、準備期間の不足と努力の足りなさに加え、日程の消化や分科会の進行などで参加者に、また会場のわかりにくさで来場者に不満を残してしまったのが心のこりである。

こういう状況ではあったが予想を上回る参加者があり、中には下関や那覇教区からも参加してもらえ、多数の人から満足したとの声をいただき準備に当った一人として嬉しい思いである。

最後になりましたが、日程や不便さを調整して集まってくれた参加者や分科会のリーダー、さらに実行委員の皆さんに深く御礼申し上げます。

東洋警備保障株式会社
代表取締役社長　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1―12　嶋井ビル2F
TEL　福岡（092）471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州（093）671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

【第二回福岡サテー開催】

自分との出会いを求めて

去る11月22日から24日までの三日間、福岡黙想の家において、第二回福岡SADE(Son And Daughter Encounter)が行われ、12名の若者(男性9名、女性3名)が参加しました。

第一回の参加者32名に比べ、少人数の集いではありましたが、それだけにうちとけるのにも時間が速く、心を開いた分かち合いが進められ、感謝のミサ(鈴木忠一神父様司式)では、大きなシャローム=神の平和の輪が広げられました。またプログラム終了後は、進行のお手伝いをして下さった方々、長崎や山口のSADE参加者も加わって親睦会が開かれ、各地に散在する仲間を確認するとともに、今後も共に前進していくことを誓いました。

最後になりましたが、SADE開催にあたり、御協力下さった各方面の方々に、心より感謝を申し上げます。

(笹丘教会・高比良記)



師走の街と蟻の街のマリア

ミュージカル
蟻の街を観て

箱崎教会　堀スミ子

昨年12月2日東京に本拠地を置く「劇団入道雲」による「蟻の街のマリア」の福岡公演が、電気ホールで行われた。

黙想の家のブラザー雲田の依頼もあり、福岡地区婦人会では8月から入場券を販売した。

信徒による福音宣教が叫ばれているおり、各教会の婦人会は特にまだ教会を知らない友人・知人に「愛と貧しさ」を知ってもらうよいチャンスにしようと努力した。

待降節に入ったばかりの12月2日の夕方、家族と共に福岡電気ホールに急ぎました。夏から待ち続けた「劇団入道雲」のミュージカル「蟻の街のマリア」を観るためです。

蟻の街とか、北原怜子、ゼノという名は私の記憶にかすかに残ってはいるものの詳しいことは何も知りません。そこでこの日に備えて原作「蟻の街のマリア北原怜子」を読んでみました。すっかり感動した私はその本を次々と友人にまわして一読を勧めました。ついでにミュージカルの切符も買ってもらいました。

ゼノ修道士が御絵を人々に配って歩いている。のどかな場面から始まったこのミュージカルが突然、空襲や原爆のすさまじい光景に変わりました。オーケストラの生演奏の迫力も加わって戦争による悲惨が舞台いっぱい広がります。怜子さんを中心とした現実の世界「蟻の街」と交錯していきます。自分の命をすり減らして貧しく弱い人々への無想的でした。ラストシーン怜子さんの死の姿は、もはや白雪姫ではなくまさにマリア様でした。こうごうしい蟻の街のマリアに会場はシーンと静まり、思わず「めでたし聖寵みちみてる……」が口をついて出るところでした。

帰途、夜の町にはクリスマスのイルミネーションがきらめいていました。北原怜子さんとゼノ修道士の姿が、貧しさの中に生れ、苦しむ人々と共に苦しんだうえ十字架上で亡くなられたイエズス様の姿に重なり、私の胸にきゅんと熱いものがこみあげてきました。日本中にキリストの愛を伝え歩いてくださっている「入道雲」の皆さんに主の恵みの豊かならんことを。



劇団入道雲の公演から

聖堂を開放して催し

佐賀では
宗教音楽コンサート

佐賀カトリック教会で12月8日(日)のミサのあと、およそ30分間、コンサートが開かれた。

丸山先生(佐賀大学)の指揮で、佐賀市混声合唱団約20名が、クリスマスにちなんだ曲を披ろうした。

団員は、教会の信徒と共にミサにも参加し、宗教的雰囲気にも触れていた。ミサ終了と共に、祭壇の前に設けられたステージからは、神を賛える歌声が力強くひびいていた。

聴衆は、一足早い素晴しいクリスマスの天使の歌声をプレゼントされたことを素直によろこんだ。

なお、合唱団は12月12日に行われた、カトリック・プロテスタント合同の「佐賀市民クリスマスの夕べ」にも出演した。

熊本では
メキシコ・コロンビア救援
チャリティ・コンサート

メキシコの大地震と、コロンビアでの火山の大爆発による被災者のためのチャリティコンサートが、熊本市手取教会聖堂内で行われた。

主催は、同教会聖歌隊で、ファゴット、パイプオルガンなどの独奏、ピアノ連弾があり、熊本女性合唱団も出演して文字通り、市民レベルでのコンサートになった。

教会外の人々との協力によるこのような催しで教会堂を開放する同教会の新しい宣教のあり方の今後の歩みが、注目されている。

なお、手取教会は熊本市の中心にあり、熊本地区の宣教の拠点として、また信徒のやすらぎの場として小教区一丸となっており、今後もより一層の働きが期待されている。

滞日アジア女性問題の第一回勉強会

熊本地区では去る9月27日に教会と市民レベルとの協力によって、「滞日アジア女性問題を考える会」を発足させ今後定期的にこの問題を深めていくことをめざしているがその第一回勉強会が、12月8日熊本市手取教会の聖マリア学院で開かれた。講師にカレン神父(大分竹田教会)と田尻和子弁護士を迎え、教会内外から約50名が参加した。

フィリピン庶民の貧しい生活(スライド)、ミンダナオの過疎地における大量殺りく(ビデオ)などを見たあと、フィリピンの現状の説明をカレン神父から聞いた。

田尻和子弁護士からは、彼女たちへの賃金の不払いなどの具体的な問題に対する、法律的な対処のしかたなどの話しがあった。

また、運動資金のために、ミニバザーも開かれた。

カトリック・アクション
レジオ・マリエ

鬼木保之



レジオとかレジオ・マリエとかよく聞く割に、内容が知られていないようですので、説明してみましょう。

まず名前ですが、マリア様の軍団というラテン語で、聖母に忠誠をつくし命令に従うことを示しています。

会員は司教・司祭の下に、キリストのみ国の建設のため、祈りと活動により教会と協力して、社会と人のために働きます。毎週、日を決めて集まり、ロザリオ五連とサルベ・レジナ、マグニフィカトと詩篇を含む祈り、司祭の霊的な話を聞き、仕事の報告と、次の週の仕事をもらいます。各自のタレントを生かし、できるだけ教会の外への働きかけが望まれます。例えば、病院、家庭の訪問、教会に新しく来た人々の世話、要理、教会学校、名簿の作成整理、図書販売、その他、神父様が望まれるものは、なんでも仕事になります。

毎週、集まって報告と打ち合わせ、それをマリア様からいただいたものとしてするわけですから、会員はそこでマリア様の信心を体得し、自己の能力を改めて見いだし、成聖の道を進みます。

このレジオは一九二一年、アイルランドのダブリンで生まれました。日本には昭和二四年、佐賀と長崎にもたらされました。その後各地に設立され、神父様方をたすけて、教会の発展に役立っています。

いま、教会では人を求めています。少しでもマリア様にならって働こうと思われるなら是非、このさい、レジオ・マリエに入ってみようではありませんか。

福岡支部　西新教会
熊本支部　手取教会
北九州支部　天神町教会

おげんきですか



平田惣五郎神父様

この欄では引退されたり病気で休んでおられたり、以前福岡教区にいて今は他の教区で働いておられる神父様を紹介していこうと思っています。

編集部　よかったですね。ところで神父様の司祭叙階はいつでしたか。

平田　一九三三年。ローマのプロパガンダ大学に留学してましたからローマの救世主大聖堂で叙階されました。福岡教区最初の邦人司祭です。

編集部　一番大変だったのはいつ、どこでしたか?

平田　戦争中ですね。福岡の小神学校にいましたから、神学生の食べるものを確保するのに……。

編集部　教区の信徒の皆さんに何かメッセージを!

平田　皆さんがお元気でよい年を迎えられますように。私はベッドの生活だけですからねえ。皆さまのお祈りに支えられ感謝のうちに神さまのおぼしめしに従って余生をおくることに専念してます。

平田　一年ぐらいになります。ほとんど寝たきりです。でも太刀洗の糸永神父様をはじめいろんな方が見舞ってくださるので喜んでいます。

編集部　少しは散歩や読書をなさるんですか。

平田　だめです。病院の廊下を歩くぐらいで、あとはベッドの中です。本を読む力もないですよ。皆さんと冗談をいって笑いこけております。(笑い)でも、今年の五月にようやく最初のミサをたてました。それからは毎日曜日欠かさず……。

(60年11月22日訪問)

BOOK 読みま専科

☆キリストを知るために
―カトリック要理解説―
百瀬文晃著

イエズス・キリストを中心に、カトリック教会の教えを解説している。初めてキリスト教のことを知ろうと望んでおられる方、あるいは、もう一度カトリック教会の教えを勉強し直したいと思っておられる方の手引として最適。
(中央出版社)

☆すばらしい誕生の物語
リヨネル・ジャンドロン著
中島公子／中島さおり訳

カナダで出版された性教育絵本の翻訳。小中学生を対象に、平易な言葉とカラー絵で説明している。

一つの生命の創造がいかに神秘に満ちたすばらしいものか、どんな生命もかけがえのない大切なものであるか、こうした感動を知らず知らずのうちに読者に伝える。

子供だけでなく、これから母親になる人、父親母親、また教育にたずさわる人にとっても魅力的な本である。

☆神のやさしさの中で
森　一弘著

待降節第一主日から始まったC年の日曜日の説教集。

主日のごミサにあずかる前に、心の準備としてぜひ読んでおきたい本。

(女子パウロ会)



☆聖パウロ書院

▽年末年始の休業お知らせ
十二月二十八日～一月四日
▽新年度の営業ご案内
平日　十時～十八時
日曜　十時～十六時
定休日　毎水曜日
旧年中は、ありがとうございました。本年もお越しをお待ちいたしております。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石材　石の理想の大御影他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（一月）

5日　ウルスラ誓願式
7日　教区新年ミサ・祝賀会

修女連の集い

1月15日（水）司教館5階

福岡黙想の家

12月26日夕～1月4日
個人黙想をなさりたい方は、ご自由にお越しください。

成人式に参加を

今年も成人式を迎える人たちを招いて、福岡地区の青年連絡協議会主催の「成年の集い」を行ないます。
1月19日（日）午後1時30分より、司教館5階で平田司教様を囲んでパーティー。そのあと「青年のあり方」をテーマにディスカッションをする予定です。この集会には、青年は誰でも参加できます。詳細は各教会の青年会または、老司カトリック教会の竹森神父へ。
TEL・092―566―2323

岡山からの巡礼団九州入り

京都から長崎まで、26聖人の足跡をたどる岡山の巡礼団が1月11日九州入り。
1月9日山口県の小郡を出発した一団は、11日船で門司港に着き、巡礼団のこの日の宿舎になっている門司教会のガイヤール神父と信徒に迎えられて門司港教会で祈りをささげた後、門司教会まで歩くことになっています。
翌12日は小倉・戸畑・天神・黒崎の各教会を聖体訪問しながら水巻教会まで歩く予定。



一九八六年度の福岡・熊本 結婚準備セミナーのおしらせ

今年中に結婚を準備している皆さん、教会での結婚準備セミナーで、幸せな二人の旅立を考えてみませんか。お二人での参加を待ってます。

福岡
会場　福岡市中央区浄水通39　カトリック福岡司教館
時間　午後7時～9時15分
申込　☎・092～522～5139

熊本
会場　熊本市上通町3―33　カトリック手取教会
時間　午後7時～9時15分
申込　☎・096～352～3030

結婚準備セミナー予定表

	1期			2期			3期		
	一月		二月	四月			八月		九月
福岡	二十三日（木） 二十五日（土） 二十六日（日） 三十日（木）		一六日（土） 一八日（木） 一九日（土）	十日（木） 十二日（土） 十七日（木） 十九日（土） 二十日（日） 二十四日（木） 二十六日（土） 二十七日（日）			二十八日（木） 三十日（土） 三十一日（日）		四日（木） 六日（土） 十日（木） 十一日（日）
熊本	七日（金） 九日（日） 二十日（木） 二十二日（水） 二十四日（金） 二十七日（日） 二十九日（火） 三十一日（木）		五日（水）	二日（木） 四日（土） 九日（木） 十一日（土） 十六日（木） 十八日（土） 二十三日（木） 二十五日（土）					



スタッフの準備会

いぶき



「日本の全カトリック信者が皆、同じバッチを胸につけて、一目でカトリック信者とわかるようにしたらどうでしょう。もしそうなると、わたしたちはどこに行っても、信仰の兄弟に会う喜びを分かちあうことができるし、何よりもキリストを証しすることにもなります」。これは、とっても熱心なある信者の提言です。

かれのこの提言の是非は別問題として、わたしたちキリスト信者に、キリストを信じ、キリストに従って生きている者として、何かの「しるし」が求められることはたしかです。もちろんその「しるし」は、かれが言うように、あるいは胸のバッチでもかまわないのかもわかりませんが、しかしそのまえに、より本質的なキリスト信者としての「しるし」が必要だと思います。そうしてその「しるし」とは隣人愛ではないでしょうか。

キリスト ご自身「あなたたちも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによって人は皆、あなたたちがわたしの弟子であることを認めるであろう」と仰せられて、隣人愛を御自分の弟子の「しるし」として求めておられます。

事実、キリストの弟子として忠実に生きることなくして、キリストを証しすることはできません。ところでキリストを信じ、キリストに従って生きるとは、「わたしたちの罪のためにあがないの供え物として」十字架上で、御血の最後の一滴までも流し尽くされて、わたしたちに対する最高の愛を実行されたキリストの愛をより完全に模倣して、隣人愛に生きることに外なりません。なぜなら、神は愛ですから、神のこの無限の愛に実践的に参与していなければ、「キリストの弟子である」とか、「キリストを証ししている」とか、とうてい言えるものではないからです。

主の御公現

山内清海

したがって、「キリストの証し」、「キリスト信者のしるし」とは、キリストがわたしたちを愛してくださったように、そのようにわたしたちも隣人を愛することです。

さて、「主の御公現」の福音によると、東方の博士たちは「しるしの星」に導かれて、幼子キリストを捜し当て、かれを礼拝することができました。

当日の典礼を通して教会は、わたしたちが、まだキリストを知らない多くの人々、善意をもって真理を求め、真の幸福を探している人々、或いはまた孤独と失望の谷底で、まさに糞をも摑む思いで苦しんでいる人々に、一条の光を放つ星となるよう求めています。

一寸先も見えない真っ暗闇のなかで、一本のマッチの光は、まぶしいほどの光を放ち、今まで暗闇をさ迷っていた人に道程をしめし、生きる勇気を与えるに違いありません。同じように、わたしたちの隣人愛も、たとえそれがどれほど小さなものであっても、多くの人々に、生きる勇気と喜びを与え、感謝の気持を取り戻させ、真に価値あるものに目を向けさせ、ついにはキリストに向かわせる機会を与えることができるはずです。なぜなら、現代社会に最も欠けたもの、したがって一番求められているもの、それが、キリストが身をもってわたしたちに教えて下さったこの「隣人愛」だからです。

日本司教団の「日本の教会の基本方針と優先課題」発表以来、日本の教会にも、かつてないほどの宣教精神の高まりが見られますが、これは誠に喜ばしいことです。しかしそれだけにわたしたちは、折角盛り上がったこの機会を、福音宣教についての空想的、非現実的な議論に終始させてはならないと思います。そのためにもわたしたち一人一人が、家庭や職場、そしてあらゆる人々との交わりのなかで、キリストが教えられた隣人愛を実践して、キリストの「証し人」とならなければならないのです。

（サン・スルピス大神学院教授）

かのときのことのは

雪と題して処女詩集『測量船』に所収。わずか二行の詩であるが、この詩の余韻はつきることがない。もしこれが、三郎を眠らせと三行になっていたら、奥行がなくなり、そしてまた、太郎、次郎のかわりに、謙作とか健三とかの名になっていたら、もうこの詩は全く駄目になってしまう。しかも眠らせる主格は雪であろうか、いや雪をこえた、なにかある大きな無限の力が、スッポリと、あたたかく包みこんでしまっている感がする。

「眠られぬ夜のために」は、もうここでは必要がないほど、人間界をもふくめた自然界のすべてが、平穏で、うつくしい。

（森山敬三）

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ。

三好達治



香典返しをカテドラル建設資金へ

故マリア瀬戸キク様の香典返しとして、瀬戸タエ子様（大名町）よりいただきました。
故人のご冥福をお祈りし厚く御礼申し上げます。

人事異動

▼永谷　計神父（聖パウロ修道会）は、福岡修道院より、東京・若葉修道院の院長。
▼パリ外国宣教会北九州グループ責任者が、二期六年間務められたベルトラン師からバイヨ師へ異動。

ペトロ牧山要次郎氏（熊本帯山教会牧山勝美師の尊父）　60年11月27日午前11時25分心不全のため長崎市秋月町18-10の自宅で帰天。89歳。葬儀ミサは11月28日午後1時より、長崎市飽ノ浦教会で平田三郎司教、牧山勝美神父ほか7名の司祭による共同司式でささげられた。

編集室から

新年号の準備をとおして多くの方が教区報を支えて下さっていることを知りました。
今年も編集員一同新たな気持で頑張っていきます。
今号から四カ月間ご奉仕いただいたシスター安田に代わって同会のシスター佐藤が編集を手伝って下さっています。
女子パウロ会のご好意、二人の信徒編集員の献身的ご奉仕と男子パウロ会のご協力に心から感謝申しあげます。
福音宣教をかけ声だけに終わらせず、具体的な動きが活発化するように、いろいろなヒントの情報交換の場としてこの紙面が活用されたらと願っています。

（渡辺）

昭和61年元旦

編集長　渡辺　隆義（小郡教会）
Fr.編集員　山内　堅治（聖パウロ会）
Sr.Fr.佐藤　妙子（女子パウロ会）
田町　節子（笹丘教会）
深堀　邦枝（大名町教会）

きぼうの電話　―喜ぶ人とともに喜び　泣く人とともに泣く―
(092)　865―1212
※相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
※時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時　午後8時～午後10時
※相談時間外：テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01　福岡市城南区西片江1-17-63

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜　間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電 (092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座 福岡3—42981
定価一部60円

福岡教区修道女連盟研修会

「動き出したシスターたち」

宣教活動で司祭・信徒との連携も模索

1月15日10時から司教館で六十年度第二回研修会が、約60名参加のもとに開かれた。

司教団の優先課題〝福音宣教〟をテーマとし、講師は第一回に続き御受難会の鈴木忠一神父様にお願いした。

研修会に先立ち、平田司教様は新年の挨拶に続き、これからの福音宣教について話された。続いてテーマにそって講話が行われた。〝福音宣教ということばがあちこちで聞かれる今日、教会の中では何か動き始めている。多くの人が神からの喜ばしい福音を聞こうとしている時が熟している。〟ということを明るく評価するよう望まれた。

午後はプレゼンテーションで次の五項目について体験発表があった。

一、福音宣教者としてのシスターのアイデンティティ
二、会のカリスマに生きている宣教者としての私
三、共同体と福音宣教
四、福音宣教者と祈り
五、福音宣教者としてシスターの目からみた司祭

続いて行われた分科会の結果

① 修道生活での祈りと宣教活動のバランスのとり方
② 司祭・修道女・超修道会の連携
③ 司祭との連携プレイ

等が大きくうちだされた。

まとめで、鈴木神父様は福音宣教の妨げになっているであろう〝いそがしい・むずかしい・はずかしい〟をユーモアをもって指摘され、一番大切なのは〝内面の刷新である〟と結ばれた。

（サン・モール会 Sr.加藤記）



話しにきき入るシスターたち

第二バチカン公会議20年後の成果は？

司教は語る (1)

おかげさまをもちまして実りのある研修会ができたと思います。対話を通していろいろ問題を聞かせていただきました。その中にあってどれを優先課題にするか、ということが問題になると思います。

まあその問題は、ちょっとさしおいて、前の日曜からローマで、臨時シノドスが第二バチカン公会議後20年の成果を反省しておりますので、それが立派に行われるように、お祈りをしたいと思います。欧米では、司祭も信徒もこのバチカン公会議の文書の研究をいたしまして、あるものは極端にはしり、いろいろな問題が起きました。そのために教会離れとか、あるいは、神学校や修道院が、がらあきになるというようなところです。

悪い結果もでてきました。ところが日本では、研究が足りないために平穏無事だったようです。しかしその平穏無事は、バチカン公会議の精神の浸透が遅れたためで、ネガティブな面もあったのではないかと思います。

教会全体の姿を、このたびの臨時シノドスがどう結論づけるのか、まち遠しいです。

今月のみことば

人はパンだけでなく
神のことばによって
生きる（マタイ4・4）

崎津　ダイアモンド神父

信徒としても大人になりたい

浦上　亜由美

私は、成人式を目の前にした今となっても、自分が大人の仲間入りをするという事に信じ難い気がします。なぜだか、私の心は子供の気分から抜けきらないのです。それゆえに不安や心配も募ります。

ところで私は今まで教会のために何をしてきたのでしょうか。現在、私は一応大名町教会青年会の会員です。学生もいろいろあって忙しいということを口実に、みんなが忘れた頃に顔を出す不届きな者です。

信仰深い島に生まれ、家から教会とマリア像が見え、週に二・三度はいこでもあれば信仰に染まり、祈りは毎週欠かさず、教会に行くのが楽しいものでしたが、一歩都会に出ると、教会は遠く、祈りどころか教会に行くのもおっくうになってしまいます。こんな事では、いつまでも救われませんね。

私も心は子供でも大人です。神様の子供として、堂々と胸を張っていけるような人間になりたいです。成人式を迎え、大人の仲間入りができることを喜び、素晴しいお恵みに感謝いたします。

（福岡・大名町教会）

新成人は語る

わずかなものでも分ち合いたい

今村智太郎

聖書に五つのパンの話があります。一人の少年がささげた少しの食物が、多くの人々を満たしたという話である。

私は、この少年のようになりたいと思う。大げさな儀式も、スローガンも、決心もいらない。ほんの少しのささげ物であっても、神は二千年前のあの日のイエズスのように、その手を通して多くの人を満たしてくれるものと思う。

最後に、二十三年間私を見守ってくれた父、母、そして天の父に感謝する。

（福岡・大名町教会）

後輩たちのめんどうをみたい

武田　龍治



〝ありがとう〟

（熊本・帯山教会）

私も昨年二十歳になり、無事に成人式を迎えることになりました。まだ学生で親のスネをかじっている身の上ですので、大人の仲間入りをしたという実感はありませんが、誕生日に父と乾杯した時、はじめて父と同等になったような気がして感動しました。

これからは、先輩方が私たちを導いてくれた分、後輩たちを導いていかなければならないのだな、と未熟ながらも責任感を抱いています。

信者としても未熟ですのでこれからも信仰を求めて勉強していきたいと思います。

（北九州・小倉教会）

神父をめざしてがんばります

肥喜里隆浩

「二十歳」それは人生を見つめるにあたっての最高の時期、区切りではないでしょうか。多くの人が、様々の立場でこの年齢を迎えることだと思います。私は縁あって神学生として、このときを迎えることとなりました。

今の時点にたって、過去二十年間の人生とこれからの人生を考えてみると、神学校生活の八年間と、司祭になった時の自分というものを振り返り想像してしまいます。そして今感じることは、今自分が神学生としていれるということが、決して自分の力だけではなく、信者の方々の様々な形での励ましがあったからだと思うし、またこれからの私にとって本当になくてはならないものだと思います。

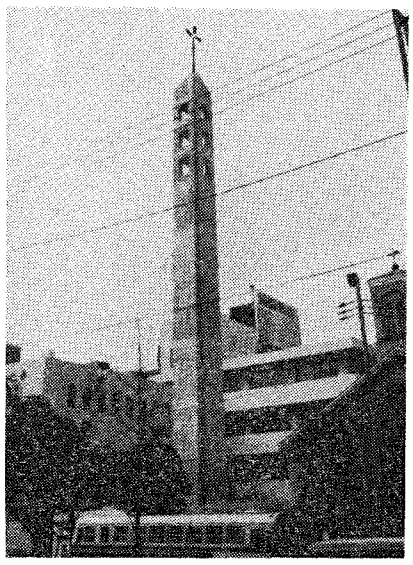
二十歳といえば法的に認められる大人ですが、まだ自分自身、大人と呼ばれるにふさわしくないものだと思っています。

これからの生活において、信者の方々の励ましの上に自分が成りたっているということを自覚しつつ、霊的にも、また社会的にも大人として認められるような人間に成長していかなければならないと思っています。そしてこのことが、「成人式」を迎える私の感じるところであります。

（大神学院）

完成まぢかのカテドラル・センター

覆いのとれたカテドラル・センターは、今、始動の時を静かに待っています。（2面に関連記事）



あなたとわたしの福音宣教



真実の私を分ち合う

Sr. 西田靖子

今の私にとって福音宣教とは、心に生きて下さるキリストを伝えることと、だと思っています。

ある時は、すばらしい面だけでなく、私の弱い部分を分ち合わなければなりません。そのような時、誤解を受けるかもしれない、価値が下がってしまうかもしれない、などと、自分を防御する心が動いてしまいます。けれども、キリストの十字架を信じ、泥んこの私を分ち合ったことによって、私に出会う人々が心を開いて下さる時、とても嬉しいのです。こんな心を神様はご存じで、直接宣教の場を昨年の四月から下さいました。

奥さんに旅立たれた大先輩希望に燃えている22歳の青年、そして30余名の婦人たちです。平凡なかかわりから痛み、苦しみ、悩みなども分ち合い一人ひとりが大切な存在になりはじめたその時、キリストが生きて下さいました。

私が最初に感動したのは、Aさんとの分ち合いでした。ご自分の出生の秘密を分ち合いただき「みことばは、人となった」という聖書の神秘をかみしめています。

深い心の体験を短い文章で十分に表すことができませんが、どんな人の中にもキリストを発見したいという心が、宣教へとつながっていくのではないでしょうか。

身分でも、学歴でも、育ちでも、才能でもなく、〝私〟が大切にされる共同体、そんな輪が、私たちの教区内で、身のまわりで、もっと広がったらどんなにすばらしいことだろうと思います。

（聖母訪問会）

私は、自分の大切な心を分ち合うことによって、この方たちから大切な心をいただき「みことばは、人となった」という聖書の神秘をかみしめています。

深い心の体験を短い文章で十分に表すことができませんが、どんな人の中にもキリストを発見したいという心が、宣教へとつながっていくのではないでしょうか。

身分でも、学歴でも、育ちでも、才能でもなく、〝私〟が大切にされる共同体、そんな輪が、私たちの教区内で、身のまわりで、もっと広がったらどんなにすばらしいことだろうと思います。

（聖母訪問会）

みちくさ

福岡市天神の街角で、ある新興宗教のメンバーとおぼしき人が、聖書を片手に、黒板に何やら図示しながら、演説しているのをよくみかける。通行人から無視されてもただひたすらにしゃべりつづけるその姿は、なんとも異様な雰囲気を感じさせる。が「みちくさ」氏はそこを素通りできなくてちょっと立ちどまって考えてみた。話の中身はどうであれ、道ゆく人に大声で呼ばわる姿がなんとなく聖書に出てくる伝道者たちとだぶってしまうからである▼カトリックの聖職者、修道者、信徒のなかにあいうタイプのお方がいると面白いのだが。幸か不幸か皆きわめて賢明なのであんなことはとてもできそうにない。正直いうと、レストランで十字をきることさえ恥ずかしいのに。あれだけの勇気がないのが本音かも知れない。彼らのやり方が効果的な方法かどうかの議論より、あのような人々を使ってキリストが私たちに何を考えさせようとしているのか問うてみたい▼いつのまにか、私たちはものわかりのよさを売物にするようになった。だが、ものわかりのよすぎる人が宣教するのはむずかしい。宣教の場は世の悪とのしれつな戦いの場なのでもある。机上で聖書片手に、福音宣教の戦略論議を戦わすことを楽しんでばかりいてもはじまらない。新約聖書は、いかに宣教すべきかを説く学術的な本ではなく、初代のキリスト者が宣教のときいかに苦労したかの実践の報告書ではないだろうか▼本紙ではカトリック・アクション団体の紹介もはじまっているが、それぞれが原点にかえって活動を再開するならきっと新しい何かが見えてくるのではないだろうか。組織の拡大化に伴い、組織の維持管理に四苦八苦して小回りがきかなくなってきているカトリック・アクション団体への期待は大きい。

特集　新カテドラル(司教座聖堂)・センター

教区民の期待と要望

新しい教会ができるまで

安部ひとみ



私たちの教会、大名町カトリック教会が、新しく建てなおされています。「新しい教会が、もうすぐ完成です」と主任神父さまがおっしゃるのを聞いて、この一年間のいろいろなことが思い出されました。その中でも一番に思い出されるのは、日曜学校のことです。それまで日曜学校や、その他いろいろな行事に使われていた赤レンガの旧聖堂がこわされ、全部の集まりが、ミサのあと聖堂で行われることになりました。ところが、日曜学校が始まっても先生の声が聞こえなかったり、他の大人の人たちの集まりが気になってこまりました。

この一年で子どもの数も少なくなったようで淋しく思っています。でも「新聖堂にはたくさんの部屋があります」と神父さまがおっしゃっていますので、お友だちも帰ってくるだろうし、他の人を気にしないで勉強できるのを楽しみにしています。

(大名町教会　中二)

神様への道標

伊藤葉子



私は昨年8月15日、大名町教会で洗礼のお恵みをいただきました。

それより一年程前、神様のお導きにより教会の門をくぐったわけですが、そのきっかけは、三浦綾子さんの本でした。信仰も何もない当時の私は、いろんな人の本から、自分の生き方の指針を手探りで つかもうとしていました。

そんな時、神様からのお誘いであったのでしょう、三浦さんの本の中で「教会へ行ってみませんか」という文が目にとまり、すーっと引き込まれるものを感じたのです。しかし、その後にこういう文もありました。「『イエスは本当にキリストか、救い主なのか』と尋ねて『そうである』と答えた所が本当のキリスト教会である」。

キリスト教について何も知らない私は、困ったなあ、変な教会へ行ってしまったらどうしよう、などあれこれ考えたあげく、頭に浮かんだのが天神にある大きな教会でした。勇気を出して、初めて参加したごミサでの福音、忘れもしないペトロの「あなたは神の子、キリストです」(マタイ16・16)という言葉こそ私が求めていた解答、神様自らのお答えだったのです。

福岡の中心に位置する大名町教会は、私が導かれたと同様、未信者、求道者の方々への大きな神様の道標だと感じることを、心の中で祈っております。新しいカテドラルの完成を間近に控え、ごミサや一般の人々を交えての種々の行事などを通して、一人でも多くの人々が教会の門をくぐることを、心の中で祈っております。

(大名町教会　青年)

「出会いの場」として

牧山和子



カテドラルの完成をお喜び致します。教区信者さん方の汗と奉仕の新築センターは、いわば福岡教区のヴァチカンのようなものですから、教区内の公式行事を始め、叙階式、諸行事などはもちろん、福音宣教の心臓部となって、福岡百万都市への働きかけと受け入れ態勢も今後の課題となりましょう。また教区内六十一教会の信者による研修会や、話し合いの機会が持たれる様になると、いいと思います。婦人会を中心とした信心会や、奉仕活動、教養趣味のグループなど、各教会から寄り集まって出会いの場として利用されるように希望しています。

新しい聖堂のステンドグラスやパイプオルガンによる荘厳な雰囲気の中で、信仰的にもより高められ、信者の皆さんと共に肩を寄せ合って、ゆるぎない信仰を深めてゆく場となるよう期待しています。

なお、センターに行けば教区内の人事はもちろん、県外の教会のこと、修道会のことなども案内できるように、一般の方々の要望にも応えて下さるよう。また各教会の古い



故郷フランスの、私の教区の一番大きな街ブーランブレスには、二つの対照的な教会があります。

一つは、ブルー教会と呼ばれゴチック様式の素晴らしい建物です。十六世紀のはじめころ、ある伯爵夫人の財産によって、わずか十九年で完成したものです。天井の美しい線や樫の木で彫ったおもしろい椅子や彫刻、ステンドグラス等を眺めるために建築ファンは方々から駆けつけます。

もう一つは、街の中央にそびえている聖母教会です。十二世紀後半に着工し十三世紀の終りころやっと完成したものです。建築はなんと百三十年くらいかかりました。なぜなら、信者の力のみで建てられた教会だからです。つまり市民が少しずつ根気よくお金を出し石、材木、鉛等を寄付し奉仕の心を生かして自由に工事に参加しました。そのため一世紀以上もかかりました。この建物には、特別な様式もなく、感心すべき彫刻・ステンドグラス等もありません。

雨がふっても、風がふいても

J・ガイヤール神父

美術の本を調べても、この教会に関して、一行の資料も見当たらない平凡な建物です。誇りとするものは、一つしかありません。それは、この教会の石一個一個が、市民の信仰深い心から出たものだということです。

一七八九年のフランス大革命の折、貴族の城と並んで教会も革命者の憎しみの的となりました。彼らによって破壊されたご像や彫刻等は、数えきれない程です。その時、ブルー教会はひどい目にあい、革命者に取り上げられて軍馬の干し草を蓄える倉庫や軍隊の宿舎となりました。不思議なことにこの嵐の時、教会を守るために立上ろうとした信者は一人もいませんでした。

貴族の好意で建てられたこの教会に、親しみが感じられなかった信者は、革命者の暴力に抵抗する心がありませんでした。今、ブルー教会は冷たい博物館になっています。

それに比べて聖母教会は、驚くべきことに傷一つなく無事に革命の時代を乗り越えることができました。市民の手によって建てられ、深く愛されて信者の信仰に守られていたこの教会に対して、革命者は指一本触れることができませんでした。

イエズス様のみ言葉が、聞こえてきます。「雨が降り大水となり、風がふいてその家を襲ったが倒れなかった。家は岩の上に土台を据えていたからです」(マタイ7・25)

この教会が文字通り、ふさわしい母として、子どもたちの信仰生活をいろいろの嵐から守ってきたといわねばなりません。

福岡の新しいカテドラルが聖母教会のような素晴らしいものになってほしいと思います。教区の共同体の信仰と犠牲によって誕生したカテドラルが信徒の信仰生活の母となって、すべての嵐から私たちを守ってくれることを願って います。

(門司教会主任)

宣教の拠点に

安田智恵子



司教様の呼びかけに応えて ことも調べることができるよう、センターは、たてとよこの太いパイプ役になって下さることをお願い申し上げます。

(佐賀教会　信徒)

完成したセンターの特徴を考慮し、現在、神と人々への奉仕をめざす教会としてできるか、考えてみました。

第一に信徒のため

① 毎夕、ミサがあること。

② 教区内の諸活動、ボランティアグループが、集会や活動に使用しやすいこと。

③ 教区レベル図書館の完備

ゆくことができますよう、

第二に福音宣教の面から

① よく人々を迎える教会であること。

いつも少なくとも一人の司祭と受付がいて、訪問者に暖かな、すみやかな、惜しみない応待ができるように。カウンセラーを務められる司祭、信徒、修道女が交代でいてくれれば、さらに望ましい。

② 結婚講座に力を入れる。

現在、離婚、非行、生命軽視など家庭に関する問題は大きく、多く、その傷は深い。新センターに未受洗者が一番多く入る機会は、結婚式とその準備にくる人々と予想される。教会での挙式を望み、新しい人生の歩みを始める人には、しっかりと結婚について、キリスト教的価値観について伝え、また理解していただきたい。そこで、聖書学、倫理学、医学(自然な家族計画も含む)など諸分野から専門の講師を招き、内容豊かで楽しい、全十二回ぐらいの結婚講座を年間を通じて開く。結婚後の相談室も設置する。

③ 文化活動

ギリシャ語入門講座。英会話。料理教室。

以上、できるだけ多くのかたがたが、気軽に出入りできる教会であるよう望みます。

(聖パウロ女子修道会)

カテドラル建設によせて

久保守



いよいよ待望の新カテドラルが完成することとなった。旧聖堂が老朽化し、出入口のところの聖歌隊席は危険な状態にさえあったのだから、建て替えは、当然というよりも遅きに失した憾さえある。

ただし、新聖堂は、旧聖堂の単なる建て替えではなく、その在り方は、旧とは極めて異なる姿となりそうで、そこに、建設者の並々ならぬ意欲が読みとれそうである。

もともと建物は、それを建てることが目的ではないことは、いうまでもない。それが建ちあがった後に、どう使うかが、その生命である。使い方次第で、単にセメントの塊となるか、素晴しい生命をもったものになるか、永久に悪評の対象となるか、逆に、称賛の的になるかが決まってくる。さて、新カテドラルは、どう使われるのであろうか。

現代社会をみると、社会の単一の要素が、すべてを支配し、統一していく単次元的社会を過去の轍として、あらゆる要素が独自性を要求しつつ、それでいて、互いに強く影響を及ぼしあっていく多次元社会に進展しているが、それは時代の流れと共に益々複雑化していく傾向にある。

こういった現代の生活環境の中にあって、宗教が果たしていくべき役割は何なのか。

その解答のシンボルが新カテドラルであってほしいと念願するのは、何も私ひとりというわけではあるまい。

(西新教会　信徒)

私達のカテドラル

大谷真至



12月24日、現大名町教会での最後のクリスマスミサが、司教様によって荘厳に行われました。私が洗礼・堅信を受け十七年間、ずっと通い続けたこの聖堂が、間もなくこわされると聞くと、寂しい気もしますが、また新しいカテドラルへの期待で胸がふくらんできます。

小学生・中学生を通して要理を学んだ旧聖堂は、久留米の聖マリア病院へ移築されました。この旧聖堂の思い出はたくさんあります。夏は暖房、冬は冷房といった状況の中でも楽しく過ごし、要理の後はボール遊びなどをして、窓ガラスや螢光灯を割っては神父様からお目玉を頂戴したものです。新カテドラルは冷暖房完備で、要理の部屋も充実していると聞いています。

教会内では、小学生・中学生・大学生・一般の方々と各グループで活動されていますが、何故か高校生の活動が沈滞ぎみの様な気がします。

新カテドラル建設を機に、私達高校生も何かを始めなければいけないと思っています。高校生のみなさんご協力をお願いします。新カテドラルの建設も、青木神父様を中心にして一歩一歩完成に近づいてきました。今後とも、みなさまの一層のお祈りと犠牲をよろしくお願いします。

(大名町教会　高二)

東洋警備保障株式会社
代表取締役社長　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1—12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093)671—8211

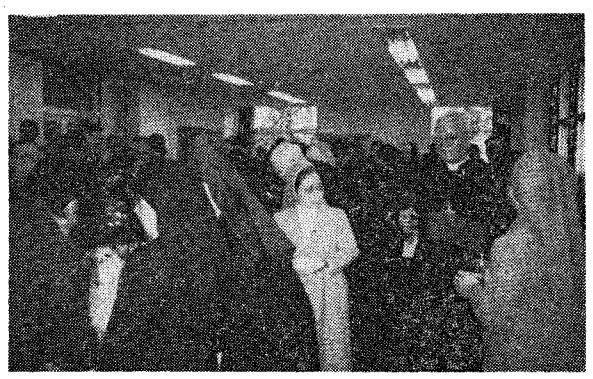
熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

〈福岡教区司祭新年会〉

宣教への決意を新たに

例年になく冷え込みが厳しく感じられる1月7日（火）、福岡教区の司祭新年会が開催され、午前11時から、平田司教司式によるミサが福岡市浄水通教会で行われた。ミサ中の説教で平田司教は、今年の3月下旬に4人の司祭が誕生すること、4月上旬には念願のカテドラル・センターが落成することを述べると共に来年開催される「福音宣教全国推進会議」に向けて、今年がそのよい準備の年であり、司祭、修道者、信徒各々が、キリストの御旨をいだいて努力していくようにうながした。



ミサ後、司教館新館五階にて祝賀会が行われた。福岡教区内の教区司祭、修道会・宣教会の司祭はもとより、今年は修道女連盟の代表者も招待され、70名近くの参加者で会場はにぎわいをみせた。

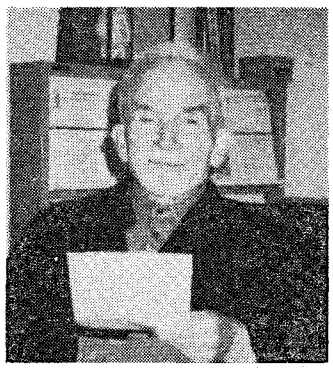
この祝賀会において、新しく佐賀地区長として来られたP・アルベルト神父（ミラノ宣教会）の紹介があった。また長い間闘病生活を続けてこられた牧山藤房神父の元気な姿もみられ、終始なごやかな雰囲気で、新しい宣教の年の門出を祝った。なおこの祝賀会の裏方として福岡地区婦人会も活躍し、司祭たちを大いに励ましていた。

おげんきですか

1月13日、北九州市八王寺にあるパリ・ミッション会の地区本部にボンカズ神父様を訪問した。

師はこの2月27日に94歳になられるというのに、きわめてお元気そうでびっくりさせられた。昼食後、応接室でインタビューを試みたが、師のユーモアを交えた語りに、歴史の重さと風格を感じた。

ボンカズ師は一九二〇年フランスで司祭に叙階され、すぐ日本にやってきて宮崎で宣教を開始した。日本語の修得には苦労され、師は一番残念だったことは、日本人は心が優しく、親切でしたが、そのために私のまちがった日本語を正してくれなかったことだ、といって首をすくめられた。



M・ボンカズ神父様

長崎の大神学校で哲学を教えたこともあり、教え子に現長崎大司教の里脇枢機卿がおられる。最後の任地は田川教会で一九六五年からずっと八王寺の本部で後輩の神父たちの面倒をみてこられた。第二バチカン公会議を高く評価しながらも、若い司祭たちへの心配も吐露しておられる。

師は、昔から書くことがお好きで、今でもいろんな人との出会いのなかで感じられたことを書きつづっておられる。

神父様がお元気なうちにそれが本となって出版されることを願っている。（W）

恩師オサリバン神父を追悼巡礼

荒尾教会では、昨年11月20日にマリア会（婦人会）主催で巡礼を実施した。今回の巡礼の主な目的は、同教会のために働いてくださった故オサリバン神父（聖コロンバン会）の現地慰霊であった。

オサリバン神父は、昭和57年8月当時、コロンバン会九州地区長であったが、荒尾教会の留守番中（主任司祭帰国中のため）に、子供たちを長崎の加津佐の海水浴に連れていって遭難された。信徒たちは同師の遭難当時をしのび、全員で慰霊の祈りをささげた。

（荒尾教会　宮崎正廣記）



お花を捧げる荒尾教会の巡礼団

平和行進

昨年12月25日歳末商戦でにぎわう天神の一角を、70本以上のローソクの灯と、天使の歌声のような聖歌が流れた。

クリスマスの夕方5時、カトリック、プロテスタント各教派の人々が、大名町教会に集まり、正義と平和委員会の鈴木神父の世界平和アピールの後、全員がローソクを持ち聖歌を歌いながら、およそ2キロほどを40分かけて行進した。

寒風の中、帰宅途中の人々は、一様におどろいたり、感心したりしているよう。行進の中に飛び入りして歩く人もいて「平和行進」は、暮れの落ち着かない人々の心に、小さな灯をうつしたのではないだろうか。

巡礼団を歓待

1月12日（土）～13日（日）にかけて戸井先生（広島学院）を団長とする22名の婦人巡礼団を門司教会の婦人会が歓待した。巡礼団は、26聖人の行路の追体験を実施しているので、毎回少しずつ歩いている。今回の行路は、門司港から赤間まで、門司教会では、夜7時20分から共にミサにあずかり、翌日は、朝4時半頃にはすでに起床し、婦人会の心づくしの朝食のあと、黒崎から水巻まで歩いた。

修道女連盟 司祭たちと対話集会

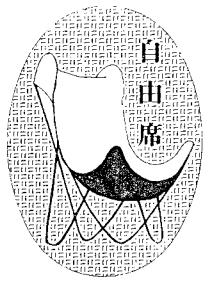
1月21日午後2時より司教館で、修道女連の申し出による修道女と司祭たちの対話集会がもたれた。17名のシスターと11名の司祭が参加。

「福音宣教」をテーマに率直な意見が交わされた。まず人間として成熟すること。弱い立場の人々を大切にする教会。主任司祭の理解を訴える声などもきかれた。

そぼくな疑問

私は幼児洗礼でした。普通の小学校、中学校をでて、高校もごく普通の学校をでました。その中で学校の教えと教会の教えの矛盾が私の心をまよわすのです。学校では、世の頃の教皇様（あるいは信者）が一般の人々に対して害をしていたと教えます。はこの時、「これは神様のえではなく、あくまで人間が犯した過ちだとわかってほしい、神様の教え自体がこういうものではないことを知ってほしい」とはっきりいうことができませんでした。私自身、信者らしい生活ができていないし、私を見て信者全体が私のような人ばかりだと思われたら困るからです。

また、学校では、人間は微生物が進化してできたものだと教えます。教会では、神様が自分の似姿にかたどられてそれに息を吹き込まれておつくりになったとあります。これら学校、社会の教えと教会の教えの矛盾に残念ながら、私の心は「教会の教えを信じる」と断言することができません。イエズス様は「私をみないで信じる者は幸いである」といわれましたが、私の心はやはりイエズス様をみないことには、体で体験しないでは信じきれないような気がします。



時々幼児洗礼だったことを悔やむのです。イエズス様と本当に出会いイエズス様からのことは十分わかりますが。話はもとにもどりますが、今は自分の信仰を明らかにすることが大切だと思います。また聖書を読み始めます。今度も最後まで続ける自信はありませんが、できるだけ努力したいと思います。これで、もし答えがみつからなければ、どうすればよいのでしょうか。これを機会に、私の方から進んでイエズス様について知り、イエズス様との本当の出会いを求めていこうと思います。

追伸

リバス著の『二人の自分』を買って、今読んでいます。実際に読んでいて、うなずける点はいっぱいあるのですがそれをのりこえるための解決策が今一歩つかめないでいます。まだ途中ですが、この本を読み終わって、その答えがみつからない時「聖書を読んでもその答えはみつからないのでは」と、とても不安です。

雑筆で申し訳ございませんでした。

名前書きません。

すみません。

教会一致祈禱集会

「我が証人となれ」のテーマで1月20日（月）午後7時大名町教会で、今年のキリスト教一致祈禱週間にちなみ、集会が行われた。各教派・各教会から80名近い司祭、牧師信徒が集まって来た。

「わたしたちは神の民」の聖歌で始まり、箱崎ルーテル教会の栗原牧師の聖書朗読、勧めの言葉を日本キリスト教団渡辺通教会の松井牧師、とりなしの祈りを聖公会草ケ江教会の堀之内牧師、総司会を、黙想の家の鈴木神父が受け持った。全員が暖かい祈りの中に1時間を過ごした。工事中で手狭な事務室での親睦も、和やかな集いだった。

カトリック・アクション



若者のエンカウンター（SADE）のテーマは、〝出会い〟です。

神が父として、母として、子としてくださった家族が一致するための出会いです。講話の形式でなく、12の課題を分かち合いを中心に進めます。分かち合う相手が、同年輩の人ばかりということも、大きな助けになります。プログラムが進むにつれて、自分自身との出会い、他の人の心との出会い、そして神の深い愛との出会いができます。自分との出会いとは、今までの自分の誤ちとの出会い、親、兄弟から愛されている自分との出会い、神の愛に包まれている自分、神の子である自分との出会いです。特に強調したいのは、自分の原点ともいうべき、神の子である自分との出会いです。この出会いがなされないならば、家族という共同体の生き生きとしたメンバーになれないのではないでしょうか。自分の原点と出会うことにより、キリストを信じる者として深い通じ合いが、家族に対して、他の人々に対して、神に対しても可能になります。そんなすばらしい出会いを神はサデーを通して、与えてくださいます。耳が聞えなければできない会話でなく、心と心の会話をしたい方、また、十字架の重さを感じる方、家族についてじっくり考え味わいたい方、是非お待ちしてます。

サデー福岡

(Son And Daughter Encounter)

連絡先

○福岡黙想の家

☎092―871―7108

若者のエンカウンター係

○今年開催予定日

高校生サデー7月25～27日

福岡サデー　11月1～3日

BOOK 読みは専科

☆神のゆるしへ近づく道

J・アブリ著



本書は、『典礼憲章』の精神に従って「ゆるしの秘跡」の解説を試みた書である。

「回心とゆるしの意味と本質」の考察から始まり、聖書に基づいて「神のゆるしのことば」を明確にし、さらにゆるしの秘跡を受けるに際してより方法を具体的に示唆してくれる。

四旬節を間近にひかえた今良い心の準備をうながしてくれる良書といえる。

（中央出版社）

☆聖書と歴史

第一巻　族長とモーセ

第二巻　約束の地で

今道瑤子訳



『聖書と歴史』全七巻のうち二巻までが出版された。

このシリーズは、単なる聖書物語ではない。救いの歴史を聖書にもとづいて語りながら、聖書という本自体の生いたちの歴史も説明している。

キリスト者にはもちろんだが、歴史や聖書に興味のある中高生から、学校の先生がたや一般のかたがたにもぜひ読んでいただきたい。

全七巻二七、六〇〇円　今年中に完結予定。

（女子パウロ会）

聖パウロ書院

二月中旬から新カテドラル一階に、移転します。どうぞご利用くださいませ。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石材素材
石の理想の大御所
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（二月）

4日　司祭評議会
11日　大楠司祭館落成式
23日　老司教会堅信式
24～28日　司牧司教委員会合宿

修女連の集い

2月23日（日）10時半～12時
場所　司祭の家
修女連の機構と働きについて、福岡教区女子修道院院長会議

福岡黙想の家

2月10日、11日　聖母カテキスタ会
2月20日　ミカエル会の集い

「アルコール依存症」について考える研修会

日時　2月23日（日）午後1時30分～3時
場所　2月24日（月）午前10時30分～12時　司祭の家　5F
テーマ　すずらんMac（女性アルコール依存症更生センター）での体験
講師　井口貴志氏　神山美紀氏
参加費　五〇〇円
どなたでも、ご自由にご参加ください。

福岡2・11集会

テーマ　天皇・戦争・平和を問う　―沖縄からの叫び！
講師　島田善次（沖縄・日本キリスト教会牧師）
映画　戦場ぬ童（わらべ）（沖縄戦記録映画）
日時　2月11日（火）午後1時～4時
場所　日本キリスト教団渡辺通教会（RKB北側）
主催　カトリック福岡正義と平和推進委員会　靖国法案に反対する福岡キリスト者の会　カトリック福岡地区信徒使徒職協議会
後援　集会後平和行進（天神周辺）
連絡先　☎092（871）7108　黙想の家　鈴木忠一神父

主の呼びかけにこたえよう！

小神学生・中学生志願者募集

小神学校・修道会	入学・入会条件	連絡先
福岡小神学校	①司祭職を希望するカトリック信者の男子。 ②主任司祭の推薦。 ③現在小学6年生で、4月に中学入学の予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区浄水通38 ☎092-531-6821
聖パウロ修道会 福岡志願院	①聖パウロ修道会の司祭、修道士を希望するカトリック信者の男子。 ②主任司祭の推薦。 ③現在小学6年生で、4月に中学入学の予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区小笹4-11-11 ☎092-531-0924
聖母訪問会 準志願院	①本人が自由な心で、はっきりと入会を希望していること。 ②教会共同体の中で育ってきていること。 ③身心共に健康であること。 ④現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区大濠1-7-14 ☎092-741-4250
師イエズス修道女会 福岡志願院	①身心共に健全なカトリック信者の女子。 ②主任司祭の推薦。 ③現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区小笹4-11-35 ☎092-531-0486
幼きイエズス修道会 熊本志願院	①神と人への奉仕に生涯を捧げる決意があること。 ②現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可） ③主任司祭の推薦。 ④健全な身心を持ち、共同生活に順応できる調和のとれたカトリック信者の女子。	〒862 熊本市渡鹿1-17-52 ☎096-364-0352

いぶき

来る二月十二日の灰の水曜日とともに、教会の典礼暦は四旬節にはいります。そこでわたしたちは、この四旬節をいかなる心がまえをもって生きるべきか、第一主日の福音の中に、その指針を探すことにしましょう。

当日の福音は、荒れ野で試みに遭われたキリストについてです。旧約聖書で「荒れ野」は、過酷な試みに耐え、自分の惨めさと弱さを知りつくしたうえで、深い謙遜と神への絶対的な信頼のうちに、心からの悔い改めをなし、遂に神との出会いを実現する場所、として描かれています。

キリストが、自ら「聖霊によって荒れ野に導かれ、四十日の間悪魔の試みに遭われた」のは、神と出会うための条件が何であるかを、わたしたちに身をもって教え、諭すためだったのではないでしょうか。

ところで、このような示唆に富む荒れ野で、キリストご自身お受けになった三つの誘惑もまた、わたしたちに具体的で、しかも深い霊的な生活指針を与えます。

「もしあなたが神の子ならば、この石にパンになるように命じなさい」、という第一の誘惑にキリストは、「人はパンだけで生きるのではない」と、みごとにこれを退けられます。かつてイスラエルの民は、神から与えられたマンナについてつぶやき、神との約束を忘れ、神のみ言葉を顧みず、勝手気ままに生きることだけを求めた事がありました。

「もしあなたがわたしを拝むなら」、全世界の「全支配権と栄華とをあなたにあげよう」というのが、キリストが受けた第二の誘惑でした。四十年間砂漠をさ迷い歩いていた間に、唯一、絶対なる神を忘れて、偶像崇拝に助けを求めたイスラエルの民を非難する権利が、はたしてわたしたちにあるでしょうか。という

四旬節第一の主日

山内清海

のも、たとえ無意識のうちであるとはいえ、わたしたちもまた、被造的な真、善、美に心を奪われ、少しずつ神から離れつつある自分に気付くことがあるからです。その意味でわたしたちも、キリストのように毅然たる態度をもってることにはならないのです。

さて第三の誘惑は、神殿のいちばん高い所から下に身を投げよ、というものでした。神を試みることがいかに大きな罪であるかについては、とくに旧約聖書のいたるところに書かれています。

しかしこのような恐ろしい罪も、けっしてわたしたちと無関係ではないのです。たとえわたしたちがどれほど神に信頼し、またどれほど熱心に祈っても、わたしたち自身、自己の義務に不忠実であったり、あるいは賢明な努力を怠るようなことがあれば、結果的には神を試みることにもなりかねないからです。神への信頼と祈りは、決してわたしたち人間の努力や闘いへの義務を免除することにはならないのです。

このように考えてくると、わたしたちは、迎える四旬節をいかに生きるべきか、容易に理解することができるのではないでしょうか。わたしたちもこの期間中、しばしば自らを「荒れ野」において、深く、そして謙虚に自己反省を繰り返しながら、今までの生き方を改め、心を洗い清めて、復活したもう主キリストと共に、新しい生活を準備するよう努めましょう。

（サン・スルピス大神学院教授）

かのときのことのは

彼は戦場に向い、命を落して名を天下に挙げ、是は南海に赴き、命を天に懸けて名を流す。如何（いかが）。

高山右近

右近は、戦国時代のキリシタン大名、信長・秀吉に仕え、文武両道に卓越した武将であり、茶の湯では、利休七哲のなかで極上の弟子といわれるほどの人であった。幕府でのキリシタン禁令により、十月七日国外追放になり、六二歳のとき長崎よりマニラに向けて出航した。この文の手紙は、その約一か月前の九月十日付であり、一九八一年偶然発見されたものである。細川ガラシア夫人の夫忠興宛で、この前のところから少し現代文にすれば、

右近は戦場に向って、天下に名を挙げました。私はこんなていたらくです。「如何」というのが心を打つ。彼も武士として正行のように名をそとどめたかったに相違ない。しかし、キリシタンであるが故に、南海に赴いて名を流す、それを歎いたであろうか。命を天に懸けていた彼は、言語に絶する痛苦にもかかわらず、心の奥深くはよろこびおどったと思う。六十年之苦忽別申候とつづく。翌年、熱病のためマニラにおいて帰天した。

近々出航いたします。ところで、このたび一軸の懸物をさしあげます。ほんの志ばかりのもの。楠正行は戦場に向って、天下に名を挙げました。私はこんなていたらくです。「如何」というのが心を打つ。彼も武士として正行のように名をそとどめたかったに相違ない。しかし、キリシタンであるが故に、南海に赴いて名を流す、それを歎いたであろうか。命を天に懸けていた彼は、言語に絶する痛苦にもかかわらず、心の奥深くはよろこびおどったと思う。六十年之苦忽別申候とつづく。翌年、熱病のためマニラにおいて帰天した。

（森山敬三）

大楠カトリック教会　司祭館落成式



2月11日（火・祭日）ルルドの聖母の祝日に、司教様をお迎えして、念願の司祭館落成の感謝のミサを行います。午前10時30分より、当教会の聖堂にて。どうぞお出かけください。

生活刷新セミナー

〝聖霊は福音宣教の源泉〟

期間　2月9日（日）～3月23日（日）毎日曜午後2時～4時
場所　西新カトリック教会
講師　マテオ神父　ライル神父・他4名
参加費　一、〇〇〇円（テキスト、その他）
申込、問い合せ　マテオ神父（御受難会）☎092（871）7108　糸永主計　☎092（851）1035

編集室から

「司教は語る」は昨年11月に平田司教様が教区司祭研修会でされた講話の要旨です。これから5回にわたって連載します。

教区長の「生の声」を美辞麗句に終らせず、現実化させたいものです。（渡辺）

ネグロスに救援を！

海を越えたところにわれわれの友がわれわれを求めている。

フィリピンのネグロス島の飢餓は、ますます深刻化しています。約25万人の砂糖きび労働者が職を失い、家族を含む150万人が餓死の危険に直面しています。

※募金送り先
郵便振替口座番号　福岡5-11388
口座加入者名　カトリック福岡正義と平和推進委員会

募金はネグロス島の司牧責任者、アントニオ・フォルティッチ司教様に送ります。

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL　092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092）441-6585

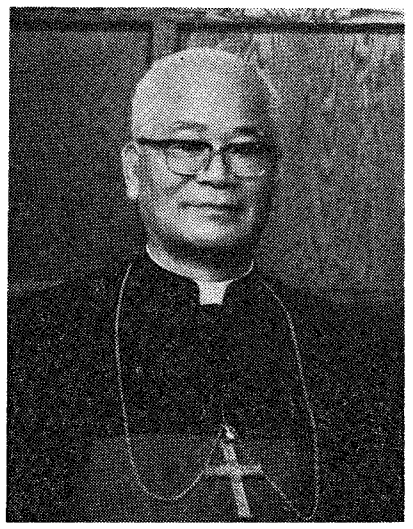
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

宣教の人となるため心の変革を求める

四旬節司教教書

沖にこぎ出せ

福岡教区長　平田三郎司教



主キリストは、おん父のもとにお帰りになる前に、使徒達に「あなたたちは出かけて行き、すべての民族をわたしの弟子にしなさい。父と子と聖霊の名によって彼らに洗礼を授けなさい」(マタイ28・19)と言って、宣教という重大な使命をお与えになりました。

自分たちの無能を知っていた彼らには、大きな不安がありましたが、聖霊の降臨によって新たな光りと力を体験し、救いの喜びを人々に告げ知らせるために、高間を出て行きました。私たちの新たな生命のために復活したキリストを知らせるために、止むに止まれず出発したのです。

あとで聖パウロも言っているように「信じたことのない方をどうして呼び求めることができようか、聞いたことのない方をどうして信じることができようか。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができようか。遣わされなければ、どうして宣べ伝えることができようか」(ローマ10・14～15)「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」(ローマ10・7)との確信をもって世界に出て行ったのです。

出て行こう

教会は、キリストの宣教を受け継ぎ、救いの宝をすべての人に分かち与えるという奉仕の任務を託されているのです。

司教、司祭、修道者、信徒からなる教会は、おのおの受けた召し出し、生活の環境、条件に応じて、任務を果たすため家庭に、職場に、社会に出て行かねばならないのです。

日本司教団は、一昨年以来信者が教会のこの重大な任務を悟り、自覚し、信仰共同体が宣教共同体となるよう薦め、来年の「福音宣教推進全国会議」に向けて準備をしています。

ひとりぼっちで、あすを知らぬ絶望的な暗い世界に、キリストだけが天の父との交わり、兄弟との交わりに導く『道』であり、私たちは、この『道』を通って『いのち』の充満にいたることを告げ知らせるため、出て行かねばならないのです。

必ずしも遠い所に出て行く必要はありません。まず、キリストの言葉と聖霊の光り、自分の深い信仰生活の証しによって、身近な家庭や地域の人々を信仰に導くために、彼らのもとに出て行かねばならないのです。

何を宣教するか

宣教とは、孤立している人々を神との交わり、相互の交わりに招くことです。

昨年末に開かれた臨時世界司教会議では、二十年このかた聞き慣れ親しまれてきた「神の民」「信仰共同体」という言葉のほかに「交わり・コンムニオ」が広く用いられました。

カトリック教会は、洗礼によって三位の神との深い交わりに入れられた兄弟相互の親密な愛の交わりであり、この交わりに招き入れることが宣教の使命と言うことができましょう。

「私たち(三位の神)が一つであるように、皆が一つになりますように」(ヨハネ12・17)は主の最後の願いであり、そのためにいのちを捧げられたのでした。「父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい」とは、洗礼を授けて、三位一体の神との親しい交わりに入れなさいとの意であります。

宣教とは、また、神との交わり、人間相互の交わりを断ち切っている障害物を取り除くことでもあります。

福音の精神にもとり、神との絶交状態にある者を父のふところに返し、孤立してばらばらになり、対立、断絶の境遇にある兄弟たちを、親しい交わりに引き入れることでもあるのです。

ところでこの断絶、絶交の根本原因は、おのおのの心の中に巣くう罪です。そこから、物欲、肉欲、名誉欲が生まれ、その欲望を満たすため、搾取、差別、人権無視などが横行するのです。

今日の末期的状態にある世界を、交わりに導くことはたいへんな仕事で、宣教のむずかしさを感じさせます。罪を助長するような制度、環境を除き去り清めることは宣教の一端ですが、簡単にはできない仕事です。

諸宗教団の対立を解いて、教会の交わりに入れる、いわゆるエキュメニズム・教会一致運動もまた、宣教の仕事です。宗教間の対立、争いが人類をどんな不幸におとし入れたか、また今もおとし入れているか、歴史が物語っています。宗教の人類共同体に及ぼす力がどんなものか見せつけられています。

どうしたら対立から「聖徒の交わり」に入ることができるか、それは対話によってです。ひとりよがりでは対話は成り立ちません。自分の信仰をしっかり守りながらも、非カトリック、非キリスト教の中にある真なるもの、尊いものは排斥せず、精神的、道徳的、文化的価値があるものは認め、促進することによって交わりに入ることができるのです。

信仰を持たない人を、信仰の交わりに招くことは、困難であっても、「すべての人を私の弟子にしなさい」とのキリストの命令を忘れず、特に祈りや実生活の証しをもって忍耐強く交わりに招き入れるよう努力すべきでしょう。

信仰共同体の聖化による宣教

消費主義、お金、物が神に祭り上げられている現代にあって、宣教はできないとの悲鳴を聞くこともあります。しかし、人の心の中にはしだいに超越的なもの、神的なものへの新たな飢え渇きの徴候が見え始めています。その復帰を助けるため、私たちを先ず福音化し、信仰による人間の美しい完成の姿を人々に見せるよう務めなければならないでしょう。そのためには祈りの生活、神との深い交わりの生活が必要です。

聖堂を訪問し、ミサに与って渇きをいやそうとする人々に、ミサが神との交わり、兄弟間の交わりの頂点であることを、外的に典礼を荘厳に挙行することではなく、救いの業に参加するように招かれた、ということです。わたしたち信徒の一人一人が、救いの業に協力するように、神様から直接に呼びかけられたのです。

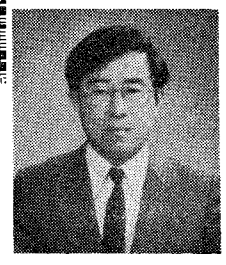
わたしたちはともすると自分の無力をなげき、世界の歴史の大きな流れのなかで自分のやることなど何の意味もないとあきらめがちですが、信仰はまったくべつのことを教えてくれます。わたしたちが洗礼を受けて信者になったとき、神様はわたしたち一人一人を救いの業におけるパートナーとして選んでくださったのです。わたしたちはけっして「その他大ぜい」ではなく、神のかけがえのないパートナーなのです。問題はわたしたちがそれにふさわしい生き方をするかどうかということだけです。

神によって選ばれたパートナーとして救いの業に参加する場合、いちばん大事なことは神をよりよく知るようにつとめることではないでしょうか。神をよく知らなければ救いの業に協力しているつもりでも、かえって邪魔していることになるかもしれません。それに、神をよりよく知ろうと努めない人は本当に神を愛しているとはいえないでしょう。愛しているなら、愛する相手についてすべてを知りたいと望むはずだからです。神へといたる唯一の道、すなわちキリストを通じて、神をよりよく知るようにつとめること、これがわたしたち信徒の福音宣教の第一歩だと思います。

もう一つ大事なことは、信徒にとっては職場が、そして日常生活のすべてが福音宣教の現場だ、ということです。職場で人々の信頼と尊敬をかちえてこそ、福音宣教のための機会がおとずれます。わたしたちのそれぞれに与えられた才能を眠ったままにしておかず、最大限に働かせてこそ信仰を証しすることができるのではないでしょうか。

神の救いの業のパートナー

稲垣良典(古賀教会 信徒)



福音宣教という言葉を聞いて何かとくべつのことをするのか、と考える人がいるかもしれませんが、私は信徒として自覚をもって日々生きていくこと以外の何ものでもないと思います。信徒であることは、ただ救いの御恵みをいただいているということではなく、救いの業に参加するように招かれた、ということです。わたしたち信徒の一人一人が、救いの業に協力するように、神様から直接に呼びかけられたのです。

わたしたちはともすると自分の無力をなげき、世界の歴史の大きな流れのなかで自分のやることなど何の意味もないとあきらめがちですが、信仰はまったくべつのことを教えてくれます。わたしたちが洗礼を受けて信者になったとき、神様はわたしたち一人一人を救いの業におけるパートナーとして選んでくださったのです。わたしたちはけっして「その他大ぜい」ではなく、神のかけがえのないパートナーなのです。問題はわたしたちがそれにふさわしい生き方をするかどうかということだけです。

神によって選ばれたパートナーとして救いの業に参加する場合、いちばん大事なことは神をよりよく知るようにつとめることではないでしょうか。神をよく知らなければ救いの業に協力しているつもりでも、かえって邪魔していることになるかもしれません。それに、神をよりよく知ろうと努めない人は本当に神を愛しているとはいえないでしょう。愛しているなら、愛する相手についてすべてを知りたいと望むはずだからです。神へといたる唯一の道、すなわちキリストを通じて、神をよりよく知るようにつとめること、これがわたしたち信徒の福音宣教の第一歩だと思います。

もう一つ大事なことは、信徒にとっては職場が、そして日常生活のすべてが福音宣教の現場だ、ということです。職場で人々の信頼と尊敬をかちえてこそ、福音宣教のための機会がおとずれます。わたしたちのそれぞれに与えられた才能を眠ったままにしておかず、最大限に働かせてこそ信仰を証しすることができるのではないでしょうか。

司教は語る(2)
信徒を宣教者として養成しよう

次回の定例シノドスは、「信徒について」をテーマとしています。信徒は本来の使命をどのように遂行するのか、これは今日の教会が早急に検討しなくてはならない問題なのです。

福岡教区にはおよそ743万人ぐらいの住民がおります。その人たちを相手に100名ちょっとの司祭と500名ぐらいの修道女では、とても思うとおりの宣教はできないのです。信徒がほんとうに宣教者になってもらわなければならないのですが、それはよく言われますように司祭の数が少ないから、その補足とか穴埋めのためではなくて、第二バチカン公会議が言っていますように、信徒も洗礼と堅信によって宣教の大きな使命をもっているということによります。信徒の使徒職の使命の覚醒や、信徒を宣教者として養成することに力を入れなければならないと思っています。

司祭の再教育が叫ばれているのと同じように、信徒の再教育というものが叫ばれ、信徒の使徒職、宣教などについて各自の任務を自覚させる時が来ていると思います。

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

おことばですから
網をおろして
みましょう
(ルカ5・5)

行橋　松井忠之神父

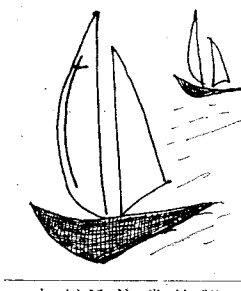
あなたとわたしの福音宣教

みちくさ

新聞づくりの難しさをしみじみ味わっている。2月号本欄の最後に「組織の拡大化に伴い、組織の維持管理に四苦八苦して小回りがきかなくなってきているカトリック教会共同体の中で、小回りのよくきくカトリック・アクション団体への期待は大きい」とあるが、原稿には「…小回りがきかなくなってきているカトリック教会共同体の音宣教のための機会がおとずれます。わたしたちのそれぞれに与えられた才能を眠ったままにしておかず、最大限に働かせてこそ信仰を証しすることができるのではないでしょうか。

もう一つ大事なことは、信徒にとっては職場が、そして日常生活のすべてが福音宣教の現場だ、ということです。職場で人々の信頼と尊敬をかちえてこそ、福音宣教のための機会がおとずれます。わたしたちのそれぞれに与えられた才能を眠ったままにしておかず、最大限に働かせてこそ信仰を証しすることができるのではないでしょうか。

もう一つ大事なことは、信徒にとっては職場が、そして日常生活のすべてが福音宣教の現場だ、ということです。職場で人々の信頼と尊敬をかちえてこそ、福音宣教のための機会がおとずれます。わたしたちのそれぞれに与えられた才能を眠ったままにしておかず、最大限に働かせてこそ信仰を証しすることができるのではないでしょうか。

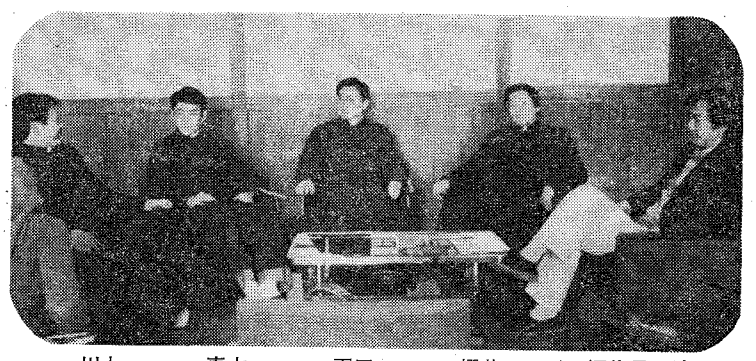


インタビュー

司祭叙階ゴール目前

教区の四神学生（助祭）に聞く

教区報「カトリック」編集部は、司祭叙階目前の福岡教区の四人の助祭の近況を伝えるべく、サン・スルピス大神学院を訪問して、インタビューをこころみました。



川上　青木　平田　櫻井　編集長　渡辺

言び・不安・期待・そして…

―今の心境を一言でどうですか？

早く司祭になりたい

櫻井　やっぱり早く叙階式がきてほしいということです。



一同　（笑い）

―平田さんはどうですか？

平田　はい、昨日の福音で、ペトロに「人をすなどる者にしよう」と言ったイエズスさまが、「恐れることはない」とも言われましたので、私もイエズスさまから「恐れることはない」という呼びかけとそれとこう…自分のいたらなさ足りなさをひしひしと感じます。エッヘッヘ

一同　（笑い）

―平田さんはどうですか？

平田　はい、昨日の福音で、ペトロに「人をすなどる者にしよう」と言ったイエズスさまが、「恐れることはない」とも言われましたので、私もイエズスさまから「恐れることはない」という呼びかけとうことを感じています。

川上　私もやっぱり一日でも早く叙階していただきたいなあ。けど、その反面、ほんとに自分なんかでいいのかなあ、という気持ちもあって、ペトロが主から呼びかけられたときに「お言葉ですから網をおろしてみましょう」といったように、私をあなたのためにっていう心境。それともう一つ思うのは、多くの方々が私のためにお祈りしてくださっているということ。ほんとうにありがたいことだと思っています。それと、あんまり同級生の前では恥しいんですけども、私がこうしてまがりなりにもここまでこれたのは、同級生のおかげだと思っています。ずいぶん心強い面、支えられた面、助けられた面がありました。

―一言、「なぜ神父になりたいのですか」。

櫻井　よく聞かれるんですけど、パッと答えられないんです。いうか、招きがす。考えてみたら、小学生のころ侍者なんかしているとき、神父様がミサをたてるのを横でみてたし…自分もそうやってミサをやってみたいなあって。大神学校に入っていろいろ考えていくうち、神さまのために何かをやりたいということを感じて。はっきりせんけど、人々の世話をするということが好きですから。そういうことを考えてみたときに、司祭職は魅力的じゃないのかなあ。

―具体的にやりたいこととかやってみたいこととか、夢っていうのかな、そんなものをちょっと聞かせていただけたらと思うんです。

平田　私も。そのう…強いて言えば、どれくらい自分を律していけるかどうかわかりませんけど、人々の世話をするということが好きですから。そういうことを考えてみたときに、司祭職は魅力的じゃないのかなあ。

―具体的にやりたいこととかやってみたいことと、夢っていうのかな、そんなものをちょっと聞かせていただけたらと思うんです。

羊のための牧者を目指す

平田　えー、羊のための牧者でありたいという気持ちです。もちろん、牧者が中心になって引っ張っていくんでしょうけど、気持ちとしては、羊の中に入っていって羊と共に歩んでいくというような司祭をめざしてます。ちょっと抽象的になりましたが（笑い）。で、どんなことをしたいかっていうと、まず人とのふれあい、信者とのふれあい、自然的な面も大切にしたいし、明るく、楽しい雰囲気をもった教会づくりをめざしていくような司祭でいたいと思います。

―青木さんはどうですか？

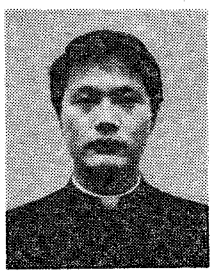
青木　イエズスさまのような牧者っていうか、それを自分なりに考えていくというか、とにかく自分だけで何かするとかじゃなくて回りの人と協力してやっていくことを大切にしたいです。

―では、過去の神学校の生活を（笑い）。

―そうそう、大変！（笑い）

神に捕えられた感じ

川上　何かこう…いいあらわしきれないんですけど。



やっぱり捕えられたんじゃないですかねえ。

平田　私も。そのう…強いて言えば、どれくらい自分を律していけるかどうかわかりませんけど、人々の世話をするということが好きですから。そういうことを考えてみたときに、司祭職は魅力的じゃないのかなあ。

―具体的にやりたいこととかやってみたいことと、夢っていうのかな、そんなものをちょっと聞かせていただけたらと思うんです。

羊のための牧者を目指す

平田　えー、羊のための牧者でありたいという気持ちです。もちろん、牧者が中心になって引っ張っていくんでしょうけど、気持ちとしては、羊の中に入っていって羊と共に歩んでいくというような司祭をめざしてます。ちょっと抽象的になりましたが（笑い）。で、どんなことをしたいかっていうと、まず人とのふれあい、信者とのふれあい、自然的な面も大切にしたいし、明るく、楽しい雰囲気をもった教会づくりをめざしていくような司祭でいたいと思います。

―青木さんはどうですか？

青木　イエズスさまのような牧者っていうか、それを自分なりに考えていくというか、とにかく自分だけで何かするとかじゃなくて回りの人と協力してやっていくことを大切にしたいです。

―では、過去の神学校の生活を（笑い）。

櫻井　ほんとに楽しかったときは、みんなと一緒にできたときですね。いちばんつらかったときは、やっぱり人とうまくいかなかったときです。ぼくも孤独を感じるときが、いちばんつらかったですね。

―うん。

川上　それと楽しかったのはみんなで何かをやってるときっていうか。今まで四人一緒に歩いてきたんですがいちばん大きな岐路になったのは、ぼくにとっては神学科にあがるときだったんです。

―神学科にあがるときね。

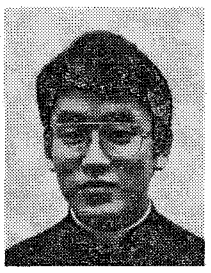
川上　はい。ほかの三人はどっちかっていうと優等生ですから、もう自分がいちばん心配してたんですよ。

―そお。

川上　そのう判定会では、自分はダメじゃないかって……そんなときに、丁度月曜日に教授会があったんです。月曜日というと教区の神学生が集まってロザリオをする日なんですけれども、今はどちらかというと、何かいろいろしなければいけないことがたくさんあるようで、かえって手につかないというところです。すべてを忘れて、祈りを通して準備しなきゃいけない時期じゃないかというような感じがしています。

弱さの中で働く神を体験

青木　ええ、私も小さい時からで、それに大神学校ですずっと生活して、自分をみつめる中で自分の弱さっていうものを体験することが多かったんですけども、その中でほんとに神さまが私を召してくださるっていうことを感じたんですね。それで今、その神さまのことを人に知ってもらったら、ほんとにすばらしいことじゃないかなあって、そういう気持が自分としてはあります。



―川上さんは？

川上　まず、憧れていた司祭に早くなりたいなあっていうのがありますけど反面、神父になったあと、恐らく神父さま方をみてて、やっぱりいろいろ大変だなあと思うし…

櫻井　ハッ??あんまりここで言うとあとでせんやったら何か…

一同　（爆笑）

櫻井　どういう司祭になりたいかっていうと。

―どちらでもいいですよ。

櫻井　ぼくは、宣教師の神父さま方に世話してもらってずっとここまで育ってきたんで、このごろ、宣教っていうことをよく言われていますが宣教師の神父さまというのは私の知っている限りではほんとに生活も質素だし、教会のための仕事をしているし、自分の遊びの時間とかほとんどないし、部屋をみても、何もないし、ただベッドと机だけ。自分の神学校の部屋とくらべると、ほんとにガクッとくるんです。

私はこんな宣教師の生きかたというものを尊敬していきます。

―なるほど。川上さんは？

川上　うーん、ぼくは、あの…抽象的になりましたが（笑い）。で、どんなことをしたいかっていうと、まず人とのふれあい、信者とのふれあい、自然的な面も大切にしたいし、明るく、楽しい雰囲気をもった教会づくりをめざしていくような司祭でいたいと思います。

―青木さんはどうですか？

青木　イエズスさまのような牧者っていうか、それを自分なりに考えていくというか、とにかく自分だけで何かするとかじゃなくて回りの人と協力してやっていくことを大切にしたいです。

―では、過去の神学校の生活を（笑い）。



櫻井　ほんとに楽しかったときは、みんなと一緒にできたときですね。いちばんつらかったときは、やっぱり人とうまくいかなかったときです。ぼくも孤独を感じるときが、いちばんつらかったですね。

―うん。

川上　それと楽しかったのはみんなで何かをやってるときっていうか。今まで四人一緒に歩いてきたんですがいちばん大きな岐路になったのは、ぼくにとっては神学科にあがるときだったんです。

―神学科にあがるときね。

川上　はい。ほかの三人はどっちかっていうと優等生ですから、もう自分がいちばん心配してたんですよ。

―そお。

川上　そのう判定会では、自分はダメじゃないかって……そんなときに、丁度月曜日に教授会があったんです。月曜日というと教区の神学生が集まってロザリオをする日なんですけども、特別にその日は、四人でしたんですが、そのときは、なんていうかな、お互いにお互いのために祈りあおうじゃないかということになったんです。それがとっても嬉しかったんです。

それから、先輩の叙階式に何度かあずかりましたけど、それがいちばん支えにも励みにもなりました。

―最後に、一つは今の、小、中学生、高校生に一言。それから神学生に一言。そして信者の皆さんに一言。最後に先輩の神父たちに一言。ちょうど四つになるわけ。

一同　（笑い）

―子供たちには。青木さんから。

青木　やっぱり、私たちはキリスト者ですので、ほんとうにキリストをいつもさがし求めている。だからキリストをさがし求めてほしいと思います。教皇さまがいわれた言葉に「イエズス様をさがし求めなさい、イエズス様を愛しなさい、イエズス様を証ししなさい」とありましたが、自分の心に強く残っていますので、その言葉を若い人たちに贈りたいと思います。

―じゃ後輩の神学生に、川上さんから。

川上　後輩の神学生に望むことは、ほんとに、一緒に働きましょう。待ってます。ということをまず。やっぱり、キザかな（笑い）。キリストを中心にキリストと共に、一緒に歩んでいきましょう、といいたいです。

―信者の皆さまに対して

平田　（かしこまって）信者の皆さま！

一同　（大笑い）声を大にして言えヨ。

平田　今から私たちは司祭になろうとしてますけれども、皆さんの小教区にいったときには、それぞれ欠点もあると思いますが、よろしくお願いします。もしそういう面がありましたら、どうぞ祈りでカバーしてください。

―それでは大先輩たちに対して

櫻井　これうまいこと言うとかにゃ。

一同　（大笑い）

櫻井　まあ、かわいがってください。どうぞ導いていってください。司祭になってもいろいろ問題起したりすると思いますけど。それも正しく指導していってください。怒らないで、やさしく。

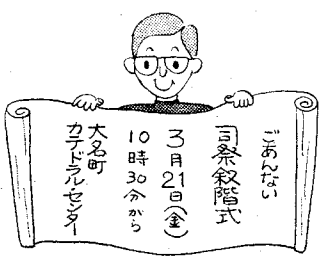
―やさしく指導してほしいわけですね。

櫻井　いたわってください。神さまのように調和のとれた

一同　（爆笑）

―きょうは、お忙しい時間をさいていただきありがとうございました。教区は皆さんの若い情熱を待望しています。そして、皆さん自身が私たちにまず宣教の具体的な手本を示してくださることを願っています。それでは司祭叙階のためのよい準備ができますようにお祈りしています。





四人の横顔紹介

まもなく教区司祭が4人誕生、下町師以来三年ぶり。叙階される日を静かに待つ4人の助祭は、祈りによる皆さまの支えを待っています。

青木　悟（あおき　さとる）
①一九五九年九月五日
②ペトロ
③今村教会
④3月23日(日)午前9時
今村教会

平田　三好（ひらた　みよし）
①一九五九年六月一五日
②ペトロ
③今村教会
④3月23日(日)午前9時
今村教会

川上　惣一（かわかみ　そういち）
①一九六〇年三月六日
②ヨゼフ
③小倉教会
④3月22日(土)午後7時
小倉教会

櫻井　尚明（さくらい　なおあき）
①一九五九年七月三〇日
②ヨハネ
③佐賀教会
④4月6日(日)午後1時
佐賀教会（準備の都合上、参加くださる方は佐賀教会までご一報くだされば幸いです。）

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1―12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州(093)671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

小さな人々への暖かい手

手取教会のひとすみに灯



ひとりで悩まずに……

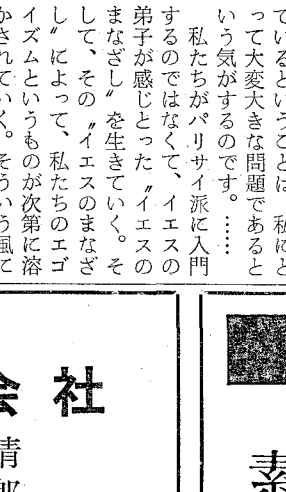
いのちの電話

熊本いのちの電話事務局

『熊本いのちの電話』が開設されて四月でまる一年になる。『いのちの電話』は、思想、宗教、信条をこえた民間のボランティアによって維持運営されている。熊本は、九州で3番目のもので、林英夫さんなど教会関係者の熱心な働きかけによって準備され、現在も一三〇名ちかいスタッフが24時間体制で一日約20件もの電話相談を受けている。

もともと『いのちの電話』は自殺防止の目的で、イギリスで設立され、日本では、昭和46年の東京開設が皮切りである。電話相談員は養成訓練をうけて「人の悩みを聞き、共に苦しみを分かち合うという働きの中で、自分自身の人格を高める」ことが求められている。相談内容も時代を反映している。一時期はサラ金問題が多かったが、最近はマルチ商法やクレジットのトラブルでの相談が多い。夫の浮気や若い人からの性についての深刻な相談も多い。匿名で気軽にかけてくるものが多く内容が露骨でとまどうこともあるようだ。電話をかけてくる年令層では若い人たちが多い。子供たちからもかかってくる。お年寄りはなぜかすくない。電話で話すことに慣れていないのか、家人を気にしているなどの理由も考えられる。相談者のなかには具体的な解決策を求めてくる方もいる。このような電話相談にかかわっているボランティアでもある手取教会の一信徒は、次のように言っている。「向こうが電話を切らないかぎり、こちらからはきりません。どんなことでも傾聴するという姿勢が大切です。すぐどうしたらいいと言いたくなりますが、指導型ではだめです。一方的に話すのはよくありません。ボランティア自身が変らなければなりません。それは自分自身との戦いです。電話をかけてくる方はひとりで悩んでいます。隣近所との付合いもない。『いのちの電話』だけがたよりなのです。」

地味で苦労の多い仕事ではあるが、しかし、小さな人々にさしのべる手の多さと暖かさを感じさせる『熊本いのちの電話』である。



糸島郡・深江海岸にて

中村神父修道服でひとり旅

前高宮教会主任で、現在浦和教区北浦和教会で働く、フランシスコ会の中村道生神父は、叙階10年を記念し、さる1月4日京都を出発、26聖人の足跡をたどる旅をされた。

茶の修道服、手にロザリオ、背に11キロのリュックという出で立ち。1月30日福岡入りした師は、途中、托鉢もされたということで、すっかり日焼けし、やつれが感じられた。出身教会である大名町教会が、まもなく取り壊されるのを知り31日、駆けつけた恩師鵜野神父と捧げた共同ミサには、50名ほどの信徒も参加した。思い出の聖堂で説教される師は「聖書の中に、はき物ははいてよいが、下着は二枚持つなとありますので三枚持って巡礼に出ました」と持ち前のユーモアには、少しのやつれもなし。ミサ後、数名が西新まで巡礼を共にし長崎までの無事を祈った。

おげんきですか



J・オブライエン神父様

2月3日、熊本市上通町の聖コロンバン会九州地区本部に、オブライエン神父様を編集員2人でお訪ねしました。

神父様は、「寒さを感じるのは年寄りになったからかも知れないョ」と笑いながら、懐かしそうに昔話を聞かせてくださいました。

一九〇九年アイルランド生まれ、24才で司祭叙階。宣教師として、一九三四年に来日。

最初の任地は千葉県の海上寮療養所。師は、大きな声でとなえる信者の祈りにびっくり。でも、毎朝聞いているうちに好きになり、そして信者の値打ちが分かるようになったこと、木造の小さい教会と司祭館のことなど、目を細めながら語られました。また戸塚文卿師や戸塚師のお姉さんとの親交も深く、当時の幅広いご活躍ぶりがうかがわれました。

熊本に来られて十八年。現在は、司祭館内でのご生活がほとんどのようです。

「一番の喜びは」の質問に「日本の司教様が全部日本人になったこと」と即答がかえってきました。「日本人は私が今まで見た国で一番いい人、もしも信者になりますならば…そして信者になります。将来きっと、そうです」。神父様の宣教熱は、まだまだあつく燃えています。

(T)

幼子をわたしのもとに……

親と子の練成会

熊本手取教会で、教会学校主催の「親と子の練成会」が1月25日26日に行われた。

手取、島崎、健軍、帯山、菊池の子供達約80名と、親、教会学校リーダーなど総勢一二〇名が、信徒会館ホールに会した様子は、教会共同体としての連帯と一致を示すものとして感動的だった。また信者の少ない社会の中で、他の教会の子供達との交流は、大きな励まし、力、自信を呼び覚ますようだった。

指導のシスター高木慶子(援助修道女会)は「秘跡ってなあに」のテーマで、見えない神様の愛と恵みが、具体的に見える形を通して私たちに示されることを明示し、「ご聖体とゆるしの秘跡」「ミサ」について、子供たちには易しい言葉で、親とリーダーのためには専門的なこと、注意することなど熱意のこもった講話を展開された。

26日はグループに別れて、ミサの中で行われる共同回心

大楠教会司祭館落成

2月11日(火)午前10時より、大楠教会司祭館落成式が平田司教司式で行われた。

当日は落成式もさることながら、ルルドの聖母の祝日にあたっていたため、ミサには福岡市内はもとより遠方からも、多くの参列者を得、みな感動と喜びに満たされた。

カトリック・アクション



青年労働者の解放をめざす

JOC(ジョック)

司教団が発表した日本の教会の基本方針でいわれる「キリストの食卓を囲んでいない人々」の大多数は、日本の社会にあって「弱い立場に追いやられ、抑圧、差別されている」人々の群れではないだろうか。司教団は「まず今日、人々がどんな苦しみ、悩み、また希望を抱いて生きているのか、その実態を知る必要」を説いている。

また同時に、この社会の中にすでにある福音的なものを発見すること、さらに「小さな人々」と共に働く教会になることを求め、教会の使命は「社会そのものが、福音化されるようキリストと共に働くことである」と明言している。

JOCとはフランス語のJeunesse Ouvriere Chrétienne(キリスト者の青年労働者の運動)という意味である。JOC運動は、一九一一年にベルギーのカルデン神父と数人の若者によって始められた。それから次第に全世界に広がって、現在は一一〇ケ国以上の国に、このJOCが存在している。日本では27年前に北九州の小倉教会でスタートし、その後、九州から北海道まで広まっていった。

JOC運動を通して青年たちが生きる喜びを見つけ、仲間をつくり、自分たちにも取れる責任を見い出し、社会の中にある種々の矛盾に気付き、不正義と闘う福音的な教会の運動である。

カトリック青年労働者連盟福岡教区指導司祭コース・マルセル丁寧な解説によって、理解しやすい子供中心のものとなった。教会で、いつも大人の後に隠れてしまう子供達が、この日は主人公となり、大人以上に真剣に祈る姿は、私達大人のメンタリティーの見直しと絶えざる回心の必要性を、呼びかける御父の心のようだった。

(幼きイエズス会 Sr.境 和子記)

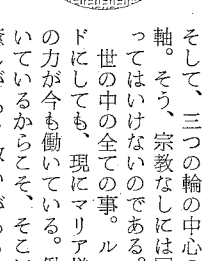
輪軸

松本たか子

朝倉郡、朝倉山の麓にあり、ここは筑後川の水量豊かな地である。阿蘇から日田に山越えするルートと、久留米から甘木方面に行く道と二通りある。

三連水車、その名の通り三つの輪が並んで一つの水車をなしている。六月、梅雨時になれば、豊富な水で水車が動きだす。夏を告げる重要な風物詩だ。この頃から周りの田に水が入り、田植が始まる。

いつの頃、この水車が造られて人々に愛されるようになったか定かでないが、重要文化財の指定を受けるような力を持っているのは、今だに目的をもって働き続けているということに他ならない。



白田席

我々は、この事実を目前にして三つの輪、つまり、父と子と聖霊によって、水すなわち、命の源、生命源を思わずにはいられない。そして、三つの輪の中心の軸。そう、宗教なしには回ってはいけないのである。

世の中の全ての事。ルルドにしても、現にマリア様の力が今も働いている。働いているからこそ、そこに癒しがあり救いがあるのだ。だから、私たちも、この父と子と聖霊の働きによって、尊い水をくみとろう。

普通文化財といえば、もうその働きはなくなって、郷土館の中でひっそりと口を閉ざしたまま、姿、形を留めるしかないが、この三連水車は、今だに力強く働き続けている。

(熊本・菊池教会)

BOOK 読みま専科

☆人はなぜ生きるか

井上洋治著



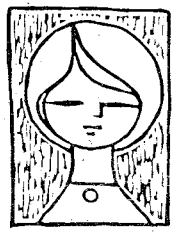
この本は、著者が日本人の彼にとってイエスとは何であったかを、借りものではなくて自分の汗と脂とで織った思索をみせながら話している。

「明治以来、日本の人たちがキリスト信者に対してもってきたイメージというものが、イエスのイメージでなくて、パリサイ派のイメージになっているということは、私にとって大変大きな問題であるという気がするのです。……

私たちがパリサイ派に入門するのではなくて、イエスの弟子が感じとった〝イエスのまなざし〟を生きていく。そして、その〝イエスのまなざし〟によって、私たちのエゴイズムというものが次第に溶かされていく。そういう風になった時に、イエスの愛、イエスの福音というものが日本人の心にも次第に根ざしていくのではなかろうか……。」

―本文より―　(講談社)

☆小島義也画集



福岡・笹丘教会の信徒であった故小島画伯の画集が出版された。

一見、単純、簡素な印象を与える小島氏の作品だが、実は視野の広い緻密な思索を土台としている。

ご家族は、笹丘教会所属。(八、〇〇〇円)

お申し込みは、聖パウロ書院まで。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092―531―1231

祭壇・洗礼盤他
石材素材
石の理想の大御所
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（三月）

4日　司祭集会
9日　ムルグ師来日50周年
15日　選任式（大神学院）
18日　菊池聖母幼稚園卒園式
21日　司祭・助祭叙階式
27日　聖香油のミサと銀祝司祭の祝賀会11時
28日　聖木曜日（大名町）
29日　聖金曜日（大名町）
30日　聖土曜日（大名町）
復活祭（大名町）

福岡黙想の家

2月12、13日　新田原教会中学生練成会
＊四旬節の間、毎週日曜日の午後2時から十字架の道行をしています。どなたでも、ご自由にご参加ください。

親と教会学校リーダー学習会

日時　3月21日（金）午前9時～午後4時
場所　熊本・手取教会信徒会館ホール
指導　Sr.高木慶子
（昼食持参。お茶の準備あり）
連絡先　手取カトリック教会 ☎096—352—3039
又は、熊本信愛　Sr.境

ジョイント・コンサート

日時　3月22日（土）午後6時30分開演
場所　熊本郵便貯金会館ホール
出演　熊本・久留米信愛女学院教師陣
入場料　一般　一、〇〇〇円
学生　五〇〇円
問い合せ　☎096—378—6110

教会奉仕者選任式

3月15日（土）午前10時
聖スルピス大神学院で
森山信三神学生（箱崎教会）が教会奉仕者に選任されます。

司祭・助祭叙階式

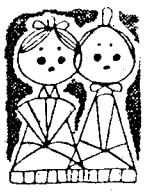
3月21日（金）午前10時半
カテドラル・センターで
山下正神学生（大楠教会）の助祭叙階式が、司祭叙階式に併せて行われます。

福岡地区高校生の長崎巡礼

3月25日（火）～26日（水）に、信仰のふるさと長崎を求めて福岡地区高校生の巡礼を企画しています。
対象　福岡地区の高校一年～三年（今年卒業予定の方も歓迎します）。
定員　30名（予約受付は3月7日△金▽まで、先着順）
会費　一人　二、五〇〇円（宿泊費も含む）。
備考　25日（火）の昼食は、各自弁当持参。
連絡先　福岡・聖パウロ修道院
（福岡地区高校生担当司祭）
山内堅治神父
☎092(531)0924

教区人事

教区青少年担当司祭
深堀勝人師（小倉教会）
クルシリオ指導司祭
渡辺隆義師（小郡教会）



いぶき

悔い改めなさい

四旬節の霊性は、「悔い改めなさい」の一言に要約されると云っても、決して過言ではありません。しかしこの場合、「誰に」、「何についての悔い改め」が求められているのか考察されるべきでしょう。

四旬節第四主日の福音では、「放蕩息子」のたとえが、そして第五主日のそれでは、「姦通現場で捕らえられたあわれな罪の女」についての記事が読まれます。

教会はこれら二人の登場人物を介して、たとえ人間的弱さのゆえとはいえ、自らの自由意志によって神の愛に背を向け、神の法を無視して生きてきたすべての人に、神のみもとに帰るようにと招きます。放蕩息子の慈父的愛に満ちた父と、罪の女に、「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはいけない」と、権威をもって言明されるキリストのみ姿は、悔い改めを必要とするすべての人に、神の赦しについての確信と勇気とを与えます。

しかし「悔い改めなさい」というキリストの叫びは、放蕩息子や罪の女に対してだけではなく、自分たちの罪に気づかず、むしろかれらを罪に定め、かれらを激しく非難していた人々にも向けられていたことに注意しなければなりません。

放蕩息子の兄は、明らかに弟を軽蔑し、かれを受け入れようとはしません。だからかれは父に、不満と怒りを露骨なまでに表すのです。しかしキリストは、放蕩息子の父の言葉を借りて、このような兄をなだめ、自分と共に喜びを分かち合える人となるように強く求められるのです。

姦通の女の場合も同じでした。罪の女をキリストのもとに連れてきて、モーゼの律法にしたがって、今にもかの女を石殺しにしようといきり立っている人々にキリストは、「あなたがたのうち罪のない者が、まずこの女に石を投げなさい」、と仰せられました。その結果、「人々は、年長者たちを始め、一人、また一人と去っていった」のでした。

すなわちキリストは、弟を罪人呼ばわりする放蕩息子の兄にも、罪の女を誇らしげに取り囲む群衆にも、それぞれの悔い改めを求めておられるといえるのです。

このように考えると、「悔い改め」は、いわゆる公的な大罪人だけではなく、喜ぶ人と共に喜び得ず、また泣く人と共に泣くことのできない、心の狭いわたしたち、「兄弟の目にあるおがくずは見えるのに」、「自分の目にある丸太には気ずかない」で、容赦なく他人の非をとがめ、非難しがちな弱いわたしたち、すなわちすべての人に求められているのです。

わたしたちは、以上考察したような意味の「悔い改め」を、キリストからの貴重な勧告として謙虚に受け入れ、これを何らかの方法で、とくに四旬節中の実生活に生かさなければなりません。そうでなければ、四旬節第三主日の福音に読まれるように、かつてピラトの塔におしつぶされた十人の死を、かれらの罪の結果として、あたかも他人事のように語っていた当時の人々に仰せられたキリストのみ言葉は、そっくりそのままわたしたち自身に向けられることになるでしょう。「あなたがたも悔い改めないと、皆同じように滅びる」と。

換言すれば、キリストがわたしたちに求められた「悔い改め」の勧告には、単なる罪からの解放だけではなく、わたしたちが霊的生活をより深め、より充実させるように、というキリストの切なる願いがこめられていると云えるのではないでしょうか。

山内清海
（サン・スルピス大神学院教授）

二月の司祭評議会より

一、福音宣教推進全国会議準備のための福岡公聴会の開催
日時　4月28日（月）18時半～29日（火）16時
場所　大名町教区センター
出席対象者　各小教区信徒・修女連・教区外の参加者
尚、鹿児島公聴会は4月5日・6日鹿児島第一ホテル
二、公聴会のための準備委員会を2月16日発足
三、司祭叙階式
3月21日（金）10時30分
カテドラル・センターで
四、カテドラル・センターの維持管理に関する諸問題

第5回聖霊による刷新九州大会

期日　5月3日（土）午後4時半から6日（火）昼まで
会場　厚生年金、沖縄うらそえ荘
会費　二〇、〇〇〇円
定員　一二〇名
申し込み、問い合せ先
熊本県菊地郡合志町豊岡一九〇〇—五九
カトリックの家
☎096—248—3752
参加申し込み者には、追って詳細をご連絡します

献金報告

邦人司祭育成の日
一、八四五、〇九二円

児童福祉献金
五、五八九、七五七円

ご協力ありがとうございました。

編集室から

「熊本いのちの電話」にかかわっている一信徒の言葉は、教会の司牧者たちにずしりと重い。人のいのち、生きざまにかかわっている人たちは、まず聴かなければならない。しかしこれほど難しいものもない。

教区報「カトリック」も最近やっとまともに読んでいただいているらしく、いろいろ暖かいご批評、助言などをいただいているが、それはとりもなおさず教区報の与える影響の大きさに比例してくる。

教区報を単なる「官報」におわらせず、教区民の新聞にしたい。そのためにも、一本筋をとおしておきたい。この筋が「キリストの福音」であるように願う。

読者の皆さま方からのきたんのないご批判、助言を傾聴したい。皆さまからのご投稿、ニュースの提供などもあわせて待っています。（渡辺）

主な教会の聖週間の典礼

教会名	聖木曜（3月27日）	聖金曜（3月28日）	聖土曜（3月29日）	復活の主日（3月30日）
大名町（福岡市）	19：00	19：00	19：00	6：30 9：00
小倉（北九州市）	19：30	19：30	19：30	6：45 10：00
久留米（久留米市）	19：00	19：00	19：00	6：30 9：00
佐賀（佐賀市）	19：00	15：00	19：00	7：00 9：00 18：00
手取（熊本市）	19：00	19：00	19：00	10：00

カトリック新聞（全国版）も読みましょう

定価一部　一三〇円
一年（48回）七、三〇〇円
半年（24回）三、七〇〇円

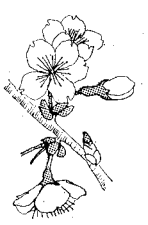
のときのことのは

花のほかには松ばかり
花のほかには松ばかり
謡曲「道成寺」

出典は寺伝や今昔物語巻十四。女人禁制の道成寺（橘道成創建といわれる）に白拍子（清姫）が舞いを舞うからといって、鐘供養に参加することが許されるときの状景。くれなずむ夕方、あるものはほの白い桜ばかり、そのほかは緑の松。日本美の極致である。宗達が金泥の屏風（びょうぶ）にこれを画いてくれたら、と想像するだけでゾクゾクする。

虚子に「執心は鐘にまつはる花吹雪」の句がある。歌舞伎の娘道成寺では、このあとに有名な鐘に恨みはかずかずござるの名セリフがくる。紀州の日高川の水かさがませば蛇となってわたり、鐘の中に安珍がはいっていると思えば、焼き殺す。あな恐ろしや、人間というものの執念。

（森山敬三）



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL　092—531—3831
夜間　092—521—0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電 (092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

行って福音を宣べ伝えよ

青木悟神父・平田三好神父 川上惣一神父・櫻井尚明神父 誕生

山下正助祭・森山信三教会奉仕者も



櫻井神父　川上神父　青木神父　平田神父

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座 福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば
早く行って
弟子に告げよ
主は復活された
（マタイ28・7）

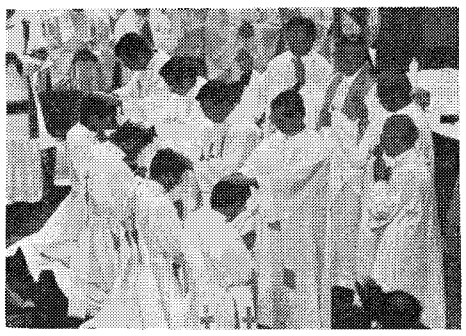
盛大に司祭・助祭叙階式を挙行

一、二〇〇名の信徒と六八名の司祭が見守る中

四司祭と一助祭の叙階式が3月21日（金）新築されたカテドラル・センター大名町教会で盛大に挙行された。

司祭・助祭受階者の教会はもとより、多数の教会から一、二〇〇名にのぼる参列者のため聖堂は収容できないほどであった。

「きょうこそ神がつくられた日」の聖歌の大合唱の中、十字架を先頭に助祭職の叙階を受ける山下正氏、司祭職の叙階を受ける青木悟、平田三好、川上惣一、櫻井尚明の各師、その後を68名の司祭団と司式の教区長平田三郎司教が厳かに入堂した。



平田司教は、説教の中で司祭の三つの任務すなわち、宣教者としての任務、牧者としての任務、祭司としての任務を思い起こさせ、さらに、司教とのつながりを大切にし、司祭団との交わりの中で、自分に与えられる司祭としての任務を、遂行していくようにさとした。

説教の後、司教の前に助祭受階者と司祭受階者が呼ばれサン・スルピス大神学院院長高木善行師を通して、選出の確認が行われた。まず、山下正助祭受階者が助祭職を受ける決意を表明。生涯独身を守っていく決意と聖務日課を唱える決意の表明がなされ、司教に対しての尊敬と従順の約束がなされた。司祭受階者も司祭職を受ける決意の表明と司教への尊敬と従順の約束を行った。

参列者は叙階の恵みを求める連願を歌い、その後司教は、助祭叙階者に按手と聖別の祈りを唱えた。こうして、山下正助祭が誕生した。

次に、司教は司祭叙階者のために臨席の司祭たちも一人ひとり兄弟に按手し、聖霊の恵みを祈った。その後、司教は聖別の祈りを唱えた。司祭用祭服の着衣のあと聖香油の塗油、パンとパテナ、ブドウ酒と水とカリスが授与された。こうして誕生した新司祭と司教が、まず平和のあいさつを交わし、さらに兄弟となった司祭団また参列者との平和のあいさつによって、新司祭としての喜びを表した。引き続いて四人の新司祭は、司教を囲んで感謝の典礼をささげた。新司祭は各々の両親に聖体を授け、喜びを共にした。



参列者は、司祭叙階式の荘厳さの中に神の恵みの満ちあふれを体験し、新司祭の前途に神の豊かな祝福を祈った。

助祭に叙階された 山下正師

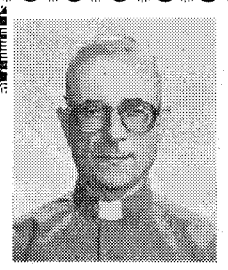


森山神学生は教会奉仕者に選任

森山信三神学生は、三月十五日（土）サン・スルピス大神学院聖堂にて、平田三郎司教により教会奉仕者に選任された。

交流の中での福音宣教

徳山登神父



最近、信者のひとりに導かれ、禅の研究と坐禅の体験を得る恵みを得ました。

私には何の抵抗もなく、入っていけました。

それは、十字架上の聖ヨハネなどのカルメルの霊性に感動しました。とりもなおさず、そこに神さまのみ業と慈しみを見ました。日本人の旧約の教育も、しっかりなされています。決して、零からの出発ではないのです。

私自身、三十余年、日本に学び育てられてきました。日本は今や私の第二の故郷、育ての母であります。日本人が大好きです。宣教師の大先輩聖フランシスコもこの日本人の人間性の豊かさに感動されたに違いありません。なぜなら、宣教の基いは、愛にあるからです。愛は上からの恵みや援助でなく、対等な交流であります。共に分かちあい、求めあうものです。

日本人は、誇り高い民族です。そこが、すばらしいのです。

彼らの種々の方法での真剣な求道生活を高く評価しましょう。決して一掃しようなど、傲慢な考えは捨てるべきです。

それはある時、華道でありますし、茶道、書道であります。

また、神さまは仏教や諸宗教の儀式や信心業を通しても、彼らを導いていらっしゃいます。

一方的宣教でなく、ひとりひとりの今までの歩みを尊重し、対話の中に、ゆっくり相手の中の神さまを、共に探り出す努力をすべきでしょう。

〝急がば、まわれ〟という日本の諺のように、ゆっくり、そして、いたずらに数字と形にとらわれない宣教活動でありますように。

ユダヤ教の世界で、キリストさまも、「私は、律法や預言者を廃するために来たとは思ってはいけない。――完成するために来たのである。」（マテオ5・17）と仰せられました。

（パリー外国宣教会　北九州支部）

笑いという祈りをとり戻そう

スズランマック講演会

スズランマック（女性アルコール中毒者回復のためのセンター）講演会が、2月24日（月）司教館で開催され、雪の中、約50名が同センターの井口貴志、神山美紀両氏の体験発表に聞き入った。

参加者のひとり鬼木久美さんは、「私たちには、あまり関係のないことという気持があったが、アルコール中毒で苦しんでいる方が多いことを知り、同じ女性としてこの友のために手をかしてあげたい。なぜなら病める人々のうちにも神はともにいてくださるから。孤独になりがちなこの時代、隣人に声をかけることも大切です。祈りと共に理解と協力をしていけたらと思います。」と語っている。会場での援助募金二八、八一五円が、2人の講師に手渡された。



講演中の井口貴志氏

みちくさ

「：神父様」と呼ばれてなんとなくテレくさく感じたりとまどったりした日々がなつかしい。いつの間にか「：神父様」ということばに妙に権威を持たせている自分に気づいてハッとする。こんな感慨の中で、四人の新司祭の誕生を見守り、小さな願いを語ろう▼よく「司祭は第2のキリスト」といわれる。味わい深い言葉だと思う。それは聖職者の権威のよりどころ以上の意味を持っていると思うのだが。真の権威者としてのキリストは、まず、『仕えられるためではなく、仕えるためにきた』奉仕者であり、『いなくなった一頭の羊を探しまわる』牧者、『いっしょに近くのほかの町や村にも福音をのべ伝えに行こう』といわれた宣教者ではないだろうか▼わきおこる会衆の歓呼の中を歩む新司祭たちに、エルサレム入りされた受難のイエズスの姿が重なる。あの時と同じように人々は、じきにあなたに失望し、あなたのもとを去っていくだろう。そしてあなた自身も自分の無力さに涙することだろう。その時、あなたはかたわらに、主のうちにある兄弟姉妹が共にとどまってあなたを支えているのを見るだろう▼司祭になるということは、キリストと共に世のさからいのしるしとなることではないか。世間並みの安定した、優雅な司祭生活願望など『人の子には枕するところもない』といわれたナザレのイエズスには無縁のはずではなかったか▼若きキリストの弟子たちは、徹底的にイエズスの生きざまにならう者であってほしい。くれぐれも『彼らの言うことは聞き、実行しなさい。しかし行ないを見ならってはならない』などと主からいわれないように気をつけよう。人々の痛みにおける神の痛みのわかる司祭になってほしい。人々と痛みを分かち合える司祭になってほしい。

司祭として「みちくさ」をくいながらも、ふと、そんなことを考えるのである。

あの人の勧めだったらつ

あの人の勧めだったらつされ、彼ら独特の使命を教会いていける、というような内で果たすことができるよう信徒が小教区に何人かいてに、私たち司牧者・司祭は信くれますと、次第に小教区徒をみる目を持たなければなが活力に満ちたものになるらないと思います。

と思うのです。

信徒使徒職協議会などのメンバーにも、ほんとうにすばらしい信者さんがおられます。こういう方たちに活発に働いてもらう必要を強く感じます。

りっぱな信徒の養成がなことにいたるまで自分の許可を得なければだめだ！と か、越権行為だとか言われますと、その一言でもう魂はちぢんでしまいます。

私は、野放図に信徒の要求にこたえなさいということは言いませんが、信徒司祭団との交わりの中で、自分に与えられる司祭としての任務を、遂行していくようにさとした。

説教の後、司教の前に助祭受階者と司祭受階者が呼ばれサン・スルピス大神学院院長

司教は語る ③

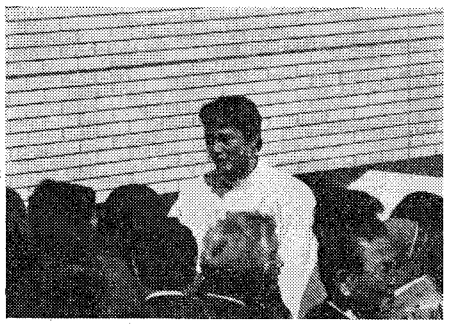
司牧者も信徒の使徒職について理解を

残念なことですけど司祭のほうからブレーキがかかってしようがありません、動けまうことを、まず司牧者がはっきり認識しておく必要があると思います。

も使徒である、宣教のために遣わされた者であるということ、せん、という話を熱心な信者たちから聞くのです。細かい

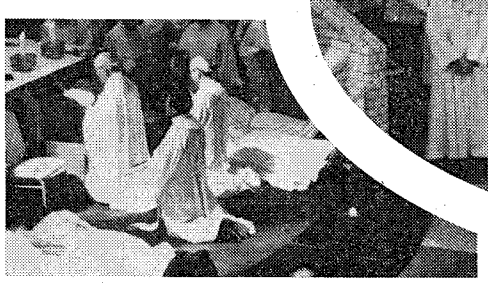
祝 司祭叙階 こだまする喜びの声

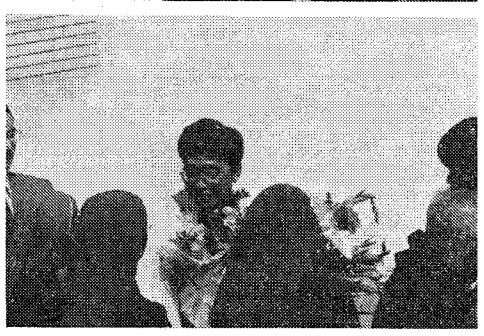
おめでとう！がんばれよ！よくやった！神に感謝！





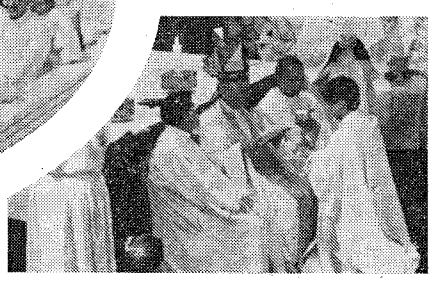


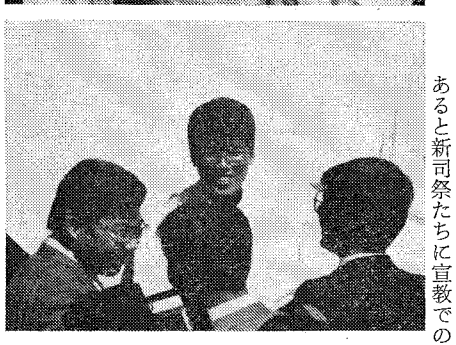








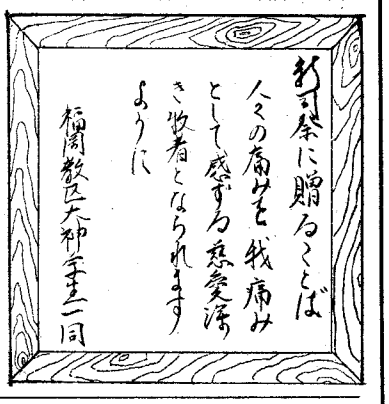




司祭・助祭叙階式のあと、聖堂内で祝賀式典が行われ、平田司教はお祝いのことばの中で、叙階式は終わりではなく始まりであることを強調した。つづいて司祭団を代表して山田成章神父が、牧者として時には信者の先頭に立って歩かなければならないこともあると新司祭たちに宣教での積極的働きを期待していることを表明した。また信徒を代表して、小倉教会の村田健三氏は、パウロの手紙から「わたしたちも、自分たちが神から慰めていただくその慰めによって、あらゆる苦難の中にある人を慰めることができるのです」[Ⅱコリント1・4]をはなむけのことばとして贈った。受階者たちを代表して青木悟神父は、祈りと犠牲によって支えてくれた信徒に感謝し、先輩司祭たちには兄貴としての交わりを、司教には父としての指導を願った。あいさつのあと新司祭たちはまず両親に、つづいて参列者に最初の祝福を与えた。最後に新司祭・助祭の両親を代表して櫻井太郎氏があいさつにたち、司祭職への夢がかなった今、最期まで司祭としての歩みを続けることができるように一層の支えを願った。

「汝は永遠の司祭なり」を高らかに合唱して退堂。

屋外のテント張りの祝賀会場でも、皆共々に喜びにつつまれていた。



青木シツカ（母）

ほんとにうれしい！自分の子どもだけど、よくやってくれたと感心しております。神さまのおぼしめしだったんでしょう。

父親が病気で入院しているので、息子の叙階式に出席できなくて、とっても残念がっています。

川上直樹（弟）

おめでとう！家のことは、自分が守るから心配しないで神父としてがんばってほしい。沢山の人に祈り支えてもらったんだから、それに応えてほしい。

少しきびしい兄だったけど。中学から家族と離れて小神学校に入り14年、本当によくがんばったと思う。

ガザルディ（佐賀教会主任）

一見、地味そうですが、本当はとてもほがらかな人です。夏休みにはいつも教会にいて、仕事を手伝ってくれたり一緒にお祈りなどをしました。これからは、神学生養成という大切な仕事をするのですから、よく祈って知的にも霊的にもさらに深めてください。

平田高雄（父）

よもや我が家から、司祭が誕生するとは思わなかった。

どう言っていいかわからないけど……今の社会の中で司祭としてつらいことや難しいことがあると思うが、それをのり越えて、りっぱに司祭としての務めを果たしてほしい。

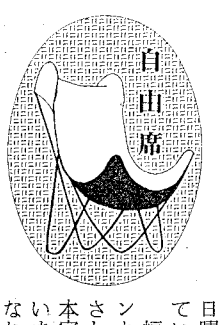
名前を書かない友よ

―二月号「そぼくな疑問」への返事―

なつかしい ボンカズ神父様

イシドロ・リバス神父

岡山市　坂倉　汎子



お手紙を読んで何回か感激しました。特にイエズスと本当に出会いたい若々しく燃える心はすばらしいというか、私もあなたの年代の時に、もっていたような希望で、とても身近に感じました。

一方ではイエズスと出会えないのは、決してイエズスの問題ではないはずです。いつもそばにいて下さるし、ありのままの私を受け入れ求めて下さるイエズスですから。問題なのは、まず「出会い」という言葉なのです。「出会い」よりも、多分イエズスから受け入れてもらっている自分の存在を、ありのまま認めるか、またはイエズスが私を求めてくれている安心感を感じれば、それはイエズスと出会ったしるしです。

もう一つの問題は自分自身です。自分がみにくいもので、ありのままの自分を受け入れていなければ、イエズスに受け入れてもらっていることを感じるなんて難しいでしょう。おすすめしたいことは、まず、ひとりで聖堂に入って前のベンチに座り、ありのままの自分の気持ち（例えば、落胆、不安、悔やしさ、あきらめ等）をイエズスに打ち明けて、その解答を待つことです。きっと受け入れてもらっている安心感、平安、安らぎなどを感じるでしょう。それはイエズスが受け入れてくださった、あるいは言いかえれば、出会って下さったことのしるしなのです。それができなければ、イエズス宛ての出せない手紙に、ありのままのその気持ちを書いてみませんか。イエズスに手紙さえ書けなければ私宛てにまた書いてみませんか。待っています。

〒102 東京都千代田区麹町6―5 聖イグナチオ教会

教区報楽しく拝見いたしました。福岡の地を離れて十数年たちましたが、やっぱりなつかしく思います。

私は、2月号の「おげんきですか」のボンカズ神父様が田川にいらしたとき、日曜日のオルガンを弾かせていただいておりました。

福岡を離れましても、ボンカズ神父様には年賀状等さしあげ、神父様からも日本字でお返事をいただいていましたが、今はお書きになれないとかで、今年は失礼しました。写真では、お元気のようにお見うけしましたが……。

ボンカズ神父様をはじめ洗礼を授けてくださった今は亡きドルエ神父様……。お世話になった神父様のことなど、なつかしく思い出されます。パリ・ミッション会の神父様方は、本当に神父らしい神父様でした。

ボンカズ神父様のお書きになったご本ができましたら、一番に買い求めます。

教区人事

▲平田敬　久留米主任（戸畑主任）▲浦俊雄　戸畑主任（湯川主任）▲平田寛　湯川主任（久留米助任）▲山頭原太郎　司教館（飯塚主任）▲下町豊重　久留米助任（小倉助任）▲山元真　小倉助任（ローマ留学）▲グリーン　水俣主任▲カロール　本渡主任（手取助任）▲ポール　人吉主任（手取助任）▲ア・ベルトラン　飯塚主任（八王寺主任）▲デシャンブ　八王寺主任（天神町主任）▲櫻井尚明　大神学院（新司祭）▲青木悟　手取助任（新司祭）▲川上惣一　大名町助任（新司祭）▲平田三好　新田原助任（新司祭）▲マグリン　鳥栖主任（帰国）▲山田成章　カテドラル宣教司牧室長・通勤▲三村邦明　久留米付（久留米主任）

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1―12　鳴井ビル2F
TEL　福岡(092) 471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092) 471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州(093) 671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712) 8022　久留米(33) 7401
佐賀((30) 4040　小郡(72) 3482

政治を変えたフィリピンのカトリック信仰

ラギダオ神父（光ケ丘教会）
教会の預言的役割を強調



歓びのLサイン

ウェンシー・ラギダオ神父様（オブレート会）に祖国フィリピンの政変について、語っていただいた。

編集部　きょうは、神父様のお国で起こったこと、一連の大事件についてお聞きしたいと思います。まず、フィリピンの大統領選挙が終わったとき、国民はアキノさんが勝利したという確信を持っていたのですか。

ラギダオ　もちろんです。でも、今のところ、どちらが勝ったのか、正確な数字はわからないんです。私の兄弟たちは「悔しいけど、もし私たちがアキノと書いて、あとからそれがわかったら、私たちは仕事をなくしてしまう」と言っていました。しかし、預言的な声は新しい風が必要だということでした。

編集部　マルコス政権崩壊の直接のきっかけは何だと思われますか。

ラギダオ　私は、夫アキノの暗殺だと思います。アキノ暗殺で、フィリピン国民も目が覚めたということです。

編集部　軍の決起には驚かれたでしょう。

ラギダオ　2月22日土曜日の夜9時のニュースを聞いて、国防省の隣の建物に住んでいる姉にすぐ国際電話をしたんです。「ニュースは聞いているんですか？」「ええ、教会のラジオベリタスで聞いています」「まあとにかく、今すぐそこから出なさい！」「わかった」と言ってたけれども。

編集部　フィリピンの政変にあたって真の力となったものは何でしょうか。

ラギダオ　私はやはり信仰だと思います。

編集部　マルコスさん一家も信仰を持ってたんでしょう。

ラギダオ　それはちょっと難しい問題ですけど。ひとりのおばあさんが「フィリピンの大統領はカトリック信者でしょ。なんでそんな悪いことをするんですか。」と言ったんです。それで、私たちは洗礼のときに白い服をもらったでしょう。白いからこそ、ちょっとの汚れでも目立つでしょうと答えました。しかし、あの何日間かの出来事をみてやはり素朴な人たちの信仰はすばらしいと思いました。

編集部　教会がだいぶ政治的な問題にかかわったようですが。

ラギダオ　摩擦はずっと前からありました。でも、社会に不正とか不義の力が働いているときに教会が何もしないというの悪じゃないですか。それで、フィリピンの司教団は一致してそれを表明したんです。

編集部　教会の指導者の影響力はどうですか。

ラギダオ　フィリピンのカトリック人口は85％ですから日本より大きいと思います。もっとも、フィリピンの現実は私の仕事はあるのか、明日何を食べるのか、来年子供たちは学校にいけるのかが、問題なのですけど。

編集部　日本のマスコミは今回のフィリピン情勢を、正確に伝えていたと思いますか。

ラギダオ　私は、反マルコスでしたから、とてもよかったと思います。びっくりしたんですよ。日本のマス・メディアっていうのはこんなにフィリピンに興味があるのかと。

編集部　ズバリ、アキノさんになって、フィリピンの民衆の生活はかわりますか。

ラギダオ　選挙の前まで、私はフィリピン情勢はどうしようもないと思ってました。でも今はそうじゃないと思います。多分これからも同じ問題がでるかもしれませんけど前よりもよくなると思います。アキノ政権が民衆、とくに小さな人々の声になるか、見守りたいと思います。

編集部　どうもありがとうございました。またいつか機会がありましたら、もっと突っ込んだお話をお聞きしたいと思います。フィリピン国民の新しい歩みを神が祝福してくださいますよう心から祈っています。

おけんきですか

3月17日夜、黙想指導で来福中の大分教区長平山司教様を二日市教会へお訪ねした。

司教様は、昭和32年3月19日浄水通教会で叙階された。福岡教区では、大名町・小倉・健軍などの小教区で司牧。その頃の思い出として、最初に関わった学生会メンバーとの聖書研究、先生方のグループだった学士会との勉強会は、思い出深そうだった。そして思い返すと、福音の精神を充分に伝えられなかったこと、あの頃の自分は、それだけ深くなかったから残念に思うといいながら、なつかしがっておられた。



平山高明司教様

昭和45年1月25日大分教区長として着任されて16年福岡教区信徒への一言に対して「福岡教区は、宝のつまった、遺産がいっぱいの教区だと思います。私たちの兄貴分として先達になっていただきたいです。」との言葉でした。お疲れにもかかわらず、快く応じてくださったことに感謝しながら、帰途についた。（F）

農林省で働いておられた司教様の、召命への道をお尋ねすると、実社会で生きる人々に「深い希望」のなさを思い、司祭の必要性を感じ祈り始めた。また、「牛飼いより羊飼いになろうと思いました。」と、いつものスマイルで話された。

高木善行師講演
召命は家庭での教育から



中央が高木師

3月4日、教区司祭集会が司教館で行われ、約50名が参加した。サン・スルピス大神学院の高木善行師は「召命と家庭」と題して講演。教区は召命減少、司祭不足の現実を教会全体の緊急課題としてとらえなければならない。そのためには、苗床である家庭での信仰教育の見直しをはじめ子供たちに「やる気」をおこさせる方策を考えることが大切だと強調した。

ひきつづき行われた分科会では、教区の召命促進のために、「召命のための祈り」をつくり定期的に祈ること、召命についての催し物を企画することなど、具体的な提案がなされた。

また、教区レベルでは、召命促進担当司祭をもうけることや小神学校のあり方について、より柔軟な対応が求められた。

最後に、司祭自らが青少年に召命の希望を持たせる生活をすることでさらに努力していくことを再確認した。

山元師帰国



教会法の研究のためローマに留学中だった山元真師は、

教会法の研究のためローマに留学中だった山元真師は、3月20日帰福。叙階式に元気な顔を見せた。

新任地は小倉教会。

師の今後の多方面にわたる活躍が期待されている。

山元神父帰国談

これから、教区の皆さんのため、精一杯がんばりますのでどうぞよろしく。

聖クララ修道院に
新院長着任

二月五日、永久聖体聖クララ修道院（福岡・大橋）で、高宮教会の中田神父様の司式により、待望の院長着任感謝のミサが行われました。新院長としてシスター・マリア・クララ丸山の着任に引き続き、二名の誓願更新式、修練者の着衣式、ひとりの入会志願式がとり行われました。

永久聖体礼拝を続けることを望んでおられたマザー・マリア・アントワネット（アメリカ出身）帰天後、二年にしてここに新らしい祝福をいただけたことを感謝いたしました。参列者は、聖クララ修道院が今後ますますみ旨を果たしていくことを再確認した。

着任のごあいさつ

東京・八王子からお手伝いさせていただくために、こちらに参りました。同じ聖クララの精神のもとに一致協力して、全くひとつの心で新しく歩みはじめることができるのは、大きなよろこびです。皆様のお祈りとご指導をも期待しています。

院長・丸山　喜美子

カトリック・アクション



この運動は、一九四九年にスペインで始まり、教皇パウロ六世はパウロをこの運動の保護者と宣言された。クルシリョは、各自の信仰を固め、神秘体である教会のなかで自分がどんな責任と使命を与えられているかを、深く考えさせ、教会刷新にむかって心を駆り立てる。

クルシリョの目標は一心にキリストのために生きるものになること、多くの人を神の御国にみちびき入れる者となることである。クルシリスタ（クルシリョに与った者）は、個人主義的行動や閉鎖的な信仰態度を徹底的にさけねばなりません。神秘体のかしらであるキリストとしっかり結びつくと同時に他のクルシリスタと協力し手をとり合って働き、励まし合うことが大切です。その一つの手段が毎週の「グミ」です。これは少数のクルシリスタ同志の定期的接触です。もう一つは月一度または三、四ケ月毎の、ある地域又は教区のクルシリスタ全員の集まり「ウルトレア」です。

ここでは、初代教会の信者たちがもっていた熱烈な信仰と福音宣教への奮発心を吹きこみ、教会に自分がどのように貢献できるか考えさせます。また四日間のクルシリョで受けた、感激と熱心を保ちつづけるよう助けてくれます。

クルシリョは全国の教会や修道院の皆さんからの多くの祈り（霊的花束）や犠牲、そして聖霊の導きなくしては、なにひとつ実りあるものとならないのです。

クルシリヨ
（信徒使徒職練成会）



3月20日帰福。叙階式に元気な顔を見せた。

新任地は小倉教会。

師の今後の多方面にわたる活躍が期待されている。

山元神父帰国談

これから、教区の皆さんのため、精一杯がんばりますのでどうぞよろしく。

BOOK 読みは専科

☆スキャンダル
遠藤周作著



平穏な老年の入り口に立った65歳のキリスト教作家が、もう一人の自分の出現に恐れおののく心理追跡劇。

年を取ると、それまで見せなかった素顔がでてくる。それは必ずしもきれいなものではない……。

『あけぼの』一九八四年四月号、五月号の遠藤氏の連続対談もあわせてお読みになることをおすすめします。一、五〇〇円（新潮社）

☆神の愛
GOD'S DIVINE LOVE
写真・三輪喜一郎



英対訳のみことばと美しい写真集。ご結婚・入学のお祝い、プレゼントに最適！

（女子パウロ会）

パウロ書院

4月13日（日）福岡カテドラル・センター入口に、新書院としてオープンすることになりました。感謝をこめてご来店の方々には、粗品を贈呈させていただきます。

営業時間ご案内

平　日　10時～18時
日　曜　10時～16時
定休日　毎週水曜日

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（四月）

2日　健軍さゆり園落成式
6日　水巻教会堅信式
13日　大名カテドラル献堂式
18日　カナの会総会
クルシリヨ役員会
27日　大江教会堅信式・ルルド祝別式
29〜28日　福岡公聴会

福岡黙想の家

2〜3日　水巻教会堅信前の黙想会
3〜4日　笹丘幼稚園教師研修会
14〜23日　個人黙想会
※個人黙想をなさりたい方は、お申込みください
17日　ミカエル会
27日　笹丘教会学校
28〜29日　聖母カテキスタ研修会
5月2日〜5日　クルシリヨ

福岡公聴会

長崎教会管区の司教団は、鹿児島（4月5・6日）に続いて福岡で公聴会を開くことになりました。

△趣旨▽〝基本方針と優先課題〟の趣旨の徹底。
福音宣教に関する信徒の意見の吸い上げ。

来年の福音宣教推進全国会議に向けてのムード作り

△日時▽4月28日（月）18時30分〜29日（火）16時まで

△場所▽福岡カテドラル・センター

△出席対象者▽福岡教区から各小教区毎に信徒5名まで

福岡教区修女連から50名。
九州各教区からも参加が予定されています。

△参考議題▽福音宣教を、司祭・修道者・信徒としてどのように実践するか。
宣教の在りかた・社会に対して、家庭に対して、青少年に対して、小さな人々よわい人々に対して。

福岡カテドラル・センター
大名町カトリック教会
献堂式・落成式

教区にとり、長年の念願でありました福岡カテドラル・センターが無事竣工の運びとなりました。

記

日時　4月13日（日）　11時
場所　福岡市中央区大名町2—7—7
福岡カテドラル・センター
大名町カトリック教会

（注）駐車場・会食の準備はありませんのでご注意ください。

第25回 福岡教区クルシリヨ

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすものです。
福音宣教元年ともいわれる今年のクルシリヨへの参加をお待ちしています。

日時　5月2日（金）19時〜5日（月）16時まで
場所　福岡黙想の家
☎(092)871—7108
参加費　八、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受付）
携行品　ロザリオ、着替え、寝巻き、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局
☎(093)582—1654
佐々木信幸

結婚準備セミナー　二期

（福岡地区）
4月10日（木）、12日（土）
17日（木）、19日（土）、20日（日）、24日（木）、26日（土）
（熊本地区）
4月2日（水）、4日（金）
6日（日）、9日（水）、11日（金）、16日（水）、18日（金）

61年度第一学期神学講座

テーマ　〝創世記を読む〟
講師　高見三明師（サン・スルピス大神学院）
日時　4月15日〜6月24日　毎週火曜日　18時〜20時
場所　司教館新館　5F
会費　毎回　500円（当日受付で）
問い合わせ　（092）522—5139　（司教館）

いぶき

聖霊来たり給え

山内清海

日本カトリック司教団が、「日本教会の基本方針と優先課題」を発表して、「洗礼のめぐみと信仰の喜びを、一人でも多くの友に伝えよう」と、福音宣教の重要性を強調し、そのための、司教、司祭、修道者、そして全信徒の一致協力を訴えてから、ちょうど二年になります。その間に続けられた、小教区、あるいは教区内での熱心な努力には、心から敬意を表したいし、その成果も確実に芽生えつつあると思います。とても喜ばしいことです。

わたし自身も、とくにこの一年の間に、各地で開かれた福音宣教についての研修会や集会で、講話をしたり討論に参加させていただく機会が与えられましたが学ぶことも多く、また大いに勇気づけられました。ただわたしは、せっかくの熱心な研修会や討論も、それが具体的になればなるほど、どうしても人間的、自然的方法論に終始する傾向が強いことにある種の不安を感じるときがありました。もちろん自然的方法論もとても大切ではありますが。しかし福音宣教者として召されているすべての人がその召命にふさわしく疑うことも恐れることもなく、その活動を活気に満ちた、しかも実りあるものとするためには、もっと内的な条件が求められることを忘れてはなりません。そしてその内的条件の一つは、わたしたち自身が聖霊に満たされることです。

聖霊の働きなしに福音宣教はありえません。キリストご自身も「聖霊に導かれて」荒れ野で宣教活動を準備されました。またナザレトで宣教を始められたキリストは、「主の霊はわたしの上にある」と言明なさっておられます。

しかもキリストは、弟子たちを宣教に派遣するにあたっては、「聖霊を受けなさい」とおおせられ、一方弟子たちは、たとえば聖霊降臨の主日の第一朗読で読まれるように、「みんな聖霊に満たされ、聖霊が語らせるままに、さまざまな他国の言葉を語り始め」、死をも恐れないほど勇敢な、福音宣教者となることができたのでした。

さらに使徒行録によると、ペトロは「聖霊に満たされて」、神の子キリストについて話すことができましたし（4・8）、パウロも同じく、「聖霊に満たされて」（9・7）、十字架につけられたキリストの宣教者、としての生涯を生き抜く決心をするのです。

聖霊は、教会を生かし、そして成長させる、まさに教会の魂です。聖霊はわたしたちに、イエズスのみ教えと、その神秘の深い意味を悟らせ、素直に受け入れさせるばかりでなく、黙っておれないほどの霊的喜びと勇気を与え、わたしたちを宣教活動へと駆り立てます。

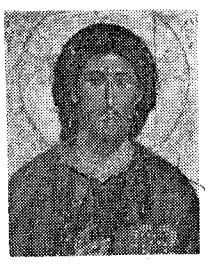
したがってわたしたちが、福音宣教にたとえどれほど進歩した技術を用い、また人間的にどれだけ完全な準備をしても、それを聖霊の働きに代えることはできません。聖霊の働きなしには、どのような人間的努力も効果をあげることはできないからです。わたしたちは、聖霊こそ福音宣教の主要な働き手であることを、決して忘れてはならないのです。

このように考えますと、日本カトリック教会が、かつてないほどの福音宣教への熱意に燃えている今日こそ、最も聖霊の働きを必要とする時期であると云わなければなりません。

聖霊降臨の主日を迎えるにあたってわたしたちは、聖霊の働きに対する信仰を新たにし、宣教活動をその成長と完成の本質的条件とする教会のため、またキリストのよき宣教者でありたいと望むわたしたち一人ひとりのためにも、豊かな聖霊のみ助けを心から祈り求めましょう。しかし同時に、わたしたち自身が、聖霊のよき協力者として霊的に成長できるよう、いっそう努力することも忘れてはなりません。

（サン・スルピス大神学院教授）

イコン展



日時　4月14日〜5月11日
午前10時〜午後8時
場所　カテドラル・センター

イコンは、6世紀ごろから特に東方教会の典礼の中で用いられ、聖なるものの姿を画き、人々を超自然的世界と心の世界まで導くために、重要な役割を果たしてきました。

バザー

4月6日　福岡市茶山教会
〃　20日　〃　笹丘教会



編集室から

4人の新司祭誕生と、山元神父様の帰国で教区の戦力も飛躍的に伸びました。けれども、あとがどれだけ続くのか。これからも召命の増加のため、たゆまぬ努力をしていきましょう。

今月号で初めて、バザーのお知らせを載せました。各小教区の小さな出来事や、催し物などについても、どしどしご連絡ください。

2月号の「自由席」に掲載した「そぼくな疑問」にたいして、「二人の自分」の著者である東京のイシドロ・リバス神父様が、コメントを寄せてくださいました。心から感謝いたします。また、同じ2月号の「おげんきですか」に登場していただいたパリ・ミッション会八王寺本部のボンカズ神父様の記事に寄せて、はるばる岡山から手紙が届きました。

スタッフ5人、悪戦苦闘しながら頑張っています。（W）

かのときのことのは



福嶋中佐が踏分こしうらるの山は高かるべし
西比利亜（しべりあ）の野は広かるべし冥々の中にひかえたる関のかくつらくかなしきを見ればいづれおなじ旅路なりけり　樋口一葉

一葉は「たけくらべ」と「日記」だけでも少し誇張していえば紫式部につぐ女流作家といわれる。これは明治26年7月11日（22歳）の日記の一節である。

この日記をつけたころは、四年前に父を亡くし、さんざんダダをこねる母と妹の邦子との三人暮しの生活を支えるため、お金の工面をしていた、どん底のときである。

当時、福嶋中佐は単騎シベリア横断という壮挙をなし、大いにさわがれていたが、それと、自分がいま貧苦にあえいで過ごしているこの生活とは、全く同じ旅路だと言いきっている。そのすさまじいまでの心構えが聞こえてくる文である。

25歳のとき結核で亡くなった彼女は、清く美しい生活を送った。

（森山敬三）

スズランマック援助会
〒116　東京都荒川区東日暮里3-29-5
TEL　03-802-1277
郵便振替　東京 8-118688
ひとりで悩まずに
熊本・いのちの電話
096-354-4343
（手取カトリック教会内）

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL　092—531—3831
夜間　092—521—0820

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

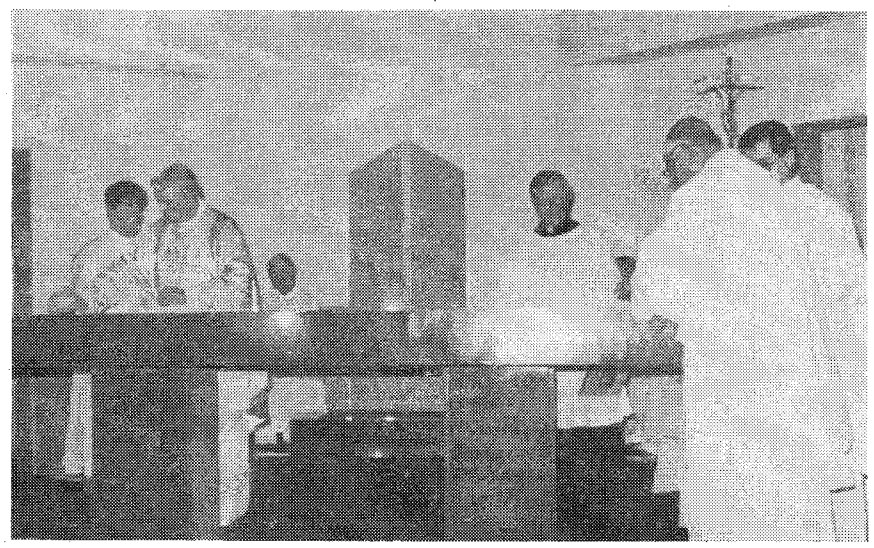
信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092—521—0568

新 福岡カテドラル・センター 大名町カトリック教会 献堂・落成

駐日ローマ教皇庁大使カルー大司教を迎えて
宣教・司牧の中心として始動



祭壇に油を塗るカルー大司教と平田司教



祝辞をのべるカルー大司教

福岡カテドラル・センター大名町カトリック教会の献堂式・落成式が4月13日(日)、駐日ローマ教皇庁大使ウィリアム・アクウィン・カルー大司教を迎えて、教区長平田三郎司教をはじめ、十名の司教と八十余名の司祭、また聖堂内外の約一五〇〇名にのぼる参列者のもと盛大に挙行された。

献堂ミサは、聖歌「うるわしい神の家」の合唱で始まり、信徒代表の高木慶治氏と水田三木雄氏が新聖堂・センターの鍵を平田司教に引き渡したあと、水の祝福がなされ、会衆と祭壇に聖水が注がれた。

みことばの朗読のあと、カルー大司教は「全世界は神の神殿であるが、特別に主への奉献の場所として、このカテドラルは聖なるものとされるのであるから、ここがパプテスマ(洗礼)と聖餐(ミサ聖祭)の場所となり、ここを訪れる人々が恵みと平和に満たされるように」と説教した。

諸聖人の連願のあと、平田司教はカルー大司教と共に祭壇と教会の柱に油を塗った。献香のあと祭壇が飾られ、聖堂にあかりがともされた。こうしてカテドラル(司教座聖堂)は名実共に神のための場所としてささげられた。

ミサの後、ひきつづいて落成式が行われ、平田司教は、「今日のよき日を迎えさせてくださった神に感謝を捧げ、協力を惜しまなかった教区内外の方々にお礼を申し上げたい」と感謝の意を表した。

さらに、外壁に飾ってあるキリスト像に福岡市民を見守っていただき、カテドラル・センターを宣教、司牧の中心にしたいと抱負を述べた。

来賓として祝辞を述べたカルー大司教は、福岡教区の中心となる事業の完成を心から祝い、「教区の信者も神の教会のたてものの部分たれ」と励まし、カテドラルが主の大いなる栄光のために不朽の記念となるようにと率直にその喜びを語った。

参列者は皆、新カテドラルの門出に神の祝福を願った。

今月のみことば

マタイは
すべてをおいて
立ってついて行った
(ルカ5・28)

西新　山川辰幸神父

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

あなたとわたしの 福音宣教



キリストが共にされた人々を 私も大切にしよう

キリストこそ福音である。キリストが生きられたように、キリストが共にされた人々を私も共にすることが福音を伝えることであり、宣教であると思う。

キリストの生き方を言葉で伝えることは大切である。しかし、人間は人によって生かされる者であるから、どうしてもキリストが生きられたようには生きることが大切になるのである。

私が今おかれている信愛女学院は、幼稚園児二三〇名、中学・高校生一、五二一名、教職員一三〇名の集まりであり、その中で信者はほんの数的なものとなり、その人を生かすことになるのである。それだけに信者の生徒、教師、修道女が人間らしく生きること、キリストのように、家庭的に恵まれない生徒、意志の弱い生徒、成績で苦しんでいる生徒と共に生きることがとても大切なことと思う。

現代、他人の気持ちを感受かすことになるのである。

インドで働いておられるマザーテレサや、来日された教皇様の記録映画を監督された千葉茂樹氏は、何度もヨーロッパに取材に行っておられるが、本人から

「ヨーロッパは宗教的雰囲気がいっぱいの所なので、受洗の決心もつきやすいと思われるが、私はヨーロッパではそんな気になれなかった。しかし、インドでマザーテレサにお会いし、そのお仕事に接した時、素直に受洗の決意ができて、そのお恵みをいただくことができた。」

と伺ったとき、本当に弱い者の立場にいつも立っておられたキリストの生き方を生きることの大切さを教えられたのである。

今、私も共に働く教職員が、このキリストの心で生き、生徒にかかわっていってほしいと願い、祈っているのである。

(熊本信愛女学院)
Sr. 田川シゲ子

みちくさ

「おかあさーん」と母を呼ぶ幼な子の声が幼稚園の園庭から聞こえてくる。きっと何かよいことをお母さんに知らせたかったのだろうか。ほのぼのとした暖かさが司祭館にも伝わってくる▼でも、いまどれだけの子供たちが、心から「おかあさん」と呼びかけることのできる恵みにあずかっているのだろうか。「母の日」を前に、母親の顔など一度も見たことのない幼な子が担任の先生の似顔絵をかいている。両親の離婚という傷を負わされた幼な子が、母親の絵をかいている▼先日、群馬県に住んでいるという、ある養護施設出身の青年から電話があった。「俺、市役所から宮崎にいるおふくろの面倒をみてやれるかって手紙がきて迷ってんだ。だって母親に会ったの園をでてからの一回きりなんだ。何とかしてやりたいとは思うけど」。この青年の気持を彼の年老いた母親が知っているかどうかわからない。はっきりしていることは彼が自分の三十年の人生で数日しか共に過ごしたことのない母親の存在を大切にしているということだけだ▼聖書には「女が自分の乳のみ子を、母が自分の胎の子を忘れるだろうか。たとえ忘れる者があっても、わたしはあなたを忘れない」(イザヤ49の15)とある。幼な子は、「母の愛のぬくもり」のなかで「神の愛のぬくもり」にふれていくのではないだろうか。神の愛のゆたかさを味うためにも、母の愛の体験は重要なのである▼「母の日」には:を贈ってお母さんに感謝を、などと騒ぎたてている世の中は、あの青年の目にどんなに映っているのだろうか。「母の日」は子供たちがお母さんに感謝する日であるより、母親自身が自分が母であるように神に召されたことを感謝する日であったほうがいい。自分が「すでに母親であること」と「母になりつづける者であること」について少しでも考える日であったらと願う。

ヨーロッパのある国の信徒の考えかたを、教皇様はあんまり受け入れられなかったといわれます。

この国の教会は、公会議のすすめにしたがって、司牧協議会というものをつくりました。でも残念ながら、それが、諮問機関ではなくて、決定機関だというような思い違いがあり、司教の選任にあたりましても、「いや、あの司教は保守的だ、このような人は進歩的でどうにもならないから、私たちは受け入れません。」といったように、司牧協議会としての権限を越えてしまったのです。

この人は進歩的でどうしようもないから、私たちは受け入れません。」といったように、司牧協議会としての権限を越えてしまったのです。

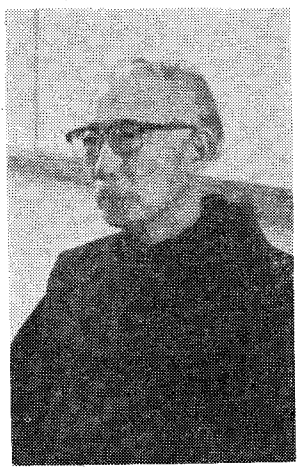
司教は語る (4)
信徒リーダーの適切な養成の必要性

この人は進歩的でどうしようもないから、私たちは受け入れません。」といったように、司牧協議会としての権限を越えてしまったのです。

しかし信徒の地位とか役割というものが、どういうものであるかということを、養成していれば、そういう混乱の心配はほとんどないと思います。

福岡教区としては、信徒使徒職協議会というものもあるし、地区の信徒協、小教区の委員会もございますので、そういう方々をリーダーとして適切に養成し、そういうリーダーシップを持った人たちを先頭にたてて宣教に向かわせることが、大切だと思います。

中田藤太郎神父 司祭叙階金祝



感謝の心でいっぱいです
と語る中田神父

聖フランシスコ会の中田藤太郎神父(福岡・高宮)は、司祭叙階金祝を迎えた。

昭和11年3月19日に、長崎の早坂司教によって司祭に叙階され、昭和32年6月5日に聖フランシスコ会で誓願を立て、今日に至っている。

金祝を迎えた今、神のお恵みとたくさんの人々の支えに感謝の気持ちでいっぱいです。そして最近、目を悪くして手術を受けたが、もう一度視力が回復することと同時に、もっと大切にしたいことは、心のまなこで神の姿を見第三の人生を全うしたいことだと熱っぽく語っている。

司祭叙階銀祝



棚町健之助神父
イエズス会
昭和36年3月18日叙階



平田　敬神父
福岡教区
昭和36年3月19日叙階



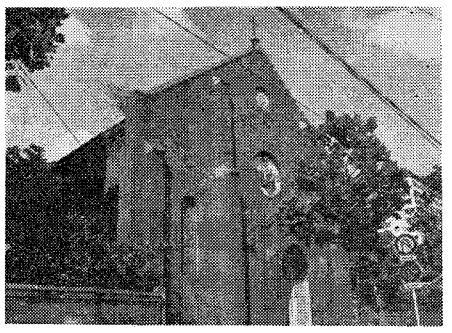
高木善行神父
聖スルピス会
昭和36年5月27日叙階



山内清海神父
聖スルピス会
昭和36年5月27日叙階

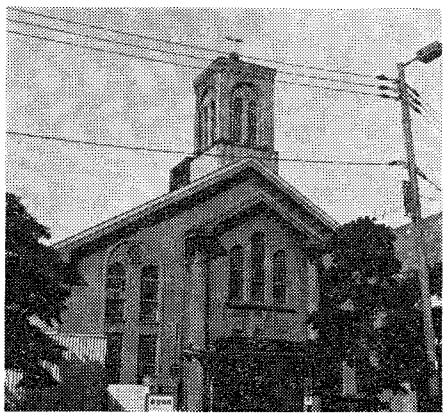
写真でみるカテドラル(司教座聖堂)の歩み

一九二七年～一九三八年



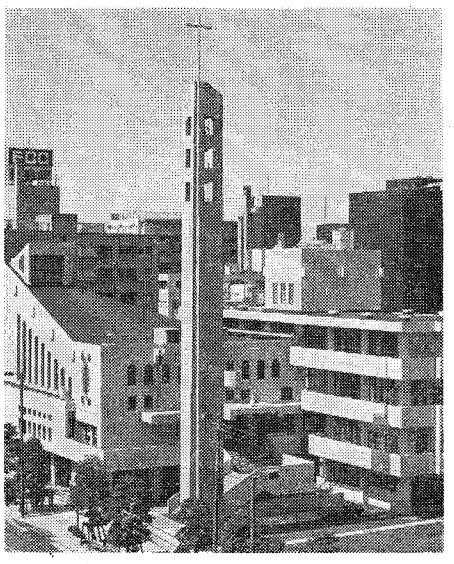
① 最初のカテドラル

一九三八年～一九八六年



② 昭和13年に献堂されたカテドラル

一九八六年～

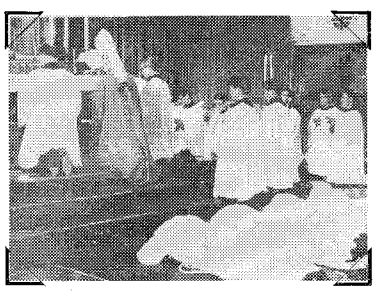


③ 新カテドラル・センター

昭和37年　26聖人列聖百年祭へ出発する巡礼団



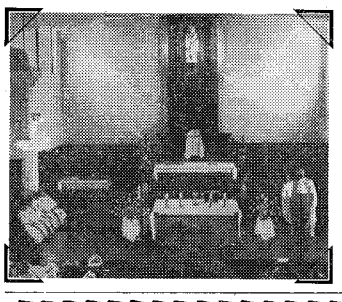
昭和43年3月17日　牧山勝美師叙階式



昭和60年6月22日　深堀仙右衛門司教様通夜



昭和61年2月2日　第二代カテドラル最後のミサ



編集部座談会

教区報は福音宣教の道具

司教とのパイプ役で一世帯に一部を目ざす



山内_　田町　渡辺　佐藤　深堀

渡辺　「広報の日」にあたって教区報の役割や編集方針について考えてみたいと思いますが、まず、教区報原稿を、紙面の都合を半年間一緒にやってきてご苦労なり、感想をどうぞ。

山内　一般の新聞をみながら、教区の新聞にどう生かせるかと考えるようになりました。やはり皆さんが手にとって読んでみようという気持ちになる紙面づくりを心がけています。

深堀　「読んでますよ」とか、「この前の記事はこうでした」とか反応があるのがすごく嬉しいですね。苦労話っていえ、ちょっと悩みですね。だから仕方によって、その人はここが言いたかったのに、全然違うところが出てくるという可能性もあるわけですね。それがすごく編集の責任とこわさを感じます。

渡辺　では、教区報の役割と編集方針についてですが、まず教区報は司教と教区民のパイプ役となることです。司教が何を考えているか、教区をどのようにもっていこうとしているのか、教区民の一人ひとりに伝わっていかなければと思うんです。そういう意味で、教区報は各世帯に一部ずつ必要だと思います。それから教区報は、ただ上からの声を載せるだけじゃなくて、神の民の生の声が反映される必要があると思っています。最後に福岡教区では、家族の中で自分だけ信者というかた多いでしょう。そういうところで、教会のことをわかっていただくために教区報が役に立てるんじゃないかと思うんですね。私は皆さんが、自分が読み終ったら、近所の人にでも、読んでみてくださいと、言えるような内容にできたらと思うんです。編集の

ダイヤモンド神父（崎津教会主任）

天草・根引山頂にマリア像を建立

明治の宣教師たちの業績をたたえて

熊本県天草崎津と大江の境界にある根引山頂に高さ約80センチのマリア像がたっている。これは、崎津教会主任のダイヤモンド神父が昨年の8月に約3ケ月かけてたてたもので、ここから東支那海と崎津港、教会が一望できる。

信徒のひとりは「神父様が炎天の下流れる汗を拭きながら、材木や石、砂利をかついで坂道を運ばれた姿は尊いものでした。自分も含めて、協力しなかったことを恥じ入る気持ちでいっぱいです」と話している。

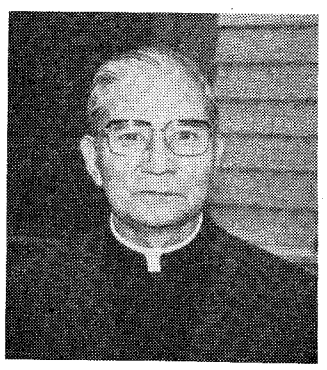
ここは明治のはじめに、パリミッション会のフィリエ神父が、貧困の子供たちを集めて〝子部屋〟をひらいた地でもある。

ダイヤモンド神父はマリア像建立の目的について「昔の宣教師たちの犠牲と事業を記念するため。また、マリア様のメッセージ、特に償いの心を忘れないためです」といっている。



ダイヤモンド神父（左から2人目）と祝別式に参加した信徒たち

おけんきですか



牧山藤房神父様

今月は療養中の牧山藤房神父さまを司教館にお訪ねした。昭和20年4月18日浄水通教会で叙階され終戦前後の最も困難な時代、外国宣教会の司祭が軟禁されたので司祭不在の教会を飛びまわったこと。途中空襲で荷物を焼かれたこと、「神父さま爆弾ですよ」のドルエ神父さまの声に飛び起きてみたら神父さまのベッドから湯タンポが落ちた音だったんです、と懐かしそう。「私の司牧の旅は今の北九州天神町教会を皮切りにのべ15の教会を巡りました」と激動の時代、命がけの宣教を感じさせられた。また一番の喜びと苦しみは、終戦直前の7月6日北九州から夜行で熊本の松橋まで終油の秘跡を授けに行って間に合った時。苦しかったのは、その帰り緑川の鉄橋が爆破されて10数キロの夜道を手取教会まで歩いた時、ミサ前で飲食できず苦しかったことだと話された。

2年前から病気になり皆さんにとてもお世話になり感謝しています。人工透析ですので出かけられませんので紙面を通してお礼を申し上げてください。この病苦をお捧げしています。

皆さんも苦しみに合った時たくさんの苦しんでいる人を思い出してください。と申しそえられた。神父さまのご回復をお祈りします。

福岡地区高校生 長崎巡礼



長崎・大瀬戸教会にて

3月25日～26日、福岡地区高校生有志14名及び中学生1名は、ワゴン車2台に分乗し、長崎巡礼を挙行した。コースは唐津、伊万里を通り西海橋を渡って、出津、黒崎から長崎市に入り一泊。翌日は、長崎市内を巡り高速道路を通って戻ってきた。巡った教会は、大瀬戸、出津、黒崎、浦上、大浦、日本二十六聖人記念教会の六つだった。

長崎の教会は、どれも古びていた。建物ではない。雰囲気が、である。どんな迫害を受けても、それを耐えぬいた長崎のキリシタンの叫びが、そこに今も生きづいている。そう感じられた。

終わりに、快く迎えてくださった各教会の神父様、シスター、永井学生センターの皆さん。特に、二日間ハンドルを握りっぱなしだった渡辺神父様、山内神父様に深く感謝します。

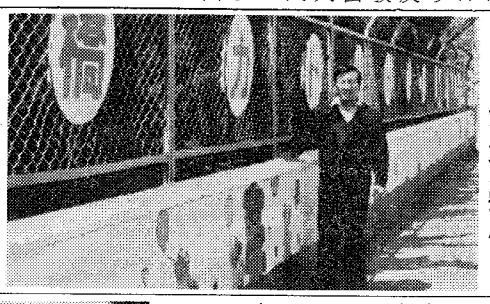
（西新教会　二橋広樹記）

桜井新司祭 佐賀教会で初ミサ

佐賀小教区初の司祭である桜井尚明師は、4月6日出身地の佐賀教会で初ミサを挙げ多数の司祭、信徒が参加した。式典の中で、主任司祭のガザルディ師は新司祭誕生が宣教師として最高の喜びであることを語り、信徒たちも霊的花束、記念品を贈り、新司祭の前途を祝した。

（佐賀教会　牧山満安記）

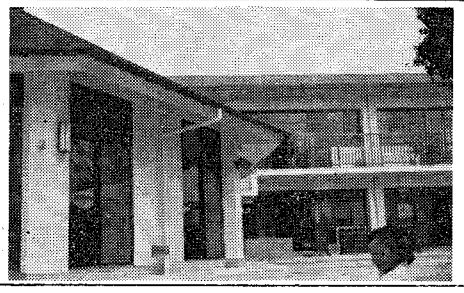
行橋幼稚園に 大壁画完成



行橋幼稚園（園長・松井忠之神父）のブロック壁（高さ1メートル、長さ40メートル）に、全職員の手によって三月下旬大壁画が完成した。

行橋幼稚園は、一昨年からフランスのジャン・ドラ・フォンテーヌ幼稚園と姉妹関係を結んでいるが、フランスの幼稚園で父兄が遊具のペンキを塗り、修理などを行っていることにヒントを得、幼児教育と環境整備の一環として行われたものである。

健軍さゆり園落成



幼稚園沿いの国道10号線は県内でも渋滞の激しい所で有名であるが、壁に描かれた教会、動物、花などのマンガ的な絵は、園児をはじめ、ドライバーや通行人の心をなごませるものとして評判になっている。（写真は壁画の横に立つ園長の松井神父）

次第に、申込者の拡大から東京カナの会、並びに大阪教区の結婚互助会などにご協力をお願いして一組でも多く、申込者の結婚へのゴールを目指しています。

もちろん「カナの会」の目的は、信者の結婚のお世話と、信仰に基づく幸せな家庭づくりに協力するものであり、福音宣教にもつながるものと確信しております。そのため、常に祈りながら、地道な努力を積み重ねていく所存です。

福岡教区「カナの会」が、実質的に活動期にはいるのは、これからだと思います。各小教区の神父様にお願い申しあげて、カナの会に対する理解を深めていただき、教区全体が挙げて信者間（信者と未洗者または求道者）の未婚男女の結婚問題に、取り組むことができるようにしたいと思います。

連絡先

☎092―922―5397 古賀

福岡市南区皿山に ファミリーセンター開設



福岡市南区の皿山カトリック伝道所に、カトリックファミリーセンターが開設され、所長のライル神父（コロンバン会）は、多くの人の利用を呼びかけている。

☎ ○九二―五四一―六二〇七

カトリック・アクション カナの会



結婚を考えているあなた……

教区「カナの会」は現在、福岡市周辺の小教区から選出された16名の委員がおります。

毎月第3水曜日に司教館に集まり、申込者の中から、写真、申込書を持ち寄り、双方におすすめ申しあげています。どうしても合意が得られない場合は、さらに選考のやり直しを慎重に行い、双方に話を持ちかけております。

現在の申込者は、福岡県内はもとより、熊本県内および佐賀県内からの申込者も多い関係上、どうしても教区全体が一丸となって、取り組むことを痛感しております。

今、恵みのとき

主の呼びかけに応えようとする若者たちのために、心を合わせて祈りましょう。

三月から修練に入られた方

＊御受難会（福岡）
宮下　良平　東京（関口）
杉山　隆也　東京（荻窪）
森山健四郎　福岡（箱崎）

＊聖アウグスチノ会（福岡）
今田　昌樹　静岡（城内）

修道会新志願者

＊聖パウロ修道会（福岡）
中一・3名

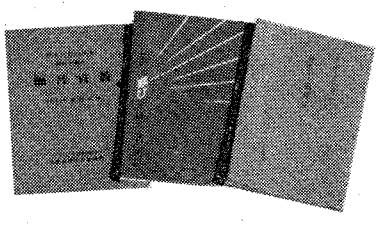
＊聖母訪問会（福岡）
中一・2名

＊師イエズス修道女会（福岡）
中一・2名

＊幼きイエズス会（熊本）
中一・3名　中二・1名
高一・1名

BOOK 読みま専科

今回は、福音宣教の精神、姿勢をさらに深めるために最適な小冊子をご紹介します。



☆社会に福音を

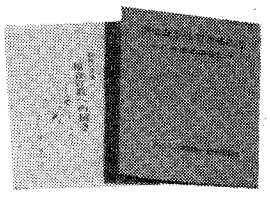
一九八七年に開催される「福音宣教推進全国会議」の参考資料。

☆信仰の喜びを伝えるために

日本の社会に福音をどのようにして伝えたらよいのかを具体的にわかりやすく説明している。

☆福音宣教

教皇パウロ六世の使徒的勧告。宣教の使命に召されている信徒にとって必読の書。



☆信徒だからできること

日常生活の中での具体的な宣教方法をやさしく教えてくれるリーフレット。

☆信徒による福音宣教への招き

キリストの救いと愛が、一人ひとりの心に素直に響き伝わって、育つような方法を探し求めてきた著者が、宣教への招きと刺激を与えてくれるパンフレット。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石材　大御所　理想の石　石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（五月）

5日　クルシリヨ（ミサ）
11日　本郷教会堅信式
18日　笹丘カトリック教会25周年記念式典
18日　大楠教会ルルド祝別
25日　小倉教会堅信式

福岡黙想の家

2～5日　クルシリヨ
15日　日本聖公会婦人会九州大会
15～19日　ミカエル会
19～23日　ミラノ宣教会黙想と研修会
25～29日　修道女会議、院長会議（イエズス孝女会）
31～6月2日　雙葉学園教師黙想会

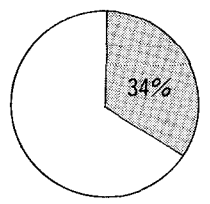
修女連

福音宣教研修会
日時　6月29日（日）
会場　福岡雙葉学園

福岡教区報「カトリック」の教会別購読部数

（1986年5月1日現在）

教会	世帯数	購読部数	%	教会	世帯数	購読部数	%
武雄	20	30	150	大江	121	26	21
本郷	116	130	112	小倉	950	200	21
湯川	285	296	103	大牟田	97	20	21
飯塚	40	40	100	久留米	280	60	21
伊万里	75	75	100	西新	341	70	21
新田原	425	400	94	浄水通	117	25	21
大楠	34	30	88	門司港	55	10	18
小郡	98	80	82	崎津	96	15	16
今村	220	165	75	八代	83	11	13
美野島	31	22	71	多久	40	5	13
箱崎	45	30	67	武蔵ヶ丘	188	20	11
老司	170	110	65	高宮	232	25	11
笹丘	135	80	59	佐賀	263	30	11
帯山	88	45	51	黒崎	441	45	10
二日市	77	36	47	門司	184	17	9
天神	130	60	46	水俣	65	5	8
若松	68	30	44	田川	53	4	8
直方	35	15	43	島崎	144	10	7
玉名	37	16	43	光ケ丘	297	20	7
菊池	49	20	41	唐津	142	10	7
戸畑	248	100	40	島渡	82	5	6
荒尾	528	200	38	島巻	34	2	6
大牟田	56	21	38	吉本	36	2	6
名尾	399	153	38	水人	201	6	3
王子	110	40	36		50	0	0
寺内	85	30	35				
賀茂	181	60	33				
塚原	223	65	29				
子栖	101	28	28				
橋本	129	35	27				
軍水	151	34	23				
健人	179	40	22				



福岡教区世帯総数
9,160世帯
↖教区報購読部数
3,159部

いのち

聖母月

山内清海

教会は、万花かおる五月を「聖母月」と定め、わたしたちに、聖母マリアへの特別な信心を強く勧めています。そこで今回は「わたしたちの母、聖マリア」という観点から、聖母信心について考えてみましょう。

キリストの十字架のもとには、愛弟子ヨハネと母マリアとが、悲しみのうちに立ちすくんでいました。そこでキリストは、まず母マリアに、「婦人よ、この人はあなたの子です」と仰せられ、さらに弟子には、「この婦人はあなたの母です」と仰せられましたが、教会はこの簡単なお言葉のうちに、深い神秘的な教えを読み取ります。教会は、この聖ヨハネを全キリスト信者の象徴と見、したがってキリストは、この愛弟子ヨハネを介して、ご自分の母マリアをわたしたちの母としてお与えになり、また聖母マリアに、わたしたちを子供として委託されたと教えるからです。

ところで、聖母マリアがわたしたちの母であるならば、わたしたちが聖マリアの子供として、聖母に特別の尊敬、称賛、感謝を捧げ、信頼を表現し、ご保護とみ助けを祈り求めるのは当然だと、言わなければなりません。これが、「わたしたちの母、聖マリア」の観点からみた、聖母信心の神学的根拠です。

聖母信心についてもっと良く理解するために、子供たちが、母を喜ばせるためにどのようにするか、具体的に考えたらよいでしょう。子供たちはきっと、母が望むような立派な子供に成長し、母を喜ばせるような行いをなし、母の心を自分の心として生きるよう、最善を尽くして努力するのではないでしょうか。

聖母マリアは、わたしたち一人ひとりが、神のみ前に小さく、心清く、謙虚な子供であることを望んでおられますから、わたしたちは何よりもまず、自分の利己的で、高慢の心を打ち砕いて、心を清め、謙虚にならなければなりません。これこそわたしたちが聖母に愛されるための、最大の秘訣だからです。

さらに、ロザリオの祈りと聖母信心とは、切り離せない深い関係にあることも忘れてはなりません。たとえば聖ベルナデッタにご出現になられた聖母マリアが、いつもロザリオを手に持っておられ、一緒に珠を繰っておられた、と心のために祈ることによっていった証言からも明らかなように、ロザリオの祈りは、聖母がたしたちのそれとすることができ、聖母マリアに最も喜ばれる祈りだと教えられているからです。

わたしたちが、わたしたち自身の心とすべき聖母マリアの心とは何でしょうか。少なくともその一つは、聖母ご自身がほとんどのご出現で求めて、多くの信者たちが集まって熱心にロザリオの祈りを唱えていました。「聖母の務め」として、すべてのために祈ることによって、罪人の回心は今日でも、聖母の信者に親しまれてきたこの素晴らしい信心を、今日ではないでしょうか。聖母は、十字架上で全教区内に果たしていくつ全教区内に果たしていくつ残っているでしょうか。わたしたちはこの機会に、カトリック教会の誇りとすべき聖母信心についてもう一度考え直し、「聖母月の務め」を、小教区や家庭内で、なんらかの形で復活させるよう、努力すべきではないでしょうか。

（大神学院教授）

転入者に暖かい配慮を

復活祭と共に新年度を迎えた教会には、新たな生命の息吹が流れ込んでくるようです。

今年もまた、多くの兄弟姉妹が福岡教区に転入して参ります。主任神父様を始め教会共同体の皆さま、どうぞこの新しい兄弟たちを快く迎えて頂きとうございます。

国内移動信徒担当者
竹森神父（老司教会）
Sr. Sr. 川口（聖母訪問会）
Sr. 澤（礼拝会）

新司祭のお礼のことば

主の平安

皆さま方には、ますますご健勝のことと存じます。

去る3月21日に叙階された司祭4名は、それぞれの任地にて仕事をはじめています。また、助祭はさらに、司祭職の準備にはげむことになっています。

叙階にあたりおよせくださった皆様のお祈りとご厚意に一同心より感謝いたします。

今後ともよろしくお願いいたします。

敬具

新司祭一同

バザー

5月11日　福岡市老司教会
5月25日　福岡市光ケ丘教会
目的
①信徒の親睦
②地域への宣教
③海外援助
④信徒会館建設資金

編集室から

5月4日の「広報の日」にあたって、編集スタッフで座談会をしてみました。教区報の編集方針が少しでもご理解いただけたらと思います。

新緑の五月、教区報『カトリック』が、皆さまに心のやすらぎを提供することができたら望外の喜びです。（W）

†シスター・マルセル楓丸子（サン・モール会）

は4月23日クモ膜下出血で帰天された。24日平田司教ほか12名の司祭による共同司式で荘厳な葬儀ミサが行われた。86才

†シスター・チェズィーラ永田カネ子（師イエズス会）

は4月13日研修先の東京にてクモ膜下出血のため帰天された。54才

シスターは、福岡修道院で主に祭服作りを使徒職とされていた。

かのときのことのは

真実、諦メ、タダヒトリ、
真実一路の旅ヲユク。
真実一路ノ旅ナレド、
真実、鈴フリ、思ヒ出ス。

北原白秋

『白金之独楽（こま）』の最後に「巡礼」と題して所収。

道ならぬ恋で罪にとわれ、懺悔（ざんげ）の心で書かれた詩集で、残念ながら、筆がすべって、思いのたけが充分に表現されないうらみがあるが、これは成功した例である。

「諦メ」とか「思ヒ出ス」とかのことばは、さきの事情から理解される。とにかく、四行とも真実ではじまるので、巡礼がならす鈴の音をきくような効果をあらわしている。

山本有三の『真実一路』という小説の書名も、これから引用されている。

（森山敬三）



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8－8
TEL　092—531—3831
夜間　092—521—0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電(092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

信徒の生の声を聴く

集会に九州各教区から五人の司教が参加

福岡公聴会



分散会で熱心にメモをとる平田司教（中央）

長崎教会管区の福岡公聴会が4月28・29日の両日、福岡市大名町の教区センターを会場に開催された。九州の5名の司教と九州各地の信徒が、のべ六〇〇名近く参加した。

これは日本司教団が福音宣教について、信徒の声を聴く目的で企画され、来年秋に予定されているNICE（日本福音宣教推進全国会議）に向けての準備段階でもあった。

福岡公聴会での議事録は、是永通孝氏（古賀教会）によってまとめられ、教区準備委員長であった山田成章師のもとでさらに検討を加えられ各小教区に送付される。

福岡教区の福音宣教に新しい活力を与えるものとして、その活用が期待されている。

議事録から主なものをひろってみると

①福音宣教の意識について
- 信仰の喜び、自信がない
- 福音宣教について一般向きの手引きが欲しい

②予備宣教と信者作り
- 教会の受け入れ態勢が不備
- 宣教はリラックスした気持ちで
- 教区センターを宣教のキーステーションに

③小教区宣教共同体の育成
- 地域社会に開かれた教会づくりを
- 教会内の対話の促進

④青少年の問題
- 青少年に活動の場を与える

今月のみことば

この務めに
つかせて下さった
主に感謝しています
（一テモテ1・12）
手取　デイキン神父

司教は語る（完）

「信徒の奉仕職」についても検討

信徒の使徒職は、現代において司祭が少ないから必要だというのではなくて、信徒の存在の根源として大切なのです。

もう二、三年前だったと思います。インドでのアジアの司教会議の集まりで「信徒の奉仕職」について討議がありました。

これはすでに教会法によってできることですが、司祭が少ない場合には、病人に聖体拝領をさせるとか、おすが、皆さんが更にそれを深めていかれるよう望んでいます。

信徒使徒職のエネルギー源について、さらに深く考え、信徒と率直に対話を交わし信徒の養成に努力して頂いたらと思います。

宣教者として、教会内外の人々のために、どういう役割を分担できるのか、ということについて研修をしておられる方もいらっしゃると思いまげました。

これまで私は、教区の宣教へのとりくみに焦点をあてて、いろいろな角度から神父様方にお話しを申し上葬式を司式するとか、結婚式の証人としてたつとか。私はそういう「奉仕職」のことについても考えています。

慶びの25周年　笹丘教会

アウグスチノ会の宣教の実り

5月18日（日）、福岡市笹丘教会は小教区創立25周年を祝った。晴天に恵まれ、参加者は三〇〇名を越えた。

まず、「私に息吹きを与える聖霊よ、私の思いが聖なるものであるように……」（聖アウグスチノ）と聖霊に対する祈りが捧げられた。

ミサは、平田司教の司式でこの日のためにアメリカから来日した創立当時の主任司祭グリフィン神父やオカナ神父をはじめ、14名の司祭によって荘厳に行われた。

平田司教は説教の中で「日本の教会の基本方針と優先課題」を取りあげ、「笹丘教会の25周年は、アウグスチノ修道会の宣教25周年であり、聖霊降臨の日に祝うことに意味がある。

キリスト教徒であるために周囲からの差別や圧力を受けてきた私たちの年代は十二使徒と同じように閉じこもり、自分たちだけで過去の追憶に浸りがちである。聖霊を受けて使徒たちが外へ出て行ったように、私たちも信仰共同体から宣教共同体に、生まれ変わらなければならない。」と開かれた教会への脱皮の必要性を説いた。

祝賀会では、幼稚園開園後十三年の間奉仕した聖母の騎士修道女会のシスター方や、転出して行った信徒らも遠方から駆けつけ、旧交を暖めあっていた。

最後に、聖体賛美式を行いテ・デウムの合唱のなか、式典をしめくくった。

今年は聖アウグスチノの回心一六〇〇年にもあたり、聖霊降臨の意義深いこの日、宣教の決意を新たにした。



↑
屋外のテントの下で歓談する参加者たち



平田司教と共に感謝のミサを捧げる→

大名町教会信徒

新力テドラルの落成を祝う

新カテドラル・センター大名町カトリック教会が完成移転して早くも三カ月が過ぎた。

この間、叙階式、献堂落成式、公聴会とめじろ押しの行事をこなし、5月11日（日）やっと大名町教会小教区の新築落成祝いが行われた。

ミサ後大聖堂で行われた式典の中で、これまで十数年にわたり建設委員の労を担った方たちの名前が呼ばれた。前に出ていくひとりひとりの顔は、喜びの内にも安堵の色を隠せない様子だった。すでに故人となった方もあり、献堂までの長い道のりを感じさせられた。

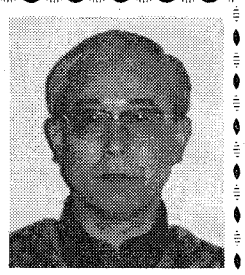
式典のあと一階講堂で行われた祝賀会では、三〇〇人近い信徒があちこちに輪をつくり、今日までのそれぞれの思いを感慨深げに話しあっていた。子供会代表の「……この聖堂を守り、生かしていけるキリスト者になることを誓います。」というあいさつに心を熱くさせられた。

また、この大名町教会の主任司祭として激動の10年を担ってこられた青木神父への感謝と川上新司祭の助任着任の祝いもあわせて行われた。



青木・川上の両神父と喜びを分かつ信徒たち

あなたとわたしの福音宣教



意識の変革を

村松正俊

私の所属する戸畑教会は、運営委員会を中心に、地区委員会、婦人会、典礼委員会、教会学校、広報委員会、聖歌隊、それに環境美化委員会までであり、組織的にはどこに出しても恥ずかしくない模範的な小教区でありますそして年間の行事もそれ相応に多彩であり、多忙であります。

私はこのような小教区を誇りにさえ思っておりました。それで「日本の教会は沈滞しているのではないか？」といわれだした時も、沈滞しているのはよその小教区であり、日本の教会がみなわが戸畑教会のようになるならば、沈滞などふっとんでしまうとまで思っておりました。

しかし考えてみると、これだけ立派な組織があるのに、一向に信者がふえる気配がないのです。組織の運用面でどこかに、何か欠陥があるのではないだろうかと思うようになりました。

各委員会の内容を見てみますと、ほとんどといってよい程、司牧に関するものです。宣教的な議題は見当りません。

教会内にいろいろな組織を作り、それを維持していくためのものでありました。長い間なれ親しんだ小教区の運営方法や信徒の意識を変えてゆくことは、大きなエネルギーを要することでしょう。良い面も悪い面も、一度原点に帰って見直し、再出発する必要があると思います。

日本の司教団はこのような教会の現状に気付き、「日本の教会の基本方針と優先課題」を教示されたのだと思います。

司祭も信徒も、もっと真剣に自分のこととして検討してみる必要があると思います。

（北九州・戸畑教会信徒）

みちくさ

夫婦のきずなっていったいなんだろう。夫婦の危機にかかわるたびに自分の無力さをおもいしらされます。今またあなたに痛恨のひとことを書き送ることになってしまいました▼これまで幾度か、あなたの家族の団らんのなかですばらしいひとときを過ごさせていただきました。今でもあの日のあの笑い声が耳もとに残っています▼話しによるとこれまでに何度か危機がありそれをやっとのりこえてきたということですね。ところがあなたは、もう愛のかけらもないといいます。それぞれに自分の人生を歩んだほうがずっと幸せだともいいます▼あなたの真実の気持ちをいまひとつつかみかねているのが正直なところです。私もわずかな希望をもって相談にきてくれたあなたに応えるべく、精一杯のことはしてきたつもりです。けれども今は、力尽きた虚しさだけが残っています▼あなたは、結婚していない者に夫婦のことはわからないといいました。そのとおりだと思います。でもひとことだけいわせてください。夫婦の問題の微妙なところはわからなくても、人の心はわかるつもりです。私も人の子なのですから▼ただひとつだけ悔いとして残るのは、あの時の団らんのなかであなたがた夫婦の亀裂にうかつにも気づかなかったことです。あの笑顔のうらに苦悩を観ることができなかったことです。ことばのなかに真実の叫びを聴くことができなかったことです▼今は、神さまがかつてのようにこれからも、あなたがたを守ってくださるようお願いするだけです。私の力の及ばなかったところを神さまがなんとかしてくださるように切なる祈りをささげています▼あなたはもう自分のことは忘れてくださいといいました。でも神さまがあなたのことをお忘れにならないかぎり、私も忘れることはできません。また気がむいたら司祭館を訪ねてください。待っています。

座談会

公聴会後の教区の課題を探る

求められる信徒の声のすいあげ

来年秋の福音宣教推進全国会議（ナイス）へ向けて、福岡でも公聴会が開催された。教区報では公聴会後の教区の宣教への取り組みについて、教区長の平田三郎司教様他五名の方々にご出席いただいて座談会をお願いした。是永通孝氏がまとめてくださった公聴会の分散会と全体会のレポートを参考にして、一時間余りにわたって熱心な討論がくりひろげられた。

（聞き手・渡辺隆義編集長）

（出席者）
平田　三郎（福岡教区司教）
澤　信子（教区修道女連盟会長）
是永　通孝（福岡地区信徒協書記）
山田　成章（福岡教区総代理）
山田耕三郎（福岡地区信徒協会長）
鬼木　久美（福岡地区婦人会長）



是永　澤　司教　山田神父　山田　鬼木

本音をきけたか

―公聴会をふまえて、教区の課題についてお話しをお願いしたいと思いますが、まず公聴会の目的について。

山田神父　今回の公聴会は司教様方と信徒との対話ではなく、司教、司祭が信徒のいわゆる本音といいますか、生の声を聞くことを目的にしていました。

福岡教区の場合は、叙階式や、献堂式などの行事が続いて大変だったのですが、案外うまくいったのではないかと思っています。

是永　こうしてください、こうあるべきじゃなかろうか、という発言が多く、こうしているとかこうしなくてはいけない、という意見が非常に少なかったようです。

鬼木　一番感じましたのは、私たち、いままで、そとに向かってより、どっちかというと自分の信仰を守る面が強かったということです。家にいても宣教はできるという具体的な報告を聞いて、自分の信仰がしっかりしていれば、たとえどういう方がみえたって、自分の信仰を話すことができるんじゃないだろうかと思いました。

是永　私のグループでは、鹿児島の方が自分の教区の信徒倍増運動を批判したんですね。でもその方はその方で、信徒同志の隣組の中で、あるいは、自分の地域の人のためにやっておられる。反発しておられたんですが、裏返していえば、それだけ熱心だといえるんですね。

やっぱり鹿児島は一生懸命やっているなぁという印象を受けましたよ。

山田　私たちのテーブルでは若い人を育ててくださいということが強くでていました。

若者にあれしなさい、これしなさいと…小使いみたいなことばかりさせないで、もっと重要なことをさせていただきたいと、若者の声がありましたね。

是永　今、若い人にさせていることは教会学校の先生とかそういう程度で。

もう一つは、神父様の説教が古くさくてついていけない…（一同笑い）。若者にアピールできない。

澤　公聴会に若者が少なかったのも、現在の教会を暗示していますね。

山田神父　教会はみんな狭い意味にとっていますね。信徒、修道者、司祭、司教を頭において話すものですから、宣教というよりも、司牧になってしまう。

広い意味での教会というものは、信者でない人たちもふくめなくてはいけない。

どうしても、教会に来ない信者をどうする、とかが話の中心みたいになって、本当に新しい信者を獲得するためにどうしたらいいのか、あなたはどうしていますか、という話が案外すくない。その点ちょっと残念でした。

信仰姿勢の転換を



司教　私は、九州中の神の家族が一堂に集って話したその体験は非常に貴重なものではなかったかなぁと思います。

私のグループでは、聖職者の悪口は聞かなかったんですが…（大笑い）。信者の再教育以上に、司祭が勉強してくれ、わかるような説教をしてくれ、司祭はもうすこしがんばってほしいといったようなことは、どこの公聴会でも言われたんじゃないでしょうかね。それから私たちはとても人に教えるような教養はありませんとか、自分の小教区をもうすこし固めないと、外にむく勇気はありません、などの声もありましたね。それに対してシスターが、自分の完成を待っていたら、一生涯、宣教することはないし、小教区だって世の終わりまで完成できないのだからといっていましたが、そのとおりですね。

社会を通して自分の生活があるんですから…外にも向かい、自分にも同時に向かうような生活でなければ。

初めての試みとしてよかったと思います。対話をしたということですね。

なぜ信徒に伝わらぬ

山田　それと、これは反省ですが、今度の公聴会について、司教館から、文書で流されていたものが、神父様にうまく伝達されていたかどうか。とにかく文書だけ出したら、みんな認識しているだろうということが、昔から多くございましたからね。

それから、この公聴会に出席していない人にどのように今回の公聴会の実りを伝達するかという問題ものこっています。



司教団がお出しになる文章が何を言ってるのか分からないというようなことではね。ポイントを、いわゆる上層の知識階級にもっていくのか、一般にもっていくのか。限られた信者だけじゃなくて信者全体を第一に考えることですね。

全部の信徒が働かないと意味ないと思います。

司教　山田さんがおっしゃるみんながんばるという気持になるためには、公聴会はどういうふうだったかということを教会の代表が信者さんたちに伝えるということを徹底させなければなりませんね。

山田神父　大事なことです。いわゆる草の根宣教といいますか、全部が宣教に燃えるという。

鬼木　私たちのところでは早速、公聴会に行った方が、ミサ後に報告をしました。そして11日に黙想の家で、希望者が集まりまして、この公聴会に対する研修をしようということで、すでに募集しています。

司教　ああ、いいですね。

深めたい宣教の心



澤　修道会でも、まだ福音宣教への理解と知識が不足していると思います。自分の会のことだけで、精一杯ということが多いので、浸透していない面もあるようです。

こういうまとめを各会にコピーしてまわし、これをもとに、修道会でも地区別でなにかやれたらと思います。

山田神父　カトリック用語のむずかしさですが、そんなにむずかしいかなと思っていたんですが、一般の人にはかなりむずかしいと感じられているみたいですね。日本の司教団の公文書とか、あるいはうちの教区から出されるもの、むずかしいといわれますね。

教区の指針が必要



是永　私らが見ますと、非常にむずかしいですね。

日本の司教団の福音宣教に関する「日本の教会の基本方針と優先課題」。何いっているんかなぁという感じがするんですよ。具体的になにをやれとかがないんですね。会社の公文書では、これこれをやりなさい、これをやる為には、こういうことを考えなさいとか、分かりやすいですよね。

カトリック用語がむずかしいんじゃなくて、文章がね。日本の司教団のは、日本人が書いたのでしょう。

それと福音宣教の本というのは、いろいろでているんですけど、オフィシャルなものが必要だという気がします。ひらたく、これが福岡教区の福音宣教ですよというものが。

司教　今までは、おもにインテリにむけての宣教が多かったと思うんです。昔は、知識階級が改宗すればみんなついてくる、という考えだったんですね。大名が改宗すれば、藩の住民はみんな改宗すると。今でも日本には、そういう封建時代の名残りというものがあるんです。

信仰は学問ではないのです。心の体験と、私は言ったんですけどね。しかも今までは知識としての宗教という面が強かったので、私はそんな知識はありませんとか、教える資格がありませんとか、いってしまうんですね。難しい本を読めなければ宣教できないというんでは大変なことです。

山田　それと日本の文化をカトリックも、よーく分析して根本的なものをつかんでいないといかんのですよね。

司教　土壌の研究ですね。一般日本人の心の中にある儒教や仏教的なものをふまえてどういう言葉あるいは文章が心にひびくか考えてみる必要はありますね。

山田神父　カトリック用語を使っちゃいかんというんじゃなくて、それをうまくわからせるように、知恵を使わなくちゃいけない段階ではないかなぁ。

子供たちへの宣教



鬼木　今は、文学的な本もマンガで読む時代になってきているので、宗教的な本をもっと子供たちの感性にあうものにしたらどうですか、という話もでていました。実際、子供たちは最近ビデオを遊びによく使っていますよね、ですから、そういうものを通して子供たちに、教会のいろんなことも、見せながら教えることは紙芝居を見せたけれども、今の時代にそった方法というものを取りいれなくてはならないと思いますよ。

急げ！教会の対応



山田神父　これからの教区の福音宣教へのとりくみとして、たとえば教区センターの活用のことしで、あちこちからいろんな催しとか、講座などで使いたい要望が強くなってくると思うんですね。

それで、カテドラルの運営委員会を早速始めてもらい、いろいろな要望がでてきた場合にそれに十分に応えることのできる態勢を早くつくることが必要だということですね。

鬼木　教区センターでは、信者対象のものばかりでなく、人生講座など一般向けの講座をもうけたらいいですね。

今悩んでいる人も沢山いるし、青少年にしても自殺の問題とか、堕胎の問題とかいろんな問題があるので、誰でもが入れるような講座を早くやってほしい。

―福岡教区は信徒の中にすばらしい人材を見つけることができると思うんです。教会にこられる方は、神父の話を聞きにきてるというより、キリスト教的な話を聞きにきているんですから、信者の方でうまくお話できる方をもっと活用しなきゃならないのではと思いますよ。

山田神父　信者のタレント発掘と活用ですね。

是永　公聴会をどういうふうにすくいあげるかも問題だが、福音宣教をどうすすめていくか、あと一年のスケジュールを早急にきめなくてはいけないのでは…。

司教　ある程度のビジョンをだす必要があると思っています。

山田　それについて思いますのは、今までは司教様が号令をかけてやってきましたが、これからは底辺の声をすいあげて、司教様のところへこれはどうでしょうかともっていく時代ではないでしょうか。

―修女連のほうはいかがですか。

澤　私たちだけでは何もできません。婦人会の方々や信徒協の方々にも協力したり、協力していただいたりしてやっていきたいですね。私たち修道者だけの考えではどうしても狭くなりますので。

山田神父　司教と司祭たちの交わりがうまくいっていないということや、司祭同志の対話の不足も指摘されていましたね。

―最後に司教様からひとことお願いします。

司教　具体的なことはこれからですが、来年のナイス（福音宣教推進全国会議）にむけて教区の司祭、修道者、信徒が一丸となって、宣教に励むようにお願いします。

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1―12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州(093)671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

第25回 福岡教区クルシリヨ
信徒の使徒職に目ざめる



練成を終えた参加者とスタッフ

福岡教区クルシリヨ（信徒使徒職練成会）が5月2日～5日にかけて、福岡黙想の家で行われた。

今回は教区の10小教区から男性16名、女性11名、さらに御受難会の修練者3名と大神学院の2名の助祭を加え合計32名が参加した。

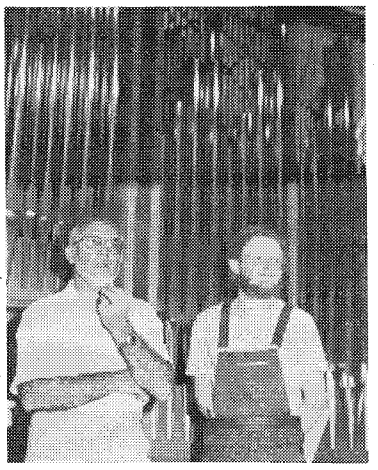
久しぶりに30名を越す参加者に、指導司祭の渡辺神父と練成長の松尾光敏氏（若松教会）をはじめ、スタッフ一同の熱のこもった指導がなされた。

期待と不安のうちに始まったクルシリヨではあったが、最後は聖霊の導きのうちに皆練成を終えた喜びに満たされていた。

クルシリヨは、一九四九年にスペインで始まったが、福岡教区では紹介されて以来、毎年欠かさず、25回をかぞえるまでになった。

この練成会は、各自の信仰を固め、宣教する教会のなかで自分がどんな責任と使命を与えられているかを深く考えさせ、教会の内的刷新へと向かわせることをその目的としている。

福岡カテドラル パイプオルガンが完成
6月8日（日）に披露演奏会

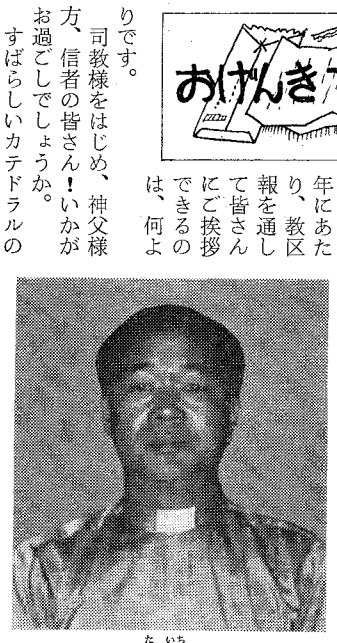

最後の調整に余念のない
リヒャルト・ヤコビ氏（左）と
ヨーク・ピーターアイト氏（右）

福岡市大名町カテドラル・センターのパイプオルガンがいよいよ完成を迎える。約一年前からドイツで製作され、4月の献堂式のあと組み立てが始まっていたものである。

組み立てには、ドイツ人技師のリヒャルト・ヤコビ氏とヨーク・ピーターアイト氏の二人があたっていた。このオルガンには総数一六七五本のパイプが使われており、ここ数週間、回りの騒音の合間をぬって、調律が続けられてきた。製作者のひとりR・ヤコビ氏は「オルガンはこの聖堂に合わせて、第一に典礼のためにつくりましたが、演奏会でも十分満足していただけると思います」といっている。

6月8日（日）にはエリザベト音楽大学のF・ボーン神父による披露演奏会が予定されてる。

おげんきですか


牧山田一（たいち）神父様

鹿児島青木神父様から百年史、絵はがきを届けていただき感激もひとしおです。皆さんと感謝を共に、より一層の宣教の実りを期待しています。

こちらに来て、まだいささか緊張気味ですが、温情豊かな方たちばかりですので、ゆったりと腰を据えて司牧と宣教にとりくめたらと夢みる昨今です。

大島は文字通り大きな島で、巡回教会をいれて31の教会があり一人の司祭で七つの教会を受け持っているところもあるぐらいです。

きれいな海に囲まれ、色とりどりのさんごと花で飾られたみどりの島、この奄美に、どうぞ一度おいでください。ご案内します。

お互い、教区を異にしてはいても、目指すところは同じです。奄美大島でも宣教百周年を前に一同張りきっています。

司教様をはじめ、神父様方、信者の皆さん！いかがお過ごしでしょうか。

すばらしいカテドラルの完成、おめでとうございます。落成式に参加したかったのですが、丁度その日、奄美大島の名瀬市に赴任することになり残念でした。

天草大江教会のルルドの聖母

熊本・菊池教会　田中 たか子

4月27日、天草大江教会のルルド除幕式に参加してきました。

あいにくの雨空でしたが小雨にけむるルルドのマリア様も、また一層美しく輝いてみえました。観光協会その他の方々の協力のもとに、完成したルルドだそうです。宗教をとわず、参加者全員で祝うことはとてもすばらしいことでした。

小高い山の上に立つマリア様、弱い私たちを守りつづけてください。

そして、あなたに倣うことができますように。

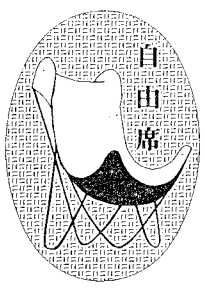
公聴会に参加して

北九州・水巻教会　上野 英子

大いなる期待と喜びと準備とをもって公聴会に参加させていただきました。

しかし正直いって、期待はずれで、このような現状なら今後も、大した変化はないだろうと悲観した者の一人でした。

司教から「本音を聞かせて欲しい…」といわれたにもかかわらず、分散会での発表は、きれいごとばかりで、それを聞く限りにおいては、どこもさして困難もなくすべて順調という建前論のみで終始しました。



しかしどの小教区もいろいろと努力はしているものの、その現状から抜けだせず、同じような問題を抱えて苦慮していることもわかりました。

この模索の中で、私たちはおのずと司教、司祭の生きざまの中に何らかの解決があるかもと、そっと目が行きます。しかし『マタイ8・20』『ルカ9・3～4』のキリストのように、激しく真に福音を生きている司教、司祭が今日、日本に何人いるでしょうか？司教、司祭も現代社会に生きる人間として、時のしるしを読みとり、積極的に自分から出て（自分のエゴ、安逸から）『小さき人々』と出会い、関わりあい共に問題を解決する努力をするなら、行動をもって、生き方をもって『語る』ならこれが即ち、福音を宣べ伝えることではないでしょうか。

司教、司祭が我が身をもって行う時、信徒は「ああ、あのようにすればよいのか、では自分の分野でやろう」ということになるのです。

私はある司祭の生き方を見て変えられた者の一人です。聖職者の生き方が現状のままなら、日本の教会は今後も大した変化はないだろうと思います。

イコン展 盛会のうちに終る

4月14日から5月10日まで約一カ月の間カテドラル・センター（福岡市大名町）で行われたイコン展には、約三百四十枚のイコンが展示され、通りすがりの人やわざわざ足を運んだ人など連日の盛況で期間中の入場者はのべ二千人とのこと。主催した浄水通教会の泉神父や信徒たちが、毎日会場にいて、解説や案内を担当していた。

ルルドの洞窟完成
大楠教会に

ルルドの聖母に捧げられた福岡市の大楠教会（主任・鵜野泰年神父）に、かねてより念願のルルドの洞窟が完成。

5月18日（日）午後4時より、平田司教司式で祝別式とミサをおこなった。司教は、「このルルドが多くの巡礼者によって参詣されることを望む」とお祝いの言葉をのべた。福岡近辺はもとより北九州、熊本から参列した多くの信徒が喜びを共にした。

カトリック・アクション
カトリック青年会

青年会は、18歳以上の未婚の男女で構成され、若い力と自由な発想で教会の将来を担っています。従って、予備校や大学、専門学校や短大に通う者、社会人として社会的責任を負っている者、親元を離れアルバイトで生活費をまかなっている者など、バラエティに富んでいます。発想の違いが活動の拡がりをもたらしている反面、時間的制約や社会的地位の低さが、活動の低迷となることもあります。

昨年秋の、福岡教区青年大会を機に、小教区の青年同志から、小教区相互のつながりを深めようと、連絡体制の整備が進められています。これまで、個人的交流はあっても他の小教区の青年が、どのように考え活動しているのか、あまり知らずにいた点が反省されたのです。これからは、人数の少ない他の青年会を応援に行く若者の動きが見られるかもしれません。

そこで、先輩の方々にお願いがあります。あまり若い力に歯止めをかけないでください。まわり道になっても、失敗を味わわせてください。それよりも、中学生や高校生の青年会予備軍が、教会に集うように力を注いでください。

また、若い方々にもお願いします。教会はあなたのその若さを必要としています。ミサに来て、帰る前に神父様に尋ねてください。「青年会に入りたいのですが…」と。小教区によっては、青年会がないけれども青年の集まりが欲しいと思っている人もいるでしょう。その時は、隣りの小教区の青年を尋ねてください。きっと相談にのってくれます。

（西新教会　畠山真理男）

BOOK 読みま専科

☆信仰とキリスト教の一致

B・ヘーリング著　小幡 義信訳



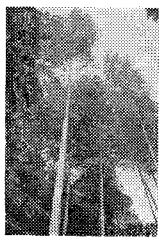
ヘーリングが、キリスト教的生活の実践のために書いた「キリストの自由」という倫理神学シリーズ（邦訳では全12巻）の一冊である。

従来、プロテスタント等に対して敵対心、相違点を強調することで排他的になっていたけれども、この書は、今、開かれた教会の中でキリストを中心にして共通点を見出し、対話し、共にキリスト教的兄弟であることを推し進めていく上での良書といえる。

なお、このシリーズでは、『自由の源泉を求めて』『政治倫理と地上の平和』もすでに刊行され、残りの9巻も隔月発行の予定ですので御期待下さい。（中央出版社）

☆悔いのない人生を

山内清海著



著者が司祭叙階25周年を記念して出版した本である。

人が誰れしも願う輝かしい生きがいのある、充実した人生とはまったくちがった、キリストにおけるキリストのための人生とはどのようなものか。

苦しみの意味、現代社会の不調和と矛盾、人間教育などについて興味深いエピソードを交えながら問題提起をしている。（九五〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（六月）

8日　パイプオルガン祝別式
9～13日　司教会議（東京）
14日　熊本マリスト学園25周年と落成式
15日　箱崎教会堅信式
22日　高宮教会堅信式
29日　修女連研修会（ミサ）

福岡黙想の家

5月31日～6月2日　雙葉学園教師黙想会
3～6日　幼きイエズス会黙想と研修会
7～9日　雙葉学園教師黙想会
21～23日　雙葉幼稚園・小学校教師研修会
28～29日　笹丘教会中学生黙想会

カトリック看護協会福岡支部総会（親睦の集い）

日時　昭和61年6月15日(日)　10時30分～15時30分まで
場所　福岡カトリック・センター（福岡市大名二丁目）
指導司祭　平田寛神父
医療職の方どなたでもご自由にご参加ください。
問い合わせ　熊本市上林町三―五六　イエズスの聖心病院　シスター竹内　☎096(352)7181

福岡地区婦人会総会と講演会

講　師：深堀敏司教（高松教区）
テーマ：婦人の福音宣教
日　時：6月5日（木）　9：30～15：30
場　所：カテドラル・センター大名町カトリック教会
申し込み：各教会婦人会　問い合せ：092(541)6478（鬼木）

親のための「性教育」の講話

（カトリックの立場から）
日時　6月22日　15時～17時
場所　浄水通カトリック教会
講師　泉　類治神父
対象　子を持つ親、また、子供の信仰教育に携わる人、そして、それに関心のある人すべて。

修女連〝福音宣教研修会〟

テーマ・「修道女である私は福音の証しとなってきたか」
修道女はどのように福音宣教と取り組み、日本の教会、社会とどのようにかかわってきたか。修道女が日本で福音の証しとなるために、何が欠けていたのか、どんな妨げがあるのかを大胆に見直し、刷新するための研修会。
期日　6月29日（日）　9時15分～
場所　福岡・雙葉学園
討論者
水浦征男（コンベンツアル聖フランシスコ会司祭）
渡辺隆義（小郡教会司祭）

教区青少年への新たなとりくみについて

教区青少年担当司祭
深堀勝人（小倉教会）
今まで教区を四つの地区に分けて担当司祭をお願いしていましたが、青年たちの地域における交わりと共同体意識の向上のため、地区担当をブロック担当という表現に改め新たな気持で神の家族として歩んで行きたいと思います。
今回は、福岡地区のみが二つのブロックになりますが小教区、ブロック、教区の青年たちの共同体づくりのためよろしくご協力ください。
各ブロック名は次のとおり
※福岡ブロック　※筑後ブロック
※北九州ブロック　※佐賀ブロック
※熊本ブロック
各ブロックの担当司祭は次号でご紹介いたします。

景山ひろ（善きサマリア人修道会修道女）
本多正昭（黒崎教会信徒）
吉川八重子（浄水通教会信徒）
主催　日本女子修道会総長管区長会

いぶき

教会は伝統的に、キリストの聖体の祝日後の金曜日を「イエズスの聖心の祝日」とし、六月を「聖心の月」と定めて、わたしたちに、イエズスの聖心に対する信心を勧めています。

イエズスの聖心の信心の歴史は古く、中世紀にまでさかのぼりますが、これが全教会の祝日として公的に認可されたのは、一八五六年、時の教皇ピオ九世によってでした。しかしその後、聖心の信心は、新しい固有典礼と共に、急速に全世界の教会に広まり、すべて信者に親しまれるようになりました。

聖ヨハネは、十字架上ですでに息絶えておられたキリストについて、「一人の兵士が槍でイエズスの脇腹を突き刺した。するとすぐに血と水とが流れ出た」（19・31）と記していますが、イエズスの聖心の信心は、実はキリストのこの脇腹の傷と深い関係があるのです。

というのは、聖ベルナルドが教えるように、それは「わたしたち人間に対する、神の無限な愛の啓示」だと考えられるからです。

教会がイエズスの聖心に特別な信心を求めるのは、十字架上のキリストが、槍で脇腹を刺し貫かれたという事実を、キリストがわたしたちの罪を償い、救いの喜びをもたらすために、御血の最後の一滴までも流し尽くされるほどに、わたしたち一人一人を愛された無限の愛の象徴と見るからです。だからこそ教会の典礼文は、イエズスの聖心を「無限の愛と、汲み尽くせない恵みの泉」、「魂の憩いと安らぎの源」、「悔い改める人々の支え」などと表現するのです。

わたしたち人類に対する、神のこのような無限の愛の象徴であるイエズスの聖心はまた、キリストの、わたしたちの愛に対する「渇き」の象徴だともいえるのではないでしょうか。

ヨハネは、キリストは十字架上でもだえ苦しまれながら、「すべてが成し遂げられたことを知り、『わたしは渇く』といわれた」（19・28）と書き残しています。前夜から血の汗を流して祈られたキリスト、鞭打たれ、重い十字架を背負ってカルワリオの丘を登られたキリストは、どれほど咽喉の渇きを覚えられたことでしょう。しかしキリストがもっと強く求められたものは、ご自分のこれほどの愛に報いるべき、わたしたち人間の愛ではなかったでしょうか。キリストが十字架上での惨めな死を目前にして、文字通り最後の力をふりしぼっていわれた「わたしは渇く」という簡単な言葉には、わたしたちが神にお返ししなければならない、愛への望みと期待とが表現されていたのではないでしょうか。

このように考えますと、イエズスの聖心の信心は、神のわたしたち人類に対する無限の愛を思い起こさせると同時に、わたしたちがキリストの愛の渇きにどれだけ応えているかを、謙虚に反省するよう求めていることが明らかになります。

残念ながらわたしたちは、たびかさなる多くの罪によって、キリストを十字架に釘付けにして侮辱し、いくたびキリストの痛々しい脇腹に、容赦なく鋭い槍を突き刺したことでしょう。わたしたちは、キリストの愛の渇きに応えるどころか、かえって愛に仇をもって返すという、忘恩な生活を繰り返しながら、キリストの渇きをますます大きくし、期待を裏切ってきたのではなかったでしょうか。だから教会は、「聖心の信心」のもう一つの重要な要素として、わたしたちの罪のためばかりではなく、全人類の罪を償うために、特別な祈りと犠牲とを求めるのです。有意義で、効果的な「イエズスの聖心の信心」を実践するよう努力しましょう。

（サン・スルピス大神学院教授）　**イエズスの聖心の月**　山内清海

献金報告

愛の献金（四旬節）　九一七、四五二円
聖地献金　八三〇、五二二円
叙階式献金　二九五、七七九円
ミサお祝い　六一九、〇〇〇円
合計　九一四、七七九円
厚く御礼申しあげます。

ゼロからのスタート

山元 真神父の　**留学体験記 ①**



教会法研究のため、ローマに留学したのは昭和56年6月のことでした。この3月に帰国するまで、いろんな出来事を経験し、様々な人々に出会い、人間について、信仰について、教会について、また司祭職について、いろいろ考えさせられました。この間感じたこと、考えたことを教区報『カトリック』の読者の皆さまと、わかち合えれば、仕合わせと思い、ペンを執りました。

成田空港からローマまで15時間。ダ・ヴィンチ空港に着いたのは夜の9時半。ローマにいる唯一の知人、パウロ会のS師の出迎えを受け、まずは一安心。あまり緊張はしていなかったものの、全く知らない人々、未知の世界の中に入ったことを思うと、「アーとうとう来てしまった！」というのが、最初の実感でした。

パウロ会の修道院に四、五日お世話になり、その後9月末まで外国人のためのイタリア語学校に通いました。イタリア語も人間関係もゼロからスタート。自分の言葉と行動だけで、「私」という人間像がつくられていきます。先入観ゼロの世界。それまで、少しは「何かできる」と思っていた自信みたいなものが、いっぺんで崩れ、そのかわり、今まで見えなかった自分のいろんな面が見えてきました。

ゼロからスタートするとは、結局過去がないということで、不安はありますが、そのように割り切ると、見るもの聞くものすべてが新鮮にうつり、気づいていなかったことに気づかされ、発見することの喜びを味わうことができるようです。

（小倉教会）

ちからをもいれずして　あめつちをうごかし　のときのことのはか

紀貫之

古今集の巻頭の假名序の一節である。このあと「めに見えぬ鬼神をも、あわれとおもわせ、をとこ女のなかもやはらげ、たけきもののふのこころをも、なぐさむるは歌なり」とつづく。

それからのわが国の文学はすべて、これを実証するかのように和歌を心棒として展開する。現代人にとって、これほど和歌が大切であったかとの、今更ながら驚かされる。「いにしえ（万葉）を仰ぎて、いま（古今）を恋ひざらめかも。」で終わるこの序は、日本文学のなかで、はじめての文学論ともいうべきもの。

みことばが天地を創造し給うたのであるが、啓示のない国では、ことばが天地を動かすといっても、仕方がないであろう。

とにかく、ことばについて考えさせるゆるがない名文である。

（森山敬三）



パイプオルガンの祝別と披露演奏会

場所　福岡カテドラル（福岡市大名二丁目）
日時　6月8日（日）
祝別式　9時のミサの前
演奏会　午後2時30分開演
演奏者　F・ボーン神父（広島エリザベト音楽大学教授）
入場料　一、〇〇〇円
問い合わせ先　大名町カトリック教会　☎092―741―3687
入場券はパウロ書院・各教会にあります。

編集室から

「公聴会後の教区の課題を探る」の座談会では、教区の福音的刷新は容易なことではないが、その胎動は確かにあると感じました。

今号から三回にわたって、山元真神父様に留学体験記を書いていただきます。ご期待ください。

（W）

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8－8
TEL　092―531―3831
夜　間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093―771―3657

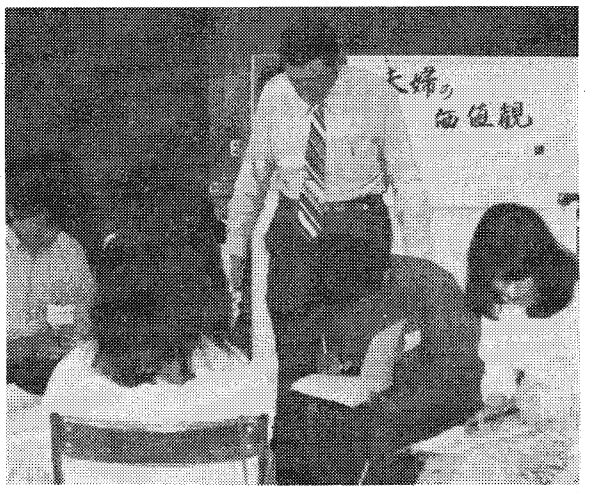
信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

福音を生きる家庭へ

現代社会の家庭の危機がキリスト者の家庭にも押し寄せている。社会のさまざまな問題を反映している家庭にキリストの福音を浸透させるためにはどうしたらいいのか…。福岡教区の各地で「結婚準備セミナー」の指導などを通して「家庭の福音化」に取り組んでいる福岡市皿山カトリック・ファミリーセンターのライル神父はその対応を急ぐよう訴えている。



夫婦愛は家族愛の基盤

今日、社会の病んでいる。その中でいちばん影響を受け、傷を負わされるのは、子供たちである。

家庭は多くの問題に悩んでいる部分の一つは家庭

昨年の統計をみると、離婚、親子の断絶など、離婚などによって傷を受けた子供たちは22万3千2百人で二年前と比べ3倍以上に増えている。

家庭崩壊の大きな原因は、生活のなかで夫婦のかかわりあいが少なくなることによって、次第に価値観のずれや不和が生じ、夫婦の間で生きた対話ができなくなっていることである。

したがって「家庭の福音化」というとき、家庭の核ともいうべき夫婦にまず焦点をあてる必要がある。

最近の現象として教会で結婚する人は信者でないカップルや、片方だけ信者というケースが非常に多くなってきている。このようなカップルをどのように指導していったらいいのか多角的に考えるべき時であろう。

結婚準備の刷新

現在、ライル神父は数組の信徒夫婦と一緒に、結婚前の男女のために「結婚準備セミナー」を福岡と熊本で年三回ずつ開いているが、これは以前のやり方とはずいぶん違っている。以前は結婚する当事者がほとんど司祭の話を聞くだけの一方通行であった。

しかし今日では、結婚の準備段階で二人が互いに学びあい、何でも自由に対話ができる雰囲気を作ることが大切であると一層認められるようになった。そのためここでは、かかわりあいの質を深め、命そのものの大切さや、生活の意味がどこにあるのかを、キリスト者夫婦の生の体験を聞くことによって学べるよう配慮されている。

その主な内容は、①新婚時代 ②豊かな対話 ③家庭経済 ④妊娠と出産 ⑤夫として妻として、父として母として ⑥二人の歩みの価値観 ⑦二人の精神的価値観。

さらに聖書を使って、教会が結婚についてどのように考えているか、結婚が一生涯の誓約であること、夫婦の愛を深めていくことの難しさなどについても学ぶ。

また、生命をより大切にするにはどうしたらいいか、結婚生活における家族計画についても具体的なアドバイスがなされる。

夫婦の養成

どんなに立派な準備がなされても、結婚後にはさまざまな問題が生じてくるので、アフターケアは欠かせない。

セミナーでは、結婚しようとするカップルが、信者の夫婦と知りあうことによってキリスト教的なかかわりができ、それが教会との出会いにもなっている。

この橋渡しともいえる夫婦のスタッフの養成が必要である。さらに望ましいことは、家族の問題で悩む人たちをカウンセリングできる夫婦を養成していくことである。



パイプオルガンを演奏するF・ボーン神父

披露演奏会へ長蛇の列

6月8日(日)午後2時30分より、福岡カテドラルで、F・ボーン神父(広島エリザベト音楽大学教授)の演奏によるパイプオルガン披露演奏会が盛大に行われた。

約一、〇〇〇人の入場者はバッハの名曲「トッカータとフーガニ短調」他6曲の一時間半にわたるすばらしい演奏に聴き入った。開場30分前には当日券を求める一般の人々で長蛇の列ができ、宗教音楽への関心の高さが伺えた。

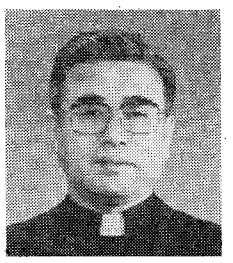
カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

初めにことばがあった
ことばは
神とともにあった……
(ヨハネ1・1〜3)
司教館　山頭原太郎神父

あなたとわたしの福音宣教



一九七四年十月のシノドスで、「私たちは、すべての人々に福音を宣べ伝えることが、教会の基本的な使命であることを、ここに確認する」という声明が出された。

日本司教団も、福音宣教を、日本の教会の基本方針と緊急課題として取りあげた。

福音宣教は、より多くの人々に布教することだけではない。神のみことばと救いのご計画に反する人間の判断基準、価値観、関心の的、思想や傾向、生活様式などを、福音の精神に沿うよう変えさせることでもある。

そのために、福音の精神に生きる生活のあかしをたてると同時に、ことばによる宣教が必要である。

そこで、第二バチカン公会議は、「教会とその全構成員の使徒職は、まず、ことばと行いとをもって、キリストの福音を世に告げ、キリストの恩恵を与えることにある」、また、「福音宣教は、神の民の根本的な任務である」と宣言している。

福音宣教は、キリスト信者にとって、してもしなくてもよいどうでもよい務めではない。なぜなら、「キリスト者としての召し出しは、その本性上、使徒職への召し出し」であり、「信徒は洗礼によって、キリストの神秘体の一部分となり、堅信によって、聖霊の力に強められ、主ご自身から使徒職へ任命される」からである。

新しい教会法にも「信徒は…洗礼と堅信によって、神から使徒職に召されているが故に、神の救いのメッセージが全世界のすべての人に知られ、かつ受け入れられるよう個人または団体として、働くという一般的義務に拘束され、かつその権利を有する」と規定されている。

福音宣教は、洗礼と堅信の秘跡に根ざす、神の民の根本的な任務である。したがって、「わたしが福音を宣べ伝えても、誇りにはなりません。そうしないではいられないからです。もし福音を宣べ伝えないなら、わたしにとってわざわいです」という聖パウロのことばが、私たちの心にも響かなければならない。

(サン・スルピス大神学院教授)

神の民の根本的な任務

中浜一男

小教区相互の協力を

結婚準備の導きも司祭と信徒が協力してすることが大切である。

したがって小教区単位に固執するより、結婚を準備する二人のためにいくつかの小教区が協力しあうことが望ましい。

教会で結婚した人たちのアフターケアを信徒が自分たちの使命として感じとっていくなら「家庭の福音化」はより豊かなものになっていくのではないだろうか。

(写真は結婚準備セミナーを指導するライル神父)



講演に聴き入る婦人たち

区会・地区総会・岡人・福婦

深堀敏司教が講演

信仰はいつも手元に

6月5日(木)カトリックセンターで開催された。叙階式、献堂式、公聴会など教区レベルの行事への奉仕のため延び延びになっていたもので、一六〇名の参加者があった。

総会での活動報告の中で、福岡地区三カ所(今村・篠栗・富の里)の老人ホーム奉仕についての報告で、「いやだなと思いながら始めたけど話しを聞いてあげるだけの私たちを待っていてくれる老人を見て、自分の仕事だと、今、思っています。」という言葉が印象的だった。また、かねてから提案され、少しずつ広がっていた奉仕活動への「賛助金」制度の正式な発足など、婦人の地道な福音宣教への行動を感じた。

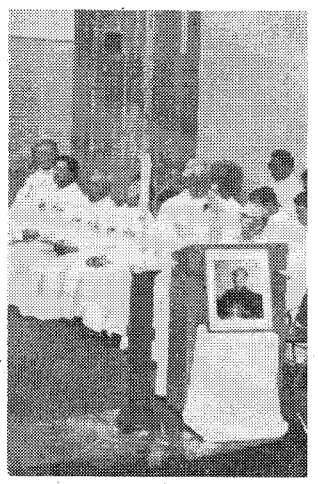
講演会では、高松教区長の深堀敏司教が『婦人の福音宣教』—基本方針の理解のために—というテーマで話した。

「教会は人々に奉仕するためにある、これが公会議の精神のエッセンスです。奉仕は苦しんでいる人類を、神の愛によって救うことです。親は自分が生きてきた中から、子供の年齢やその時の状態に合った方法で物事を伝えます。福音宣教もそうあるべきで、誰かの話したことや、書かれていることをそのまま伝えるのでなく、神の言葉を自分が少しでも生きてみて、それを自分のものとして、自分の言葉で伝えることが大切です。

日常生活の雑務と、信仰生活が水と油のようになっていて、日曜だけ信仰を棚から下してくるところがありますので、サラダのドレッシングのように、いつもよく振って使ってください。」と、ユーモアにとんだ講演で魅了した。

故ドミニコ深堀仙右衛門司教一周忌ミサ

司祭・信徒ら約二五〇名が参列



追悼説教する平田司教

6月22日、カテドラル大聖堂(福岡市)で、故深堀仙右衛門司教一周忌ミサが平田司教主式で行われ、35名の司祭と修道女・信徒ら多数が参列。「永遠の生命」について思いを巡らし、遺徳を偲んだ。

みちくさ

ことばは人を生かしもするが、人を傷つけることも多い。なにげなく言ったことばが相手の心を踏みにじる。しまった!と気づいたときにはことばはひとり歩きをしていて、自分の口には戻ってこない。その人のためにと思って言ったことばが互いの間に越え難い溝をつくる。しかし哀しいことに、あとになってしかそれは分からない▼文字もまた、読む人を生かすより、傷つけることがよくある。読む人の心の状態が予期せぬ新たな波紋を引き起こす。読む人の心が筆者の真意を歪めてしまう。時にはそれは深刻に、書いた人にも書かれた人にもはね返ってくる▼司祭がミサ中にする説教も、人さまざまに受けとめられる。ある人には、励まし、慰め、生きる支えとなるが、他の人にはいやな思いを抱かせ、司祭への失望や憎しみの原因ともなる▼人はどうしてこんなにいやな思いをしながらも、語ったり、書いたりするのだろう。もう話したくない、書きたくないと思うときがある。そんなことを思いながら、この文を書いている自分をまた笑っている▼このようなときは、せめてもの慰めに、あのナザレのイエズスのことを思い出すことにする。イエズスのことばや文字は、ある人には救いのメッセージとなり、ある人には挑戦として受けとめられ、ある人には全く無視された。イエズス自身の気持とは関係なしに。イエズスのことばじりをとらえようとした人々がいた。イエズスのことばを誤解していた弟子たちがいた。それにはさすがのイエズスもほとほと困ったであろうと同情する▼いつもイエズスと同じ心で話し、書きたいと思う。とてもできはしないだろうけどそうありたいと思う。かっこよく聞こえるかもしれないけれど、誠実、ゆるし、感謝の心を持って他の人のことばを聴き、文章を読み、そして自らも話し、書きつづけたいものだと思う。

○今、キリスト者の家庭は……

信じることを生きる

さまざまな悩みをかかえ込んでいる現代社会の闇のなかで新しく光りはじめる星もあれば、ふるくから輝いている星もある。

キリスト者家庭のちいさな星のあかりが、おおきな世界をつつみ込んでいく。

感謝の心で毎日を

本郷教会　平田スマノ



私共夫婦は、小さな自動車工場をしながら、四人の男の子を育てました。長男夫婦と孫たちが隣りの家に20歳になる一番下の子が家にいて、中ふたりは小倉と福岡で家庭を持っています。子供たちが小さい頃は、子供のことでいろんな方にたびたびお詫びにいきました。子供たちと話し合ったり、きびしく叱ったこともありました。でも日曜日のミサだけはやかましく言って連れていっていました。今でも家に帰ってきたらみんなで教会にいきます。

ある時、息子の未信者の嫁からどんなふうにお祈りをしたらいいかとたずねられたので、「あなたが洗礼を受ける気になるまで、『てんにまします』の一回でも唱えて無事であったことを感謝したらいい」と答えておきました。

今は主人とふたりで毎日、朝晩の祈りとロザリオをしています。ロザリオは亡くなった妹や主人の母や家族のためなど祈ることがいっぱいあります。

それぞれの家庭を持った子供たちの信仰を案じながら、感謝の心をもって生活してくれるように祈っています。

未信者との結婚が多くなった今、教会から遠ざからないように家族みんなで支え合っていくことが大切だと思います。

今は子供たちも、あの頃きびしく育てられてよかったと言うようになりました。

子供たちが小さい時は、家族みんなで祈っていたけど、中学生になって難しくなりました。でも日曜日のミサだけはやかましく言って連れていっていました。今でも家に帰ってきたらみんなで教会にいきます。

ある時、息子の未信者の嫁からどんなふうにお祈りをしたらいいかとたずねられたので、「あなたが洗礼を受ける気になるまで、『てんにまします』の一回でも唱えて無事であったことを感謝したらいい」と答えておきました。

今は主人とふたりで毎日、朝晩の祈りとロザリオをしています。ロザリオは亡くなった妹や主人の母や家族のためなど祈ることがいっぱいあります。

それぞれの家庭を持った子供たちの信仰を案じながら、感謝の心をもって生活してくれるように祈っています。

未信者との結婚が多くなった今、教会から遠ざからないように家族みんなで支え合っていくことが大切だと思います。

共に祈る

新田原教会　頭島一人

日常生活を共にしている自分の家族こそ共に祈る第一歩だと思う。これは易しいように思われるのであるが事実はどうだろう。

私の場合、家族の全員が共に祈ることが果たしてあったのかとふりかえると、記憶の限り、一度もないようである。

家族全員となるとこのようなものかと、新たな驚きを感じる。

では何故かと思いを巡らすと、自分が額に汗して、その日の糧を得るのに精一杯の労働者の底辺に位置する者であった、ということであろうか。

ところで今や私も労働者の底辺の位置を、停年という呼び名によって失ない、それと同時に子供たちもそれぞれに巣立って家族の数も減少したので、今こそ家族全員が共に祈るということが可能かというと、やはり難しい。

家族全員ということにこだわらず、居合わせる人がみんな揃って祈ることで、共に祈る心を持ちたいと考えている。

最年少の三女が、カリタス会に入会した今年三月から、家族として援助できることは家族が一つの目的のために共に祈ることのほか、なにもないと強く意識するようになった。

短い祈りであっても、共に祈るということを心掛け、家族全員がそろいやすい朝に、いつからかロザリオの一連を朝の祈りに加える日々となっているのが、我が家の祈りの現状である。



主のなさること

西新教会　柴田須磨子

21歳、神の愛にふれ受洗、その半年後に主人との結婚。所持金二万円の私の誇れる嫁入り道具はカトリック信者ということだけでした。

この信仰があったからこそ、神の愛ゆえの試練の数々も、つまずきながらも明るく笑って来れた一六年間だったと思います。その間、東京、埼玉、青森、福岡と各地を転々、4人の子を神さまから委ねられ、子供たちの幼児洗礼をしぶしぶ許してもらえたものの、人の愛に触れることの少なかった主人は、なかなか神の存在を認められず当然というべき価値観の相違が生じました。

折角の日曜日、主人一人を残し教会へ出向く心の葛藤、夫の背に「主よ、あわれみたまえ」と何度祈ったことか。

私の意志で洗礼を受けさせたという責任の重さ、弱音は禁物です。心に響くみことばを部屋のあちこちに貼り、霊的な本はトイレにまでおき、隣室で主人は一人晩酌、ときどき〝うるさい〟と怒られながら信仰ごっこまがいの子供たちとの夜の祈り。マンネリを防ぐため今日は聖書、明日は絵本、テープ、時には聖書研究会でのお話を、乏しい知恵をしぼり、すべてを道具に四人の子供相手に、まるで先生気分です。

お父さんと共に祭壇の前に立ちたい……子供たちと私の願いはそのまま頂くご聖体を通して主に。特に幼い聖はそのひとりの願いが強く、事あるごとに主人に神さまのお話をしていました。私も祈りました。

〝主人のために道具につかってください。必要なら私の命も……。〟そして、主はその叫びをありのままに聞き入れてくださいました。上の子供たちと離れて生まれた聖は3月の御復活祭に初聖体を頂きました。聖はるようになり4月19日、7回目のご聖体を楽しみに、7歳という短い生涯を主に捧げたのです。深い絶望の中、サウロ改めパウロのごとく主人が受洗の決意を固め、洗礼の恵みを頂いたのは、その一カ月後の5月18日でした。

聖は交通事故という血に染まった十字架を頂き、みごと主人の中に復活したのです。全てが無駄でなかったこと。あの雨の日、吹雪の日……そして娘の死すらも。痛まなければ神の愛を知り得なかったこと。主のなさることの計り知れなさ。

永遠の生命を頂いた聖を中心に、やはり私たちは六人家族。やっとクリスチャンホームになれたのです。

全ての誉れと栄光は主に！



私の小教区における実践的宣教活動について

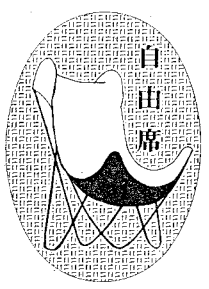
北九州・戸畑教会　松本千弐

福音宣教活動と一口で言っても、夫々の小教区における地域特性や生活環境の違いがあり、毎日が試行錯誤の連続でありますが、一つの成功例として私の所属している戸畑教会の司祭を中心とした、司牧を基盤においての全信徒参加による宣教活動の組織的展開の一部を紹介させていただきます。

私共の活動は信徒の一致団結、協力が基盤となっています。その推進の原動力は、運営・地区委員会、婦人会を中心にし、CYG、ステファノ、中学・高校生会、修道院を含めたもので、地域との融和と宣教ならびに難民救済、援助活動を主目的に、納涼大会、歳末助け合い募金、幼稚園運動会、バザー、廃品回収、特殊施設訪問、各種ボランティア活動などがあり、諸行事による収益金も全て対外援助金として役立てています。

また信徒活動とは別に神父さまによる地道な研究会も活発です。その甲斐あって受洗志願者も毎年、後を断っていません。この10年来の種蒔きが、H神父さまの去られた6月1日の堅信式で64名に及ぶ多数の受堅者をみたのです。

もちろん私共の活動が全て満足とは決して思っていませんが、献身的な働きにかかわる多くの人に対し無知による一部の論旨無き批判論者が居るのも事実です。このことは時として活動にかかわる人々に〝つまずき〟を与える結果にもなっていますが、批判にめげず、時代時代にあった地道で息の永い活動を横索、継続し、今後とも師の意志を共に貫きたい気持で燃えている今日此頃です。



・福音宣教の妨げとなるもの

北九州・戸畑教会　安田廣海

去る6月1日戸畑教会では64名の仲間が堅信によって信徒使徒職の新たな担い手となりました。この事はとりもなおさず、戸畑教会を長年司牧くださった神父様のご苦労の賜物だと思います。

神父様は以前からあった委員会を整備充実され、福音宣教の基礎を固められました。委員会のそれぞれは福音宣教の重要な役割を担い、信徒と歯車の様に噛みあって、各種ボランティア活動、バザー、街頭募金、廃品回収等の対外援助を行い、着実に外に向かって活動して参りました。これらの事柄は教区の中でも、他に優るとも劣らず、決して遜色のないものと思います。また神父様は戸畑天使幼稚園園長として園の運営にあたられ、父母の教育研究会、キリスト教一般研究会、聖書研究会と、着実に宣教の実をあげられ、受洗者数も増え、今日に至っている事は周知の事実であります。

ところで6月号に掲載された村松正俊氏の戸畑教会についての「福音宣教について　意識の変革を」という私見は、一見正論の様に聞こえるが、戸畑教会信徒の一員として決して受け入れる余地のないものである。

この様な事実と異なる私見を採用する事は、日夜福音宣教に奮闘する誠実な神父を侮辱する事であり、福音宣教の最大の妨げとなっているのではあるまいか。

関係各位の猛省をお願いする。

一本のロープで思うこと

佐賀教会　田丸鋭



6月はじめ、ボーイスカウトの隊長会での話です。

新入隊員がはじめて持参したロープでターザンごっこをしたり、首つりのまねをしたり、遊びのものだ」と次のように説明しました。

「目の前に溺れている人がいたら、私は泳ぎを知らないからといって手をこまねいて見てますか？　きっと、とっさにあたりを見回し何とか助けようとするでしょう。その時ロープがあれば一番です。ロープの端を一結びして投げれば、溺れている人が握った時、すっぽ抜けなくて助かる率が高いのです。この人助けの道を覚えるのがボーイスカウトの技能の一つです」と。

するとその後は、首つりのまねをする子は、いなくなりました。

死に打ち勝って復活されたイエズス・キリストによる神の救いのわざを、神の愛として体験している私たちは、子供たちに人のために尽くすこと、生きることを事ある度に話す必要があります。

からだ全部を使って覚えさせることが大切です。習慣を身につけさせるということです。カトリック信者であればとにかく子供に教会へ行くことを身につけさせることです。子供に「教会へいって何をするのか」ときかれたら私は「同じ釜のメシを喰う」ということをとりあげ、ミサ聖祭の主の食卓で、皆と一緒に力を合わせて、お祈りし、神を愛し、人を愛する心を養うために、また心を勇気づけてもらうために行くのです、と答えております。

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1―12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州(093)671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

頑張れ！ ママさんリーダー 福音宣教について学ぶ

北九州地区教会学校

教会学校で、女性の果たす役割は大きい。多くの小教区で、子供たちの信仰教育に奉仕しているのは母親であるが彼女たちの悩みも多い。このようなママさんリーダーのために北九州で行われた研修会は、各地の教会学校のリーダー先生たちのためにもなにかのヒントになるだろう。



去る5月26日、北九州地区教会学校のママさんリーダー40名は、小倉教会に集まり御受難会の鈴木忠一神父様を講師に招いて「福音宣教」について学んだ。

神父様は、参加者に福音宣教への意欲を目覚めさせようと、フランシスコ・ザビエル来日以来の教会史をたどりながら、特に禁教令や迫害時代の信徒の生きざまを見、彼らのキリスト信仰の熱意を話され現代のキリスト者の在り方、生き方について問いかけられた。キリストの死を生きた数多くの先輩たちの話をまじえながら十字架上の死去を通して復活の栄光を受けられたキリストの愛の生き方に出合うことこそ、私たちキリスト者の証しであり、福音宣教の源であると話された。

講話の後、2つのテーマで各自祈りと考察に時を過ごした。

一、私にとって、イエズス様はどなたか？

二、私の福音との出合いは？(いつ、どこで、どんな形で)

キリストの生き方にならい、子供たちに信仰を伝え、キリストのように生きることを目指すリーダーたちは、これらの問題に、真剣に取り組んだ。その中でキリストの回心の呼びかけに応え、キリストに変えられる具体的な日常生活こそ、各自の福音化であることに気付かされた。

次に宣教の妨げになっている事柄について考えた。

一、男性と女性の宗教観

二、カトリックの内と外

三、家の宗教

四、家族

五、教会の理想と現実

六、他宗教からの影響

七、宣教への熱意の欠如

などがあげられたが内容まで深めることはできなかった。

神父様の講話、小グループでの分かち合い、各自の考察を通して参加者は、信仰の喜びと希望のうちに、社会の中で置き去りにされそうな貧しい人、弱い人、小さい人々へ自己を与え共に生きる愛と、実践こそ、ママさんリーダーの証し人としての生き方であり、日常の具体的生活の中に福音宣教の場と役割があることを認識した。

(文責　北九州カテキスタの集まり)

おけんきですか

6月5日(木)講演のため来福された高松教区長深堀敏司教様を訪問した。

九年前高松教区へ着任されるまでは、福岡教区の司祭として多方面にわたり活躍された。中でもこの教区報『カトリック』の生みの親として銘記したい。昭和30年2月1日号が創刊で、トップニュースは建築中の久留米と古賀の教会についてだったそうだ。まもなく始まった公会議では、ニュースの速報性に留意し、公会議後は刷新された内容の説明に多くの紙面をさいたと話された。



深堀　敏　司教様

その他、各地のニュースを教区全体に流すために教区内を歩きまわったこと、事柄を的確にやさしく流すことに注意するなど全てを一人でしていたので大変な努力だったようだ。教区報は「教区内の全信徒を、司教を中心に『心の一致』に向かわせる役目をすべきですね」と言われた。

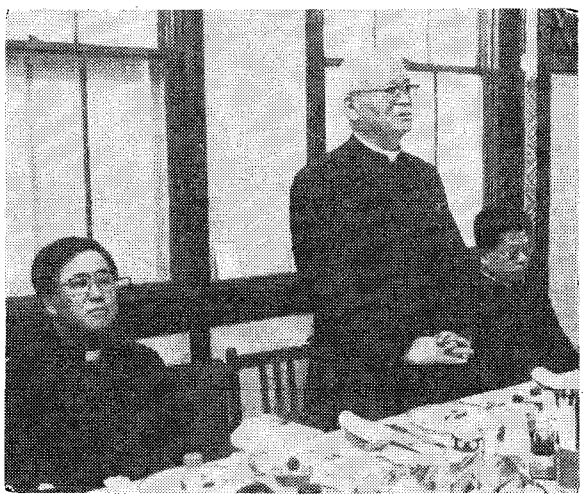
また、神学校や各ミッション・スクールで教えるかたわら、一七年間教戒師の仕事をしておられた。

福岡教区への一言として「他にもまれな人材が揃った教区だからもっとリーダー性を発揮して、全国レベルの貢献を望みたい。そのためにも、信徒が全国レベルの集まりにもっと出席してほしい。」と言われた。

高木善行師・山内清海師 銀祝を機に新たな意欲

司祭叙階25周年を迎えた聖スルピス会の高木善行神父と山内清海神父のお祝いが5月24日、福岡聖スルピス大神学院で行われた。両師共一九六一年5月27日の叙階。

朝7時から両神父を中心に共同ミサが捧げられ、夕方6時からは平田司教を迎えて祝賀会が催された。お礼の挨拶のなかで、高木神父は「25年間、教会の心である神学院で働くことができ嬉しく思っています。今後も司祭養成のために尽力したい」と述べ、山内神父は「孔子は50にして天命を知ると言いましたが、私はまだまだです。これまでやってこれたのは皆さんの祈り、励ましに支えられたからです。これからも支えられながら神学校で司祭生活に励みたい」と述べ、新たな意欲を燃やしていた。



高木神父(左)と山内神父(右)に祝辞をのべる平田司教(中央)

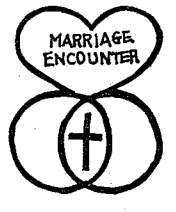
熊本マリスト学園(高等)学校 創立二十五周年を祝う



F・パトリック校長

熊本マリスト学園の創立25周年記念式典が6月14日、盛大に行われた。同学園はマリスト教育修道会によって設立され、73名の新入生で出発したが、現在は一〇三名の生徒を擁し、卒業生も三五〇〇名にのぼっている。

カトリック・アクション



最近、マリッジ・エンカウンターとかMEという言葉を「カトリック新聞」などでも、目にされると思います。これは夫婦が、「私が愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」というみことばを生き続けていく運動です。夫婦に対する神のみ旨は、二人が互いを、目に見えない神の愛の現われとして受けとめて、生きていくことです。そしてその愛が子供たちに、周囲の人に、社会に広がっていくとき夫婦はその召命に生きているのだと思います。

30年ほど前スペインで始まったこの運動は、全世界(共産圏も含め)に広がり特に離婚や家庭崩壊が大きな社会問題となっている折どの国でも強力な家庭福音化の方法として注目されています。カトリック信者の少ない日本では、信徒でない夫婦のためのプログラムもあり、これは宣教の強力な手段ともなっています。

MEへの参加は、夫婦が一緒にウィークエンドと呼ばれる二泊三日の体験をすることから始まります。そこでまず自分自身と出会い、二人の関り、神との関り子供や家族との関り、共同体や社会との関りを対話を通して体験します。

今年は9月13日から15日まで福岡黙想の家で、11月には大分と鹿児島でウィークエンドを行います。詳しくは左記へお問い合わせください。お待ちしています。

深堀純・邦枝(092)801-5351
御受難会福岡黙想の家
鈴木忠一神父
(092) 871-7108

マリッジ・エンカウンター ME(エム・イー)

ME九州大会

5月25日(日)熊本手取教会に、福岡、大分、熊本各県のマリッジ・エンカウンター(ME)の体験者が集った。MEが九州に紹介されてから約6年、今では九州全域でおよそ一二〇組の夫婦が参加体験し、それぞれの家庭や小教区で活躍している。この日は、日本代表のイシドロ・リバス神父と大手夫妻(鎌倉・雪の下教会信徒)を迎えて、同窓会のような集いだった。

性教育は親の責任

6月22日、午後3時から浄水通教会で、親のための性教育について講話があった。

講師の泉神父は、愛やセックス、人生などについては、まず、親が子供に教えるべきであることを強調。

さらに、堕胎が簡単に行われている今日、スライドで中絶がまぎれもなく殺人であることを説明し、子供や結婚前の若者に、この現実を教えてほしいと述べた。

小神学校問題に全教区的取り組みを

—教区司祭評議会—

教区司祭評議会は6月3日小神学校の現状と対策について協議した。

川口康頼小神学校長は「現在7名の小神学生がいるが、近い将来0になる可能性がある」と指摘。スタッフの充実と新たな事態への対応を要請した。これに対して、出席者から小神学校問題を検討する委員会をつくること、そして何よりも教区の全司祭、信徒に神学生養成に積極的関心とかかわりを持たせる運動を展開していくことなどの意見がだされた。

同評議会は9月までに小神学校委員会をつくるなど早急に具体的対応策を講じることを確認した。

なお記念行事の一環として同会の創立者シャンパニア神父像除幕式、新聖堂と特別教室などをもつシャンパニア館の祝別式がF・ハンター神父によってとり行われた。

感想文募集！ 読書感想文コンクール

BOOK 読みは専科

＊テーマ　愛と平和に生きる

＊課題図書

△小・中学生の部▽

『ある少女の旅』

『コルベ神父』

『ぼだい樹の笛』

△高校生の部▽

『マザー・テレサ』

『フィリピン・レポート』

『この子を残して』

『素晴しい人生を　あなたのものに』

△大学・一般の部▽

『人を育てる』

『惜しみなく愛は与える』

『心に豊かさを』

＊応募方法

○四百字詰原稿用紙五枚以内。

○感想文は、未発表のもので、一人一点に限る。

○氏名、年齢(学年)、職業(学校名)、住所、電話番号、所属教会をご記入ください。

○応募作品はお返しいたしません。

＊募集締切り

昭和61年9月末日(当日消印有効)

＊応募先

〒107　東京都千代田区六番町10-1
カトリック新聞社「感想文コンクール」係
☎ 03 (264) 4982

＊表彰

各部門ごとに
特別賞　1名
入賞　3名

＊入選発表

昭和61年11月　カトリック新聞紙上、及び『あけぼの』『家庭の友』12月号

＊主催

中央出版社(聖パウロ修道会)
女子パウロ会(聖パウロ女子修道会)

＊後援　カトリック新聞社

ふるってご応募ください！

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（七月）

1日　霊名のお祝いのミサと祝賀会
6日　飯塚教会堅信式
7～9日　教理編纂司教委員会（東京）
10日　行橋カトリック幼稚園PTA講演会
13日　黒崎教会堅信式

福岡黙想の家

17日　ミカエル会
20～22日　雙葉高校黙想会
24～25日　雙葉小学校6年生の練成会
28～31日　イエズス村

第2回福岡地区司祭・修道女の対話集会

日時　7月13日（日）午後2時30分～
場所　福岡カテドラル・センター4階
テーマ　「前向きの福音宣教のために、何をなすべきか」
対象　司祭、修道女
参加費　無料（往復交通費のみ自己負担）
持参品　公教会祈禱文、ロザリオ、洗面用具、着替え

召命練成会

日時　7月20日（日）～22日（火）まで
場所　福岡・聖パウロ修道院
問い合わせ　聖パウロ修道院 ☎092(531)0924百村等神父

福岡ブロック高校生練成会

日時　8月2日（土）19時～8月4日（月）11時まで
場所　福岡・聖パウロ修道院
テーマ　「君にとって生きがいとは何か？」
会費　二、五〇〇円（宿泊費、食費含む）
持参品　洗面具、タオル、着替え、タオルケット、体操服、体育館シューズ
問い合わせ　山内堅治神父(聖パウロ会) ☎092(531)0924

福岡地区少年少女練成会

テーマ　イエズスにであおう
日時　7月25日～27日（二泊三日）
場所　小郡カトリック教会
対象　小学生（中高生・未信者も可）
指導司祭　川上惣一神父（大名町教会）
松尾守（高宮教会）
参加費　三、五〇〇円（第一日目、7月25日は昼食持参の事）

集れ　イエズス村!!

日時　7月28日～31日
場所　御受難会福岡黙想の家
対象　小四～中三の男子
費用　五、〇〇〇円
テーマ　教会ってなんだろう
指導　御受難会神父と神学生

行こう　マリアの園

日時　8月7日～10日
場所　福岡大濠聖母訪問会
対象　小五～中一の女子20名
特に将来シスター希望者
テーマ　来てごらんなさい
指導　聖母訪問会シスター

福岡教区青少年ブロック担当司祭

教区青少年担当　深堀勝人師（小倉教会）

福岡ブロック（筑後以外）	ブロック担当	竹森　勇師（老司教会）
	青年 〃	川上惣一師（大名町教会）
	高校生 〃	山内堅治師（聖パウロ会）
筑後ブロック	青年 〃	渡辺隆議師（小郡教会）
	高校生 〃	下町豊重師（久留米教会）
佐賀ブロック	青年 〃	スカットロン師（唐津教会）
	高校生 〃	〃
熊本ブロック	青年 〃	青木　悟師（手取教会）（ポール師）（人吉教会）
	高校生 〃	青木　悟師（手取教会）（ポール師）（人吉教会）
北九州ブロック	ブロック担当	松井忠之師（行橋教会）
	青年 〃	平田三好師（新田原教会）
	高校生 〃	山元　真師（小倉教会）

＊筑後ブロック（今村、本郷、小郡、久留米、大牟田）

いぶき

信仰

山内清海

「信濃なる筑摩の河の細石も、君し踏みてば、玉と拾はむ」

これは、万葉集におさめられている短歌のひとつです。信濃の国にある筑摩の河の、何の変哲もない小さな石も、いとしきあなたがお踏みになった石だと思うと、とても愛しくさえ見えるようになり、玉として拾いましょう、という意味の歌だろうと、わたしは自分勝手に解釈しています。それにしても、これが美しいイメージと、リズム感にあふれた可憐な歌であることは、全くの素人であるわたしにもよく理解できます。わたしたちは、河の細石を玉として拾い、おそらくこの小石を大事そうに胸にしっかり抱いて家路を急ぐ作者の姿を、容易に想像することができます。それだけにわたしたちは、作者の、清く、精細で鋭敏、そして豊かな心の目に、深い感動を覚えずにはいられません。

全く同じことが、わたしたちの判断や行動を、導き生かす信仰についてもいえるのではないでしょうか。

ところでキリストは、わたしたちの生活を導く光について、「目は体の灯である。もしあなたの目が澄んでいれば、あなたの全身は明るい。しかしあなたの目が悪ければ、全身は暗い。もしあなたの中にある光が闇であれば、その暗さはどれほどだろうか」（マタイ6・22―23）と教えておられます。この「目」、ないし「光」こそが信仰なのです。

信仰について聖パウロは、「希望していることを保証し、見えないものを確信させるものです」（ヘブライ11・1）と、ヘブライ人に書き送っています。

冒頭にご紹介しました短歌の作者が、その心の豊かさと精細、そして鋭敏さのゆえに、誰の目にもとまらない河の小石を、玉とし、宝とすることができたように、信仰はまさに、わたしたちの自然的目や、人間的知識と常識では、とうてい見分けることも、また悟ることもできない素晴らしい宝を、わたしたちに見えるようにします。信仰は、人々が避けようと必死に逃げ回る、多種多様な苦しみや試練のうちに、汲み尽くせない宝を見出させ、生き甲斐と、超自然的喜びをさえ与えるからです。

さて、わたしたちの信仰は、生活を支え、道を開き、光を輝かせ、朽ちることのない、本当に価値あるものを見せうるように、成長しているでしょうか。わたしたちが、まだ日々の小さな十字架に不平をもらし、全く世間的で自然的な観点からしか、ものごとを見、判断できないでいるならば、わたしたちの信仰はまだ生かされておらず、少なくとも十分に成長しているともいえません。そうなると、せっかくの宝であるわたしたちの信仰も、わたしたちの超自然的、霊的完成はいうにおよばず、人間的、自然的魅力さえも与えていないことになります。

信仰は無益な飾りではなく、正しく生きるために欠かせない光であり、目なのです。

（サン・スルピス大神学院教授）

勉強の合間の勉強

山元真神父の

留学体験記 ②

よく人から聞かれる。「小倉に来られる前はどちらにいらしたのですか」と。そのような時は決まって「五年間ほど**隠れ神父**をやってました」と答えることにしている。丸四年間ローマで教会法を研究したわけだが、学期中は一切の司牧活動は禁止。春、夏、冬の休暇を除いて、教会で働くことは厳禁されていた。それも、本来の勉強にさしさわりがあってはならないという親心から出てきた規則なのだろう。法を勉強している身では、そのきまりを破るわけにはいかない。神父はいつでも、どこでも神父であるにはちがいないが、告白をほとんど聞くこともなく、ミサと聖務日課だけでは、神父としての成長は危ぶまれる。机に向かうと確かに知識はふえるが（体重も？）、人間的な面での成長の度合いは反比例するように思われる。そんな**隠れ神父**にとって、長期休暇はまさに福音であった。

復活祭とクリスマスの休暇はそれぞれ二週間だが、夏季休暇は7、8、9月とたっぷりある。その間、寮が閉まるので学生神父は寮から出なければならない。**隠れ神父**を続ける者もいれば、司牧畑に出かける者もいる。

私は三回の夏休みをそれぞれイタリア、アメリカ、フランスで過ごし、去年6月ローマでの研究を終えたあと、再びアメリカに行きその後カナダ、フランスをまわって帰国した。海外で得たことはいろいろあるが、ローマでの勉強よりもその勉強の合間の勉強から得た収穫の方が大きかったように思う。その中のひとつは、「人は他人との出会いによって人になっていく」ということだった。

（小倉教会）

かのときのことのは

出でましてかえります日のなしときく
けふの御幸に逢ふぞかなしき

乃木静子

乃木将軍の殉死は、当時大きなセンセーションをおこした。それに触発されて漱石は「こころ」を、鷗外は「興津弥五衛門の遺書」を書いた。将軍は日本軍人の鑑であった。

西南戦争のとき軍旗を奪われて以来、その生は死とともにあった。旅順攻略のとき、死はやさしかったが死んではならなかった。生きて旅順を落とさねばならなかった。その苦悶は、死よりはるかに辛いことであった。

夫人も同じであった。将軍の母と折り合いが悪く、二児をつれて四カ月ほど別居した。将軍は公のために私を滅し、婦女子の愛にひかれるなどは恥ずべき堕落としか考えなかった。「涙の出るほどさびしい境遇」のまま、夫人は将軍とともに自害した。将軍の辞世は「みあとしたいてわれはゆくなり」と前進の姿があるのに対し、夫人の辞世の上の句は「かへるべしらに」の悲しみがあり、下の句は逢ふぞかなしきと結んで、生と別れた。将軍のそばには、家庭を守った夫人の功があった。ときに将軍は六四歳、夫人は五四歳であった。

（森山敬三）

編集室から

福岡カテドラル・センター大名町カトリック教会に私事で駐車する時は、実費をいただきます。

大名町教会主任

六月号に掲載した戸畑教会の村松正俊氏の論旨に対し、同教会の信徒の方々から誤解を与えるので注意してほしいとの指摘があり、この問題についての投稿を自由席に掲載させて頂きました。

教区報が福音宣教のための建設的討論の場として使われ小教区共同体がキリストにおいて一致し、キリストの証し人として、より輝く世の光となることができるよう願っています。

（W）

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8－8
TEL　092―531―3831
夜　間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL　092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092）441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

母性的心の開花を

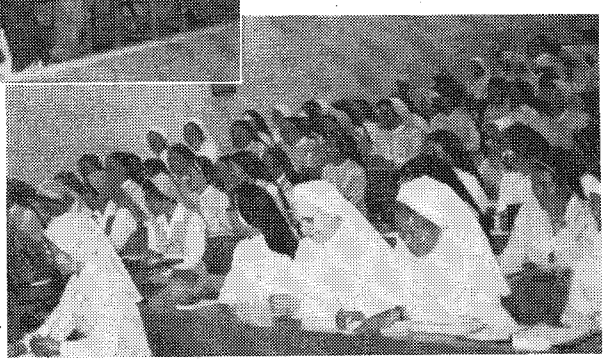
宣教の姿勢を大胆に見直す

修道女連盟福音宣教研修会

福岡大会

「修道者である私は、福音の証しになってきたか」のテーマで、宣教についての大胆な見直しのための研修会が福岡で開催された。これは日本女子修道会総長管区長会の主催で、日本司教団がとりあげた福音宣教の強化と社会文化の福音化の課題に呼応したものである。以下はSr長谷川(三位一体の聖体宣教会)の報告である。





↑研修会での討論者たち(左から水浦、渡辺吉川、本多、景山の各氏)

熱心に聴き入る参加者たち→

6月29日、使徒聖ペトロ・聖パウロの祝日に、福音宣教研修福岡大会が雙葉学園で開催されました。前日からの悪天候にもかかわらず、二百名をこえるシスターが、遠くは広島や沖縄からも参加されました。

平田司教様は、開会前から会場にお姿をお見せになり、最前列に席を占められ、終始討論者やパネラーの話に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

午前中は5人の講師による討論会が行なわれました。次に各講師の話された、いくつかの点を御紹介したいと思います。

本多正昭氏(黒崎教会信徒)

シスターたちが日本人であり女性である長所が、生活の中で充分生かされていないのではないかと思う。それは日本の教会の神学がスコラ哲学にもとづいているので、知的、分析的すぎて、日本人の感性に合っていないためではないか。欧米志向は、男性原理、父性原理が強いので、シスターたちの中には、女性、母性らしさが充分開花されていないように思う。キリストの花嫁として、真の自由を持って喜びと優しさのうちに生きて欲しい。日本人であることを意識して、日本人の宗教性を取り入れて行くために、論理的回心が必要だと思う。

吉川八重子氏(大名町教会信徒)

結婚生活をするか修道生活をするかの基本は、私たちは女性であるということである。女性であるという認識をもって、神の存在を信じて生きて行くなら、笑顔をもってすごして欲しい。謙遜の名のもとに自分を押えてしまい、真の自由がないのではないか。母性的な心をもってすべての人に暖かく接することを期待しています。

水浦神父様(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)

神に従う人は神の中にあって喜べ、キリスト者の特色である喜びを表わし、祈りの人であって欲しい。(九州地区の人口とシスター数の比率を開あげ)新しくミッションを開くようなことがあれば、教会の施設のない地域に目を向けるように。今はコミュニケーションの時代、自分の思っていることを充分に話し合って行こう。

渡辺神父様(小郡教会主任司祭)

小教区の一主任司祭の立場からシスターたちに申し上げたいことは、福音の種まきを待っている人たちが数多くいるということ。自分の小教区とかかわりをもち、その問題をとらえて欲しい。シスターの存在自体が証しである。シスターたちの祈りに司祭たちは支えられていることを感じています。自信をもって福音宣教に当たり、創立者の精神を深く生きて欲しいと思います。

シスター景山(善きサマリア人修道会)

福音とはキリストそのものである。私たちがキリストの価値観をもって生活しているかを次の五つの点から考察しよう。

1、賛美する—祈りの時、パーソナルなものとして感動、喜びのある祈りであるか。
2、赦す—他者を赦すことができても一緒に住んでいる人を赦すのはむずかしい。
3、愛する—一つになること
4、宣べ伝える—キリストは時を選ばず歩きながら宣教された。
5、癒す—思いやりをもって人々に接しているか。遠い存在になっていないだろうか。

午後からはSr川口(聖母訪問会)、Sr中村(お告げの姉妹会)、Sr片岡(純心聖母会)Srアダ(カノッサ会)によるパネラープレゼンテーションが行なわれました。

3時半から平田司教様、水浦神父様の共同司式でミサが行なわれました。講師の方々の期待と励まし、パネラーの方々の信仰体験が、これからの福音宣教の一歩を、心新たに踏み出して行こうという原動力となったことを感じながら、派遣の祝福を受け、それぞれの場にもどっていきました。

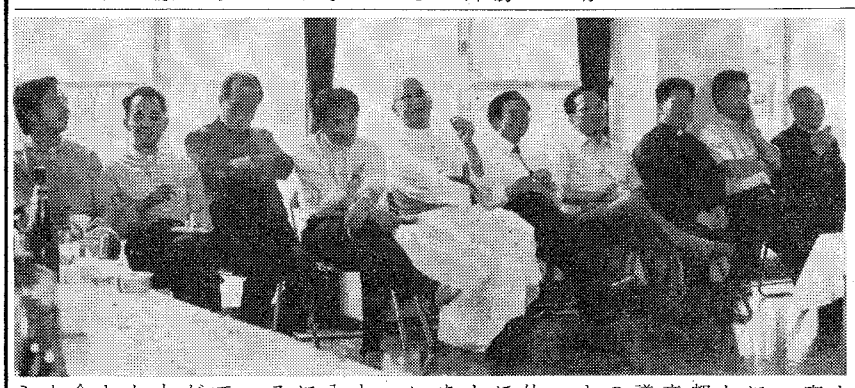
平田司教霊名の祝い

司祭約60名が喜びを共にする

聖ペトロの霊名を持つ平田司教のお祝いが、7月1日、午前11時から約60名の司祭たちと共に行われた。浄水通教会での司教ミサには多数の司祭、シスター、信徒等が集まり感謝を捧げた。説教のなかで、司教は感謝の意を述べると共に、これからの宣教方針について語った。特に司祭たちに、来年の11月20日から23日にかけて京都で開催される「福音宣教推進全国会議」へ向けて小教区の信徒への積極的働きかけを要請した。

また、共同体に奉仕する司祭であってほしい。信徒を使徒として養成することを忘れてはならない。日本の文化にもっと目を向け、いいものを積極的に取り入れる態度こそ宣教にとって大切である、と強調した。

ミサの後、司教館で祝賀会が催されたが、飛び入りの演芸もあって終始なごやかな雰囲気であった。(写真は、祝賀会で司祭たちと歓談する平田司教　左から五番目)



ナイス'87

福音宣教推進全国会議

京都で開催決定

来年十一月二十日～二十三日

ナイス(福音宣教推進全国会議)の準備説明会が7月6日、東京で開かれ、福岡教区から山田成章神父、Sr作野、高木慶治氏が出席した。

山田神父は準備会での講演などについて、次のように語っている。

「宣教は信徒一人ひとりにとって重大な任務であり、すべての人を大切にする愛の社会の樹立を目指す。

しかし、よい宣教共同体作りのためには祈りなどによる生き生きとした信仰共同体の育成が急務であり、共同体のなかでの対話も重要である。

各教区は、ナイスに向けて教区民に司教団の意向を徹底させ、全国会議での議題を準備するために、準備委員会を作るよう要請されている」。

第一回ナイス(福音宣教推進全国会議)

会期　一九八七年十一月二十日～十一月二十三日

場所　京都カテドラルおよび教区カトリック会館

主旨　地域、歴史などの相違の多様性を踏まえながら、現状の共通体験の場とする。

……宣教する日本教会の中期、長期の展望を設定する。ここで出されるのは、解答ではなく課題であり、今後の方針である。

今月のみことば

主はわたしに
油を
お注ぎになった……
(ルカ4・18～19)
伊万里　パスカーレ神父

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

あなたとわたしの福音宣教

宣教の心

——信仰生活の中で培われる——

平田敬

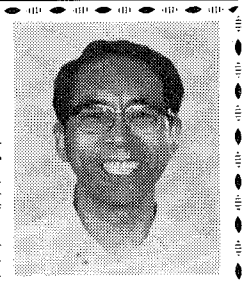
今、教会で話題になっているのが「福音宣教」です。そこで、この問題について、少し考えてみましょう。

〝全世界に行き、すべての者に福音を宣べ伝えよ〟(マルコ16・15)とイエズス様がお命じになられているように「福音宣教」は〝神の民〟の基本的使命です。

しかし、宣教にあたって〝神の民〟が、各自の信仰体験とその喜びを、〝池の中に投げこまれた小石の輪の広がり〟のように〝生活の場〟に応じた〝キリストとそのみ教え〟の紹介です。

イエズス様が、『良き牧者』のたとえ(ヨハネ10・1)の中で、「柵内にいる羊」と「柵内にいない羊」とに分けて、慈しみ深くお話しになられたことを見過ごす訳にはゆきません。なぜならイエズス様は〝神の民〟の共同体に属する私達キリスト者〟である前者とまだ〝神の民〟の共同体に属さない非キリスト者〟である後者が、ご自分を囲んで〝一つの群れ〟となることをすでに望まれ、そのために、まず〝神の民〟の共同体〟の基礎づくりを手がけられていたからです。これが広い意味での〝司牧〟です。

イエズス様は、この司牧を通して〝神の民〟が、各自の信仰体験とその喜びを、〝池の中に投げこまれた小石の輪の広がり〟のように〝生活の場〟に応じた〝キリストとそのみ教え〟の紹介です。



この紹介も〝一つの群れ〟の実現を目ざして、日々〝神の民の共同体〟の〝司牧〟の中で培われた私達の信仰とその教えが、泉のように〝喜び〟となり〝幸福の証〟となって、自然に迸り出てこそ効果を発揮するものです。

真の「福音宣教」は、司牧の中で育まれる信仰教育を大切にし、自他のために生かそうとするとき、その使命を果たしはじめるのではないでしょうか。意識の変革もこんなところからはじめたいものです。

(久留米教会主任司祭)

みちくさ

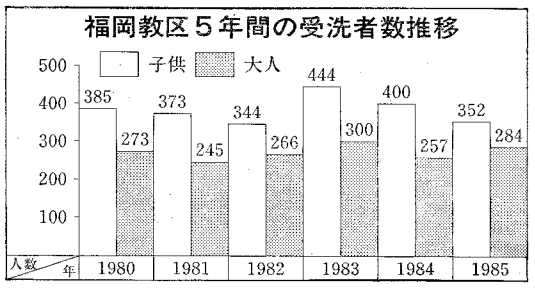
戦後41年。戦争の傷はもう癒えてしまったのだろうか。平和国家といわれ、戦争が風化していくように見える今なお、かつて軽蔑され、虐げられ、侮辱された人々の心のなかの生傷を探すのはたやすい▼ところで、「剣をとる者は皆、剣によって滅びる」とのみことばは、私たちには無縁のものだろうか。キリストの名によって集まっている仲間を、「平和をつくりだすため」という美しいことばを楯に、中傷、無視などのさまざまな剣で傷つけていないだろうか。ある人を救うためにといいながら、敵対する人を傷つけることになんの痛みも感じなくなっていないだろうか▼「七度の七十倍までもゆるしなさい」という主のみことばが相手の改心を前提としているというとき、「敵をゆるし迫害する者のために祈りなさい」といわれ、自らそれを実践されたイエズスの心情と苦悩も合わせて考えてみたい▼ことばの暴力にことばの力で応えようとする者は、自分のことばによって自分自身を傷つけてしまう。ペンの暴力にペンの力で応えようとする者は自分のペンによって滅びる。「なぜ、あなたは兄弟を裁くのですか」「もはや互いに裁き合わないように」とさとすパウロの声に耳をかたむけたい▼「自分を愛してくれる者を愛したからといってなんの報いがあるだろうか」そんなことはキリスト者でなくともしていることではないか。キリストの要求は私たちの常識をはるかに越える。「私(イエズス)に反対しない者は私の味方である」といわれたイエズスの心の広さを自分のものにしたい▼「平和をもたらす人は幸いである。その人は神の子と呼ばれるであろう」。私たちの次の世代には分裂ではなく、愛による一致と平和をつたえよう。八月の暑い日差しが、人間相互の憎しみ、偏見、無理解によって熱い戦いの象徴に変えられないよう祈りたい。

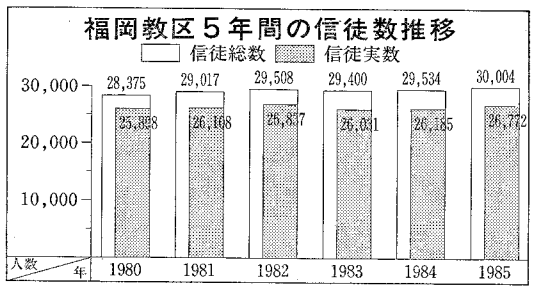
福岡教区教勢

(1985年1月1日～12月31日)

	小教区名	洗礼 子供	洗礼 大人	洗礼 臨終	求道者	堅信	ミサ参加 日曜	ミサ参加 復活祭	世帯数	婚姻 信徒間	婚姻 混宗	転入 教区内	転入 教区外	転出 教区内	転出 教区外	死亡	信徒実数 1985年	信徒総数 1985年
福岡地区	茶山	14	10	1	0	29	357	362	110	6	2	18	10	22	15	3	469	469
	大名町	14	17	3	17	0	480	730	399	5	13	45	37	32	15	13	675	1,160
	二日市	3	5	0	4	3	150	200	77	1	1	6	29	1	20	1	351	367
	箱崎	4	0	0	5	0	140	200	45	0	0	8	17	4	8	0	254	295
	笹丘	13	3	0	24	0	290	450	135	0	4	28	27	21	29	6	588	629
	光ケ丘	13	1	0	4	0	287	569	297	0	3	23	30	36	11	5	784	885
	本郷	12	4	0	4	0	420	490	116	0	6	1	1	4	5	5	625	661
	今村	18	3	2	5	48	700	800	220	3	7	3	4	12	7	16	1,011	1,045
	浄水通	3	2	0	138	23	120	200	117	0	8	8	13	6	6	3	212	215
	古賀	0	5	0	5	5	150	220	181	1	5	6	17	9	7	1	459	463
	久留米	16	15	0	21	10	400	600	280	0	16	13	36	9	25	11	750	1,274
	馬渡島	2	1	0	0	0	100	420	82	0	1	0	2	3	8	4	433	457
	美野島	0	2	0	4	2	31	60	31	1	2	2	10	5	6	0	80	120
	西新	15	10	4	1	10	400	500	341	1	2	50	37	16	24	3	882	1,114
	小郡	3	0	0	0	0	100	200	98	0	2	9	0	2	4	0	276	285
	大楠	7	2	0	7	16	100	120	34	1	4	10	7	1	4	0	108	108
	大牟田	4	4	1	13	4	80	200	97	1	3	1	2	11	2	0	208	280
	老司	8	9	0	9	6	150	250	170	0	3	5	19	3	11	2	475	483
	高宮	3	2	0	3	0	50	280	232	0	1	6	23	16	20	2	549	549
	呼子	7	0	0	0	0	230	330	101	3	3	5	4	3	4	4	361	361
	吉塚	6	6	0	5	2	205	290	223	1	4	6	13	14	4	1	605	817
小計	21	165	101	11	269	158	4,940	7,471	3,386	24	90	253	338	230	235	80	10,155	12,037
佐賀地区	伊万里	4	7	0	2	22	70	130	75	1	1	1	2	1	3	1	189	223
	唐津	3	2	0	2	13	80	150	142	1	2	5	3	8	8	0	417	422
	鹿島	0	0	0	0	0	6	12	34	0	0	0	0	0	0	0	54	87
	佐賀	13	9	0	13	0	180	350	263	3	7	1	26	6	15	4	692	708
	武雄	4	2	0	0	0	25	60	20	0	1	1	8	0	3	1	115	115
	多久	1	1	0	2	1	25	50	40	0	1	1	3	4	1	2	112	118
	鳥栖	8	5	0	21	15	100	180	129	1	3	6	2	6	2	1	297	307
小計	7	33	26	0	40	51	486	932	703	6	15	15	44	25	32	9	1,876	1,980
北九州地区	八王寺	3	2	1	8	9	90	120	85	0	0	8	0	0	3	3	208	239
	飯塚	4	2	0	0	0	70	120	40	0	2	0	1	0	0	3	236	236
	小倉	21	41	1	38	30	600	850	950	3	21	21	25	34	59	15	2,436	2,479
	黒崎	10	10	0	8	5	400	550	441	5	7	22	8	21	18	4	1,291	1,327
	水巻	4	4	0	4	0	150	290	201	0	8	7	13	8	11	3	607	632
	門司	2	0	2	23	0	160	190	184	1	2	6	1	14	14	4	440	442
	門司港	3	6	1	4	0	70	125	55	1	1	2	0	0	5	0	155	165
	直方	0	0	0	0	19	35	75	35	0	0	1	3	22	0	1	127	127
	新田原	29	2	29	6	40	1,000	1,300	425	0	8	17	16	8	19	12	1,694	1,741
	田川	2	1	0	5	0	52	60	53	0	1	0	2	2	0	2	174	200
	天神町	3	3	0	5	0	90	140	130	0	3	4	0	6	0	0	319	333
	戸畑	8	14	0	45	0	380	450	248	2	3	8	7	32	7	2	832	1,396
	若松	2	0	0	2	0	60	120	68	0	1	2	0	3	6	4	366	366
	湯川	13	4	0	10	2	400	600	285	3	7	22	16	5	14	4	938	1,006
	行橋	8	3	1	3	35	270	400	151	2	4	9	6	8	7	3	589	662
小計	15	112	92	35	161	140	3,827	5,390	3,351	17	68	129	98	163	163	60	10,412	11,351
熊本地区	荒尾	1	12	1	5	0	40	60	56	0	0	6	0	0	0	1	114	114
	人吉	1	5	2	18	0	150	150	50	0	6	3	3	6	3	0	227	231
	本渡	0	2	0	0	0	27	52	36	0	0	3	0	6	1	3	154	166
	健軍	5	7	1	11	5	200	350	179	0	1	9	8	15	18	3	439	446
	菊地	1	2	0	1	0	40	85	49	0	0	2	0	6	1	1	101	106
	水俣	1	2	0	1	0	50	90	65	0	1	0	0	0	5	0	154	176
	帯山	4	1	0	3	1	120	200	88	0	2	4	2	2	9	2	304	352
	大江	5	2	1	4	3	200	300	121	1	2	0	0	0	3	3	394	448
	崎津	3	0	0	2	0	90	140	96	1	2	0	0	5	0	6	295	306
	島崎	1	1	2	4	2	200	300	144	0	2	1	2	10	1	3	416	422
	玉名	2	3	0	2	3	62	72	37	0	0	0	0	0	0	0	107	111
	手取	7	24	3	24	32	380	500	528	0	16	20	36	34	28	11	1,018	1,109
	八代	7	0	3	8	0	110	150	83	0	2	2	1	3	4	2	225	268
	武蔵ケ丘	4	4	1	8	2	135	165	188	1	2	14	12	2	4	2	381	381
小計	14	42	65	14	91	48	1,804	2,614	1,720	3	36	64	64	89	77	37	4,329	4,636
合計	57	352	284	60	561	397	11,057	16,407	9,160	50	209	461	544	507	507	186	26,772	30,004

註) 司祭、修道士、修道女、神学生は含まれていない。





福岡教区司祭・修道者・神学生

	司祭	修道士	修道女	大神学生	小神学生
1980	103	10	505	6	9
1981	104	10	517	7	27
1982	104	14	523	8	23
1983	108	12	520	10	30
1984	102	11	532	12	11
1985	104	12	485	12	9

教勢をみて思う

山田成章神父

ここに発表された過去5年間の教区信者の人口動態をみて、変りばえのない状況に無力感を覚える。つくづく、うっとうしい梅雨の天候を思い出す。泥濘(でいねい)、曇りのち雨、晴れのち雨の繰り返しでは宣教の熱気も冷めてしまう。教区民一人ひとりの祈りと発想転換さらに努力によって、一日も早く清々しい太陽の光線に浴した教区の姿を再現したいと思う。

福岡教区(熊本、佐賀、福岡三県を含む)内の住民は、一九八〇年から昨年までに二万三、三六〇人増となっているのに、信者の総数は一、六二九人増にすぎない。これは、信徒実数の視点から厳しく眺めれば、かなり割り引いても悲しい数字であろう。何故ならば、毎年平均三千人位の〝潜伏キリシタン〟が教会に連絡を絶っているからである。信者増加の一面である大人の受洗者は、年々二八〇人前後に留まっており、出生による自然増加数が従来に比して減少している今日、カトリックシンパの増大だけを喜び満足することはできない。

教区の未来を占う一つの目安は、司祭育成事業のデータであろう。大神学生数(もちろん充分ではないが)はさておき、その予備軍である小神学生の推移には非常に気をもむ。1981年から1983年にかけての3年間は、かなり高い数字であるが、以後、加速度的に目減り現象が続いている。

この問題の解決は司牧上に留まらず、福音宣教活性化の大事な助っ人になるのではあるまいか。教区挙げての支援を!

(司教館)

自由席

聖母と共に

熊本・菊池教会　荒木　ミヨ

庭の草木が青々と雨に濡れそぼつ中に、み心の月が終わり、この後どんな夏が来るかと、私たち療養者は自分の体力が不安になったりします。しかし八月に入り立秋を迎える頃には、聖霊のささやきのような涼風が遠い空の高処から訪れ、聖母被昇天の御祝いの先触れを致します。

まだ教会を知らぬ遠い少女時代、聖母がカトリックの中で占められる位置には無知のまま、姉から長崎観光みやげにもらった御像が、いつも私の勉強机の上にありました。ひだの豊かな白い着物に水色の帯、黒玉のながいロザリオを御首からかけて岩の上にバラの花と、蛇を踏まれて、優しく凛とたたれるロザリオのマリア様でした。

御像は勉強机と一緒に姪たちに引き継がれましたが、以来半世紀、茫洋(ぼうよう)と今はお行方を尋ねるすべもありません。

大人になった私はながい重症の病床で、迷い多かった歳月の後、ようやく受洗の決心をしました。菊池教会初代のブラッドレー神父様に、深いご理解と沢山の有難い助言をいただいて、お祈りの中で洗礼の日を待ちました。

洗礼は二十八年八月十四日、そして翌十五日聖母被昇天大祝日が初聖体、その両日とも、終戦の日の様にコバルト・ブルーの輝く晴天でした。本当にマリア様の青い帯が落ちて来そうな空でした。

そして、私は病弱の身を七十一才まで永らえましたが、いつか阿蘇輪山を庭の築山のように、美しい菊池盆地を目の下にする丘の上に、マリア様がマントを広げて、罪の身をかばい、永遠の憩いに入ることを約束して待っていてくださると思うと、病苦の十字架も軽くなる思いです。

祈らざる時も
手にするロザリオの
珠ふれあいて
さやさやとなる

聖霊による刷新九州大会に参加して(沖縄会場)

聖母カテキスタ会　吉永　ユリ

今年で二回目の3泊4日の大会は、落着いた静かな黙想会のようでした。

私は、神の子として、神の家族の中にある安らぎ・喜び・親しみを、この百二十人(司祭・修道者・信徒・求道者)の集いの中で深く味わいました。

思えば七年前、聖霊による信仰生活刷新の恵みを体験した当初の私は、初代教会の信徒の喜びもかくやと、胸踊らせる夢中な日々でした。そんな時、経験のある方が、聖霊のお働きがどんなに奥深く神秘なものであるのかを話してくださり、さらに期待の信仰で、胸膨らませたものです。

今、私は聖霊の静かな、そして確実なお働きを感じています。それは、当初のような踊り上がるような喜びではありませんが、しみじみとした深い信頼の中に自分自身を委ねて生きることの出来る喜びです。

「私は父に願っていつまでもあなたたちと一緒にいてくれる助け主を、別に遣わして頂こう」、「聖霊を受けなさい」とおっしゃったイエズス様のみことばを思いだします。そして心から申し上げるのです。「そうですね。イエズス様。あなたがおっしゃったように、聖霊は私達にとって本当に大切な方、助け主でいらっしゃいます」と。そしてこれこそ私の実感なのです。

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1—12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093)671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

福岡地区司祭・修道者対話集会

互いの協力を確認

まず自ら模範を示そう

第二回目の福岡地区司祭・修道者の対話集会が、7月13日の午後から教区センターで行われた。

この対話集会は、司祭・修道者の対話を通して宣教活動の相互協力を目指すもので、今回は司祭14名、修道女21名、修道士1名が参加した。

講話を担当したガイヤール神父（門司教会）は、教会はまず現代社会に心を開き、社会の種々の問題、例えば被差別部落問題、学校教育、老人問題、平和の問題などともかかわり、「時のしるし」を探さなければならないと強調。反省点として、これまで私たちは、社会の中に福音を吹き込むことより、自分の教会の洗礼者の数を増やすことに力を注ぎすぎなかっただろうか。また、司祭・修道者のなかに聖職者至上主義が残っていないか。もっと信徒と共に働くという姿勢が必要ではないか、そのための信徒の養成をどうしたらいいのか検討すべきではないか、などと語った。

講話の後、五つのグループに分かれて行われた分散会では、約一時間半にわたって和やかな雰囲気のなかで、日常の体験を分ち合ったが、なお問題点の掘り下げのためには対話の継続の必要性が確認された。

全体会でのグループ発表のいくつかを拾ってみると。

1、司祭と修道者は互いに協力して信徒の要請にあたることが望ましい。

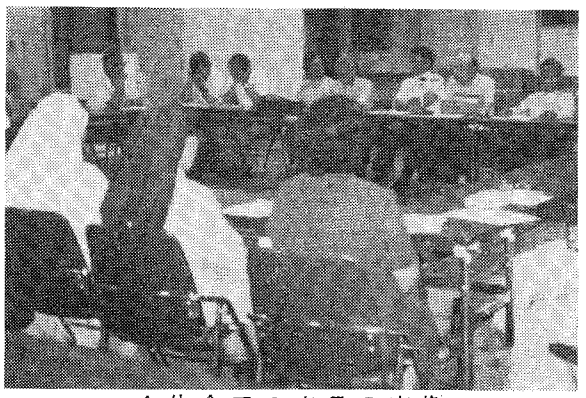
2、信徒に宣教を要請するために、司祭・修道者がまず率先して模範を示すべきである。

3、隣同士の教会の司祭・修道者の関わり、協力体制が不足しているのではないか。

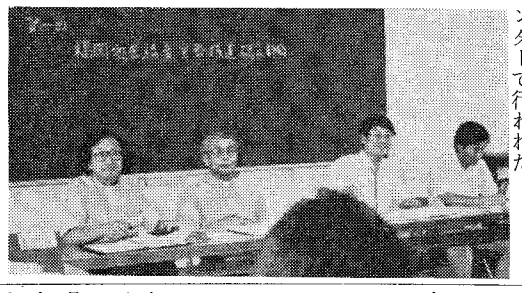
4、司祭同士の対話、小教区で司祭と信徒、信徒同士の対話を促進させる。

5、自分の回りの人がどんなことを望んでいるかに心を開くこと。

6、一人ひとりの人との出合いを大切にする。



全体会での意見の交換



第一回福岡地区福音宣教推進研究部会

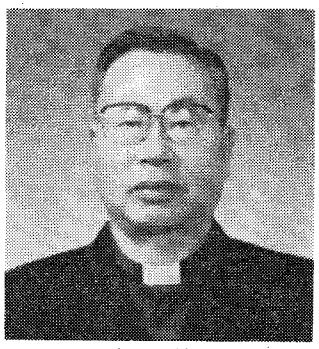
信徒としての取り組みを模索

去る6月8日福岡地区信徒使徒職協議会の代表者会で設置された「福岡地区福音宣教推進研究部会」の第一回の集まりが7月12日（土）教区センターで行われた。

この集まりは、司祭や教区修女連などと協力して全信徒の使徒的活動の推進に役立てるものである。宣教司牧室長の山田神父、16小教区から25名の信徒、御受難会の鈴木神父、修女連から2名のシスターが参加し活発な質疑が行われた。次回は8月3日（日）午後2時より教区センターで予定されている。

8月17日（日）は大神学院教授のイエール神父の講演が予定されている。

おげんきですか



竹森　道神父様
（宮崎教会主任）

司祭になって28年を越えました。

若い人たちには記憶にもないでしょうが、福岡教区司祭として大楠教会に五カ月、残りは久留米教会と、福岡教区で働いたのは4年間だけでした。

近頃の神学生と違って、私たちは教会で実習したこともなく、教会の帳簿のこともに至るまで教育されなかった？し、それに能力不足で、主任司祭にはアホと思われたにちがいないと今でも思っています。つらいこともあり、不安な毎日でしたけれど、あの頃が一番懐かしく思い出されます。

一九六二年、大分教区となり平田司教様が着任され、福岡教区で働いていた川口、金松、村岡神父様方が移られたとき、私も手伝いのため日向教会に行きました。

10年の後正式に大分教区に移籍し、司教館からまた日向、そして4年前から宮崎教会にいます。

現在、大分教区司祭は8名に過ぎませんが、平山司教様のお働きは大きく、神学生も増加しました。鹿児島・大分教区立の小神学院が、11名をもって今年から始まり、来年は5教区から十数名の希望者があると聞いています。

古里である福岡教区の発展を願いながら、失礼します。

忘れ得ぬ思い出

聖母被昇天（八月十五日）

ふくれ饅頭の祝い日

山川辰幸神父

「被昇天の元后、われらのために祈りたまえ」と、聖マリアの連禱に加えられてから三十六年、今はこの連禱さえ唱えなくなりましたが、今年も聖母被昇天の祝日が訪れました。

仏教がこの頃お盆行事をするので、被昇天をカトリックのお盆と誤解されることもありましたが、長崎・五島出身の信者にとっては「ふくれ饅頭の祝い日」として懐かしい思い出の祝日です。五月に収穫したばかりの小麦を粉にして、母が作った蒸したての饅頭をガブリと食いついた、あの味は忘れられません。

さて8月15日は日本の教会の誕生日と言えないでしょうか。ザビエルが天文十八年（一五四九年）8月15日に鹿児島に上陸し、日本を聖母のみ手に委ねたからです。

また太平洋戦争が終結したのが昭和20年8月15日ですから、平和日本カトリック教会の再スタートの日といえるでしょう。

一九五〇年（昭和25年）教皇ピオ十二世は荘厳に聖母被昇天の教義を信仰箇条として宣言されましたが、それに先立ちファチマに出現したマリア様の啓示に促されて、現代の危機を救うために、マリア信心を推奨されました。

教会の中に聖母信心が力強く発展し、多くの信徒の家庭で毎日ロザリオが唱えられ、特に5月と10月は盛んでした。

この信心を頂点として、感激の信仰宣言がなされたのです。「神は、御子をお生みになった聖母、しかも最初から罪をまぬがれておられた聖母を、地上の生活を終えられてのち、キリストの復活にあずからせ、天上の栄光に上げられた。」と。

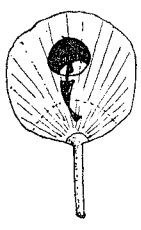
そして一九五四年を特別聖年「聖母の年」と制定されました。その年の3月19日司祭に、その年の3月19日司祭に叙階されました。このような訳で、日本の教会にとって、また私にとっても聖母被昇天は特別に聖母のご保護のもとにあるものとして受けとめています。

私は大神学生時代に、ロザリオを手編みすることを覚え、司祭叙階記念にもそれを差し上げそれ以来今日まで、差し上げて、聖母信心に励んで暇な時は編んで、欲しい方にいただくことを願っていますが、個人でまた家族で、団体でロザリオを唱えましょうよ。マリア様のように被昇天の栄光に入れますように。

現教皇ヨハネ・パウロ二世もロザリオをしきりにすすめ「現代の悪を克服するには、キリストのしるし（十字架・ぎせい）とロザリオが最良の武器である」と強調しています。（西新教会）

ゴミョウガと出店

Sr. 吉岡　サカエ



昭和30年から40年の大江教会の聖母被昇天はいかがなりしかと、数人の信者さんを訪ねた。『別に変ったことは何もなか』といいながら、次のような祝いであったことが想像できた。

祝日の前には告解をすませ、先祖の墓参も終え、すがすがしい気持でマリア様のミサにあずかる。ミサは午前中に2回、午後3時からはゴミョウガ（聖体賛美式）がささげられた。ゴミョウガには沢山の人があずかったが、そのホンネは聖体の祝福よりも出店に心ひかれた様子。

当日は、教会の境内にも林の中にも、カキ氷、トコロテン、アメ、おもちゃなどのにわか店がもうけられ、子供も大人も小銭をもって店をまわり歩いたという。家では、まぜ飯の元后（ちらしずし）が山盛りつくられる。まだ常食は、甘藷と麦から脱していなかったこの時代、人々は祝い気分と幸せを充分満喫することができた。

単調な、しかもきびしい労働のあけくれの中にあって、暑い盛りの聖母被昇天は、誰にとっても待ち遠しいものであったらしく、聞いている私の心も、ほのぼのとしてきた。（聖母訪問会大江修道院）

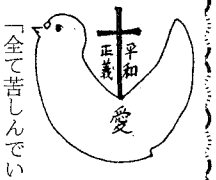
W・シュルツ師帰天

元吉塚教会主任（昭和35年～52年）でその後、南米ペルーで宣教しておられたが、7月20日現地にて帰天された。59才

カトリック・アクション

正義と平和

青柳　行信



「全て苦しんでいる者はキリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。」と現代世界憲章は述べている。さらに「人間そのものを救うべきで、人間社会こそ刷新されるべきである。」とある。公会議のこの要請にもとずいて一九七四年相馬司教を担当司教に「日本カトリック正義と平和協議会」が発足した。福岡の地においても、一九七六年より「フィリピン民衆と連帯して日本企業の公害輸出の阻止、イサベラ州の人々とのふれあい、人権侵害・教会弾圧に対する抗議ハガキ、汗と涙で作られる日本向けバナナ問題、ジャパゆきさん問題、ネグロス島農民への救援募金などを行っている。日本司教団と社会司教委員会が政府に出した要請書に呼応して「靖国神社の公式参拝および指紋押捺制度撤廃」などにも取り組んでいる。これらの事をカトリック、プロテスタント、仏教、市民合同の活動として展開している。「基本方針」の中にもある多くの弱い立場の人々と歩む事である。社会生活のただ中にいる私たちは毎日のできごとを通して神の呼び掛けを聞き応えようとするとき、キリストの十字架と復活を見ることができる。「今は恵みの時」のみことばに信頼して主の手足となって神の国の実現のため一歩一歩あゆみつづけている。

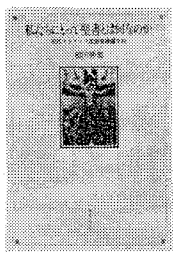
スライド貸し出します。

フィリピンバナナ
イサベラ農民の闘い他。

☎(092)621-6211

BOOK 読みま専科

☆私たちにとって
聖書とは何なのか
和田幹男著
女子パウロ会



本書は、第二バチカン公会議の精神にしたがって書かれたものであり、公会議公文書の一つである『啓示憲章』の教えを、きわめて正確に説明し、その画期的な意義を明らかにしてくれる。

☆第2バチカン公会議
公文書全集
南山大学監修
中央出版社



☆スライド
わたしたちのイエスさま
女子パウロ会
70コマ　一六、〇〇〇円



イエスさまのご降誕、幼年時代、宣教、受難、復活と弟子たちの派遣までを、やさしいことばと表情豊かな絵でつづったキリストの生涯。前編36コマ・後編34コマ。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417
石材　大御そ　理影の　石石他

会合と催し

司教日程（八月）

2～4日　高校生練成会
5日　久留米聖マリア病院聖堂落成式
国際平和祈願祭（広島にて）
6日　久留米聖マリア看護短期大学にて講演
9日　長崎平和祈願祭
15日　平和祈願ミサ（福岡カテドラル）午前9時
納骨堂ミサ（福岡教区墓地）午後2時
31日　ウルスラ会　誓願銀祝ミサ

福岡黙想の家

1～3日　MEウイークエンド
1～8日　個人黙想会（参加をお待ちしています）
10～16日　マリア会司祭の黙想会
17～23日　サレジオ会司祭の黙想会

講演と研修会のごあんない

講演
日　時　9月14日（日）午後2：30～4：00
講　師　岡　宏神父（埼玉・所沢教会）
テーマ　つっぱりの背後にあるもの
—家庭の中の親子関係—
対　象　一般
入場料　無　料
主　催　女子パウロ会

研修会
日　時　9月14日（日）午後4：00～8：30
15日（月）午前9：00～午後4：00
講　師　景山あき子（援助修道会）
テーマ　教会学校リーダー養成
対　象　教会学校リーダー
参加費　500円（夕食、昼食は含みません）
主　催　福岡教区修道女連盟

会　場：福岡カテドラル・センター　☎（092）741-3687

国際平和年！8・15平和講演と平和行進

日　時　8月15日（金）午前10時30分～12時30分
講　師　秋月辰一郎氏（長崎聖フランシスコ病院院長）
テーマ　戦争の反省と核時代に生きる私たち
場　所　福岡カテドラル・センター
参加費　三〇〇円
※講演中は、子供向けのアニメーションを上映しますので、ご家族そろってご参加ください。
※講演後、平和（デモ）行進をします。
主催　カトリック福岡正義と平和推進委員会
靖国法案に反対する福岡キリスト者の会
後援　福岡地区信徒使徒職協議会
福岡教区修道女連盟
福岡ブロック青年連絡会
問い合わせ　鈴木忠一神父（御受難会）
☎（092）871-7108

墓地委員会からお知らせ

教区墓地清掃日：7月27日（日）13：00より
雨天の場合8月3日（日）
ミサと納骨式：8月15日（金）14：00より
主式　平田三郎司教
※ミサの前、増設工事終了に伴い祝別式を行います。
納骨堂開放日：8月13日～15日　11：00～15：00
※期間中、奉安室のカギをお渡しします。

福岡地区婦人会おしらせ

保護の聖人モニカの祝日感謝ミサと年間に亡くなられた婦人とゆかりの方々の追悼式を行います。
日時　8月27日（水）10時
場所　福岡カテドラル
司式　平田司教
山川神父（西新教会）
連絡　☎（092）541-6478　鬼木

いぶき

心の貧しき人

山内清海

「幸いなるかな心の貧しき人、天国は彼らのものなればなり」（マタイ5、1）。これは、キリストの山上の説教、真福八端の一節で、懐かしいラゲ訳です。ところが、最近のフランシスコ会聖書研究所訳では、「自分の貧しさを知る人は幸いである」と改訳され、さらに共同訳では、「ただ神により頼む人々は幸いだ」、と訳されていることに皆さんお気づきでしょう。

ラゲ訳の「心の貧しき人」は、ラテン語ブルガタ訳の直訳なのですが、ではこの「心の貧しき人」とは、具体的にどのような人を指すのかが、ここで問題となります。

当時の宗教用語、ないし表現によると、この「心の貧しき人」という表現は、酔いしれて、自己の能力を過信し、神や宗教を、前科学時代の歴史的遺跡程度にしか評価しない人もいます。

また大胆不適にも、ニーチェと共に「神の死」を宣言しながらも、もがき苦むことを余儀なくされます。それでもなお自分を信じ、神を認めようとも、神により頼もうともしないから不思議です。

要するにかれらは、たとえどれほど物質的に豊かで、自然的に恵まれていても、けっして「心の貧しき人」と言えません。

かれらが、どのような論理的形態をとるにせよ、そのなかに人間の滑稽なまでの高慢と、そこから必然的に結論される神否定の思想が生きていることは確かです。このような人々が謙虚になれるはずはありませんし、祈れるはずもありません。かれらは、日常生活のなかで体験する、かれらの期待と現実との矛盾を否定しようとあせり、煙のようにはかない、みせかけの幸福にふりまわされ、苦悩と不安の、まさに底知れぬ泥沼のなかで、もがき苦むことを余儀なくされます。それでもなお自分を信じ、神を認めようとも、神により頼もうともしないから不思議です。

要するにかれらは、たとえどれほど物質的に豊かで、自然的に恵まれていても、けっして「心の貧しき人」と言えません。

或る日、水の上を歩いておられたキリストは、船上のペトロに、「来なさい」、と言葉をかけられます。ペトロは、あまりの喜びにわれを忘れ、いつの間にか船から飛び降りて、水の上を歩き出していました。しかし間もなくペトロは、強い風と、高い波に気づいて恐れ、沈みかけます。

ペトロは、水の上を歩くという、自分には全く不可能なことを行っていたのです。しかしかれは、自分の無能さと同時に、全能なるキリストをも信じていました。だからこそかれはキリストに、「主よ、助けてください」と叫ぶことができ、キリストの温かく、そして力強いみ手によって助けられるのです。

このペトロの姿こそは、「心の貧しき人」の生きた姿であり、わたしたちのあるべき姿ではないでしょうか。神のみ助けなしに、わたしたちは永遠の幸福への航海を続けることはできないからです。常に「心の貧しい人」、として生きることを忘れてはなりません。

（サン・スルピス大神学院教授）

山元真神父の 留学体験記 ③

いちど、出てみること

外に出ることはとてもいい。どこから出るにせよ、外に出てみると新しい何かを感じ、心地よい刺激が得られる。家から出たり、また自分が長いあいだ住みなれた土地や国から出ることもあるだろう。とにかく自分が慣れた環境から出ることは、それが物理的であれ、精神的なものであれ、得るところは多い。

今、ふり返ってみると、日本から出たことは、それまでの自分から出たことであったと思う。ひとつの流れにしっかりと乗っていたその流れが急に止まり、別の流れの中にほうり込まれた、そんな感じ。別の流れに乗ると、前の流れとの違いがわかってくる。そこがおもしろい。今まであたりまえだったことが、あたりまえでなくなり、いろんなことに対する問いかけが始まる。幼児のように、「なぜ」「どうして」という疑問がわいてくる。

あるところから出ると、必然的に新しい出会いを体験することになる。相手が人間であれ、自然であれ、ものであれ、とにかく新しい世界と出会う。その時、今まで気付いていなかったことに気付かされる。教会共同体がイエズスの望んでおられる一致と平和の共同体からはほど遠いという現実。自己分析、自己批判ができず、惰性の中で満足して、そこから脱皮（回心）するエネルギーがなくなっていること。いま最も教会を必要としている人たちに、教会が開かれていないこと。

勇気をもって自分のカラを破り、そこから出る。その時はじめてそのカラの硬さに気付く。その時、本当に自由になれる。とにかくいちど、出てみること。

（小倉教会）

編集室から

山元真神父様の「留学体験記」は読者の要望で10月まで延長させていただきます。

神父様のペンのすべりも益々なめらかになっています。引き続きご期待ください。

夏休みは子供たちにとって素晴らしい思い出をつくる季節です。いろんな経験を他の子供たちとも分け合いましょう。子供たちからの投稿も大歓迎です。

（W）

結婚セミナー案内

今年二期目の結婚セミナーが始まります。準備中の方はお二人で是非参加なさることをお勧めします。

福岡　8月28日（木）から
カテドラル・センター
熊本　9月3日（水）から
手取カトリック教会
参加費　一人四、〇〇〇円
詳細は左記へ連絡下さい
(092)541-6207　ライル神父
(092)522-5139　司教館
(096)352-3030　手取教会

かのときのことのは

私にも妻子がある
私にも家庭がある
夕暮の天地に満ちる
大安息の中で私はかく思い涙ぐむ

千家元麿

『夜の河』所収。彼は白樺派の同人。大詩人ではなく、その詩のどれもこれも出来栄えがよいものばかりとはいえない。しかしこのような情のこもった淡彩の詩は、彼の人柄がにじみでていて捨てがたい。「夕暮の天地に満ちる大安息の中で」でこの詩は生きている。

人はひとりで死ぬ。ノタレ死は覚悟の上である。にもかかわらず、つとめの帰路、家が見えるところまでくると、ふと何故か、この詩を思い出すことがある。

（森山敬三）



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8－8
TEL　092－531－3831
夜　間　092－521－0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092）441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック
福岡
平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092―522―5139
振替口座　福岡3―42981
定価一部60円

平和を祈り平和を語る

宗派を越えて核兵器廃絶の訴え

福岡カテドラルで 平和祈願ミサ

平和祈願ミサで平田三郎司教は大勢の信徒とTVカメラを前に平和への思いを熱い心をこめて語られた。

〈説教要旨〉

本日は日本人一般にとって死者との交わりを願う日、カトリックにとっては愛する御子のもとに栄光の中で旅立つ聖母を喜び祝う日。同時に平和を求め願う日である。

歴史をふりかえると、今日平和についての自覚・意識が人々の間で明確になってきたことはある意味で進歩であるといえる。しかし一方において技術の発展は宇宙戦争の危機をもたらすようになった。このような危機的状況をいかにのりこえていくかが重大な課題となっている。

真の平和とは何なのか。

平和とは秩序の静けさとアウグスチヌスは説いた。各人が受けるべきものを受けることができず、暴力で奪うことは秩序の破壊であり、争いでありそれは戦争へと進む。

平和は心からでる。神が心の中においてくださった心の秩序を守ることによってはじめて平和が生まれてくる。

今こそ、人権の重みはすべての人に共通という理解に立って心の平和、家庭の中の愛と社会の正義とが重んじられなければならない。キリストを信じる私たちこそ平和の使徒として愛と正義に敏感でなければならない。他の人にまさって正義の上に立ち愛の心でゆるしあい、平和を創りださなければならない。

「聖書には隣人を愛せという非戦の思想が根本にある。戦争への動きをキリスト者として見過すことは出来ない」と事務局長の青柳行信氏(吉塚教会)があいさつした。

次にプロテスタント側から松井敏郎牧師(渡辺通教会)カトリック側から鈴木忠一神父(黙想の家)が戦争中、軍部の圧力の下で教会が信仰を保ち非戦平和を説く力の不足を反省、過去を振り返ることは将来に対する責任を担うことと、今後のキリスト者としての平和の決意を促した。

続いて長崎の被爆者でもある秋月辰一郎・長崎聖フランシスコ病院顧問が「戦争の反省と核時代に生きる私たち」と題して講演。人間味あふれる口調で、静かに力強く平和と核の恐ろしさを説かれた。

被爆者であり医師であり、同時に厚い信仰者としての立場から日本の平和に取り組む自分の姿勢を語り、さらに教会は人々にわかる言葉で平和を説いて欲しいと訴えた。

とくに、政党間の勢力争いの結果消えかかっている日本の平和運動にふれ、平和についての対話が出来ない日本の現実を指摘した。

「平和の話の根底には宗教がいる。なぜなら共通の世界観からできる言葉を交しながら現実に立ち向かわなければならないからだ。他の人の話をどこまでできうるか。自分が何を主張できるか私たち日本人にはもっと厳しく対話出来ることばを探すべきだ。」

集会では「平和のために絶えず前進することを誓う」との中曽根首相あての平和声明を南里卓志牧師(博多ルーテル教会)が読み上げ採択。



集会のあと福岡市天神を平和行進

わかる言葉で 平和を語ろう

秋月辰一郎氏が講演



「8・15平和を建設する集い」はエクメニカル(教会一致)の催しとして福岡で恒例となっている。

宗派を越えて核兵器廃絶、靖国神社公式参拝反対を訴え真の平和を願い建設に力を尽くすことを誓う集会である。

切れてからでは おそすぎる

平和旬間

カトリック平和旬間にあわせ福岡教区では8月15日平和を祈願するミサと講演が行われた。午前9時福岡カテドラルでの平田三郎司教主式の祈願ミサに約三百人が参列。

長崎聖フランシスコ病院の秋月辰一郎氏が信徒の平和への責任を語った。

今月のみことば

沖に乗り出し
網をおろして
漁をせよ
(ルカ5・4)

光ケ丘　ラギダオ神父

あなたとわたしの 福音宣教



洗礼は神の恵み

Sr. 加藤定子

福音宣教とはその人の生活、生き方、行いがキリストを証しているものでなければならないとよくいわれている。

以前、私が勤務した教会は非常に活発で、復活祭の洗礼者だけでも30数名を数え、毎年「私達の新しい兄弟」と呼んでいたことを思い出す。家族揃ってまた特に成人の受洗が圧倒的に多く、活気が溢れ、同教区内の他の小教区にも刺激を与え「我々の教会は量より質」などと言われながらもお互いに対抗意識を燃えたたせ、受洗者数を競いあったりした。

この様な状態が何年か続き知らずしらずのうちに、謙虚さを失い、信徒達も得意になり始めていた。その時管区長だった神父様が「洗礼は神の恵み」と言われたことばは、いまでも忘れることができない。私達は、神の道具であることを忘れてはならないと思う。心の中に宣教への熱意、一つの霊魂でも救いたい、という意識を持ち続けていくなら、その火は燃え続け、必ず外に溢れるはずである。ここで原点に帰り、祈りと犠牲の大切さを改めて考えなくてはならない。

宣教活動をしていると、いろいろな人間模様を聞く機会が多く、自分では体験した事もないことに出会い、考えられないような事を聞くこともある。そのような時、どのように話すべきか、神の声をききすましながら、私ではなく神が話してくださるようにと思いをこめて、話すだけである。その人と神との出会いがありますように。

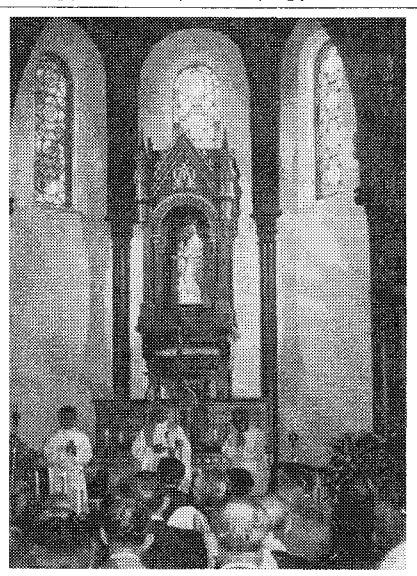
宣教熱は、大いに必要であるが、家庭婦人が家庭を顧みずに行動しても、良い実りがあるかどうか疑わしい。華々しさを求めるよりも、愛と誠実の中にこそ豊かな実りを主がもたらしてくださるのだと思う。一例をあげれば、ある幼稚園の母親の生きざまによって、その方の隣家の母と子供達6人が受洗の恵みを頂いたことがある。

キリスト教について何も語らなくても、人に影響を与える例は、私達の身辺に案外多く見られる。これも一つの立派な福音宣教であると思う。

(御聖体の宣教クララ修道会)

みちくさ

ある平日の朝、久留米成田山の本堂の前のベンチに腰かけて、小一時間ほど参拝者をながめていた。ここには他にもいくつかの立派な建造物と巨大な慈母観音像がある▼ふたりの男の子を連れた母親が観音様に捧げる線香と灯明をともして所定の場所に奉納し本堂への階段をのぼって行く。中には入らず、立ったままで、まず母親が祈り始める。子供たちもつられたように神妙な顔付で合掌している▼このような光景をつぎつぎに観ながら、日本のカトリック教会の建物に思いをはせる。なぜか教会(聖堂)の入口ではそっと合掌しても中に臨在される方とお会いできた気分になれない。建物の造りの閉鎖性のためなのか。そういえば「教会(聖堂)の解放」ということを時々耳にする▼でも聖堂の解放は建物をホール化して一般庶民に利用していただくという次元のものでもなさそうだ。もっと大切なことは、誰もがいつでもそこに気軽に近づけて、静かに時のうつろいを感じ、神の愛にひたれる場にすることだと思う▼このような空間をつくり出すことは、現代社会の中で教会が果たすべき一つの使命だといえないだろうか。平日に聖堂に行って、そこで祈っている人に出合う時、救いの歴史のいとなみを垣間見る思いがする▼聖堂にはいろんな形があっていい。ヨーロッパの伝統を再現するのもいい。前衛的なものでもいい。純日本風なのもいい。コンクリートでも木造でもかまわない。けれどもどんな形の建物であれ教会は、見世物であるよりまず一人であるいは皆で祈れる場、魂のしばしの憩いの場でありたい▼壮麗な聖堂が人々の信仰の証となった時があった。質素な聖堂がキリスト者の心情に合った時もあった。さて今の時代はどうだろう。やっぱりあのナザレのイエズスには、日々の祈りに包まれた質素な教会(聖堂)のほうがよく似合うと思うのです。



大名町教会旧聖堂 「雪の聖母聖堂」として甦る

米留久

久留米市、聖マリア病院(井手一郎院長)に移転・復元された大名町カトリック教会旧聖堂(煉瓦造)の献堂、落成式が、8月5日、平田司教と10名の司祭の共同司式で荘厳に行われた。

司教は、説教の中で「現在、〇〇〇人を超す入院患者にチャペルができたことは、大きな喜びである。キリスト教の愛の精神をもって治癒、看護にあたられる看護婦、職員の方々や、精神的、肉体的に苦しむ人々の魂の安らぎの場、祈りの場となりますように」と述べた。

旧聖堂は、新たに「雪の聖母聖堂」と名付けられた。

行進を行った。

天神地区の約2キロをベビーカーを押すお母さん、手描きのプラカードを持つ子供、車イスの人など各宗派を越えて約120人の信徒が十字架を先頭に平和を訴えながら和やかなデモ行進でこの日の集会を結んだ。

(鈴木記)

プラカードを掲げ 天神を行進

平和祈願ミサ、講演会を終え、続いて「核廃絶――争いのあるところに許しを、分裂のあるところに一致」をテーマに聖歌をうたいながら平和

教区墓地で追悼ミサ

新しい奉安室の祝別も

福岡教区墓地(福岡市南区和田)で、8月15日例年通りミサと昨年11月以降に亡くなられた方の納骨式が行われた。ミサは、平田司教主式で、霊肉共に天に上げられたマリア様を祝う「聖母被昇天祭」の典礼で行われた。

また、このミサの前には、新しく整備された納骨堂の祝別が行われ、今までビス止めだった奉安室のドアに各々カギが付けられた。

この日に先だってきれいに清掃された墓地に、各地から大勢の信徒が集まった。

毎年見られる光景だが、先祖のお墓の前で久しぶりに会う親類同士、転出して行った人たちとの再会、里帰り組もあって「しばらくでした」、「お元気でしたか」などの声があちこちで、聞こえる一時でもあった。

教区墓地委員会では、奉安室のカギを各持主へわたすため、各教会の墓地委員へ申し出るよう呼びかけている。

一フィート運動

「未来への証言・沖縄戦」上映

熊本市・手取教会

手取教会(熊本市)の信徒会館ホールで8月9日(土)、平和旬間の行事の一環として、映画「未来への証言・沖縄戦」が上映された。

この映画は第二次世界大戦の末期、沖縄での戦いを撮影したアメリカから市民が一フィートずつフィルムを買いとって、戦後世代の人々にも戦争の悲惨さを知らせ、恒久的平和への願いを高揚させ、具体的な平和活動を盛り上げようとする市民運動、いわゆる1フィート運動が約55分の上映時間にまとめあげたものである。

今回の映写会は手取教会の賛同で行われたものであるが、このような平和のための市民運動への教会の積極的参加は、運動そのものの福音化にも寄与するものとして注目されている。

教区人事

▲A・ベルトラン　健軍主任(飯塚主任)▲丁・ノーリス　飯塚主任(健軍主任)▲丁・マルセル　宮古島シトー会(伊万里トラピスト)▲丁・ミケレーナ　伊万里トラピスト(宮古島シトー会)▲山頭原太郎　小倉助任(司教館)▲深堀勝人　行橋主任(小倉助任)▲松井忠之　小神学校(行橋主任)

夏!! 子供たち

いつの時代でも夏の主役は子供たちです。教会で家庭で学校で、そして地域でのいろんな体験を通して子供たちは大きく成長していきます。

楽しかったこと、苦しかったこと、嬉しかったことなど、さまざまな思い出を胸に子供たちの夏は終わりを告げます。

そんな思い出のいくつかを皆さんにそっと紹介しましょう。

きっといつの日かこんな子供たちが自分の幼い頃の思い出を次の世代に語りつぐのでしょうか…

夏期学校大好きです

伊万里教会
小四　中村　つかさ



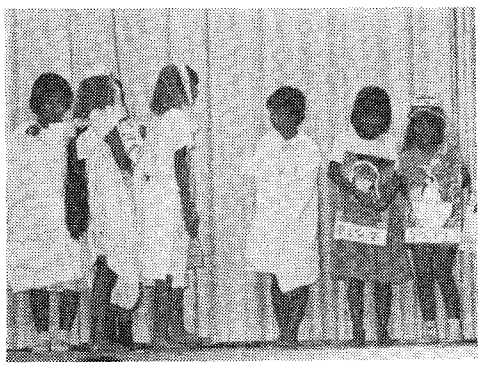
私は、夏期学校が大好きです。それは、神さまのお話を聞いたり、みんなと一しょに遊べるからです。勉強が半分、遊びが半分でとても楽しいです。毎年お母さんたちが作ってくれるカレーはとてもおいしいです。夏期学校で一番心に残ったことは、「マルセリーノ」のビデオです。

その子は、しゅうどういんの門に置かれていたので、12人の神父さまが育ててくれたのです。私は、もし神父さまが見つけてくれなかったら、きっとその子は死んでいたと思います。

夏期学校で、今年は〝ぶどうの木〟と言うのを学びました。ぶどうの木は、九つの実をならせ、その実は、愛、喜び、平和、寛容、じんじ、ぜんりょう、せいじつ、にゅうわ、せっせいです。私もこの中のことをまなんで、いい子になろうと思います。

神父さまへの手紙

二日市教会
中一　山中　陽子



神父さまお元気ですか。

私たちはほかの教会の人たちといっしょに、二泊三日のれんせい会で小郡の教会に泊まっています。この一日が最後の日です。私はこの三日間みんなとくらし、たくさんのお恵みをもらいました。

私たちのテーマは「イエズスさまと出会おう」でした。神父さまがごミサでおっしゃったことは、悲しんでいる人や悩んでいる人や苦しんでいる人たちが、早く神さまが言っていることに気づき、そして神さまに出会うことができるようにと言っていたんだと思います。

だから私たちも悲しい時、つらい時、苦しい時など一こくも早く神さまが呼んでいることを気づきそしてほんとうの神さまに出会いますようにと努力していきたいとおもいます。

ではさようなら

お泊まり保育

行橋教会
中一　小野　勇樹



「自分達の手でやったんだ!」という喜びが夕食のカレーライスや夜のキャンプファイヤー、花火を、一層楽しく、素晴らしいものに変えたんだと思います。園長の松井神父様も星の王子様として、ショータイムやダンスに加わり、みんな、とっても楽しそうでした。

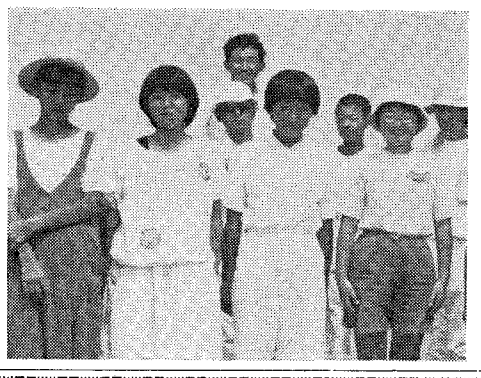
スイカを食べるのも、寝るのもみんないっしょ。最初は興奮気味で、なかなか寝つかなかった子も、疲れが出たのか、ぐっすり眠っていました。あまりの寝ぞうの悪さに、自分もこうだったのかと、つい苦笑してしまいました。

このように、お泊まり保育を通して、みんなで協力することの大切さ、そして、一生懸命働いた後の喜びを、教えているのだと思います。

ぼく自身、このお泊まり保育に参加して、もう一度、この二つの大切さを、しみじみと考えさせられました。

チョット苦しかったけど

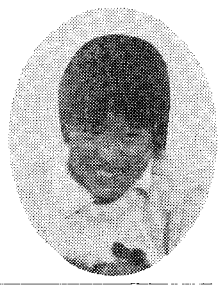
若松教会
中二　結城　奈美子



僕は、7月23日と24日、行橋カトリック幼稚園のお泊まり保育にOBとして参加しました。

僕達の時は、あいにく雨で、外でのキャンプファイヤーや花火が出来ず、淋しい思いをしたので、この子達には、あの淋しい思いだけはさせたくない、晴れてほしい、と祈っていました。

そんな祈りが通じたのか、夜まで良い天気が続きました。朝から一生懸命に、みんなで力を合わせて準備する園児の姿に、幼い頃の自分の姿をだぶらせ、懐かしく思いました。



この夏、初めての楽しみはなんといっても二泊三日のキャンプ。

車にゆられて3時間、やっとキャンプ場についた。ホッとしたところで、一日目から大失敗。岩で足をけがしてしまった。自分のドジさにあきれた。その日の夜は、歌がっせんをした。それがたのしくて、たのしくて気がついたら11時すぎになっていた。

二日目、昼から海水よく場に行った。神父様がにげていくのでおいかけているうち、おぼれそうになった。夜、きもだめしをしようと全員であるいていると、とつぜん神父様がおどかされたので、数人がないてしまった。三日目、ついにお別れの日なのに朝から雨、帰りの車の中では、ぐっすりねむった。とってもすてきな思い出ができた。

キャンプの思い出

大牟田教会
小五　木村　直子



僕は、8月1日と2日宮崎へ家族旅行にいきました。

サボテン公園からホテルへ帰る途中で猛スピードのバイクに追い越され、前を走っていた車も追い越されました。急にサイレンの音が聞こえて、覆面パトカーがバイクを追ってしてかぞえていました。

次に、ねる時です。もう男子も女子もうるさかったです。マクラをなげたり、わるくちをいったりしていました。わたしが注意してもきいてくれなかったけど、大間先生のひとことで、みんなシーンとなりました。楽しかった。



命 もっと大切にしよう

人吉教会
中二　高宮　孝一郎

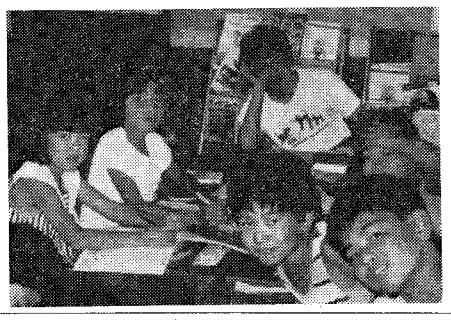
わたしは、夏期学校の三日間、とても楽しかったです。少しいやな時もありました。夕のいのりやミサは、とてもきつくていやだったけど、終ったら「ああ、ミサをしてよかったなァ!」と思いました。

それとははんたいに、とても楽しいこともありました。まず花火。さくらい神父様やガッザルディ神父様が、20発やねずみ花火などをしてくれました。中でも一番にん気があったのは40連発でした。みんな「1、2、3、4」と真けんな顔をしてかぞえていました。

次に、ねる時です。もう男子も女子もうるさかったです。マクラをなげたり、わるくちをいったりしていました。わたしが注意してもきいてくれなかったけど、大間先生のひとことで、みんなシーンとなりました。楽しかった。

花火が最高

佐賀教会
小五　森内　あおい



わたしは、夏期学校の三日間、とても楽しかったです。少しいやな時もありました。夕のいのりやミサは、とてもきつくていやだったけど、終ったら「ああ、ミサをしてよかったなァ!」と思いました。

それとははんたいに、とても楽しいこともありました。まず花火。さくらい神父様やガッザルディ神父様が、20発やねずみ花火などをしてくれました。中でも一番にん気があったのは40連発でした。みんな「1、2、3、4」と真けんな顔をしてかぞえていました。

次に、ねる時です。もう男子も女子もうるさかったです。マクラをなげたり、わるくちをいったりしていました。わたしが注意してもきいてくれなかったけど、大間先生のひとことで、みんなシーンとなりました。楽しかった。

自由席

本との出会い
—聖書散歩—

福岡・大名町教会
吉川　聖子

聖書を読みながらいつも感じることの一つは、何千年も前に遠い外国で書かれたもの、それも主人公のイエズス自身が書いたのではなく他の人々が筆をとったそんな書物を読むことの難しさです。その時代性や地域性など、考慮しなければならないことが結構ありそうなのですが、それらについて確たる知識があるわけでもないため、信仰という名の思い込みになることを怖れて却って聖書に手を出しにくくなる、ということがあります。

そんなところにこの本を読んだので、聖書をこんなふうに元気に読めるなんてうらやましいというのが最初の感想でした。もちろん著者は市井の人々と違い、生活の中心に聖書研究という仕事をすえているその道のプロですが、聖書学者と呼ばれる人の全てがこのように縦横無尽な聖書の読み方ができるとも思えないところがあるので、全く著者の天真爛漫ともいうべき自由さには魅かれてしまいます。

43のテーマが、「酒」や「塩」などの身近なものから始まり「受肉」や「購い」という神学の奥義にまで及び、それらが芸術や社会問題などまで盛り込まれて語られるのを読み進むうち、神父とか学者とかの肩書以前に、現実社会の中でどのように福音が実現されていくのかを見つめ続ける、バランス感覚を持った著者の信仰者としての目を感じます。

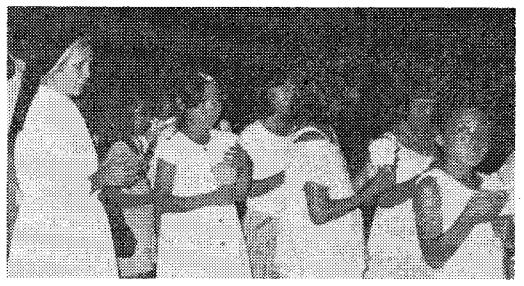
全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目1—12　嶋井ビル2F
TEL　福岡(092)471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093)671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

夏期練成会　キャンプ
親・子・リーダーそれぞれの思い

今年の夏休みも福岡教区のあちこちで、子供たちのためにさまざまな行事が行われた。今年はその中から、福岡地区少年少女練成会について報じる西日本新聞の筑後版（7月28日付）の記事と光ケ丘教会の子供たちのキャンプにスタッフの一員として参加したシスター青木（福音の光修道会）の体験記、さらにこれらの行事のいくつかに自分の子供を参加させた一母親の感想を紹介しよう。



小郡カトリック教会で小中生が交換

福岡地区カトリック教会所属の小、中学生九十五人が創作劇やスポーツなどで交換、最終日の二十七日朝は、西鉄小郡駅周辺でゴミ拾いの奉仕をした。

メーン行事は二十六日の寸劇の創作。十班に分かれ、杉木立の中で聖書の中の〝光景〟を五分間の劇にした。同夜、神父や母親らの審査で、力作を発表しあった。練成会は今年で三回目。（西日本新聞より）

光ケ丘教会キャンプをふりかえって

子供たちにとって二日間のキャンプの楽しかった思い出は、なんといっても、お友だちとテントで寝たこと、キャンプファイヤーや花火大会、



じゃがいもや人参の皮むき、涙をながしながら切ったたまねぎで夕食のカレーライスができあがり、いざ食事というときに、ひどい夕立で中止になるのかと心配したけど一時間位で雨はあがり、二百人弱位の参加者でカレーライスを食べ、キャンプファイヤーが始まりました。

復活祭のローソクに点火してあかりがあたりを照らしだしていく荘厳な雰囲気に、私自身胸のたかまりを感じました。やがてトーチに点火され、日曜学校、土曜学校、町内の子供会とそれぞれのグループから腕にみがきのかけられた出し物がありました。半月型の大型スイカを食べながらの打ち上げ花火の観賞は最高潮でした。

キャンプの一番の楽しみはなんといってもテントで寝ることです。おばけの話をして喜んだり、こわがったり、みんななかなか眠れません。

班の子供たちを統率する仕事は最初大変でしたが、慣れてくるとみんなよく協力してくれるので、お互いによい友だちになれました。

二日間のキャンプを通してとくに光ケ丘地区の人たちや土曜学校の子供たちと知り合うことができたのがなによりの収穫でした。（Sr青木）

親子で選んでみよう

男子聖パウロ会の召命練成会7月20～22日、御受難会のイエズス村7月25～31日、福岡地区信徒協の小郡練成会7月25～27日、熊本地区信徒協の熊本地区練成会8月7～9日、聖母訪問会のマリアの集い8月7～10日その他佐賀地区中高生会、福岡地区高校生会、師イエズス会の召命の集い、CYGなど、この夏各地で行われた子供たちのための集いです。ほとんど例年通りのものです。各集いともそれぞれ特徴があり常連の子供も多いとのこと。

各修道会主催の集りは、召命学校的な意味合いが大きいようだ。いずれも現代っ子に合わせ、またそれぞれのカリスマを盛り込み、工夫をこらしている。

ただ、どの会場においても参加している子供の親サイドの意識が少ないのではなかろうか。ながい夏休みの託児所的な感じに見えないでもなかった。

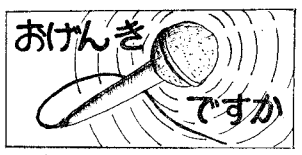
また、子供にとっても夏休みに入ったとたん学校、地域の子供会、教会と練成会はめじろ押し、それぞれの集いの目的もはっきりしないまま夏が終る。豊富なメニューの中から親子で選んだ参加の工夫も考えられないだろうか。

納涼の集いも宣教に一役

湯川教会（平田寛神父）では8月14日、教会附属の保育園園庭を会場に恒例の納涼の集いが行われた。午後7時から屋外でミサを捧げたあと、踊りの輪が広がり、摸擬店や金魚すくい、福引などでにぎわった。

今年の集いについて平田神父は「宣教の一環として地域の婦人会や教会附属の保育園幼稚園の保護者など一般にも呼びかけました。また近くの病院の患者さんも窓から楽しむなど好評でした。」と語っている。

おけんきですか



ベルトラン神父様は8月24日で89歳にならられた。

現在は北九州八王寺のパリミッション会本部で療養中である。

取材で訪れた時、ボンカズ神父様が病床にご聖体をもってこられた。二人の老司祭がラテン語で祈りを交されるお姿に司祭の兄弟愛をみる思いがした。

ベルトラン神父様はフランスで生まれ、28歳の時に司祭叙階。

朝鮮でおよそ25年間司牧生活をされ、第二次大戦後来日された。八王寺や若松の教会司牧、聖母訪問会、援助修道会のチャプレンを務め、門司港教会での15年間の司牧を最後に引退された。



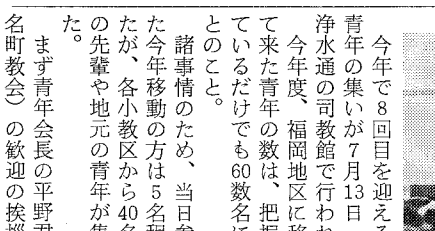
ベルトラン神父様

若い時から頑健なほうではなかったらしく、今は足を悪くされて歩くことはほとんどできず寝たきりの生活を送っておられる。

読者の皆さんに何か一言をとお願いしたら、「特別にありません。喜んでいます。祈っています。」とのご返事。

師の思い出の中では朝鮮での宣教生活が最も鮮明で、朝鮮はとても住みやすいところでした。人々も素朴でいい人たちでした。数多くの受洗者がいたと懐かしそうに語られた。

老宣教師のもとを去る時に交した手の温もりに、61年間の宣教師としての生活の厳しさと豊かさが感じられた。



鳥栖市民祭に教会も協力
女子パウロ会は出店で奮闘

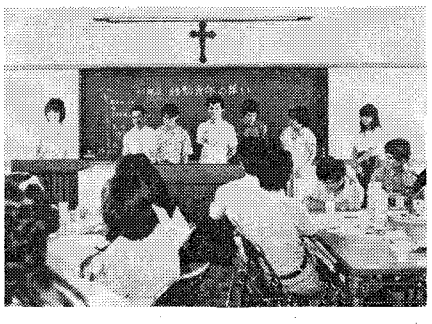
鳥栖市恒例の夏祭りが、7月27日（日）午後一時から夜十時まで、華やかに繰り広げられた。

大通りに面する鳥栖カトリック教会の前には、今年もいろいろな露店と並んで、女子パウロ会のシスターが屋台店を出し、鳥栖教会の信徒と共に、道行く人に教会案内やカトリック雑誌などを配布した。

来年は、聖歌のデモストレーションや辻説法をしてはどうか、という要望もあった。

移動青年の集いから

古賀教会　稲垣恵一



自己紹介する青年たち

今年で8回目を迎える移動青年の集いが7月13日（日）浄水通の司教館で行われた。

今年度、福岡地区に移動して来た青年の数は、把握できているだけでも60数名になるとのこと。

諸事情のため、当日参加した今年移動の方は5名程だったが、各小教区から40名以上の先輩や地元の青年が集まった。

まず青年会長の平野君（大名町教会）の歓迎の挨拶、次いで青年担当の川上神父様、移動青年担当のシスター川口の激励を受けた。

それから、ジュースで乾杯し、新しい仲間を迎えた。

各教会別の自己紹介では、若者らしい笑い声がはじけていた。

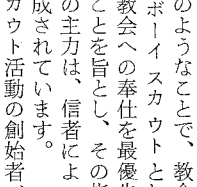
司教館での交歓のあと、若いエネルギーは、今にも降り出しそうな空模様の中を5キロほど離れたサン・スルピス大神学院のグランドへ繰り出した。

幸いなるかな、ついに雨も落ちることなく皆、疲れるまでプレーを楽しんだ。

最後に、大神学院のチャペルで一日の感謝の祈りをし、閉会となった。

新しく入った青年も、昔からの友人のように溶けこみ、各小教区の青年同士も、親しさを増すことができたように思う。多くの移動青年が気軽に参加できるものにしたい。

カトリック・アクション
日本カトリックボーイスカウト



私達は、昭和47年に当時の主任司祭ルカ神父様の指導のもとに、初めは若い神父様の仕事として、高宮教会のなかに誕生しました。

その任務は、教会の門を社会に開き、高い敷居を低くして訪れやすい教会にすること。みことばを行動に表す先兵となること。諸活動を兄弟愛の基盤にすること。などでありました。

そのようなことで、教会内のボーイスカウトとして、教会への奉仕を最優先することを旨とし、その指導者の主力は、信者によって構成されています。

スカウト活動の創始者ベーデン・パウエルは「『日常生活に宗教の教えを実践すること』を教え込むのを目的とする」といわれている。そこで私達は、日本カトリック・ボーイスカウトに所属し、その担当の司教様のご指導のもとに活動をしています。

私共は、主の十字架のもとで、ひとりひとりの子供達の心の中におられるイエズス様に、奉仕することを喜びとするものであります。過去、司教様要請の教区大会、その他諸行事には、積極的に奉仕させていただいてきました。

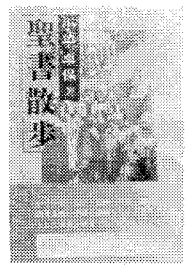
最後に、私達の団日本ボーイスカウト福岡第3団のシンボルマーク（ネッカチーフ）を紹介します。



連絡先☎551-1231鳥越義弘

☆聖書散歩

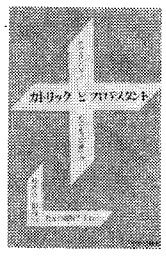
小平卓保著



本書は、「笑い」「孤独」「酒」など、日常生活の諸断面に聖書の光をあてながら、読者を聖書の世界に誘ってくれる。聖書がこんなにも面白く、また楽しいものであったのかと認識を新たにさせられる。（女子パウロ会）

☆カトリックとプロテスタント

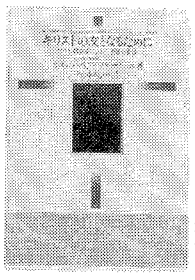
ホセ・ヨンパルト著



カトリックとプロテスタントの違いをわかりやすく解明している。「真の教会一致運動は、相違点を無視したり隠したりすれば、一時的には成功しても、それは結果的にはお互いをだまし合うことになる」と述べ、双方が理解し、教会一致を目指すことに力点を置いている。（中央出版社）

☆キリストの友となるために
—ヨハネ福音書による八日間の霊操—

C・M・マルティーニ著　松本紘一訳



イグナチオの霊操の線に沿ってヨハネ福音書から黙想の素材を選び、キリストとの人格的な交わり、イエズスとの親しさへと導いてくれる本である。（女子パウロ会）

BOOK 読みは専科

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（九月）

1日　イエズス会祝日
2日　司祭評議会
7日　熊本地区信徒使徒職協議会
16～26日　FABC東京会議（アジア司教総会）

福岡黙想の家

2～3日　大橋幼稚園教師黙想会
7～10日　ハウスキーパー黙想会
13～15日　MEウィークエンド
15～20日　コンベンツアル黙想会
25日　老司教会婦人黙想会

山元真師帰朝報告会

日時　9月8日（月）午前10時30分～午後4時
場所　司教館新館5階
対象　司祭

講演会

日時　9月14日（日）午後2時～4時まで
講師　岡　宏神父
テーマ　〝ツッパリ〟の背後にあるもの――家庭の中の親と子――
入場料　無料
場所　福岡カテドラル・センター一階講堂

教会学校リーダー研修会

日時　9月14日（日）午後4時30分～15日（月）午後4時
講師　Sr.景山あき子
テーマ　教会学校リーダー養成について
参加費　五〇〇円（夕食、昼食は含みません）
場所　福岡カテドラル・センター一階講堂

神学講座

期間　9月23日～12月23日　毎週火曜18時～20時
場所　司教館新館5階
テーマ　創世記（ヨゼフ物語）～出エジプト記
講師　高見三明神父（サン・スルピス大神学院）

連続講演

―聖書からみる福音宣教―
講師　Z・イエール神父　高見三明神父
日時　毎月第3日曜　午後2時～4時
会場　福岡カテドラル・センター4階
参加費　無料
主催　福岡地区福音宣教推進研究部会

二泊三日夫婦練成会募集

（マリッジ・エンカウンター）

テーマ：私が愛したように互いに愛し合いなさい。
日　時：9月13日（土）19：00～15日（祝）18：00
場　所：黙想の家（福岡市）☎092-871-7108
スタッフ：鈴木忠一神父、深堀純・邦枝（大名町）
高橋昭二・靖子（尼崎市）高橋博・美和子（東京）
※御夫婦で参加が条件。詳細は、上記へお電話を下さい。

ビデオ、フィルム等貸し出します

浄水通教会では、研修会や教会学校などでご利用いただけるビデオ、スライド、16ミリフィルム、8ミリフィルム等多数とりそろえています。

1. 貸し出しの注意
事務費として300円いただきます。
2. 泉神父（浄水通教会）から直接借りだすこと。
・フィルムについての注意
・内容についてのアドバイス
などがあります。
3. 破損の場合は実費をいただきます。

各種リストについては左記までお問い合せください。
福岡市中央区浄水通三八
浄水通カトリック教会
泉　神父
☎ 092-531-3689

バザー

9月21日　北九州市戸畑教会
「敬老の日」のお祝いを共にします。

いぶき

キリストは山上の垂訓で、「義に飢えかわく人は幸いである、その人は満たされるであろう」（マタイ5・6）と教えておられます。ところで、有名なシエナの聖カタリナは「義に飢えかわく」というキリストのこのみ言葉を、わたしたち自身の、聖化と完徳への憧れ、と解釈しています。

キリストは「天の父が完全であるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（マタイ5・48）とも仰せになられましたが、この場合の「完全な者」とは、「聖なる者」と同義的に理解されるべきですから、キリストはわたしたちを、完徳、あるいは聖化に招いておられる、と言うことができます。

聖パウロもエフェゾ人への手紙の中で、「まさに神は、わたしたちが神のみ前で聖なるもの、非のうちどころのないものとなるように世界創造以前から、キリストに結ばれることによって、わたしたちを選び出してくださいました。それはわたしたちへの愛によるものです」（1・4）と記し、更にテサロニケ人には、「あなたがたが聖なる者となること、これが神のお望みです」（前、4・3）と書き送っています。

換言すれば、神は、わたしたち一人一人が「聖なる者」「完全な者」となり、ご自分の聖性に与えるようにと招いておられるのです。シエナの聖カタリナは、キリストのこのような愛に満ちた、完徳、ないし聖性への招きに対して深い憧れを持つことを、「義に飢えかわく」ことだと考えるのです。

義に飢えかわく人

山内清海

「飢えかわく」ことは、たしかに生の証であり、生きるための大切な原動力です。わたしたちは何かに憧れを持たなければ、生きる気力と勇気とを失うからです。しかし何に飢え、何に渇くかが、わたしたちの人生を決定的に方向づける重要な鍵となります。

確かに、人々が求める名誉、社会的地位や財産、或いはいろいろの欲望の充足などは、生きるための一時的な慰めや支えとなり、生きる勇気を与えることができるかもしれません。しかしこれらすべての被造的善は、煙のようにはかなく、花火のように瞬間的で、容赦なくわたしたちの期待を裏切ります。

わたしたちの人生の目標、或いは憧れが、可変的で、真に生涯を賭けるに値しない場合、わたしたちの生活は、全く落ち着きを失った、不安と苛立ちに満ちた生活を余儀なくされます。だから人間だれしも、確固たる人生の目標に支えられた、真に価値ある人生に強い憧れを持ち、これを求め続けるのです。

そこでキリストは、「渇く者はわたしのもとに来て飲みなさい」（ヨハネ7・38）と、わたしたちを招かれます。キリスト以外に、わたしたちの、このような飢えや渇きをいやしうるものは何もないからです。

しかし、聖アウグスティヌスが「告白」のはじめで、「あなたはわたしたちを、ご自分にむけてお造りになりました。だからわたしたちの心は、あなたのうちに憩うまで、安らぎをうることはできないのです」と書いているように、神のみもとに帰り、神を仰ぎ見るまでは、わたしたちの飢えや渇きが完全に満たされることはないでしょう。しかし神への絶対的憧れは、聖アウグスティヌスが同じ「告白」で、「御身のよき味わいたれば、わが心は御身を求めて飢え渇くなり」と記しているように、どのような困難にもめげない、活気に満ちた強い生き方と、清く、聖なる生活を可能にします。

だからわたしたちは、ただ一度きりのこの人生で、世のはかなきものに憧れて、これを追い求めるような、愚かな生き方を捨て、徹底的に義を求めつつ、キリストの優しい招きに応えうるように努めなければなりません。

（サン・スルピス大神学院教授）

香典返しを福岡小神学校へ

故ミカエル向井孝一様の香典返しとして、向井チカ様（茶山教会）よりいただきました。

故人のご冥福をお祈りし厚く御礼申し上げます。

山元真神父の 留学体験記 ④

失敗

海外生活とか留学生活とかいうと聞こえはいいが、実際はいろんな失敗のくり返し。幸いに、無事帰国することができたのだから生命にかかわるような失敗はしなかったことになるが、それでも失敗のない日はなにか「伝説」と呼ぶようになった。日本人の仲間うちでは、失敗のことをいつのまにか「伝説」と呼ぶようになった。何かを期待する目。それとくに最初の一年間は、ほとんど毎日、新しい伝説ができていた。そのひとつ。

ペルージャの外国語学校でイタリア語を学んでいる時だから、日本を出て二カ月位たった頃だと思う。ある日曜日町外れの小さな教会でミサをするように頼まれた。説教はしないでいいようになっていたはず。その思いこみからすでに悲劇が始まっていた。

福音の朗読が終わると、主任神父が香部屋から出て来て信者にひと言ふた言。みんなは私の方を見ながら席についた。何かを期待する目。それから彼は私の側でひと言。何か言ったということはわかるが、内容がわからない。その頃の伊語は、自分にとってはまだ「異語」にすぎなかった。これは、ひょっとして自分に何か話せと言っているのではないか。背すじがゾーッとして、冷汗が流れる。再び「期待の視線」。ハラをすえて荘厳に（？）話し始める。「神は愛」。少し声に抑揚をつけてもう一度いう。「神は愛」（ディオ・エ・アモーレ）。心をこめてもう一度ゆっくりとくり返す。「神・は・愛」。「これがすべてです」と結ぶ。今までで一番短い説教。古い聖堂に拍手が響く。あゝ愛すべきイタリアの人々！自分の失敗を、自分で笑えたらいいと思う。

（小倉教会）

かのときのことのは

心解けたる只今かな

梁塵秘抄

この歌声を聞くと梁（うつばり）の塵も動くということから命名された。平安末期の後白河法皇の撰によるもので、巻九まであり（現在は二巻までしか発見されていない）巻十は口伝になっている。

歌は今様（現代風）で、同時代にできた新古今集とは、全く趣をことにして日常語を使い、会話的で、弾むような調子である。

引用の句は口伝からのもので「万の仏の願よりも、千手の誓ひぞ頼もしき、枯れたる草木も忽ちに、花咲き実なると説い給ふ」と歌っていると、松の木の下で一晩中祈りつづけていた覚賛法師が、松の木の上に、この句を謡う声を聞いたというのである。

只今とは、毎日使う挨拶のことばであるが、このように心解けると、この只今は、永遠の今となる。

（森山敬三）



編集室から

残暑の中、編集長の都合で9月号は玉名教会で割付作業をしました。冷房のきいた司祭館の一階応接室を編集室として占拠。心よく退去していただいた主任神父様に心から感謝します。

師いわく「一日の苦労は一日で十分です」。

しかし私たちの一日目の苦労は十分でなかったので次の日まで持ち越したのであります。

（W）

典礼サービスセンター
ロザリオ・ベール
十字架・御像・カード
祭服・カリス・ストラ
お求め・お問い合わせは
師イエズス修道女会
福岡市中央区小笹4-11-35
TEL (092) 531―0486

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL 092―531―3831
夜間 092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所 大石真澄
〒815 TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長 松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL 093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店 ☎2―0646
行橋市駅前5秒店 ☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店 ☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店 ☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階 ☎922―5637

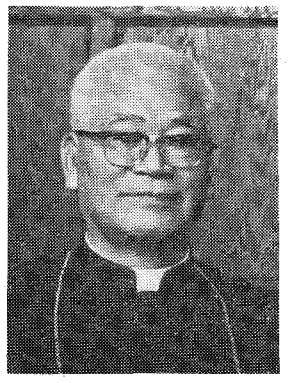
信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社 藤木工務店
取締役社長 藤木鐵三
福岡支店長 藤倉良夫
福岡支店 福岡市博多区博多駅南4-18-2 電 (092)441-6585

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角 TEL 092―521―0568

「召命」は教区民の責任

神学生に公立中学への道

福岡小神学校問題で新方針



教区長　平田三郎司教

福岡教区長平田三郎司教は、9月14日全教区民に向けて、「教区の小神学校をもり立てよう」との書簡を発表した。

ここ数年来福岡小神学校の問題は、召命問題に取り組む教区にとって重要課題のひとつとなってきている。

ところで過去5年間の統計をみると、昭和55年は9人56年27人、57年23人、58年30人、59年11人、60年9人、61年7人となっている。

このような事態の原因と対策を考えるため、去る6月3日の司祭評議会で、神学生養成の経験のある司祭、泰星学園からの代表司祭や信徒によって構成される小神学校委員会を早急に設置することが決定された。これにもとづいて委員長には平田司教、委員に山田、青木保、高木、山元、ウーリック、川口、松井の各師、また信徒委員として鬼木保之、山田耕三郎の各氏が選出された。

同委員会は8月28日に第一回の会合をもち司祭の召し出しは教区民全体の責任であることを確認し、泰星との問題福岡小神学校内部の問題について率直な意見を交した。

今回発表された新しい方針では、小神学校入学者に泰星中学の他に公立中学への道が開かれるようになった。

しかし書簡のなかでもいわれているように小神学校の問題は泰星中学のことだけではない。根本には教区民の召命への関心の低さ、祈りの欠如や、司祭自身が現代の青少年にどのように受け入れられているかの分析と謙虚な反省の必要性を指摘する声もある。

（書簡の全文は二面に掲載）

今月のみことば

おことばどおり
網を
おろしてみましょう
（ルカ5・5）

帯山　牧山勝美神父

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

福音の精神を見直す

連続講演始まる

福岡

福音の精神を根本的にもう一度学び、深め、福音宣教の原動力を得ようと、福岡地区福音宣教推進研究部会（指導司祭・山田成章師）の主催による連続講座が、7月から開始された。

この講座は、来年の7月まで、毎月第一日曜日と第三日曜日に福岡カテドラル・センターの4階で行われる。

第一日曜日（午後2時～4時半）は、第二バチカン公会議公文書から『教会の宣教活動に関する教令』を講師の山田成章師がわかりやすく解説。そのあと、参加者が宣教活動の体験や困難などを分かち合う場が設られている。

第三日曜日は、〝聖書からみる福音宣教〟で、講師は、サン・スルピス大神学院のZ・イエール師と高見三明師である。

第一日曜日に参加した西新教会の生熊来吉氏は、「福音宣教のために、宣教者は神の声を聴かなければならない。『教令』の深い奥義の解説は明解で平易である。体験の分かち合いは対話の訓練にもなり、そこに草むらの中の螢火のような英知を見い出すことができる」と語っていた。

また、第三日曜日の講座にでた修道女は、「福音によって生きることの喜びを確信した。苦しむ多くの人々と共に真の安らぎと幸せをつかんで歩いていくため、講座を聞き続けたい」と述べていた。

各講座とも入場は無料で、だれでも、いつでも自由に参加することができる。

問い合わせ先、教区事務所　山田成章師☎（092）522—5139い。

教会学校リーダー研修会

子供と共に成長する教師



「教会学校リーダー研修会」が福岡教区修道女連盟の主催で9月14日、15日の二日間、福岡カテドラル・センターで開催された。

シスター景山（援助修道会）を講師に福岡、熊本、佐賀、北九州、大分などから36小教区の修道女、信徒らのべ約二百人が参加した。

シスター景山は、子供が信仰者として成長していけるように援助しながら共に歩む教会学校リーダーの基本的な姿勢と役割について次のように述べた。

一、キリストこそ、ただひとりの教師であり、教会学校のリーダーも、子供たちと共にイエズスの弟子である。

二、リーダーは、自分が受け持っている、子供たちのために、また伝える内容について祈る人でなければならない。

三、教会共同体のメンバーである子供たちと共に歩み、共に成長する人であってほしい。

シスター景山は、子供たちの洗礼名の聖人の生きた時代や業績について子供たちが調べ、それを年表に書き込んでいくなど具体的に頭と体を使って学ばせるほうがよいとの助言もあった。

参加者はそれぞれ「この研修会で学んだことを、自分たちの教会で生かしていきたい」との新たなファイトをもやしていた。

岡宏神父講演

〝ツッパリの背後にあるもの〟

基礎工事の手抜きが原因



女子パウロ会主催による岡宏神父（埼玉・所沢教会）の講演会が9月14日（日）福岡カテドラル・センターで約三百名の聴衆を集めて行われた。岡神父は久留米市出身だが今は浦和教区に所属し、この五年余りの間に、司祭館で百名にものぼる家庭や学校から見放されたいわゆるツッパリの子供たちと寝食を共にするなどして関わっている。

講演では〝ツッパリの背後にあるもの〟―家庭の中の親と子―と題して、「物質文明の便利さ、豊かさのなかで大人たちは知らないうちに子供たちが自然に伸びていくのを阻害しているのではないか」と問いかけ、具体的には冷たい水で顔を洗うしつけが出来ていない子供たち、自然の変化を感じさせない生活スタイルが子供たちに感動する心を失わせていると語った。

また司祭館の中でこのような活動をして小教区の信徒の反応は、との質問には、賛成反対の両論があると率直に答え現実の難しさの一端をうかがわせた。

昨今、非行問題について考えるグループはいくつかみられるが、実際にこういう子供たちと徹底して関わる人は少ない。岡神父が体験を通して基礎工事のやり直し」によってもたらされた子供たちの精神的成長のプロセスが聴衆の心にひびいていた。

熊本地区信徒協理事会

まず福音的価値観を確立

「熊本地区信徒使徒職協議会理事会」が9月7日（日）健軍教会でおこなわれた。12時よりミサがあり、平田司教から「福音宣教については、司教、司祭、修道者、信徒を含む我々みんなが、世の証し人として遣わされた者であることを自覚すべきである。召命については、外国人の宣教会に頼り過ぎている現状なので、司祭職について真剣に考えることは信者の共同体としての責任である。〝立派な司祭をどのように養成するか〟は今後の大きな問題である。」とのお話があった。

指導司祭のジョー神父は「日本の教会がしっかり根をおろすためには、世間と同じ考えや価値観を持っていてはダメだ。召し出しは心の寛大な家庭、それを望んでいる家庭から必ず生まれる。信仰深い家庭をつくることが大切である。そうすれば必ず神様はその家庭を祝福してくださる。」と話された。

ミサ後、地区長デイキン神父、ジョー神父、会長高木慶治氏のもとに、佐無田氏（人吉教会代表）の司会で会が進められ、「島崎教会では川内町へ宣教の働きかけをし、すでに四回の映画会、講演会などを行ったが、今後どのように発展させるか検討中である。また手取教会のカテキスタ会のシスター日向は、山鹿における宣教活動を始めようと第一歩を踏み出したところである。」等の福音宣教についての各小教区における積極的な取り組みの報告がなされた。

なお熊本地区では、福音宣教にむけて運営委員会が設置され、司祭三名、修道者三名、信徒六名の計十二名で結成されている。

その他、刑務所、図書館への本の寄贈について、ミサ後の時間を利用して「分かち合い」を設けることなどの提案がなされた。

最後に、ジョー神父の「私たちは世の中のパン種の役割をしなければならない。世の光として一日一日を充実して過ごすことが出来るように」ということばと祝福で会はしめくくられた。（福山記）

あなたとわたしの福音宣教



聖コロンバン会九州地区のお世話で、私は61年6月2日から始まったEAPI（東アジア司牧研究所）の夏季講習会に派遣されました。

この講習会には約10カ国から79名が参加した。EAPIはイエズス会が経営するマニラのアテネオ大学の中にあり、科目の内容によってその都度いろいろな国で活躍している専門の教授を招いてきめ細かい指導をしてくれるところである。

講習会の終り頃に、信徒リーダー養成についての分科会があった。日本チームでは、本郷教会の堤敏雄神父様、和歌山地区の新井さんと私とで日本リーダー養成計画を作ることになった。

私たちがまとめたのは、グリフィン神父様（聖コロンバン会）のキリスト教講座に基づく5年がかりのリーダー養成計画であった。

グリフィン神父様の講座はジュールによるセミナーが多数を占めた。他国のスパルタ式教育計画に比べて日本の5年計画は長過ぎるという懸念の声があった。

そこで、私は熊本「こむらさき」ラーメン屋のスープの話をした。このラーメン屋はスープが美味しいので評判で

時間をかけて人材作り

深堀秀市

自分との出会い、キリストとの出会い、キリスト共同体との出会いの3部からなっていて、これは人間性を持つ自分をよく見つめながら、神との交わりを序々に深めていくというすばらしい講座である。

一方他の国の信徒養成の計画は3日―5日のハードスケジュールで、とり、豚、牛の3種の骨を毎日10時間も煮るというのである。

味のある人材を作るのに5年かけるのは当然であることを力説した。各国からの分科会のメンバーの人たちはこの私たちの計画を納得し、暖かく受けいれてくれた。

夏季講習は7月4日に終った。共同生活の中で、共に苦しみ楽しみを分ち合った79名の受講生たちが、二度と会うことのない別れを惜しみながら、みことばを伝える神の民として、それぞれの自国へと散って行った姿は私の生涯忘れることのできない思い出である。

（武蔵ケ丘教会）

みちくさ

司祭の異動に関する一信徒の憤りの手紙が編集部に寄せられた。立派な司祭を取り去られた驚きと戸惑いがひしひしと伝わってくるが筆者は公的に釈明する立場にないので、極めて私的なご返事としたい▼私はこれまで五回の転任を経験していますが、いつの頃からか私の司祭生活は「待ちの姿勢」に変わってきました。司祭館も小さな人々と司祭の館から自分の館になりました。信徒も司祭を人々の中にではなく司祭館に探しにくるようになり、しかも自分たちと司祭の関係がうまくいくことが最優先課題となりました▼こんなことですから正直いって年とともに、転任がおっくうになってきます。もちろん自分の理想を小教区で実現させたいと奮闘しているさ中での転任はつらいことです。手掛けたものが中途半端で他の方に迷惑を及ぼすときやさまざまな誤解を受けているときはなおさらのことです。幼稚園の園長ともなると社会的責任もあります▼とはいえ私は基本的には、長上は祈りの中で人事を決定したものとして受けとめ、まわりの思惑とは別に、神さまは新しい任地で私に何を望んでおられるかを考えることにしています。その地で全力投球しながらも、いつでもどこへでもキリストによって新たに派遣されるための心と身の回りの準備は怠らないように気をつけています▼ただいつも気になることは主任司祭が変わる度に小教区のあり様が全く違ってしまう信徒の戸惑いです。教区として、各小教区共同体のために今、どのようなタイプの、あるいはカリスマをもった司祭を派遣すべきかという宣教のビジョンが必要でしょう▼単なる穴埋めにコマを動かす場あたり的な人事でないように願っています。なぜこの小教区に、この仕事のためにこの司祭を起用するのか、その司祭に何を期待するのか。人事に関わる方々のご苦労は尽きないようです。

教区の小神学校をもり立てよう

福岡教区長　平田三郎司教

福岡小神学校の現状

今年の三月には四名の新司祭が誕生し、教区はこのお恵みを感謝し喜び合いました。神は、おん子キリストの救いの業を続けていくために、必要な牧者を選び教会に送ってくださいます。この選びを確認し、最高の牧者であるキリストの姿にあやかるよう教え導くところが神学校です。

さて神学生が祭壇にのぼるまでには、大神学校で八年、小神学校を通ると六年、合わせて十四年の長い年月がかかり、それに伴う大きな経費が必要です。神のお恵みと教区民の自覚によってこの養成が今日まで続けられてきたことを感謝しています。

しかし、昨今、心配になってきたのは、小神学校の現状です。数年前までは三十人前後の神学生がいましたが、今では七名になり、今年の三月には一人の入学生もいませんでした。来年の三月はどうなるか心配でなりません。養成のためには長い年月を要するだけに、司祭の老齢化や、宣教師派遣の減少などで、司祭の不足を感じだした時点であわてても、もう遅すぎるのです。打つべき手は打つべき時にうたねばなりません。飼い主のいない羊が、ばらばらで、ぐったりした状態に放置されることは許されないからです。

公立中学への道を開く

ところで、福岡の小神学校はどうしてこうなったのか、七名の司祭とふたりの信徒からなる小神学校委員会を設けて原因を検討しました。神学校が青少年の魅力のもととなり魅力ある司祭像を彼らの中に育てていくためには、立派な教育者が必要であると共に、神学生の家庭、小教区、教区が一丸となって、教区の将来の希望である神学校を大切にし、神学校と神学生のために祈り、暖かい援助を送る姿勢が必要であります。第二バチカン公会議もいっているように、召し出しの責任は、司教、司祭にだけあるのではなく、神の民全体の問題であるので人まかせではなく、お召しがあるなら、自分の家庭から司祭が出るように、祈る家庭をつくっていかねばなりません。

小神学生の減少のもう一つの理由には神学生が通う泰星中学があるかもしれません。三年前に併設されたこの中学校には十一名もの司祭が指導にあたり、宗教教育をも充実し、世の評価も高くなっていますので、地方の教会の子供はとても入れないといった、ためらいやあきらめがあるのではないかと思います。しかし、将来、信仰共同体や一般社会のリーダーとなって宣教司牧に当る神学生は同年輩の青少年と同じチャレンジの精神を持つべきでしょう。昔と違って、今の高校生の30数パーセントは、競って大学に入学するため努力しているからです。中以上の成績であれば入れない泰星ではないので入学に挑戦してもらいたいと思います。しかし、事情によっては、従来のように、市立平尾中学への道も開かれます。

父母と主任司祭の任務

小神学校入学に際して、重い責任を負うのは本人はもちろん、父母と主任司祭です。将来司祭となるために必要な知的、性格的適性があるかどうかを見分け、判断するのはこの両者です。適性を持つよう教え導くのもこの両者の任務です。適性を持つ多くの神学生の入学を皆で祈りながら待ちたいものです。

お別れにあたって

J・マルセル神父



伊万里のトラピストで働いた7年間、教区の信徒の皆様をはじめ、神父様、シスター、そして神学生の方方に親しくお会いする恵みを頂きましたことを、神に感謝いたします。

修道院で、また司教様を囲んで、みことばを分かち合い皆様と兄弟的な関係を結ぶよろこびを頂きました。教区の一員として、司教様のお望みに従って、この福岡教区が一つの家族として、よろこびに満ちた集りとなるように、心を尽くしたいと考え務めて参りました。しかし私のこの任期の間に、お役に立つようなことはできませんでした。かえっていろいろな形でお近づきになれた皆様から、信頼をお寄せ頂き感謝でした。個人的にも助けとなりました。ありがとうございました。

今度、宮古島の修道院付で行く事になりました。福岡から離れることになりますが、神様のみ旨であることをみとめて、距離を越えるキリストの愛のうちに、皆様のことを思いおこしつつ、お祈りいたします。

いつか機会があって宮古島においでになるようなことがありましたら、よろこんでお迎えします。

（トラピスト会士）

マリア様に抱かれた牧師先生

【特別寄稿】

鵜野泰年

数年前、親しかった聖公会の牧師先生が亡くなられました。まだ45歳の若さでした。友人の司祭にガンであることを告げられた後、彼は私にお別れの手紙を下さいました。

それは実に感動的な聖なる手紙でした。「私は、今、はじめて、苦しみの何たるかがわかりました。なにもわかっていなかったのに、わかっていると思い込み、みなさまを指導してきたことを深く恥じています。でも、ふりかえってみると、すべては大きな恵みでした。これからは、残された時間を大切に生きたいと思います。」あれほど元気だった先生が、あと半年か一年の生命しかないだろうと聞いたのです。

私は先生にマリア様のお恵みが与えられないものかなと思いながら、ルルドの水を懐にしのばせて、お見舞いに出かけたのです。でも常識もあり教養もあるこの先生に、どう説明してこの水を飲ませることが出来ようか。迷信じみた行為と思われたらどうしよう。飲ませることが出来なければ、せめて聖水として、注ぐこと位出来ないだろうか、など思いめぐらしながら病室に入りました。

ところが、私の心配は全く無用でした。先生の方からルルドの話が出て来たのです。「ルルドの水もゲルマニウムを多量に含んでいるそうですね。だからよく病気が治るらしい」「えーっ」私はとび上るほどに驚きました。「先生私は今ルルドの水をもっています。よろしかったら差し上げましょうか」。

先生は私の差し出した水を自分のコップに受けてうやうやしくいただかれました。私もいつものようにストラを首にかけ、マリア様のはからいを感謝しながら、病人に祝福を与えて帰りました。一九五七年5月24日のことでした。

それから数カ月たって、私は再度病院を訪れました。もしかしてこれでお別れになるかも知れないと思い、マリア像をもっていくことにしました。臨終の時は必ず守ると約束されたマリア様に信頼して、この先生をゆだねるつもりでした。



容体はずい分悪くなったとみえて、面会謝絶の札がかかっていました。私はそれを無視して入りました。奥様が一人で枕辺で祈っておられました。私も一緒に祈らせていただきました。私は持って来たマリア像を忘れてはならないということを私は神学生の頃から信じていました。

直方の小さな町で一人の聖公会の司祭と、一人のカトリック司祭がマリア様を通して一つの心に結ばれたのです。

先生がルルドの水を飲まれたその二日後、英国で歴史的事件が起こっていたことをカトリック新聞で知りました。すなわちローマのパパ様と、カンタベリー大主教が四百年ぶりに歴史的会合を行ったと。あらゆる過去をのりこえて、二人が抱擁した姿を世界中の人々がよろこび歓迎したということです。

小さな田舎町に起こった出来事、マリア様に抱かれて天国に行った一人の牧師の姿の中に私は人知を越えたマリア様の大きなはからいを感じるのです。（写真は、ご像製作中の大楠教会主任鵜野神父）

ルルドのマリア像をとり出し「奥様、このマリア様は私が心をこめて先生のために祈りながら作ったものです。受け取っていただけますか」と遠慮がちに差し出すと、奥様は大変よろこんで受け取って下さいました。そして、しずかにマリア様のご像をご主人の方に向けられました。いとまをつげ、立ち去ろうとした時、意識がないと思っていた先生が、目をぱっちりあけて「ありがとう」と立ち上ろうとなさったのが瞳に焼きついています。その一週間あとに亡くなられました。

葬儀のとき、聖公会の司祭が、先生の偉業を賛え病気中の先生の忍耐をほめられた中で、ある日突然痛みがなくなり奇跡的な恵みをうけられたことを付け加えられました。献花をすませて御遺族にあいさつした時、奥様が私をひきとめ涙にぬれた顔で「神父様ありがとうございました。神父様から、マリア様を頂いたマリア様を抱いて祈っていました」私の胸に強い感動が走りました。何かが起こった。

『奇跡』とは一体何だったのだろう。もしかして、マリア様の姿を見られたのではないだろうか。彼がマリア像を抱いたその時逆にマリア様に抱かれたのだ。きっとそうだ。聖公会の司祭が、いまわの際にマリア様に抱きとめられたのだ。とそう思いました。

私は神学校時代に、マリア様の信心の大切さを教わったことを思い出しました。「司祭生活を全うしようと思うならば、マリア様を忘れてはなりません。マリア様を忘れたら、信仰さえもくずれてしまいます。それは歴史が証明しています。すべての異端と離教が、みなマリア様から離れているのをみればわかるでしょう」。歴史的にたもとを分かってしまったカトリックとプロテスタントがいつの日にか一つになるとすれば、そこに必ずマリア様の手が加わることを私は神学生の頃から信じていました。

直方の小さな町で一人の聖公会の司祭と、一人のカトリック司祭がマリア様を通して一つの心に結ばれたのです。

先生がルルドの水を飲まれたその二日後、英国で歴史的事件が起こっていたことをカトリック新聞で知りました。すなわちローマのパパ様と、カンタベリー大主教が四百

お父さんのるす中

福岡・茶山教会
小五　土田陽子

お父さんが去年の8月末中国へ10カ月のたびへ出かけてからは、お母さん、お兄ちゃん、二人のお姉ちゃん、私の5人でごミサにあずかるようになりました。

お父さんを見送った日の夕の祈りの時に、神様にお父さんが、元気で帰ってこれるように、願いをしました。そのかわりに、私は大好きなテレビやゲームの時間をへらして、お母さんの手伝いをすることを約束しました。

ごミサの時は、いつもお父さんを見まもっていてくれますようにと、神様にお願いしました。でも、毎晩そろってのお祈りは、お兄ちゃん達のじゅくやテレビを見ていたために、家ぞくがそろいにくくなって、続かなくなってしまいました。心のすみには、お祈りをしないといけないと思っていたけど、楽な方へ気持がいってしまいました。

お父さんからくる手紙には、教会へ行けなかったこと、やっと行けたことなどが書いてあり、そのほかには、中国のようすや、はげましてくれる言葉が書いてありました。手紙が毎日来ていたので、遠くにいるお父さんが、近くにいるようで、あまりさみしくありませんでした。私も、ときどき手紙を出して、返事がくるのをたのしみにしていました。

練成会に参加して…

福岡・老司教会
高三　許斐香代

8月2日から4日にかけて、約25人前後の高校生が参加して行われました。

山内・川上神父様、森山・今田神学生のご指導のもとで「君にとって生きがいとは何か」というテーマについて、いろんな事を考えさせられた三日間でした。

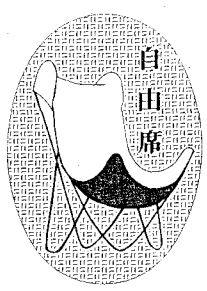
一日目の櫻井神父様の講演は、私にはよくわからないことが多かったけど、一つわかったことは、生きがいとは、たやすく見つけられるものではない、ということでした。

二日目の講演で、井野崎千代子さんのお話を聞き、信者としての深さ、神様への愛の姿、心が素直に全身からあふれているようで、すごく感動し、そして私の神様への愛はすごく都合がいいことに気付きました。

一緒に食事したり、レクレーション、おしゃべりなどをする中で、みんなとの出会いが一番うれしかったです。食事の支度をしてくださった三人のシスターに、感謝しています。全てのことが神様の私達への愛なのだと、今、実感しています。そして、また、こうして楽しい日々を過ごせたのは、神父様、神学生、シスター、友達、誰もが、愛をもっていたからだと思います。

この三日間、短かったけれど、たくさんのお恵みを受け、たくさんの愛を知りよかったと思います。

すばらしい練成会を、ありがとうございました。



神父様、お元気で!!

北九州CYG
リーダー一同

わが北九州カトリック・ヤング・ガール（略称CYG）を創り、育ててくださったA・ベルトラン神父様が15年間の足跡を残され、熊本の健軍教会に赴任なさいました。

この間、霊的指導司祭として水巻教会のM・ラバルタ神父様と共に、ひたすら会の発展のためにご尽力くださいました。

子供達を心から愛し常にリーダー達と共に、何事も楽しみながら一生懸命して下さった思い出の一コマ一コマは、私達の心のカメラにしっかり写して、決して忘れる事はないでしょう。

OGリーダーの養成には特に力を入れられ、今、次次と巣立ち活躍中です。これからも、更に充実した会にするため、一同力を合わせて頑張ります。長い間お世話下さり、ありがとうございました。

神父様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

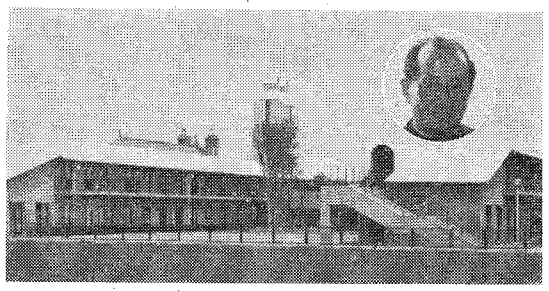
全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24—14　嶋井ビル2F
TEL　福岡（092）471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州（093）671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

老人の歩調で一緒に歩む

今村聖母園が移転・新築



社会福祉法人「希望の丘」が経営する養護老人ホーム、特別養護老人ホーム「聖母園」（園長糸永一神父）の移転、新築落成式が、8月22日に平田三郎司教、他多数の来賓と参列者を迎えて行われた。

「聖母園」は、昭和21年、久留米カトリック教会が戦後の老人、児童収容施設としていちはやく福祉にのり出し、「久留米聖母園」として発足したものである。

その後、昭和41年久留米より三井郡大刀洗町に移転し、〝今村聖母園〟と改名。

以後20年、建物の老化と共に、高齢化社会の急速な到来の中で、地域社会のニーズに応えるための施設としては手狭になった。

そこで、老人ホームの理想を求めて、日本ではじめて養護老人ホームに特別養護老人ホームを併設したユニークな老人ホームとして新築されたものである。

平田司教は、あいさつの中で、「老人ホームの施設はふえ、近代的になっているが、能率、経済主義におされている今日、暖かいケアがもっとも求められている。単なる延命ではなく、人間の生命、その中に宿っている人格を大切にしなければならない。

人格の重みは、幼児であっても、老人、学者でも、いささかもかわることがない。特に、先行き短いと考えている老人たちの介護にあたっては、介護する人たちが老人の先ばしりをすることなく、老人の歩調で最後まで共に歩いていってほしい。老人の命に仕え、奉仕する者であってほしい」と述べた。

参列者は、熱意をこめて命の尊さを力強く語る平田司教の言葉の重みをかみしめていた。

式の終わりには、在園者と職員で構成される「すみれ楽団」が園長・糸永一神父の指揮でニニロッソの「夜空のトランペット」や「荒城の月」を演奏。平均年齢76歳とは思えない迫力ある演奏だった。

司牧者は裁き人でなく 愛と慈しみを生きる人に

（山元神父会報告 真朝帰）



9月8日（月）、今年三月にローマでの教会法の研究から帰国した山元真神父（現小倉教会助任）の帰朝報告会が司教館5階の会議室で行われた。

この報告会は、青少年担当司祭団の企画によるもので、当日は平田司教をはじめ、15名の司祭たちが出席した。

報告では、山元神父の5年間にわたるイタリア、アメリカ、カナダ、フランスでの留学体験を中心に、修士論文の「司祭の人事異動」についても話しが及んだ。

山元神父は報告の中で、「まず、5年間の留学期間中ずっと霊的にも物的にも支えていただいた司教様、神父様方、教区民の皆さんに感謝致します」という御礼の言葉をのべた。

語学修得の困難さの中で、滞日宣教師たちの御苦労を少しは理解できるようになったこと、日本人は世界の人々に目を向けるゆとりがもっとほしいこと、韓国人司祭の中に残っていた反日感情に驚いたことなど、カルチャーショックの一端ものぞかせた。

また、カトリック教会の中に今だに色濃く残る聖職者主義について、福音の精神からはずれているのではないかと感じたこと、このことが「今最も教会を必要としている人たちに開かれた教会となること」を妨げているのではと語った。

さらに、専門の教会法の研究で感じたこととして、教会法によってたとえ答えがわかっていても、そこにいたるまでに「司牧者は当事者と共に悩み、痛む必要がある」と強調した。

日本の教会の在り方については、組織化それ自体はいいことであっても、その中に入りきれない人の痛みを感じとる心の広さや、そこからもれる人々がないように細心の注意を払うべきであると、組織化の先進国でもあるアメリカの教会を例にとりながら、もし組織化によって信徒と司牧者の距離が遠くなってしまったら、それは本末転倒であると語った。

報告会は、質疑応答なども含めて、和やかに午後四時に終了した。

おげんきですか

村岡久義神父様（大分司教館）



私は、昭和27年浄水通教会で深堀仙右衛門司教様から、山田師・青木功師と共に、司祭に叙階され、以後10年間、今村・大牟田・本郷の三教会に勤め、平田司教様が大分教区着任と同時に大分教区に来ました。

福岡教区で働いた期間は司祭生活の駆け出しの10年でした。今村の子供たちの司牧や大牟田での求道者の要理研究、そして本郷の青年たちとの活動などは、貴重な体験でした。その間、先輩の神父様方を始め、多くの方々から寄せられた善意には、深く感謝しています。

終わりの7年間は、本郷教会で働きましたが、赴任当時の印象は強く残っています。

当時は、聖堂落成直後で、まだ司祭館はなく、昼は聖堂香部屋が居室、食事は信者家庭から当番で日替り弁当、日暮れを待って野外行水、夜は聖堂二階席の米軍野戦用簡易ベッドで寝ました。

信者さんたちは、みんな協力一致して共同体づくりに熱心でした。

あの頃、深堀司教様からいただいた「昔の宣教師たちを見習いなさい」とのお諭しは、いまも心に銘じております。

現在は、6年前から病気と付き合いながら、少しずつ、司牧の手伝いをしているこの頃です。

踊りの輪は親睦の輪となって

行橋市・新田原教会

行橋市新田原教会（主任司祭平田正喜師）の納涼大会は、東徳永地区との共催で8月14日、午後7時から教会前広場に約1000名の入場者を迎えて、盛大に行われた。

カラオケで開幕した大会は、聴集の人気を集め、玄人（くろうと）はだしの歌手がつぎつぎに登場。美声を披露して会場から盛んな拍手が送られた。

続いて盆踊り。浴衣（ゆかた）姿もあでやかに、花の会、地元婦人会の踊りの輪。ムードにのって大きくひろがる親睦の輪。共同体の一致を見せて和気あいあいの盆踊りとなった。

また、キャンプファイヤーを囲んで子供会と共演のフォークダンス。親子のふれあいに観衆から拍手の波。

夏の夜空を焦がす打ち上げ花火は、色とりどりに夜空を染めて見事。観客からもれる感嘆の声もしきり。

夏の風物詩、カトリック新田原教会の「納涼大会」は成功裡に終了した。

（新田原教会総務）

金銭的援助より精神的な支えを

フィリピンから講師を招いて座談会

「今こそ、フィリピンの人々と手をつなごう」と、アジア問題支援グループのよびかけで、フィリピンから大学講師のフェリー・ソレダさんと農民活動家のジョージ・パグリナアン氏を迎えて、8月29日、カテドラル・センターで交流、座談会が行われた。

集いには、熊本や福岡などでフィリピン問題と取り組むカトリック、プロテスタント、仏教の人たちが約70名参加。フィリピンの現状報告と活発な質疑応答がなされた。

パグリナアン氏は、「フィリピン人の自立のためには、金銭的援助より精神的な支えが必要だ。日本で私たちのためにいろんな活動をしていらっしゃることを知ることができて、とても勇気づけられた」と来日の喜びを語っていた。

松井忠之神父 小神学校着任



福岡小神学校のスタッフの充実が急務となっていたが、松井忠之神父（行橋教会主任）が9月1日任命され着任した。

師は以前にも二年間小神学校で奉仕している。

今後は、小教区での宣教・司牧体験が、将来、宣教の第一線で働く若者の養成の場でもある小神学校で十分に生かされるよう期待されている。

櫻井尚明神父 ローマ留学の途に

今春、司祭に叙階された櫻井尚明師（佐賀教会出身聖スルピス会）は、9月6日カナダ、ローマ留学のため「精一杯がんばってきます」との静かなファイトをみせて旅立った。

カトリック・アクション

日本カトリック ガールスカウト

ガールスカウト運動は、ボーイスカウトの創始者ベーデン・ポウエルが少女たちの熱心な希望に応えて一九一〇年に始められました。その後、夫人オレブ・ベーデン・ポウエルの献身により、世界各地に広がり、今では一〇八カ国が加盟しています。

日本では、一九四九年にガールスカウト日本連盟が設立され、現在は少女会員数六万八千人、成人会員も合わせると、約十万人の会員が活動しています。

「人は神を信じ、神を敬うこと、隣人を尊ぶこと、そして自分自身をも神のしもべとして尊重すること」とあるように、少女たちが精神的、道徳的価値を尊びすすんで奉仕し責任ある市民として、人々の平和と幸福につくすことができる人に育つよう、自ら学ぶことを目的としています。

福音宣教が叫ばれている今、福音の良き知らせを、少女たち一人ひとりの心に伝えていき、神のみ旨にかなう婦人になってほしいと、願っています。

ユニセフ募金、年末助け合い募金、老人ホーム奉仕、身体障害者との交わり、自然の中に神の恵みをあじわうキャンプなど、神への愛と隣人への愛を実践を通して、少女たちに体験学習させています。

福岡教区内では、行橋教会の福岡二団と高宮教会の福岡二十五団が活動しています。

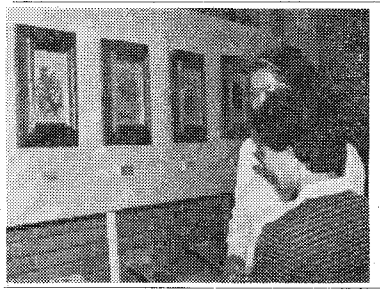
連絡先 ☎092(541-6478) 鬼木久美

原画展開催

書籍・視聴覚教材フェア

女子パウロ会の書籍、視聴覚教材の展示と、月刊誌『あけぼの』の表紙や詩画集、絵本の原画展が、9月14、15日福岡カテドラル・センターのロビーで開かれた。

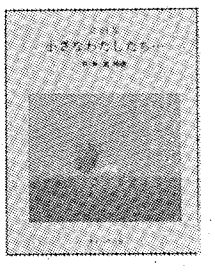
『あけぼの』の表紙を12年描き続けているシスター・矢野の来福もあり、愛読者との交歓風景がみられた。一般市民も会場を訪れ、美しい原画や作品にみいっていた。



BOOK 読みま専科

美しい小さな本〝詩画集〟

☆小さなわたしたち
葉祥明・詩・絵



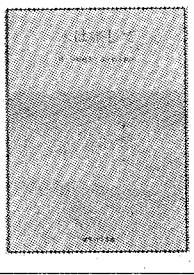
春・夏・秋・冬・そして朝も夜も広い野原に立つ一本の木。木をとりまく世界の不思議は、神によって生かされているわたしの姿。

☆花のように
永田萠・詩・絵



喜びを伝えるたんぽぽ、母の思い出につながることでまりの花……。さまざまな花に託した思い出が、花束となってあなたの心に贈られます。

☆水は旅して
松永禎郎・絵
戸田健夫・詩



降りつもった雪が、静かに流れ出し、せせらぎとなり、早瀬を走り、いのちを育み、輝かせる。旅する水のいのちをうたう。

女子パウロ会
各 五〇〇円
お求めは、パウロ書院で！
（定休日・毎週水曜日）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（十月）

2日　小神学校委員会
10日　援助修道会50周年ミサ
13～18日　教区司祭黙想会
22日　聖書実行委員会(東京)
23日　オルガン・コンサート（福岡カテドラル）
26日　皿山カトリックファミリーセンター祝別式
（十一月）
2日　教区墓地ミサ（大橋）
3日　召命の集い(大神学院)

福岡黙想の家

5～10日　聖コロンバン会司祭黙想会
13～18日　教区司祭黙想会
19日　大神学院司祭の静修
19～25日　サレジオ会司祭黙想会
25～26日　雙葉学園中学生黙想会
27～31日　聖アウグスチノ会研修会

召命の集い

テーマ　〝呼ばれています　いつも〟
日時　11月3日（月）9時30分集合～15時解散
対象　小学生高学年、中学生、高校生
場所　福岡サン・スルピス大神学院
問い合わせ　召命の集い準備委員会　☎092―864―4203

二泊三日　青年練成会募集（ヤング・エンカウンター）

テーマ　出会いを通して、新しい生き方へ。
日時　11月1日（土）午後7時～3日（祭日）午後6時
場所　福岡・黙想の家　092―871―7108
対象　未婚の青年男女（20歳以上）。信者・未信者を問いません。
世話人　寺崎正雄（箱崎）　深堀純・邦枝
※詳細は右記へお電話をください。

聖書週間の催し

聖書週間（11月16日～23日）にちなんで、福岡カテドラル・センター（福岡市大名町）では下記の催しがおこなわれます。多数のご来場をお待ち申し上げます。

※聖書展
11月16日（日）午前9時～16時

※講演会
11月16日（日）午前10時30分
講師　高見三明師（サン・スルピス大神学院）

皿山ファミリーセンター落成式

10月26日（日）12時より、落成ミサが行われます。皆さまのおいでをお待ちしています。
所長　S・ライル神父

墓地委員会からお知らせ

教区墓地清掃日
10月19日（日）13時30分～16時（雨天の場合は26日）
ミサ　11月2日（日）14時
主式　平田三郎司教

'86 CLC九州大会

日時　11月1日（土）午後5時～3日（月）午後1時まで
場所　鹿児島・「サンピアあいら」
テーマ　「それでも宣教」
参加費　一般　一二〇〇〇円　学生　一一〇〇〇円
問い合わせ先　追立　清徳　鹿児島市上福元町一一四四　0992―69―1695

福岡地区婦人会主催　長崎県出津巡礼

日時　10月28日（火）7時15分～19時
場所　長崎県外海町出津教会、ド ロ記念館他
対象　一般
参加費　三、八〇〇円
申込み　各教会婦人会
※定員（一〇〇名）になり次第しめ切らせていただきます
問い合わせ　092―541―6478（鬼木）

いぶき

一般信徒の霊性

山内清海

徒パウロは、「あなたがたが聖なるものとなること、これが神のお望みです」（テサロニケ4・3）と言明しています。

聖性、ないし完徳への努力は、聖職位階に属する者に独特の義務で、一般信徒には全く関係のないことだと考えている人が、決して少なくはありません。しかし、これは大きな間違いです。

父と聖霊とともに聖なるキリストは、教会をご自分の花嫁として愛し、教会を聖とするためにご自分を十字架上の死に渡され（エフエゾ5・25―26）ご自分の体として自らに結び合わせ、聖霊のたまものをもって満たされました。だからキリストの教会に属するすべての人は、聖職位階に属しているか否かに関わらず、一人の例外もなく聖性に招かれているのです。使徒パウロは、「あなたがたが聖なるものとなること、これが神のお望みです」（テサロニケ4・3）と言明しています。

勿論、自己を聖化することは、自分の業によってではなく、神の計画と恩恵によって実現され、特に洗礼によって神の子となり、神の本性に与かるものとされ、聖なるものとなることは明らかです。しかしそのためには、わたしたち一人一人が、自分独特の職務と環境において、神に召され、愛された者に相応しく生きることによって、聖性の霊的実りを結ばなければならないのです。ここに、それぞれの社会的身分や生活条件の相違に応じた固有の霊性が必要になり、その意味で、一般信徒の霊性も求められるわけです。

では、一般信徒の霊性とは何でしょうか。答えは、今までの考察のなかに、すでに出ていると言えます。すなわち各々に課せられている職務、各々がおかれている身分と境遇のなかに、聖性への道を見出さなければならないということになります。

たとえば、結婚生活をおくっている信徒は、恩恵の助けによる、忠実な愛と助け合いによって、貧しさや弱さ、更に病苦や種々の困苦に悩んでいる人々、或いはキリストのみことばの通り、義のためにいろいろの迫害に耐えている人々は、その苦しみや試練に対する愛を実践し、証しするとともに、聖家族にならった聖なる家庭のなかで、神から預けられた子供たちを、たとえどれほどの困難があっても、神の子に相応しく育て上げなければなりません。

信徒はまた、日々の労働を、ただ生活の糧を得るために必要な義務とだけ考えず、更にそこに、自己聖化への貴重な道を見出すべきです。そのためにかれらは、労働のうちに、かつて貧しい大工の手に、自己聖化の道を確認し、キリストの栄光への招き、即ちわたしたち自身の聖性の実現に努力しなければなりません。

このように、すべての信徒は、自分固有の生活様式や職務、そして各々がおかれている社会的環境のうちに、自己聖化の道を確認し、キリストの栄光への招き、即ちわたしたち自身の聖性の実現に努力しなければなりません。

このように考えると、キリストの教会に属しているすべての信徒は、自分固有の生活様式や職務、そして各々がおかれている社会的環境のうちに、自己聖化の道を確認し、キリストの栄光への招き、即ちわたしたち自身の聖性の実現に努力しなければなりません。

このように考えると、キリストの教会に属しているすべての信徒は、この召命への道を、自分の身分や職務、また現に遭遇している具体的な情況以外に探し求めるべきではないことが明らかになります。

わたしたちを聖化する道は、最も身近なところにあるのです。この機会に、自分自身の生き方を謙虚に反省し、キリストの聖性への招きに応えうるよう努力しましょう。

（サン・スルピス大神学院教授）

献金報告

聖ペトロの献金
一、六八六、〇〇八円
福音宣教行事特別献金
一、二三九、一七九円

十　マリア・高見チク（大神学院教授、高見三明神父の母堂）は9月8日に帰天された。76歳。

聞く耳をもたなければ

山元真神父の
留学体験記（完）

メキシコ行きの飛行機の中で。となりに座った婦人が私に話しかけたくてウズウズしている。疲れ切っていた私は、ダンマリを決め込んでいた。

トロントを発って30分。「日本人の方ですか」会話が始まるいつものパターン。「何をされてるんですか」次には決まってこう聞いてくる。「カトリックの神父をやっています」私もいつものように答える。自己紹介もなしに話が進んでいく。「教会法の勉強って、何をするのですか」「いろいろあるけど、特に結婚の問題を扱います」というと、彼女は急に真剣な顔になって言った。「じつは、私は離婚していて、今は息子と暮らしています。カトリックは離婚はゆるされないのでしょう？私はカトリックではないけど、神父様が結婚問題を勉強されたのなら、離婚したり結婚問題で悩んでいる人の『ナマの声』を是非聞いて欲しいわ。机の上の勉強だけじゃなくて」そういうと、彼女は自分の過去を話し始めた。結婚した当初のこと。その時の気持ちとその後の感情の変化。家庭の問題。夫のこととなど。どうしようもない現実。離婚以外に解決の道はなかった。そのことに後悔してはいない。その責任は自分がとらなければならないこと。などなど。彼女の話を受け止めながら、イエズスの心について語る。

グラスで乗り換えるために別れた。別れしなに「神父様、あなたは人を愛したことがおありですね」「ええ。人を愛するのが神父の仕事ですから」と微笑むと彼女も美しく微笑んでくれた。今教会に一番必要なのは、聴く耳を持つことではなかろうか。

（小倉教会）

編集室から

10月はロザリオの月です。鵜野神父様に体験記を書いていただきました。神父様は司祭館の隣にご像の製作所を設けて、各種のご像を精魂込めて作っておられます。好評を博した山元真神父様の「留学体験記」は今号で完結です。またいつか紙上で読者の皆さまとお会いできることを楽しみにしてますとのことです。（W）

バザー

10月19日　福岡市高宮教会
10月26日　北九州市黒崎教会　福岡市大楠教会　佐賀市佐賀教会　福岡県志免教会

カルロ・カーリー オルガン演奏会

11月9日
日時　10月23日(木)18時30分
場所　福岡カテドラル
入場料　四千円
主催　教区会員券三千五百円　カトリック福岡司教区

のときのことのは

僕は日本の山河を魂として
君の後を生きてゆく。
川端康成

これは昭和二十三年一月三日横光利一弔辞の末尾のことばである。

「横光君、ここに君とも、まことに君とも、生と死とに別れる時に遭った。君を敬慕し、哀惜する人々は、君のなきがらを前にして、僕に長生きせよと言う。これも君が情愛の声と僕の骨に沁みる。国破れてこのかた一入木枯にさらされる僕の骨は、君という支えさへ奪はれて、寒天に砕けるやうである。（中略）君の名に傍へて僕の呼ばれる習はしも、かへりみすればすでに二十五年を越えた。」

この稀代の名弔辞とノーベル賞受賞の際の講演「美しい日本の私」を読め ば、かずかずの名作を残した文豪の本質は、大体伺えるような気がする。

（森山敬三）



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

あなたたちは行って
すべての国の人々を
弟子にしなさい
（マタイ28・19）
八王寺　デシャンブ神父

沈黙は言葉の母胎

福音は小さき者が優先される世界

奥村一郎神父（カルメル会）の指導で
教区邦人司祭黙想会



教区邦人司祭の黙想会が10月13日から18日まで、福岡黙想の家で行われ、指導司祭にカルメル会の奥村一郎神父を迎え、平田司教はじめ、22名の司祭たちが参加した。奥村神父は仏教にも造詣が深く、日本的霊性の探求者としても著名な方である。「祈りは、私たちの信仰生活の成長を竹にたとえるなら、いわば節のようなものであり、真理の反すうである」と黙想の意義を確認し、「現代人の多くは静寂に耐えられないといわれているが、真に有音を理解するためには、無音の世界を知る必要があり、多忙な生活の中にキリストを見出していくためにも、沈黙は有用である」と強調。さらに「沈黙は言葉の母胎である」が、その沈黙が豊かなものとなるためには愛がともなっていなければならないと指摘した。



「福音宣教」については、宣教者は上から下への発想ではなく、自らも救われるべき者であることを忘れてはならず、そういった意味で人々と共にあることを忘れてはならない、このような視点から日本の文化との対話が必要であると語った。

アジア司教総会に参加して

教区長　平田三郎司教

地球の人口の半分以上を占めるアジア住民の宣教に当たる司教団は、宣教の連帯性を強め、共同の責任を果たすため、16年前にアジア司教協議会連盟（FABC）を組織し、様々な分野で活動しています。

総会は四年ごとに開かれますが、去る9月17日から24日まで、第4回総会が東京の大神学院で開催されました。今回のテーマは「アジアの世界と教会における信徒の召命と使命」で、これは同じテーマを掲げて来年の暮に開かれる世界司教代表者会議（シノドス）に、アジア司教団として備えるものであり、来年の11月に京都で開催される「福音宣教推進全国会議」の内容とも関連しています。

総会には17カ国から約80名の大司教と司教、50名の信徒代表が出席しましたが、日本からは司教のほか、信徒使徒職の各分野で活躍している17名の信徒も参加し、教会と世における聖職者と信徒の地位と役割について話し合いました。

聖書はアジアの教会の宣教の土台

アジア地区信徒の生の声を聞いて感じたことは、各地域の社会的、文化的、宗教的、経済的、政治的背景がさまざまで、植民地時代に外から負わされた環境にあっても、各地で固有の伝統的なものを保ち、発展させるために困難な諸問題を抱えていることでした。多民族国家の中で、各々の民族が持っている異なった文化、宗教またとえばイスラム、ヒンズー、仏教の世界に住む、少数派のカトリック信徒がどのようにして自分の信仰を守り、宣教の使命を果たすか、日本では考えられない困難に会いながらも、アジアの教会は雄々しく活発に働いている姿を見て感動しました。

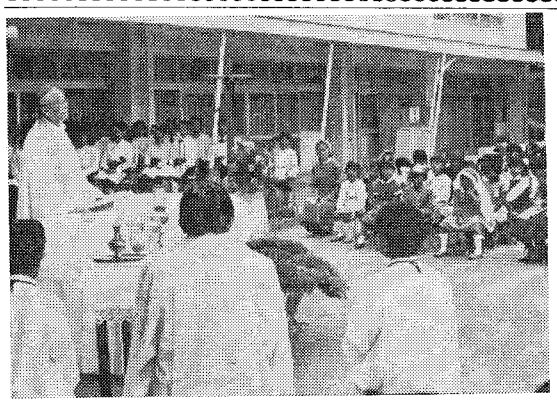
今日、アジアの諸宗教との対話は宣教の不可欠条件で、この対話を可能にするための信徒の養成の必要が異口同音に述べられました。さらにこの養成は、キリスト教の根源であり「救いの言葉」である聖書に親しみ「神の言葉」に生きることであると多くの代表者が語りました。そしてアジアの国々での宣教の実りはそこから出ているとの証言もありました。

11月の終わりの週間は、「聖書週間」です。個人、家庭、教会で「神の言葉」はどのように生かされ、宣教に結びついているか、反省の時でもあると思います。

地域の人々の協力に感謝

援助修道会創立50周年

北九州市・八幡西区の黒崎修道院



北九州市・八幡西区にある援助修道会・黒崎修道院（院長・渡辺かをる）の創立50周年と、聖ヨゼフ幼稚園（園長・渡辺満智子）の創立40周年の感謝のミサが、10月10日聖ヨゼフ幼稚園園庭で盛大に行われた。＝写真

福岡教区長・平田三郎司教司式のミサには、多数の来賓をはじめ、幼稚園の在園児、卒園児、父兄など六〇〇名を超える人たちが参列し、感謝と喜びを共にした。

援助修道会は、一八五六年フランス・パリで「練獄の霊魂のために祈り、苦しみ、働く」をモットーに「練獄援助修道会」として創立。

一九三六年、当時の福岡教区長・ブルトン司教の招きで八幡に創立され、その頃多かった貧しい病人の訪問や教会の子供たちの信仰教育などを手伝っていた。

現在は、老人ホーム聖ヨゼフの園と聖ヨゼフ幼稚園で奉仕活動をしている。

黒崎修道院院長・参加者のひとり青木悟神父（熊本・手取教会）は「司祭としてはじめて、教区の先輩の神父様方と共に黙想し、祈りの中で兄弟的交わりをもつことができたことを感謝しています。これからも共に苦労し、喜びを分かち合っていけたらと思います」と語っていた。

聖書は家庭から

指導者不足が悩み



灯火親しむ11月に、教会は聖書週間を迎える。最近は各教会、ミッションスクールの母の会、婦人会などで聖書研究会や分かち合いのグループが広がっている。

その中でも、仕事を持っている人にも参加できる夜の時間を利用したり、地区集会のように自宅を開放し近所の人と集まるグループが静かな広がりを見せているようだ。しかしこんな場合、計画する信徒にとって問題になるのが指導者不足である。自宅を開放し、夫婦で親子で集まっても、毎週は神父さまも来ていただけない、神父さまは忙がしいという声も聞かれる。研究会の広がりと共に、信徒のリーダー養成の機会が切望される。

（写真は、数家族合同の聖書の分かち合い風景・福岡市）

あなたとわたしの福音宣教



司祭に頼りすぎ?!

Sr. 杉本美佐子

「貧しい人、抑圧されている人に福音を宣べ伝える」。これは私共の創立者のモットーであり、生き方でした。

今、私にとって福音宣教とは、平和の使者になることのように思います。そのために、私がいつも、どこでも心を平和に保ち、キリストによって生かされている信仰の喜びをもって近い人々に奉仕することに宣教の召命を感じております。

私は最近、仏領ポリネシア諸島での宣教で、まだその土地のことばや風俗習慣もよく分からないうちに、土曜学校の小グループを受け持たされました。初日の挨拶で「ことばは不十分ですが、皆さんといっしょに遊べるのはうれしい……どうぞよろしく」といいました。すると、一人の子どもが「シスター、ことばは全然問題ないよ。シスターが私達といっしょにいてくれるのが最高です!!」と目を輝かせて語り、全員がこれに応えるように拍手して迎えてくれました。私は感動し、どんなに勇気づけられたことでしょう。宣教者は、どれだけ大きなことをしたかというよりも、人々の中で、人々と共に生きている存在そのものが、福音宣教になるということを思い知らされました。

また、この諸島で感じたこととして、首都タヒチ以外の島では、ミサは一年に二〜三回しか行われない現状です。それでも各島には立派な教会があり、信徒の中から、助祭、教会奉仕者、カテキスタが養成され、主日の礼拝と聖体授与、洗礼、結婚式、葬式などがよく施行され、信仰が日常生活の中に生きています。こういった現状を見ていると、（事情は異なるかもしれませんが）日本の場合は司祭不足とはいえ信徒が司祭に頼りすぎている感じです。要理教授や病人、家庭訪問はともかく、司祭が会計事務や事業までしなければならないなら、司祭不足は当然のことでしょう。司祭でなければ出来ないもの（ミサ、ゆるしの秘跡など）に徹していただきたいのです。

信徒や修道者も司牧面でもっと積極的に協力できる場があり、目覚める時期だと思います。

（天使の聖母宣教修道女会）

みちくさ

フィリピン人女性数名が近くのナイトクラブで働いていると聞き、会いにいった。「いらっしゃいませー」、くせのある発音で、すぐ彼女たちだとわかる。二カ月前に歌手としてきたという女の子と英語で話しはじめたら、彼女たちの身の上話になってきた▼まだこちらは職業を明かしていない。正面に坐っている中年の日本人ホステスが気になって、英語がわかるかどうか探ってみる。どうもだめらしい。そこで「実は私カトリックの神父です」と切り出して彼女に実情を聞く▼支給される食費が少ないために十分に食べることができないこと。給料が契約の半分しかもらえないこと。ダンサーとしてきたのにわいせつなショーや売春を強要され、良心の痛みを感じていることなどを涙ながらに話してくれた▼教会の地図を書いて電話番号を教えると、故国で聖母マリアに捧げていた祈りを今もしているといって小さな祈りの本を見せてくれた。帰り際に、他の女の子たちがファザー（神父さん）といってかけよってきて「祝福してください」という。複雑な思いで彼女たちを祝福して別れを告げた▼その数日後、彼女たちは救出された。しかしこの三カ月の日本滞在が彼女たちにどんな影響を与えるのか誰にもわからない。彼女たちのケースは氷山の一角、救出劇もトカゲのしっぽを切るようなものかもしれない▼だがこの問題とのかかわりは自分のうちにある業（ごう）の深さを浮き彫りにした。彼女たちにも責任の一端があるとの自己弁護。日本人は東南アジア人より勝れていると思う高慢さが心のどこかに潜んでいた▼今は静けさの中で、社会の変革（福音化）のためには自分は無力であるとわからせ、福音そのものの力に頼ることを教えてくださった神に感謝している。いつまでも小さな人々の痛みをキリストの痛み、自分の痛みとして感じとりたい。

聖アウグスチノ回心1600年に寄せて

ある罪人の回心　（前）

M・ヒルデン神父（笹丘教会・アウグスチノ会）



聖アウグスチノ
(354年～430年)

今年一九八六年は聖アウグスチノの回心千六百周年にあたります。

聖人となった罪人、共に詩編を唱える静かな修道者であると同時に、ヒッポの人々に奉仕した多忙な司教アウグスチノは、聖書の中のみことばを愛し、また孤独な人々、貧しい人々、彼と同じように道に迷った罪人の心に働くみことばを愛する人でした。

異教の世界で

聖アウグスチノは三五四年11月13日、現在アルジェリアのスーク・アラスとして知られるタガステの町に生まれました。

当時の北アフリカはローマ世界の異教文化が、殉教者の血を尊ぶキリスト教徒の模範的生活と、また北アフリカの地にカトリック教会を植えつけようとする彼らの長い闘いにより、徐々に変えられつつあるところでした。アウグスチノの母モニカは、このような熱心なクリスチャンのひとりでした。

一方父パトリキウスは、誇り高きローマ帝国の市民でした。典型的ローマ人として名声や尊敬、物質的繁栄および古代ローマ文明が切望したその他もろもろの肉体的快楽を楽しめるような社会的に力ある人間となるためには、キリスト教の倫理とイエズスの教えを、邪魔なものと見ていたようです。彼はようやく臨終の床において、自己を与え尽くすキリストの愛のメッセージに心を開き、洗礼の恵みによって神の子となりました。愛深く献身的な妻の、長年にわたる熱心な祈りに助けられてもたらされた恵みでした。

母の心

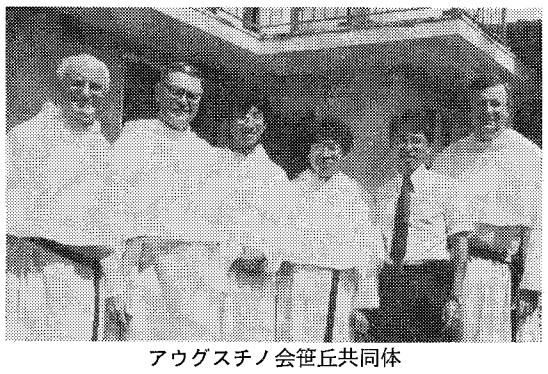
アウグスチノの時代のアフリカは、多くの点で今日の日本に似通っていたように思われます。小さな信者の群れが、自己犠牲的な愛の教えに無関心な物質主義的文化の中に、一生懸命根を張ろうとしている状態です。日本の信者の母親の多くが聖モニカのように敬虔忠実な生活を送りつつ、夫の回心のために長い祈りをささげ、さらに長時間、子供の倫理的宗教的成長に心を悩まし、彼らがキリストに従い、キリストの愛を勇気を持って証する大人に成長するように祈っているのです。

受洗への歩み

アウグスチノは父より、異教世界の影響を強く受けていました。子供の時彼は洗礼を授からず、実際母親の宗教に反抗的態度を持っていたのです。彼は母親の信心や祈りがひとりの無知な女性の迷信にすぎないと考えていました。しかしながら、彼は幼い頃から繊細な感性に恵まれ、自分自身は十字架に付けられたひとりのユダヤ人を信じることに魅力を感じなかったが、母のキリストへの深い愛を尊敬することができました。

アウグスチノは33歳で受洗するまでの長年にわたる知的探究の間、数多くの学問的論文を読んでも、真理の探究に待を持っていました。才能に恵まれた息子がローマ帝国社会で高い地位へ昇進できるように、彼の教育のためにたくさんの犠牲を払ったのです。最高の学校へ息子をやるために貯金を使い果たしてしまうと、友人に息子が最後まで教育が受けられるように奨学金を願いさえしました。

20歳の時アウグスチノはその父をなくし自活せねばなりませんでしたが、彼の教育は無事終了し、アフリカのローマ帝国領土の首都カルタゴで修辞学の教師という名誉ある職を手に入れました。彼は若くして社会の有力者たちから尊敬される自信に満ちた大学教授となったのです。しかしながら彼は内的なむなしさ、不安を感じていました。



アウグスチノ会笹丘共同体

夫・父親・社会人として

19歳の時には情欲を抑え切れずある女性と同棲し、アデオダトゥス（『神の賜』の意）と名付けられた男の子の父親となっています。始めは女性のぬくもりと肉体の快楽を求めただけでしたが、計らずも彼は父親としての責任と夫婦の貞節を守る『重荷』を負わされることになりました。夫としては誠実で、父親としては息子思い、若き教授としては功名心に溢れていました。自分の野心を満たすため、また母モニカの目を逃れるため、彼は母をだまし密かにローマへ赴いたのです。

摂理的出会い

青年時代、真理を探究するうちにアウグスチノは難解で不可思議な宗教、マニ教に入信していました。彼はこの派の教えに心から満足することはありませんでしたが、この教えの信奉者の中にとても善い人々がいたことが、彼の心を動かしたのです。

彼は熱心に勉強を続け、修辞学者としての評判が高まり、ミラノ（イタリア）の町でローマ帝国の公式弁論家という重要な職を与えられました。

この同じ町において、神のみ摂理は二人の特別な人を介して働くこととなるのです。

突然、母モニカがミラノに現われました。彼女は息子が同棲生活をやめ、上流階級の信者の女性とまともな結婚をすることを望んでいました。モニカは助言を求めに、ミラノの司教アンブロジオのもとに行き、この聖なる司教から、このような熱心な母親の祈りと涙があって、その息子が神に見捨てられるはずがないと励まされます。（つづく）

（写真は左からマホニ神父、ドワィヤ神父、今田修練者、田端神学生、平野神学生、右端が筆者のヒルデン神父）

草野純英神父（泰星中学）に聞く

神学生を育てることは喜びであり、誇り



草野　きょうは泰星で小神学生を含めて中学生のお世話をしていらっしゃる神父様に、召命について日頃感じておられることや、教区の皆様方の関心事でもある泰星中学のことについて、お話を伺いたいと思います。

まず神父になりたい気持ちになられたきっかけは何だったのでしょうか。

草野　侍者ですねえ。教会まで歩いて15分ぐらいのところでしたけど、毎朝、侍者をしにごミサに行きました。

信仰は子供たちへの最高の宝物

――召命が減少しているといわれて久しいですが。

草野　信者の家庭教育なんかどうなんでしょうか。よく親ごさんたちに、「子供がもの心ついてカトリックというものがわかって、自分で求めて洗礼を受けるというまで待ってやるべきで、はじめから子供の自由を奪うべきではない」という人がいますが、こんなことでは召命も少なくなるんじゃないかと思いますねえ。というのは、何かの同好会に入会させるのと信仰に入れるのとは本質的に違いますから。信仰がほんとうに自分にとって大事だと思って、その宝物を子供に与えるということは子供の自由を奪うということじゃなく、やがては辿りつくべき真理の道においてやっておくことですよ。その子供が今わからなくても、次第にわかってきて、感謝されるようになるはずなんですから。信仰に生きた家庭から教育現場から「召し出し」もでてくるんじゃないかと思います。

――泰星では具体的に子供たちのキリスト教的な養成をしていますか。

草野　授業とは別に、放課後に中学3年生のため集まりを持っていますし、2年生の場合は一般生徒のため、また神学生も信者の子供と共に要理教育をやっています。1年生は始まったばかりですけど、研究生は70人を超えたでしょうか。

難しくても逃げないで

――小神学校と泰星の問題で、泰星は難かしいといわれているようですが。

草野　泰星が入りにくいから小神学生が少なくなるというのは、私は、ちょっとおかしな論理のような気がするんです。難しくなかろうが難しくなかろうが、神父になりたい熱意のある子供は「ここを通らんといかん」と言われたなら、必死になって挑戦していくんじゃないでしょうか。

――これから子供を小神学校にやって泰星中学を受験させたいと思っている家庭に、こういうふうにしたら泰星まで入れるというような具体的なことがありますか。

草野　必要だと思います。それはレベルが高いからというのじゃなくて、範囲の問題なのです。私立中学受験生を対象にしている小学校は少ないので、小学校で各科を全部終わることができなかったところはどこかで補う必要があるという意味においてです。

また高校から入りたいという子供たちの場合ですが、うちでは科目によっては高校の問題を中学3年生でやってますけど、それは入試問題に出せません。私たちは頭のいい子の教育よりも、心のいい子になる教育をしたいのです。

――泰星に入るために塾が必要ですか。

草野　それは信仰生活を大切にして、司教様にその信仰の強さを見せるというか、認めてもらうことだと思いますよ。とにかく頭数だけ小神学生の数を多くというようなのは、無意味だと思いますね。

――泰星に入るために塾がかね。

神学生を育てることは大きな喜び、誇りです

――地方から泰星に入ってもついていけますか。

草野　できますよ。かえってその子たちのほうが都心の塾ですれた子よりも伸びてますよ。誠意をもってやってくれる子や神学生として、一生懸命信仰に生きている子がたくさん入ってくるのを望んでいます。私たちはそういう子供たちのお世話ができることを喜びとし誇りとしています。

――ありがとうございました。

自由席

有意義だったマニラでの分かち合い

堤　敏雄神父

今年5月の終わり、ちょうどアキノ政権になって間もないフィリピンに出かけ6月2日から5週間の「東アジア司牧研究夏期コース」（EAPI）に参加する機会を与えられた。この研究所はマニラのイエズス会経営アテネオ大学内に設置されている。

暑さの中で講義を聞き、午後は各グループで研究、討議、分かち合い。いずれの場合もメイン・テーマ「信徒の霊性向上と教会共同体的分かち合い」が、その中心課題であった。

フィリピンの共同体で、印象的だったのは「信徒隣組」を通じて実績をあげていることである。もちろんそのまま文化、伝統の異なる国で直ちに適用することは無理である。しかしながら、現地の司牧にあたっている司祭たちによると、信仰から遠ざかった者、またいわゆる「日曜信者」をいかにして霊性の目標に近づけ、信仰の分かち合いに導いたらいいか、深刻な問題だということであった。

ところで日曜日の講習休日に、グループで教会司牧状況をかいまみせてもらった。バギオで「祈りの分かち合いは家庭から」と書いた大看板が今も私の印象に残っている。ネグロス、セブの各島、とくにネグロスのサントニーノ教会の主任司祭の案内で、諸所をまわったとき「祈りの分かち合い集会」によく出会った。

彼らが貧苦の生活の中にあっても、またモスレムゲリラの動きの中にあっても、祈りの分かち合いをいかに大切にしているかがわかる。この分かち合いに、一回交わったことはいつまでも忘れないであろう。

もちろんマニラでの分かち合いに受講生として参加できて幸せだったと感謝している。

（本郷教会主任司祭）

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24―14
TEL　福岡（092）471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州（093）671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

国際化時代の波の中で、近き隣人であるアジアに目を向ける機運がたかまっているが、まだ意識の低迷は否めない。このような中で、フィリピンの貧しさと出稼ぎ問題にかかわっている「カトリック福岡正義と平和推進委員会」（福岡）と「滞日アジア女性問題を考える会」（熊本）の活動が注目をあびつつある。

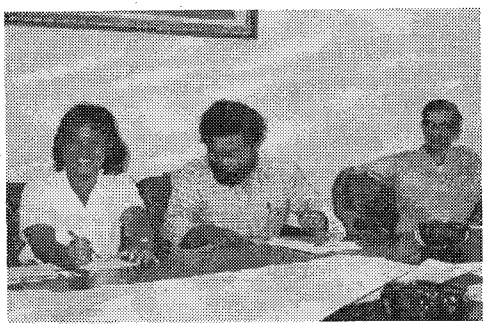
フィリピン問題　理解と支援を要請

ネグロス　支援する会発足　福岡

フィリピンのネグロス市民災害復興センターのSr.ノルマ・ゴテラ・ムガルが9月29日、福岡を訪れた。シスターは福岡市内のキリスト教各派の信徒や仏教徒の支援者と共に県庁記者室をおとずれ、「ネグロスでは住民の75パーセントが砂糖きび栽培に従事しているが、国際価格の暴落にともなって、深刻な貧困が生じている」と救援を訴えた。

これに呼応するかたちで福岡では教会を超えた支援者による「日本ネグロス・キャンペーン委員会福岡支部」が吉塚教会内に発足した。代表の同教会信徒の青柳行信氏は「飢えに苦しむ子供たちがあなたからの愛の手を待っています。私たちが受けた愛の福音を今、実践する時です」と各教会、各グループからの積極的な支援を呼びかけている。

連絡先　092-621-6211　青柳



「飢えに苦しむ子供たちが、あなたからの愛の手を待っています」と語るSr.ムガル

自立助ける　援助が肝要　熊本



熊本「手取教会で10月12日フィリピンからSr.ビクトリアを招いて講演会が開かれた。

シスターは日本などへの出稼ぎによる種々の問題に対処するために、すでにフィリピンでは組織的な女性たちへの職業訓練も始まっていると報告し、この方面での援助を期待していると語った。また、すでに日本へきて働いている女性たちにどう対処したらよいかとの質問には、「よき相談相手となってほしい」と答えていた。

なおこの集会には教会内外から約80名もの人が参加し、集会後はフィリピン人女性ら30名と共に英語ミサを捧げ懇談のひとときを過ごした。

「愛の証し人」となるために　本

司祭・修道女が初の対話集会　熊

9月15日、手取教会において、熊本地区で初めての司祭、修道女の対話集会が行われた。

参加者は司祭12名、ブラザー1名、カテキスタ2名、伝道師1名、県内にある女子の全修道会より修道女49名、計65名。

午前11時より、司教館から参加された山田神父をはじめ4名の司祭による共同ミサが行われ、ミサの中で山田師は「現代社会の中で信徒の使命は重要であり、信徒を大切にしなければならない」と説かれた。

午後1時より、熊本地区地区長のデイキン師のあいさつで、「愛の証し人となるよう分かち合いたい」と述べられ、6グループに分かれて対話が行われた。

グループでの対話は一、司教団から出された基本方針をどのように受けとめ実践しているか。その効果、問題点、方法。二、基本方針を実践するにあたって司祭、修道女、カテキスタがどのように協力しあえるか。

初めての集会は盛大に行われ、参加者一同よろこびのうちに宣教への熱意をあらたにした。またこのような機会が持てることを希望しつつ、午後4時過ぎ散会した。

（ウィチタ聖ヨゼフ修道会Sr.クリスティーナ氏家）

おげんきですか



明石健次神父様
（下山手教会主任）

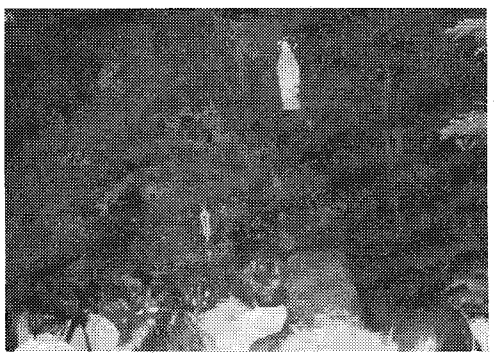
福岡の皆さん、おげんきでしょうか。福岡在中はとてもお世話になり感謝しています。

福岡は私にとり最も長く、12年近くを過ごした思い出の地です。油山を眺める神学校生活は緑豊かな恵みの時といえるようです。共に学ぶ友を得、「見よ、兄弟がむつみ合っているのは、なんとうるわしく快いことか」とのみことばを味わえたことは大きな喜びでした。「キリスト・イエズスにある信仰と愛をもって私から聞いた健全な言葉を模範にしなさい」のように、教会の伝統的な教えを伝えていただいた授業を思いだします。広いグランドでサッカーに興じた日々が今も体中に感じられるようです。司祭としても神学生と共に生活させていただき多くを与えられました。感謝。神学生の皆さんガンバリーヤ。良い戦いを戦い、走るべき道程を走りおえてくださいよ。小神学生の皆さんもやでー。

福岡では神学校ばかりで、信徒の方々と関わりが薄かったことが残念です。司祭になりましてから兄弟として交わってくださった司祭、信徒の皆さんにお礼を申しあげます。神戸にお越しの折はお立寄りください。下山手教会は大浦天主堂に並び称される美しい教会です。

一九八六年十月二日
守護の天使の祝日

ロザリオの月　毎日二百名の信徒がルルドに集う　新田原



秋の太陽が西の彼方を赤く染めるころ、新田原教会の鐘楼から聖母賛歌のメロディーが流れる。そのとき、老夫婦が手を合わせてたたずむ姿は、ミレーの晩鐘にも似て美しい。十月は農家にとっては収穫の季節として多忙な月。しかしカトリック信者にとっては、聖母マリアをたたえる聖母と共に神に祈りを捧げるロザリオの月でもある。

新田原教会では今年も一カ月間、毎日恒例のロザリオの祈りが行われた。

ロザリオの祈りはルルドの前で午後七時から始まる。ルルドの灯かりに照らされ互いに挨拶を交す姿が印象深い。

一時間も前から祈りに出向いて来る老人組、時間まぎわに走り込む壮年若者たち。時代の波にのって車の列が教会前広場に集まってきて、ルルド前は約二百名の信徒でギッシリ埋まる。

聖母像の下に燈されるロザリオの祈りが行われた。

しかしカトリック信者にとっては、聖母マリアをたたえる聖母と共に神に祈りを捧げるロザリオの月でもある。

新田原教会では今年も一カ月間、毎日恒例のロザリオの祈りが行われた。

ロザリオの祈りはルルドの前で午後七時から始まる。ルルドの灯かりに照らされ互いに挨拶を交す姿が印象深い。

一時間も前から祈りに出向いて来る老人組、時間まぎわに走り込む壮年若者たち。時代の波にのって車の列が教会前広場に集まってきて、ルルド前は約二百名の信徒でギッシリ埋まる。

聖母像の下に燈されるロザリオの祈りは、個人個人がその願いもさまざまに心をこめて燈すのである。

聖母マリアを人類の母と慕う者のロザリオの祈りの合唱は、宵闇の中に余韻を残して遠く丘の上を流れていた。

（新田原教会総務）

カトリック・アクション

この運動（活動）の起源は、四百年以前にさかのぼり第二バチカン公会議まで「コングレガチオ・マリアナ」と呼ばれてきましたが、公会議の精神に基づいて現在の名称に変わりました。CLCの特徴は、聖マリアがご自分の生涯を「キリストのみ業の完成のために」奉献されたその模範に倣い、日々の生活を「仰せの様になれかし」の心で「キリストにおささげして生活しよう」とする信徒の団体です。

CLCでは、同じ様な心で求めている者同志が集まってグループをつくり毎月集会をもちます。その中では、どうどうとした生の人間生活を通して、絶えず働きかけ、呼びかけておられるキリストのぬくもりを実感し、生活の見直し、みことばの黙想、分かち合いなどが体験できます。こうして霊的に養われ信仰生活が豊かにされてゆきます。

また、霊操がすすめられます。私たちの冷たく閉ざされがちな心をやわらげ「神の語りかけに敏感に気づき、応えられるように」霊操という黙想により生活を深め、豊かな喜びと信仰の確信をもち、神の子の自由のうちに使徒的奉仕に導かれます。

CLCは、教会や社会生活のもろもろの場と拡がりの中で、各自がキリストの福音を宣べ伝え、体験や活動を通して証する使命をになう信徒の使徒職団体です。

※お問い合わせは、
高木慶治（鳥崎教会）
☎ 096-352-4454
中野尚夫（健軍教会）
☎ 096-365-0551
追立季治（行橋教会）
☎ 09302-2-4493

CLC（クリスチャン・ライフ・コミュニティ）

福岡地区婦人会　活発にボランティア活動

福岡教区福岡地区婦人会では、ボランティア活動として特別養護老人ホームの今村聖母園、篠栗荘、富の里、の三カ所に、有志の者が三つのグループに分かれて伺っています。

私は「三食昼寝つき」で、その上もっと良い日だまりを求めていましたので、少々ためらいながらの参加でした。

篠栗荘では、お年寄りとの会話を重点に、介護、掃除など、またおむつ縫い、繕いものなどの手仕事もお年寄りと一緒にしています。

ある時人形劇の話がでて、みんながよく知っている「白雪姫」をすることになりました。練習もままならず、ぶっつけ本番、せりふを言っている時に人形が出てこなかったり、幕間が長かったりで冷や汗をかくこともありました。

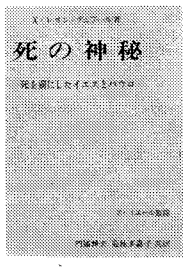
この人形劇やお世話を通して、お年寄りに対する今までの接し方が、間違っていたと思いました。「私」は「あなた」に何かしてあげられると思っていたようです。このような、つたない人形劇を喜んでくださるのを見て、この方たちの喜びや悲しみを受け入れ、一緒に分かち合うことができればと思っています。

「とまどいのボランティア」から、自分から見つけ出していく「積極性のあるボランティア」へと、少しですが変わっていったような気がします。

（高宮教会　和気淑子）

BOOK 読みま専科

☆死の神秘
死を前にしたイエスとパウロ
X・レオン＝デュフール著
門脇　輝夫　共訳
菊地多嘉子



生命と死は、私たちにとって最も身近な、存在自体にかかわるテーマである。

本書は、主イエスとイエスの心を心とした使徒パウロが「死」をどう受けとめ、自分たちの死とどう取り組んだかを、聖書のテキストに基づき解明している。三八〇〇円（あかし書房）

☆静かなるホロコースト
小さな生命（いのち）の叫び
ジョン・パウエル著
高瀬暢彦訳



「一人の生命は全地球よりも重い」という言葉がある。

神からの最大の賜り物は、私たちひとりひとりに与えられた生命であろう。

しかし、年々増え続ける妊娠中絶。毎日何千人という小さな生命が堕胎によって闇に葬られている。一つの生命を奪うことは、一人の人間を、神がその人に託されたメッセージを、愛を拒絶することである。堕胎―この行為は、胎児を殺すことにとどまらない。この背後にある思想が、実はナチスが大量虐殺（ホロコースト）を実行した思想と同じものであることを、著者は鋭く指摘している。

（女子パウロ会）八五〇円

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（十一月）

2日　久留米教会堅信式
　教区墓地ミサ午後2時
3日　ヤング・ウィークエンド
　召命の集い(大神学院)
　九州地区学校長協議会
　宗教課（久留米）
9日　湯川教会堅信式
　世界平和のための祈りの日（熊本）
16日　西新教会堅信式
　三位一体の聖体宣教女会50周年ミサ
19日　大神学院祭
23日　光ケ丘教会堅信式
24日～26日　全教区司祭研修会
30日　新田原教会堅信式

福岡黙想の家

1～3日　ヤング・ウィークエンド
8～9日　北九州レジオ
9日　三位一体会静修
11日　福岡地区婦人会ヤング・ママ黙想会
20日　笹丘教会婦人黙想会
23～24日　聖母カテキスタ会静修
30日　茶山教会婦人黙想会

教区人事

トマ須賀沢公男神父高宮教会着任



東京都田園調布教会から、福岡市高宮教会に10月より主任として着任。

須賀沢神父は、「昭和27年から29年まで、福岡サン・スルピス大神学院でラテン語を学び、その後東京アントニオ神学院へ行きました。昭和35年に司祭に叙階され、昨年が銀祝でした。これから、高宮教会で宣教・司牧にあたりますが、どうぞよろしくお願いします」と語っている。

聖書週間の催し

聖書週間（11月16日～23日）にちなんで、福岡カテドラル・センター（福岡市大名町）では下記の催しがおこなわれます。多数のご来場をお待ち申し上げます。

※聖書展
11月16日（日）
午前9時～午後4時

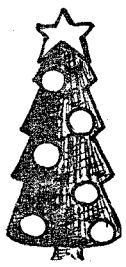
※講演会
11月16日（日）
午前10時30分
講師　高見三明師
（サン・スルピス大神学院）

なお、前任の石村明神父は東京都荒川区にある千住庵で働くことになっている。

市民クリスマス

——カトリック・プロテスタント合同クリスマス——

日時・12月9日（火）
午後6時30分より
場所・福岡市民会館大ホール
内容・メッセージと映画
○メッセージ＝ユーモアあふれる徳山登神父（八王寺）
○映　画＝「ママごめんね」
—小児ガンと闘いながら明るく生きたアッ子ちゃん—



ヤングママ黙想会

—ベビーシッター付き—

日　　時：11月11日（火）午前10:00～午後 3:00
場所・指導：御受難会黙想の家・鈴木忠一神父
会　　費：1,000円　昼食代含む、子供無料
※　お子様の弁当・おやつ・ミルクなどご持参下さい。
連　絡　先：各教会婦人会々長又は深堀邦枝
　☎ 092—801—5351
主　　催：カトリック福岡教区 福岡地区婦人会

きぼうの電話

—喜ぶ人とともに喜び　泣く人とともに泣く—

(092)　865—1212

※相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
※時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時
　午後8時～午後10時
※相談時間外：テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01　福岡市城南区西片江1-17-63

バザー



11月9日　福岡県志免教会
　目的は教会建設のため。
11月16日　熊本市手取教会
　収益金は、フィリピンの兄弟たちのためです。
皆さまのおいでをお待ちしています。

いぶき

練獄の霊魂のために祈ろう

山内清海

わたしたちの幼少時代、十一月は、「練獄の霊魂のために祈る月」として、とても大切にされ、毎日特別な祈りをとなえていました。特に十一月二日の「死者の日」には、学校帰りに教会に直行し、聖堂に何度も出入りを繰り返しながら、練獄で苦しんでいる霊魂のために真剣に祈った記憶が、今もわたしの脳裏に鮮やかに残っています。聖堂に入って、規定の祈りを教皇様の意向に従ってする度に、練獄の一人の霊魂を救えると教えられていたからです。したがって、うすぐらくなって再び帰途につくときには、「今日は何人の霊魂を救った」などと、誇らしげに友達と語り合ったものでした。

練獄についての教会の教えは、かつて熱心な説教者たちや霊的著作家たちによって誇張され、教会の公的教えとその比論的な説明が混同された点も少なくはなかったし、それだけに現代はその反動でしょうか、多くの人は練獄についてあまり語りたがりません。しかしそれだけにわたしたちは、練獄についての教会の本質的、かつ公的な教えが何であるか、明確に知らなければなりません。

この点については「声」誌の十一月号に「天国、練獄、地獄」のタイトルで、小拙論を発表しましたので、もし機会がありましたらそれをお読みいただくこととして、今回は、練獄の霊魂のために祈ることの大切さについて少し考えることにしましょう。

第二ヴァチカン公会議は、教会の伝承的教えを再確認しながら、神をありのまま眺めつつ、永遠の栄光を受けている聖人たちがいるように「すでにこの世を去って清めを受けつつある」（教会49）人々がいると宣言しています。

すなわち、神の恩恵のうちに死を迎えながらも、まだ神との完全な一致にはいたっていない人々の霊魂は、神との一致への激しい乾きと、「火の苦しみ」にたとえられるように、まさに火に焼かれるような心の苦しみによって、浄化され、神との完全な一致の妨げとなっている罪を償うべきだというのです。とはいっても、練獄の霊魂たちは、天国での永遠の幸福への確かな希望と、正義であるとともに、愛そのものでもあらせられる神への絶対的な信頼に支えられているのですが、かれらはただひたすら、わたしたちの祈りと犠牲による助けを待ち続けているのです。

しかも教会は、わたしたちが、天国で永遠の喜びを受けている聖人たちばかりではなく、まだ浄化の苦しみに耐えている人々とともに、同じ神の国に属するものであることと、したがって同じ神の民として、相互の祈りと償い、さらには恩恵の助けを交流し合える、とも教えます。

つまり練獄の霊魂たちは、浄化の苦しみのうちにあって、同じ神の民に属するわたしたちの祈りと犠牲による助けに期待していますし、それだけにわたしたちも、霊的兄弟として、練獄の諸霊魂のためにささげられたこの十一月の間、かれらのために祈るよう努めましょう。

（サン・スルピス大神学院教授）

編集室から

献金報告

移住の日献金
一、四三五、〇〇六円
ご協力ありがとうございました。

霊的充電と身体の休息、さらに兄弟的交わりのための黙想会も無事終了。

今年は、聖アウグスチノの回心千六百年記念の年。教区には福岡市笹丘教会にアウグスチノ会の共同体があります。

早速、聖アウグスチノについて何か書いてくださるようにお願いしましたところ、ヒルデン神父様が快く引き受けてくださいました。

今号と次号の二回にわけて掲載させていただきます。聖アウグスチノの隠れた一面について知り、回心前の聖人の生きかたあるいは聖人をとりまく世界が、私たちの時代とどこか似かよっているのを嬉しく思います。

泰星学園の草野純英神父様（イエズス会）と、十月号の小神学校についての司教様の書簡をふまえて、対談を試みてみました。

教区の皆さまに泰星学園の基本姿勢が少しでも理解していただけたら幸いです。

(W)

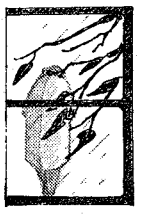
相逢ふも相別るるも時雨かな　高浜虚子

虚子の句は、気おわず、気どらず、平淡のなかに、深い情と思いがこめられている。

桑原武夫は、俳句は第二芸術だと批判して、センセーションをまきおこしたことがあるが、そのとき虚子は、俳句を芸術といってくださったのか、有難い、と言ったそうである。

この句は上五と中七が、いずれも「あ」で始まって「も」で終わり、しかも上五が「あ」い「あ」う、と韻をふんでいて、非常にしらべがよい。その上逢ふ、別るるに相があるため、その人との親密な関係が、おのずと表われていて、深い情がにじみでている。「るる」が時雨を呼びおこして、この句を思うごとに、わが心もしぐれるのである。

そのままの人生ひのとこまである。



（森山敬三）

献金報告

移住の日献金
一、四三五、〇〇六円
ご協力ありがとうございました。

典礼サービスセンター

- ロザリオ・ベール
- 十字架・御像・カード
- 祭服・カリス・ストラ

お求め・お問い合わせは
師イエズス修道女会
福岡市中央区小笹4-11-35
TEL　(092)　531—0486

ネグロスに救援を！

海を越えたところに
われわれの友が
われわれを
求めている。

フィリピンのネグロス島の飢餓は、ますます深刻化しています。約25万人の砂糖きび労働者が職を失い、家族を含む150万人が餓死の危険に直面しています。

※募金送り先
郵便振替口座番号　福 岡 6-31205
銀行振込口座　福岡相互銀行吉塚支店（普通）
店番 317　口座番号 126393
名義はいずれも「ネグロスに愛の手を」

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL　092—531—3831
夜　間　092—521—0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社 藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電 (092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

聖書週間

聖書を知ることはキリストを知ること

高見三明 Z・イエール 両教授が講演

貴重な聖書の展示も



展示物を説明するZ・イエール師（右端）

恒例の「聖書週間」の初日、新装成ったカテドラルで、期待の「聖書展」が開かれた。大神学院教授で聖書学者であるZ・イエール師秘蔵の貴重な聖書の数々が展示され、併せて、イエール師と大神学院聖書学教授の高見三明師の講演が行われた。

11月16日（日）カテドラルセンターでの「聖書展」では午前中、高見師とイエール師の講演が行われ、市内の各教会から訪れた信徒や求道者が、熱心に聞き入った。

見学者は講演のあと両師から展示してある貴重、かつ珍しい聖書について説明を受けた。本として初めて出版された、印刷発明者の「グーテンベルク聖書」や十六世紀のローマ字聖書などおよそ百冊が展示されていた。

聖書のルーツと読みかた

高見師は、講演の中で、聖書についてイエズスご自身は何も書かれなかったが、伝えるべき事はすべて弟子に語った。

キリストの復活後、使徒たちは「語り」という方法で人人にみことばを伝えた。そのうち各地にキリストを信じる人々の集り、教会が生れて来ると、使徒たちは手紙によってみことばを伝えた。「テサロニケの教会への手紙」がその最初である。こうして共同体の中で語り継がれていた教えが、書き物として伝えられて来たのが聖書である。キリストの生涯を記した福音書が一人でなく四人の手で書かれた事は意義深い。



高見三明師

など、主に聖書が書かれてきた過程や、背景について話した。

続いて、イエール師は、「聖書を知ることは、キリストを知ることです」「聖書の中でキリストを通して、神の愛を容易に知ることが出来ます」と聖書の読み方についてやさしく解説。さらに、使徒行録のパウロについては「迫害者であったパウロは、悪人でなく立派なユダヤ教徒であった。だからパウロは、改宗したのではなく回心したのです」と、パウロの人となりについても言及した。

ナイス'87

教区の準備委員会 課題案10項目を作成

来年11月に予定されている「NICE'87」（福音宣教推進全国会議）に向けて、福岡教区の準備委員会が10月26日に司教館で行われた。準備委員会は、山田成章神父、他司祭4名、修道女3名、各地区の信徒代表5名で構成されている。

準備委員は、去る4月28、29日の福岡公聴会で出された意見や提言、又、各地区から出された信徒の声を参考にしながら、来年のNICEでとりあげる課題案を十項目にまとめる作業を行った。

その結果、福岡教区からの課題案として、次の10項目をNICE実行委員会に提出することになった。

一、信仰共同体から宣教共同体への再教育—宣教意識の高揚と宣教の原点を探る。
二、司教・司祭・修道者・信徒間の対話—宣教上の障害排除と有効な対策について。
三、教会の若返り（若者重視の教会作り）—宣教の尖兵としての青年活動への支援。
四、カトリック事業体の設立精神の再認識。
五、司祭の召命の育成（終身助祭の召命を含む）
六、正義と平和の社会作り—社会の不正と差別をなくす運動、アジアの教会に対する物心両面の交流と援助。
七、広報活動と有効利用。
八、地域社会と文化の福音化
九、福音宣教の場（家庭・隣近所・職場・学校など）—冠婚葬祭その他の行事を通して
十、他宗教に対する交流と対話

NICE実行委員会では、各教区から出された10の課題案を整理して、常任司教委員会に提出。それに基づいて常任司教委員会は、来春、NICE'87の最終議題を作成することになっている。

今月のみことば

生きるにしろ
死ぬにしろ
私たちは主のものです
（ローマ14・6）
多久　アレグリーニ神父

平和の使徒になろう

フランシスコ会が教皇の呼びかけに応えて平和の祈りの集い



教皇様の切実な呼び掛けに応えて、フランシスケン熊本修道院で11月9日、平和祈願ミサと講演が行われ、九州各地から約40名の修道女、約60名の信徒（プロテスタント6名参加）による敬虔なそして真しな祈りが捧げられました。

平和祈願ミサ（主式デイキン神父）で神父様は「日本は原爆被災国として世界の平和の使者として働く大きな責任がある」また「日本の指導者が世界の平和の道具となって、世界のすみずみに平和をもたらし、人々がこぞって平和の喜びに満たされることができるよう祈りましょう」と訴えた。

講演

聖フランシスコの平和と生き方

須賀沢神父様（高宮教会）

私たちは師父フランシスコのどこに引かれるか。

それは聖フランシスコの清貧、謙遜、純粋、素朴さ、非暴力、単純さ、喜び、明るさ、全ての者を兄弟として受け入れるこころ。また自分を人より小さい者としてかかわり、人に安らぎと喜びを与える生き方。それは、平和の使徒と呼ばれるのにふさわしいものです。

フランシスコは出合う人毎に「主があなたの上に平和を与えてくださいますように」といって挨拶しました。人々は始め戸惑ったかもしれません。しかしその挨拶は単なる口先の挨拶ではなく、人々の心にキリストの平和を呼びおこすものでした。その言葉をかけられた沢山の人々は敵と和睦し、それぞれ良心の平和を願う者となりました。

師父を慕う神父様の熱い心が伝わってくるお話でした。

懇談会挨拶

堀原氏（日基白川教会信徒）

日本は今、平和を享受しているがそれを無にするようなことが起こりつつあるのでは？この祈りの集まりを機として、熊本市に平和宣言都市になるよう呼びかけをしてはどうか。

という提言があった。

みんなで楽しく、ともに祈り語らいながら昼食をともにし、最後に、アーメンハレルヤを合唱して「日々の平和を共に祈り合いましょう」と、言いかわしながら散会した。

（福田節子記）

地域の福音化に貢献

三位一体の聖体宣教会創立50周年



11月20日の創立記念日に先立ち、8月に東京都東村山の地区本部で白柳大司教様の主式で創立五十周年のミサ及び祝賀会が行われたが、福岡修道院では11月16日午後4時から、平田司教様、神父様方をはじめ、数名の恩人を迎えて感謝のミサを行った。

三位一体の聖体宣教会は、パウロ・グスマン神父と、シスター・エンリケタによって「御父に霊とまことをもって、礼拝を捧げたキリストにならい、三位一体に栄光を帰したい」という、望みを実現するため、一九三六年メキシコ市に創立された。

一九五四年当時の福岡教区長深堀司教様の招きで来福し、「吉塚カトリック保育園」を開園。その一年後に隣接された教会での奉仕活動も続けている。

近隣の人々からは、保育園のことを「カトリック」と呼ばれ親しまれている。近年、卒園生の子供の入園者が多く、家族二代に渡るつながりをもつようになって来ている。このつながりを大切にしながら、地域の福音化に、つとめている。

神の恵みと多くの方々の支えを感謝しながら、私たちの召命の道を歩み続けたいと思っています。

（Sr.長谷川）

あなたとわたしの福音宣教



福音を閉じ込めないで

深谷伸子

間もなく結婚するであろう一人の友人がいます。相手は熱心で誠実な仏教徒で、私の友人もまた熱心で誠実なクリスチャンです。信じる道をひたすらに歩んできた二人の出会いは、深い人間愛に共通の理想を見出して意気投合し、今、新しい家庭生活への可能性へと導かれています。

このニュースを聞いた時、私は自分の心が固い壁に閉ざされているのを知りました。

私は「全ての人、特に小さい人のうちにキリストを見よう」と努力するけれど、友人は「他の宗教の熱心な信仰者の中にキリストを見たのは初めて」と告白する。私は「いつまでも教会の恵みの中に生きていたい」と思うけれど、友人は「どこに生きていても、もう神の愛から離れられない」と強く感じている。私は「（父の葬儀においてさえ）共に念仏を唱えるよう促され

ても、どうしても声がでなかった」のに、友人は「用語も習慣も違うその信仰篤い家庭のど真中に生きよう」としている。私は「燃える心をどこかに失って、祈りと分かち合いのうちにもう一度イエズスの愛を感じとりたい」と渇いているけれど、友人は「どこへ行っても、だれと出会っても、イエズスがだいすきだってことを伝えたい」と確信して言う。しかも、これまでのように教会の典礼や活動に度々自由に触れることの難しくなる大きな寂しさを越えて！

教会のあるべき姿として福音をとらえがちな中、教会の枠をはずして、まず神の目で福音を見出し、その中に積極的に生きる神の民の姿を、友人の決意を通して考えさせられました。

さあ、キリストの愛から引き離すものは全て取り去りましょう！たとえ一般的に正しい判断であっても、ある場合、人を傷つける単なる固定観念にすぎないかもしれません。

かつて、神に対し、人に対し、神からいただいたあらゆる恵みを用いて、数限りない大きな罪を犯してきた私をさえ受けいれて下さった教会共同体の皆さん、どうか、一人として、救いの列外に置かないで下さい。

（大牟田教会）

みちくさ

小教区で司祭として働いて得る幸せのひとつは、一年の終わりを感謝のうちに迎えることができることです。ふりかえってみると、この一年間ずっと様々な善意に包まれてきました▼「宣教共同体づくり」のための各種の試みにも喜んで協力していただきました。要理や聖書の講座、ミサ中の説教もじっと我慢して聞いてくれたどころか理解しようと努めてくださいました。小教区外での私の仕事にも理解を示し、いつも快く送り出し励ましてくださいました。▼多忙な社会生活の中で、大切な時間と労力を教会のために惜しみなく使ってくださった役員や男性信徒の皆さまに感謝します。こまごまとした雑用にも誠意をもってあたってくださったご婦人の皆さまにも感謝します。小教区の将来に希望の光をともしてくれた青年たちや子供たちにも感謝します。元気に喜びをもって教会に来てくれることは大きな慰めです▼日曜日のミサの間にしかお目にかかれなかった方々にも感謝していま す。皆さまにも大いに力づけられてきました。これからも言葉を交す機会は少ないかもしれませんが、きっと覚えています。教会や司祭館ではお合いできなかったけど、陰ながら助けてくださった方、社会の中でキリスト者として精一杯生きてこられた方々に感謝と敬意を表します▼悔いとして残るのは皆さまのご好意に十分に応えることができなかったことです。言葉を交すことがなかった方々に申し訳なく思っています。しばしば司祭館を留守にしたため迷惑もおかけしました。でも私がいなくても教会（聖堂）は24時間オープンです。ご聖体のイエズスさまを時々訪問して私のためにも祈ってください▼本当に幸せな一年をありがとうございました。来る年が皆さまおひとりおひとりにとって喜び希望の年となりますように、幼な子イエズスさまにお祈りいたします。

聖アウグスチノ回心1600年に寄せて

ある罪人の回心　(後)

M・ヒルデン神父（笹丘教会・アウグスチノ会）



アウグスチノは三五四年にアフリカのタガステに生まれた。父は、誇り高きローマ人としてキリスト教に反対していたが臨終の時洗礼の恵みを得た。母は熱心なキリスト者として、夫と息子の回心に影響を与えた。

若きアウグスチノは、知的探究の間も満足することがなかったという。このような中で母モニカの涙と祈り、さらに聖人の誉れ高かったミラノの司教アンブロジオとの摂理的出会いによって回心へと導かれていく。

アンブロジオ司教

アンブロジオ司教は、アウグスチノに深い影響を及ぼした人です。

アンブロジオの説教者としての名声のゆえ、アウグスチノはしばしばカテドラル（司教座聖堂）に出かけました。キリスト教の教えを聞くためではなく、アンブロジオの説教者としての技量を確かめてみたかったのです。

アンブロジオの説教を聞くまで、アウグスチノは聖書を真剣に読んでみようなどと思ったことはありませんでした。彼は聖書を文体の稚拙さゆえに軽蔑し、二流の文学にすぎないと考えていたのです。

回心の目ざめ

しかし彼はアンブロジオのすばらしい説教を聞き心を動かされ、聖書を真理の宝庫として探究し始めます。真の自己を知ろうと欲し、聖書の光に照らされて、彼は自分の心がわがままで、うぬぼれと情欲に満ちていることを知り、絶望のうちに泣きくずれます。

同じ頃、アウグスチノはヴィクトリヌスという著名な修辞学者の洗礼のことを耳にしました。この有名な人の回心の話を聞きながら、彼の心に神秘的な火が燃え始めたのです。恩寵の神秘的なみ手が彼の心に直接触れたのでした。

その後まもなく、友人から聖アントニオの生涯を表わした書物の影響ですぐさま回心します（8巻8―12章）。

彼は自分の家の庭で泣いていました。彼の心はキリストに従うかどうかの決心を迫られてさけんばかりでした。その時彼は「取れ、読め」と歌っているように聞こえる子供の声を耳にします。使徒パウロの書簡を開いたとき、次の個所が目に入りました。「宴楽と泥酔、好色と淫乱、争いと嫉みをすてよ。主イエズス・キリストを着よ。欲望を満たそうと、『肉』のために心を煩わせるな」（ロマ13章13節）。

彼の心は平和に満ちた光であふれんばかりでした。彼は世を捨ててキリストの弟子となることを決意します。そして翌年の復活祭に息子アデオダトゥスと共に、モニカが喜びと感謝の涙を流して見守る中、アンブロジオ司教から洗礼を受けました。

恩寵の博士

アウグスチノはしばしば恩寵の博士と呼ばれ、『告白録』の中で神の恵みの神秘的働きを美しく歌っています。

神の愛が彼の打ち砕かれた心をいやし、彼のような罪人を神の独り子イエズス・キリストを信じる恵みへと導いてくださったことを驚きをもって語るのです。

賛美の歌である『告白録』の中で、彼は私たちの傷ついた心を主イエズスのまなざしのもとにためらうことなく差し出し、聖なる生活のうちにキリストのかぐわしい香りを放つ、新しい人に変えていただけることに感謝し、共に歌おうではありませんかと招いています。



聖アウグスチノと聖モニカ

アウグスチノの回心について語るべきことはまだまだ残されています。西方修道制の形成について、また今日にまでいたるキリスト教思想、キリスト教神学の形成について、さらにまた説教を通して神の愛、隣人の愛に向かって日々回心するように呼びかける善き牧者アウグスチノについて…。これらについても、もう少しくわしくお話しできる機会があることを期待しながらペンを置かせていただきます。

（おわり）

訳者　今田昌樹（アウグスチノ会修練者）

私とクリスマス

星くん

星くん
君はひかってるなあ
どうして？

ほしくん
きみはひかってるなあ
どうして？
そうか……！

きみはイエズスさまをみたんだ
あのうま小屋で生まれた
あかん坊をみたんだ
だから
ひかってんだね

星くん
ぼくもひかりたいなあ

ほしくん
どうしたらひかれる？
きみみたいに
そうか……！

イエズスさまをみればいいんだ
イエズスさまのうま小屋になればいいんだ

そうしたら
ひかれるんだね
きっと……

（M・Y）



クリスマスは苦しみます?!



赤倉　弘

みなさんはクリスマスと言ったらどんなことを想像しますか。イエズス様がお生まれになった日？それともクリスマスのミサやクリスマスパーティー？。ちっちゃな子ならサンタクロースやクリスマスプレゼントなどを思い浮かべるかもしれません。でもクリスマスが楽しいものであるということは、みんなかわりはないと思います。

私にとってのクリスマスというのは教会の行事の中で最も楽しみなものの一つで、特にクリスマスイブのミサには毎年喜んで行ったものです。というのはミサには多ぜいの人が集まりいっしょに祈ることができるし、ミサのあとにはクリスマスパーティがあるからでした。みんなで歌をうたったりゲームをしたりするのはとても楽しいものです。

学校でもキリスト教の学校に通っていたせいもあって、学校のクリスマス会というものがありました。

ところがある日、学校のクリスマス会の準備をしていた時に先生がこんなことを言ったのを今でも覚えています。「クリスマスというのはキリストがこれから苦しみますということなんだ。」

そんなことなど思ったこともなかった私には初めはその意味がわかりませんでした。しかしイエズス様は私たちの罪を赦すために十字架上の苦しみを受けて死んでいったんだ。つまりイエズス様が生まれたということはこれから苦しみが始まったんだ。そう考えるとクリスマスを苦しみますと言った先生のことばが、少しわかったような気がしてきました。そしてその苦しみは私たちのためだったのです。

これからは今までのようにただイエズス様の誕生日という理由だけでクリスマスを祝うのではなくて、イエズス様がお生まれになったのは私たちのためだったんだ。だからクリスマスというのはすばらしい日なんだ。という気持ちを持ってクリスマスを祝いたいと思います。

（西新教会　高二）

聖体の宣教クララ修道院で新修道院の起工式

佐賀地区では、去る10月20日、佐賀郡大和町川上で『御聖体の宣教クララ修道会』の新築に伴う起工式が行われた。佐賀市内の同修道院が手狭になったため。

敷地面積一九五平方メートル、クボタハウスによる二階建で竣工は来年二月の予定。

（佐賀・牧山満安）

自由席

貧しくて豊かなブラジル

長崎純心聖母会
Sr. M・コルベ田中綾子

6年ぶりの日本に、始め随分戸惑いを感じました。私がブラジルでの生活との切替に、あたふたしていたからでしょうが、車に乗せていただこうとして右側のドアを開けようとし、「そこは運転席よ」と何度も注意されました。また、どの家の屋根も黒くて暗い感じがして思わず赤い屋根を探したりしました。

しかし、一カ月もするとそんな違いもうすれ、車の窓から見える緑の景色もブラジルと同じだなと思いホッとしたりしました。ただ何処を走っている車も全て新車かと思うほど美しいのに驚きます。トランクは開いたまま、前の方もぶつかって破損したまま、あちこち白いペンキが塗ってあるような車ばかり走っているのがブラジルです。法令の違いばかりでない、人間性の違いを感じました。

ブラジルでは、訪問の時間を決めることは交通の便からも、距離的にも難しく、往々にして昼食どきに到着してしまいます。そんな時、かれらは「ちょうど良い時に来てくださった。一緒に食事をしましょう」といって、家族の分しかない食物の中から一人分を作ってくれます。「こんな物はずかしくて出せない」との傷ついた足を治療するボランティアの日本人ドクターとシスター。



写真は、ライ患者

人の子どもを持つ母親が一人の火傷をした子どもを私たちの診療所に連れて来ました。その子の名前を聞くと「この子は実の子でないけど、いらないという人がいたので育てています」というそのお母さんの姿に、始めはびっくりしましたがブラジルではこんな家族が珍しくないのにとても感銘を受けました。日本の23倍の国土を持つブラジル人の心も23倍の広さと豊かさを持っている事を感じます。貧しさの中に生きる人々から、多くの愛する道を教えられ、ブラジルで生きるよろこびを感じています。私たちの診療所はライ患者を主としています。全員無料で診療していますが、このような貧しくても明るい人々に支えられた毎日です。

（ブラジル修道院在住）

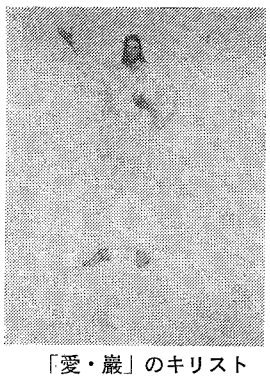
画家　じんのうちはるお氏作品「愛・巌（いわお）」(50号)を寄贈

浄水通教会

宗教画を長年のモチーフとして取り組んでいる福岡市の画家、じんのうちはるお氏の作品「愛・巌」が浄水通カトリック教会に寄贈され、祭壇右手に飾られている。

製作に12年を費やしたという五十号の油絵「愛・巌」について、嶋田三郎氏は芸術公論（一九八六年一月号）のなかで、「キリスト教の敬けんの精神の表現であり、人間性の自覚と正しい人間の生き方を確認させるような、深遠な作品となっている。白を基調とした色感、キリストと鳥の構図に神との交流を求める作家の宗教観、世界観が現われていて、快く清純な美しさを漂わせている」と高く評価している。

じんのうち氏の宗教画の八十点以上が主にアメリカ各地のカトリック教会に飾られているが、今回の「愛・巌」も氏のぜひ教会への念願どおり浄水通教会に寄贈され、飾られた。同教会の泉神父は「作者はまだ洗礼を受けておられないが、作品のなかにキリストに対する深い思いをみることができます。教会に来られたらいつでもごらんになれます」といっている。



「愛・巌」のキリスト

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
GUARD 24 TOSTEM
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24―14
TEL　福岡（092）471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州（093）671―8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

呼ばれていますいつも

サン・スルピス大神学院
「召命の集い」に九百名を超える参加者

今年も、11月3日、サン・スルピス大神学院にて、召命の集いがおこなわれました。参加教会も九州全地区を越え、広島、四国におよび、九四二名の参加者を得ました。

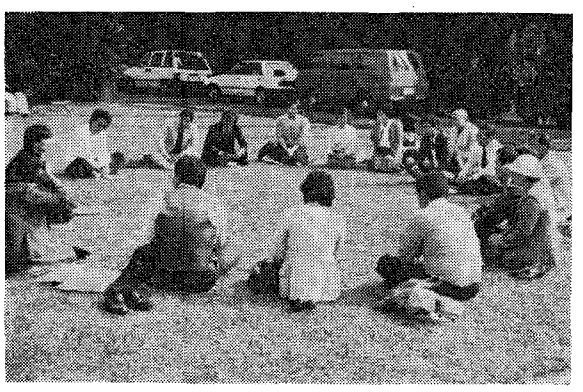
テーマは『Vocatio——呼ばれていますいつも——』。召命は、神様からのお恵み、神様の呼びかけからはじまります。いろんなものを通して、いろんな形で神様の呼びかけは聞こえてきます。そこで、「神様の呼びかけって何だろうか」と皆様に、考え、祈ってもらいたかったのです。

召命の集いが終わった今、私たちは、皆様に感謝やお礼とともに、「答えていますか」という心の問いかけを行っています。これからやるべきことは、神様の呼びかけに答えていくことです。そして、それをなす時、召命(vocatio)は、本当の意味で自分のものとなることでしょう。

神様は、いつも呼びかけておられます。それなら私たちは、それにいつも答えていかねばなりません。

さあ、またこれからの生活の中で繰り広げられる人との出会い、物事との出会いにおける毎日の小さな召命の集いを、大切にしていきましょう。ありふれた事柄の中にも、神様の心をくみとり、その心を人々に伝えることができる者となれますように。

長崎教区神学生
中村倫明記


好評だった友達の輪！

おげんきですか

皆様の心がクリスマスの恵みでいっぱいになりますように！

私は十年以上前に福岡の御受難会の黙想の家に住み、皆様と共に楽しく働かせていただきました。教区報から、福岡の皆様へクリスマスの手紙を書くように頼まれた時、本当にうれしかったのです。もし私が十年前にさかのぼって新たに福岡教区の仕事をもう一度することができるなら、私は、このクリスマスの根本的な意味を皆様ともっとよくわかちあいたいです。

神が肉体となられた最も深いその目的を、黙想会やクルシリヨを通してもう一度、悟りたいのです。受肉の奥義を定められた神の愛は、全てにおいて(罪を除いて)人間たちが、主イエズスと同じ体験をするように呼びかけています。もちろんそれは、十字架の苦しみと、その含まれたすさまじい心の痛みを意味します。しかし同時にイエズスは、落胆、誘惑、失望、裏切り等々を愛のために愛をもって体験なさいました。その苦しい体験があったからこそ、私たちの人生における苦痛の体験は、何であっても救いの価値と力にみたされることができるのです。救い主イエズスの愛は、今、現在、私達の心と生活の中に働いています。


ウォード・ビドル神父様

そのクリスマスの奥義の目的は、福岡を出てからの十年間、もっともっと強く私の心に響いてきました。だから、皆様の心がいつもその響きに開いているようにお祈りいたします。本当にクリスマスおめでとうございます！

(御受難会宝塚黙想の家)

福音宣教実行委員会が発足

熊本地区信徒使徒職協議会

熊本地区(地区長ディキン神父)では10月26日、手取教会信徒会館ホールで第一回熊本地区福音宣教実行委員会を開催し、約50名の実行委員が参加して委員会の組織づくりを検討、承認した。

この実行委員会は運営委員会の下に3部門に分かれているがその役割と人数は次のとおり。

一、信徒司牧実行委員会18名
講座、要理、日曜学校、信徒カテキスタの養成など教えることを任務とする部門で、先生及び両親を含めた信仰教育組織の再編成、手引書や参考書の紹介、リーダーの研修会などの企画実施にあたる。

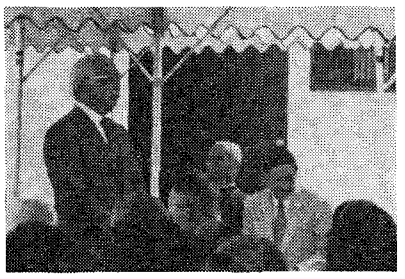
二、宣教実行委員会24名
福音宣教について計画し、実行する部門で、「カトリック新聞」の全世帯一部の購読を目指す運動や教会での映画会のためにフィルムの共同借入れなども考える。

三、社会参加実行委員会22名
社会問題などに取り組む部門で、教会に対する未洗者の気持ちなどについてのアンケート調査の実施や公立図書館などへの宗教書の寄贈についても取り組む。

などとなっている。

(深堀秀市記)

皿山ファミリーセンター落成式



旧大名町教会司祭館を移築改装したファミリーセンター(福岡市南区皿山)の落成式が秋も深まる10月26日(日)一五〇名ほどの信徒が参加し盛大に行われた。平田司教ほか多数の司祭による祝別ミサが行われ、家庭生活の全てを奉献する象徴として、生命を表わすゆり籠、労働とその実りを表わす大工道具と台所用品、稲穂と果物、家庭は教会の中の小さな教会であることを表わすために聖書が、教区各地から参列した夫婦や家族によって奉納された。

ミサ後行われた落成祝賀式中、各代表と共に皿山四丁目町内会長の石井氏は「この廃退した社会に、家庭の健全化を助ける場所が自分の町内にできたことを感謝し歓迎します。」と開かれて行く教会に大きな関心を示していた。

新田原教会
親睦ソフトボール大会

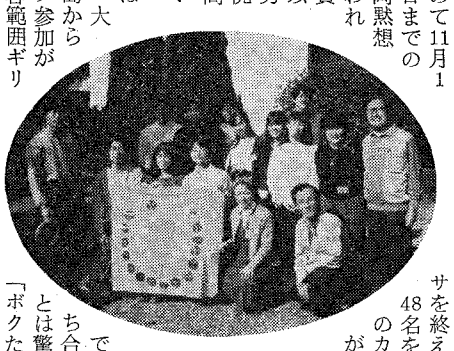


新田原教会(主任平田正喜師)の親睦ソフトボール大会は、好天に恵まれた10月19日、新田原総合グランドで盛大に行われた。10チームがトーナメント戦で優勝杯を目指し、応援団の声援を背に受けてハッスル。優勝戦は若手を揃えた第五区が激しい攻防のすえ第二区を破って勝利をものにした。(教会総務)

なお同教会の若手チームは11月9日に行われた筑後地区7教会親善ソフトボール大会(優勝　子供の部　今村教会　大人の部　鳥栖教会)にも特別参加して、圧倒的な強さを披露した。(編集部)

ヤング・ウィークエンド
こんな集いがほしかった

若者の出合いの場として、また彼等が将来の選択(チョイス)について考え、語り合う場として盛り上がりつつあるヤングウィークエンドが、九州で初めて11月1日から3日までの連休、福岡黙想の家で行われた。参加資格は20歳以上の青年男女で、受洗の有無は問わないということで、福岡教区はもとより、大分、鹿児島からもグループ参加があり、収容範囲ギリギリの38名が集まった。スタッフとして司祭一名、シスター一名、既に体験した若者が二名、マリッジ・エンカウンターの三組の夫婦とバラエティに富んだ10名が、名古屋、大阪、京都、岡山など各地から参加していた。



プログラムの最後を飾るミサを終えて出てきた48名を、福岡MEのカップルたちが手造りのおにぎりで歓待する風景は、温かだった。おにぎりをほおばりながら参加者が言った「教会でこんな分かち合いができるとは驚きでした。」「ボクたちは、こんな集まりをいつも望んでいたのです。」というキラキラした目が印象的だった。(写真は福岡教区の参加者の一部)

福岡地区婦人会
出津へ巡礼

地区婦人会では恒例の秋の巡礼で、キリシタンの里出津を訪ねた。秋晴れの一日、堤要吉師率いる一一〇名が、実り多い一日を過ごした。一行はド・ロ神父記念館で地元婦人会の案内や接待を受けた後、出津教会で感謝のミサを捧げた。帰りの道は皆、ドロ様ソーメンが重そうだった。

故W・シュルツ神父さま
追悼ミサ



去る7月20日ペルーで亡くなったウィリアム・シュルツ師の追悼ミサが11月6日(木)、平田司教主式で荘厳に行われた。式は現吉塚教会主任で弟のB・シュルツ師の「小さいけど兄が愛した教会で」との希望で福岡の吉塚教会で行われ、カナダから兄上も参列した。

カトリック・アクション
聖ビンセンシオ・ア・パウロ会(SVP)の発足

一八三三年に、20歳になる若い学生フレデリック・オザナムと何人かの彼の友達は、当時の人々の困窮に心を痛めエマニュエル・バイイを中心としてグループを作り、苦しむ人々の救済のために幅広い連帯活動を起こすことを決め聖ビンセンシオ・ア・パウロ会を設立しました。

日本のSVPの発展と現況

日本では、一九一五年横浜の聖ヨゼフ学園協議会が始めて承認されました。その後東京、長崎にも設立され、長崎では戦争中も活動を続けていました。

戦後全国に広がり、現在は、協議会数約45、会員数約三百人で活動しています。

主な活動は、病人、老人、身障者、母子家庭、父子家庭等の家庭や施設訪問、援助、子供の教育等です。

愛すること、共有すること、奉仕すること、この三つが、聖ビンセンシオ・ア・パウロ会の生きる理想であり、そして常に真心から受入れ、相談にのり、親切を尽くすという行動によって、その理想を実現しようと努力しております。

この会をもっと詳しく知りたい方、奉仕、寄付などで援助していただける方は、左記にご連絡下さい。

福岡県粕屋郡篠栗町大字篠栗六七一—一
特別養護老人ホーム篠栗荘
施設長平田房刀
事務長山田耕三郎
☎092-947-3480

BOOK 読みは専科

☆フィリピン・レポート
三好亜矢子著



本書は、具体的な数字をあげて、フィリピン問題の根がもっと大きな社会の枠組みの中で、ひいては発展途上国と日本を含めた先進諸国の関係に求められるべきだという。

「戦争のこと」の中では、かつての反日ゲリラが日本人のことを「犬」と呼んでいた事実や、「ネグロス島の砂糖労働者」の中では、今日、ネグロスキャンペーンで注目を集めているネグロス島の実態を明らかにしている。

ある農場で、地主が年間五十万ペソの純益をあげた。しかし、そこで働く一家族当たりの収入は、わずか五七一、四ペソであり、これは地主が千倍の利益をあげたことを意味する。

これからの援助は、かつて国会で「マルコス疑惑」を呼び起こしたような特定の階級の人だけにかたよったものにならないように、また恵んでやる式の思いあがったものにならないよう、十分に配慮される必要があるだろう。

(女子パウロ会)九〇〇円

書評・大谷恒彦(老司教会)
☆劇画による新約聖書(前編)
はるかなる風を越えて
柴田千佳子著



聖書を読んだことのある人、まだ聖書を読んだことのない人、また大人でも子供でも劇画を通して、キリストの生涯(前編)を手軽に味わうことのできる本である。クリスマス・プレゼントに最適。

(中央出版社)八五〇円

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石の理想の大御所
石材他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（十二月）

2日　召命のミサ（皿山ファミリーセンター）
7日　門司港教会堅信式
9日～12日　司教臨時総会（東京）
24日　クリスマスミサ　福岡カテドラル・センター

福岡黙想の家

9日　イングリッシュ・スピーキング・ファザーの集まり
13日～14日　日向学院受験生宿泊
18日　ミカエル会
26日～1月4日　活水会

北九州修女連司祭・修道女対話集会

期日　一九八七年一月十一日
場所　小倉カトリック教会
内容　徳山登師と山元真師の証し。分散会と全体会

市民クリスマス

――カトリック・プロテスタント合同――

福岡地区

日時・12月9日（火）午後6時15分より
場所・福岡市民会館大ホール
内容
メッセージ　徳山登神父（八王寺教会）
「大いなる交換」
映画　「ママごめんね」―小児ガンと闘いながら明かるく生きたアッ子ちゃん―
ロゴス腹話術クラブ　ロゴス腹話術研究会が創立されて19年。霊水教会では第2と第4月曜の夜、各地から希望者が集まって親睦を深めながら練習に励んでいます。
聖劇　ご降誕（幼稚園児）
ゴスペルフォークとお楽しみ抽せん会

佐賀地区

日時・12月12日（金）午後6時30分より
場所・佐賀市民会館
内容
メッセージ　石原信良牧師（日本キリスト教団佐賀教会）
合唱　佐賀市内諸教会合同聖歌隊。聖歌隊は春秋5回各教会を巡回して仲良く練習、声はともかく心と霊の一致を披露します。
腹話術

熊本地区

日時・12月19日（金）午後6時より
場所・熊本市民会館大ホール
内容
メッセージ　J・ハヤット神父（心のともしび）「イエスとはどなたでしょうか」
合同演奏　熊本信愛女学院　九州学院　九州女学院　マンドリン演奏
大江高校　ブラスバンド演奏
熊本マリスト学園

教区修女連研修会

期日　一九八七年一月十五日
場所　司教館新館5階
テーマ　「日本の伝統的風土におけるキリスト教の受肉化」
講師　本多正昭氏

クリスマスのミサ時間

教会	前夜ミサ（24日夜）		降誕ミサ（25日）
カテドラル（福岡市）	18：00	20：00	9：00
小倉教会（北九州市）	19：30	22：00	10：00
久留米教会（久留米市）	19：30	22：00	10：00
佐賀教会（佐賀市）	20：00		9：00　18：00
手取教会（熊本市）	19：00		10：30

福岡教区の公聴会

一、趣旨　福音宣教の意識の高揚と、教区宣教共同体である司祭・修道者・信徒が相互の対話を通して具体的な宣教実践の方途を探る
二、日時　昭和62年2月11日　午前10時―午後5時
三、場所　福岡市中央区大名町カテドラル・センター
四、対象者　司祭　五〇人　修道者　五〇人　信徒　二〇〇人　人々は宣教育であるあなたを待っている
五、テーマ

教区人事

▲A・ディベロ　佐賀主任（休暇）▲ガッザルディ　休暇（佐賀）▲グリーン　玉名主任（水俣）▲キルケニ　千葉・鴨川主任（玉名）

献金報告

布教の日献金
一、五六八、一二五円
ご協力ありがとうございました。

いぶき

待降節

山内清海

11月30日の待降節第一の主日から、典礼年間のいわば新年が始まりました。

ところで今年の待降節中の主日の福音には、洗礼者ヨハネと、キリストの養父ヨゼフの二人の人物が登場します。まず第二の主日の福音では（マタイ3・1―12）「身にはらくだの毛衣をまとい、腰には皮の帯をしめ」、「いなごと野密」を食べ物としながら、「悔い改めよ、天の国は近づいた」と教えを宣べ伝えキリストのご降誕を準備する洗礼者ヨハネの宣教活動について読まれます。かれは、かつての予言者エリアをほうふつとさせながら名実共に「荒れ野に叫ぶ者」、「主の道を整え、その歩む道をまっすぐに」する者としての使命に忠実に生きています。

待降節第三の主日の福音で（マタイ11・2―11）同じヨハネは、自分の最後の弟子たちさえもキリストのもとに送り、先駆者としての生き方を徹底させます。だからキリストは「女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネよりも偉大な者は現われなかった」と、かれを誉め称えるのです。

さて待降節第四の主日では（マタイ1・18―24）、聖ヨセフが父としての資格で登場します。ヨセフもまた、神の「使いに命じられたとおり、妻マリアを家に迎え入れ」、深い謙遜と、養父としての使命に対する忠実さのうちに、その生涯をキリストのために捧げ尽くすのです。

このように、今年の待降節中の主日の福音は、救い主キリストの、いわば陰の人を浮き彫りにしているといえるでしょう。

今日、クリスマスを知らない人はいないほどに、よく知られています。しかしその反面、「カトリックさんもクリスマスを祝うんですか」、と真剣に尋ねた人がいたといわれるほどに、クリスマスがその本来の意味から逸れつつあることも、否定しがたい事実ではないでしょうか。そしてそこにわたしたちの責任が皆無だとはいえません。

毎年クリスマスを盛大に祝うのは、人類史上、おそらく最大の喜ばしい出来事である、主のご降誕を記念するためだけではありません。キリストの、人としてのご降誕の意図を現代社会に実現し、救いの喜びをすべての人々に告げ知らせることも、クリスマスを祝う大切な理由です。わたしたちは、現代社会の中心にキリストを誕生させ、キリストによる救いの喜びをすべての人々に告げ知らせなければならないのです。二千年前、イスラエルの人々が救い主のご降誕を、まさに一日千秋の思いで待ちこがれていたように、現代人こそ最もキリストを必要としています。だからこそ今日、かつてないほどに福音宣教が強く求められるのです。福音宣教は、まさしくキリストを、わたしたちの心に、またわたしたちが生きている現代社会に誕生させ、文化や価値観までもキリスト教化し、福音化することにあるからです。

福音宣教への熱が高まり、そのための活動が活発化されることは誠に喜ばしいかぎりですが、わたしたちは、あるいは、洗礼者ヨハネや聖ヨセフのような、深い謙遜と、自己の使命に対する徹底的な忠実さのうちに、ただキリストの栄光のため、キリストをより広く知らせるための生き方を忘れてはいないでしょうか。「人は、はじめ膝まずいて手でしていたことを、いつの間にか立ったまま足でするようになる」といわれますが、わたしたちも、心からキリストのために働いていたはずなのに、次第にスポットライトを、自分自身に当てていることに気付きます。

今年の待降節を機会に、キリストの最も重要な、しかし完全に陰の人であった洗礼者ヨハネと聖ヨセフの素晴らしい生き方を、少しでも会得できるよう努力したいものです。

（大神学院教授）

献金報告

布教の日献金
一、五六八、一二五円
ご協力ありがとうございました。

一九八七年度の教区報

ますます好調

①いぶき
山内清海神父様の霊的読みものとして好評を得ております。第2年目に入りました。
読者の皆さまからテーマについてのご要望も待っておられるとのことです。

②かのときのことのは
文学の香り高い詩に森山敬三氏が解説をほどこしたもので、作者のこころに迫ります。

③今月のみことば
ひきつづき神父様方の司祭叙階記念のことばを紹介します。

新しい企画

①時の話題
現代社会に生起する身近な問題にスポットをあてて解説していただきます。

②ワンポイント教会法
山元真神父様（小倉教会）がカトリック信者が日常生活の中で直面する問題に教会法の立場から短くコメントします。

③ナイス87情報
福音宣教推進全国会議が11月に開催されます。福岡教区のとりくみの状況を偶数月に、準備委員の方に報告していただきます。

編集室から

一年間のご愛読、ご支援ありがとうございました。

12月はあわただしい月です。ご多分にもれず、教区報スタッフ一同も、来年度の企画で四苦八苦しています。来る年も教区民のひとりひとりの新聞をめざして、一同カメさんのペースでピョンピョン飛び跳ねることになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年も、クリスマスには教会へ、正月には神社へという善意の人々が多いのでしょうか。歓迎すべきことなのか、そうでないのか、いつかゆっくり考えてみましょう。

いずれにしても、幼な子イエズスと一緒に温かく迎えてあげたいものです。イエズスが招きたいのは案外そんな人たちかもしれません。（W）

かのときのことのは

我ガ死ナムズルコトハ、今日ニ明日ヲツグニコトナラズ。

明恵（みょうえ）

彼は徒然草に耳なし法師となり、赤松の木の股に座って修行した。

またあるとき、紀州対岸の島あてに恋文を送った。使いの者があっけにとられて誰に渡したらよいのかと尋ねると「只苅麻嶋の中にて、栂尾（とがのお）の明恵房（みょうえ）の許よりの文にて候と、高らかに喚ばはりて、打ち捨てて帰り給へ」といったという。

引用の句は、「行状記」の中の一節で、生死をも超越した彼の面目躍如たるものがある。

（森山敬三）



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5"秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568